

シラバス一覧

【子ども教育学科】 ●・・・必修科目 ○・・・選択必修科目 △・・・選択科目

区分	開校年度 開設に 関係する 科目	コア プログラム 対応	授業科目	開設学期/履修方法							単位	形態	必要な 学修 時間数	開設 学期	担当教員	頁	
				1前	1後	2前	2後	3前	3後	備考							
一般教養	-	-	憲法		●						2	講義	30	1後	山崎 英壽	1	
	-	-	情報リテラシー		●						2	演習	30	1前	佐野 匡	3	
	-	○	児童文学		○						2	講義	30	1前	高根沢 紀子	5	
	-	○	地域社会概論		○						2	講義	30	1前	山本 剛	7	
	-	○	芸術文化論		○						2	講義	30	1後	有福一昭・松田 扶美子・伊藤 菜々子	9	
	-	○	国際理解教育		○						2	講義	30	1後	山本 剛	11	
	-	○	ドラマとコミュニケーション								2	演習	30	1後	鈴木 聡之	13	
	-	○	英語コミュニケーションⅠ		●						1	演習	30	1前	寺澤 君江	15	
	-	○	英語コミュニケーションⅡ		●						1	演習	30	1後	寺澤 君江	17	
	言語	○	○	英語コミュニケーションⅠ		●					1	演習	30	1前	寺澤 君江	15	
体育	-	○	運動と健康Ⅰ		●						1	演習	30	1前	黒須 育海	19	
	-	○	運動と健康Ⅱ		●						1	演習	30	1後	黒須 育海	21	
クラスセミナー	-	○	ライフキャリア演習Ⅰ		●						1	演習	30	1前	子ども教育学科 専任教員	23	
	-	○	ライフキャリア演習Ⅱ		●						1	演習	30	1後	子ども教育学科 専任教員	25	
	-	○	ライフキャリア演習Ⅲ			●					1	演習	30	2前	子ども教育学科 専任教員	27	
	-	○	ライフキャリア演習Ⅳ				●				1	演習	30	2後	子ども教育学科 専任教員	29	
	-	○	ライフキャリア演習Ⅴ					●			1	演習	30	3前	子ども教育学科 専任教員	31	
	-	○	ライフキャリア演習Ⅵ						●		1	演習	30	3後	子ども教育学科 専任教員	33	
子ども理解	-	○	子どもの理解の方法						●		1	演習	30	3前	赤坂 澄香	35	
	-	○	保育の心理学								2	講義	30	2前	赤坂 澄香	37	
	-	○	子どもの保健		●						2	講義	30	1前	澤田 由美	39	
	-	○	子ども家庭支援の心理学						●		2	講義	30	2後	赤坂 澄香	41	
	-	○	子どもの食と栄養			●					2	演習	30	2前	伊藤 野里子	43	
	-	○	子どもの生活習慣					○			2	講義	30	2後	伊藤 野里子	45	
	-	○	子どもの文化								2	演習	30	2後	深澤 瑞穂・信太 朋子	47	
	-	○	発達と障害						○		2	講義	30	2後	池口 洋一郎	49	
	子どもの教育の基礎理論	-	○	教職・保育者論			●					2	講義	30	2前	石井 友行	51
		-	○	保育実践演習								2	演習	30	3前	菊地 大介	53
-		○	教職実践演習(幼・小)						●(幼)		2	演習	30	3後	信太 朋子・石井 友行	55	
-		-	教育原理とカリキュラム論			●					2	講義	30	1後	山本 剛	57	
-		-	教育の心理		●						2	講義	30	1前	齋藤 朗子	59	
-		-	教育の組織と運営				●				2	講義	30	2後	山本 剛	61	
-		○	特別支援教育概説						●		2	講義	30	3前	矢島 卓郎	63	
-		-	保育原理Ⅰ(理念)			●					2	講義	30	1前	山本 剛	65	
-		○	保育原理Ⅱ(計画と評価)								2	講義	30	1後	菊地 大介	67	
-		○	社会福祉				●				2	講義	30	2前	前田 優二	69	
子どもの教育の内容と方法	-	○	子どもと家庭の福祉		●						2	講義	30	1前	前田 優二	71	
	-	○	社会的養護Ⅰ			●					2	講義	30	1後	佐藤 東	73	
	-	○	子どもの健康と安全			●					1	演習	30	1後	澤田 由美	75	
	-	○	子ども家庭支援論						●		2	講義	30	3前	益川 順子	77	
	-	○	教育相談							●		2	演習	30	3後	矢島 卓郎	79
	-	○	乳児保育Ⅰ				●				2	講義	30	2前	澤田 由美	81	
	-	○	乳児保育Ⅱ					●			1	演習	30	2後	澤田 由美	83	
	-	○	障害児保育				●				2	演習	30	2前	池口 洋一郎	85	
	-	○	社会的養護Ⅱ								2	演習	30	2後	佐藤 東	87	
	-	○	地域の子育てと保育体験			●					1	演習	30	1前	菊地 大介	89	
卒業研究	-	○	保育方法(理論と実践)			●					2	講義	30	1後	石井 友行	91	
	-	○	保育教材研究(うたと手遊び)		●						1	演習	30	1前	松田 扶美子・信太 朋子	93	
	-	-	音楽Ⅱ(うたと楽器)			●					1	演習	30	2前後	松田 扶美子・坂田 舞子	95	
	-	-	ピアノⅠ(ピアノの基礎)			●					1	演習	30	1前	伊藤 菜々子・角田 玲奈・中目 ますみ・福田 久美	97	
	-	-	ピアノⅡ(弾き歌いと伴奏)				△				1	演習	30	2前後	伊藤 菜々子・角田 玲奈・中目 ますみ・福田 久美	103	
	-	-	保育内容総論								2	演習	30	3後	菊地 大介	107	
	-	○	保育内容(健康)			●					2	演習	30	1後	鈴木 琴子	109	
	-	○	保育内容(人間関係)				●				2	演習	30	1前	赤坂 澄香	111	
	-	○	保育内容(環境)				●				2	演習	30	2前	深澤 瑞穂	113	
	-	○	保育内容(言葉)			●					2	演習	30	1前	長田 信彦	115	
-	○	保育内容(表現Ⅰ)								1	演習	30	1前	有福一昭・山田 麻美子	117		
-	○	保育内容(表現Ⅱ)								1	演習	30	1後	山田 麻美子・大島 禮史	119		

区分	開校年度 開設に 関係する 科目	コア プログラム 対応	授業科目	開設学期/履修方法						単位	形態	必要な 学修 時間数	開設 学期	担当教員	頁	
				1前	1後	2前	2後	3前	3後							備考
子ども教育の内容と方法	○	○	道徳教育の指導			●(小)					2	講義	30	2前	石井 友行	121
	○	○	特別活動と総合的な学習の指導法					●(小)			2	講義	30	3前	石井 友行	123
	○	○	生徒指導とキャリア教育					●(小)			2	講義	30	2後	池口 洋一郎	125
	-	○	教育とICT活用						●(小)		1	演習	30	3前	松波 紀幸	127
	○	○	国語科指導法						○(小)		2	演習	30	2後	長田 信彦	129
	-	○	社会科指導法						○(小)		2	演習	30	2前	山本 剛	131
	-	○	算数科指導法						○(小)		2	演習	30	2前	福田 俊彦	133
	-	○	理科指導法						○(小)		2	演習	30	2後	大島 竜午	135
	○	○	生活科指導法							○(小)	2	演習	30	3前	山崎 早苗	137
	-	○	家庭科指導法							○(小)	2	演習	30	3前	伊藤 野里子	139
領域および教科の基礎	-	○	音楽科指導法							○(小)	2	演習	30	3後	三小田 美輪子	141
	-	○	図画工作科指導法							○(小)	2	演習	30	3後	有福一昭	143
	-	○	体育科指導法							○(小)	2	演習	30	3後	角杉 美恵子	145
	-	○	外国語の指導							○(小)	2	演習	30	3後	石井 友行	147
	-	○	子どもと健康						●(幼)		1	演習	30	2後	澤田 由美	149
	-	○	子どもと人間関係						●(幼)		1	演習	30	2前	赤坂 澄香	151
	-	○	子どもと環境						●(幼)		1	演習	30	2後	信太 朋子	153
	-	-	子どもと言葉						●(幼)		1	演習	30	2前	長田 信彦	155
	-	○	子どもと表現						●(幼)		1	演習	30	2後	有福一昭・山田 麻美子	157
	-	○	音楽Ⅰ(理論と基礎実技)								1	演習	30	3前	山田 麻美子・松田 扶美子	159
実習	-	○	音楽Ⅱ(演奏)								1	演習	30	1前後	伊藤 菜々子	161
	-	○	図画工作Ⅰ								1	演習	30	2後	有福一昭	163
	-	○	図画工作Ⅱ								1	演習	30	3前	有福一昭	165
	-	○	体育Ⅰ(運動)						●		1	演習	30	2前	角杉 美恵子	167
	-	○	体育Ⅱ(ダンス)						●		1	演習	30	2後	黒須 育海	169
	-	○	国語(書写を含む)						○		2	講義	30	2後	長田 信彦	171
	-	-	社会								2	講義	30	2前	山本 剛	173
	-	○	算数								2	講義	30	2前	福田 俊彦	175
	-	○	理科							○	2	講義	30	2後	大島 竜午	177
	-	○	生活							○	2	講義	30	2前	山崎 早苗	179
特論	-	○	家庭								2	講義	30	2前	伊藤 野里子	181
	-	○	英語								2	講義	30	3前	寺澤 君江	183
	-	○	事前事後の指導(保育所)施設Ⅰ						●(保)		2	演習	30	2後	角杉 美恵子・池口 洋一郎	185
	-	○	事前事後の指導(保育所)Ⅱ						○(保)		1	演習	30	3前	角杉 美恵子	187
	-	○	事前事後の指導(施設)Ⅲ						○(保)		1	演習	30	3前	池口 洋一郎	189
	-	○	保育実習(保育所)Ⅰ						●(保)		2	実習	90	3前	角杉 美恵子	191
	-	○	保育実習(施設)Ⅰ						●(保)		2	実習	90	3前	池口 洋一郎	193
	-	○	保育実習(保育所)Ⅱ						○(保)		2	実習	90	3前	角杉 美恵子	195
	-	○	保育実習(施設)Ⅲ						○(保)		2	実習	90	3前	池口 洋一郎	197
	-															

科目名／基礎教育	YHS001	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
憲 法		1年後期	必修	講義/単独	2単位	山崎 英壽		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

憲法改正が政府から主張されていることは、この国において立憲主義が定着していないことを示している。この授業では近代国家の約束事である立憲主義がなんであるかを明らかにしながら、憲法で保障されている人権などの規定がどのようなもので、私たちの生活にどんな意味を持っているのかを明らかにするとともに、現代社会において生じている人権問題の解決に前向きに取り組める社会人になることを目指すこととする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

授業は講義によるので、内容についてノートを取りながら聞いてもらいたい。扱う領域は憲法の内容、人権総論、人権各論、民主主義である。中学の「公民」、高校の「現代社会」「政治・経済」で学んだことと多少重複するので、この分野の知識があるとわかりやすいだろう。講義は概念を説明し、判例などの事例を検討しながら、現代社会の人権問題に切り込みたいと思っている。

【到達目標と学修成果】

①近代国家成立の歴史と立憲主義について説明することができる。②憲法が保障する人権がどのようなものであり、裁判においてどのように保障されるかは保障されずに来たのか、その問題点を指摘し、人権問題をいかに解決するべきかの見通しを語ることができる。③民主主義の実現は国民が主体的に国家の意思決定に参画すること、そのためには選挙が重要であり、選挙権がその機会であることを説明することができる

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	憲法とは何か 近代国家の成立と社会契約論について	△市民革命の歴史を高校の教科書で確認する。	90
		▽授業ノートで社会契約と憲法の関係について確認する	90
第2回	人権の歴史と概念② 人権の分類と人権概念の発展	△教科書で近代国家と現代国家の違いについて確認しておく	90
		▽イェリネクの分類と人権の量的拡大・質的限定について確認する	90
第3回	人権の歴史と概念② 法人が人権主体となることの問題点	△現代の企業が人権を侵害する主体になりえることを確認しておく	90
		▽企業のような私人から侵害される人権問題の存在を意識する	90
第4回	私人間効力① 私人間で生じる人権侵害	△現代の企業が人権を侵害する主体になりえることを確認しておく	90
		▽企業のような私人から侵害される人権問題の存在を意識する	90
第5回	私人間効力② 住友セメント判決と三菱樹脂判決	△私人間効力の判例を確認しておく	90
		▽判例における学説の影響について考える	90
第6回	信教の自由① 信教の自由の概念	△宗教がなぜ存在するのかを考える	90
		▽宗教的多数派に無視されがち少数派について考える	90
第7回	信教の自由② 剣道拒否事件とシャバート事件(日米比較)	△教科書で宗教関係の判例について確認しておく	90
		▽剣道拒否事件の宗教論とシャバート判決の宗教論を比較する	90
第8回	政教分離① 政教分離の概念と各国の状況	△国教のイギリスと政教分離のアメリカ・フランスについて考える	90
		▽日本の政教分離の原点である戦前日本の状況を考える	90
第9回	政教分離② 津地鎮祭事件と目的効果基準	△政教分離判例について教科書で確認する	90
		▽目的効果基準の有用性について検討する	90
第10回	表現の自由① 表現の自由の意義と規制	△教科書で表現の自由の内容について確認しておく	90
		▽表現規制に対する裁判基準について確認する	90
第11回	表現の自由② マスメディアの発展と知る権利	△マスメディアの役割と情報の流れについて考えておく	90
		▽国民の知る権利とマスメディアの役割について確認する	90
第12回	生存権① 社会権としての生存権の意義	△健康で文化的な最低限度の生活とは何か考える	90
		▽25条の法的性格について確認する	90
第13回	生存権② 朝日訴訟と日本の社会保障の現状	△朝日訴訟について調べておく	90
		▽社会保障・社会福祉のための国家の役割を考える	90
第14回	民主主義① 選挙権と代表制民主主義	△日本の選挙制度について確認しておく	90
		▽各国の選挙制度について説明できるようにしておく	90
第15回	民主主義② 議院内閣制と衆議院の解散	△議院内閣制と大統領制の違いについて考える	90
		▽衆議院の解散の条文上の根拠について説明できるようにする	90

備考：

2700

【履修上の留意点】

法律科目は一見堅苦しいと感じがちであるが、実際は私たちの生活に大きくかかわっていることであることがわかると興味を持って取り組めるはずである。授業ノートを取り、教科書で確認しながら、自分の生活の中にあるいじめやハラスメントなどの人権問題を意識するように心がけるとよい。

【テキスト】

山崎英壽『憲法要諦』文化書房博文社 2018年

【参考書・参考資料等】

必要があれば授業で紹介する

【連絡方法】 初回の授業時に通知

【オフィスアワー】 毎週水曜日の授業前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	50%					
期末 レポート								
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	②	50%					
授業外での 取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名／基礎教育	YHS002	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
情報リテラシー		1年前期	必修	演習/単独	2単位	佐野 匡		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。			
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。		○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。		
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。		◎

【授業のねらい】
情報機器に関する基本的な知識・技能及び情報モラル・情報活用について習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
情報機器に関する基本的な知識・技能について、実践演習を通して理解を深めていく。

【到達目標と学修成果】
①情報機器に関する基本的な知識を理解している。
②情報機器に関する基本的な技能を身につけ、必要性に応じて適切に活用することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	パソコンの操作の準備と基本操作	△パソコンの利用場面を調べる	90
		▽パソコンの基本操作を用いたレポート作成	90
第2回	ICT活用の基本知識	△授業で活用できる場面を調べる	90
		▽課題の確認と提出をICTを活用し行う	90
第3回	インターネットの基本知識と情報活用	△インターネットの利用場面を調べる	90
		▽インターネットの情報を比べる	90
第4回	電子メールの基本知識	△電子メールの利用場面を調べる	90
		▽電子メールの基本知識をまとめる	90
第5回	情報セキュリティとモラルの基本知識	△情報セキュリティとモラルの必要場面を調べる	90
		▽情報セキュリティの基本知識をまとめる	90
第6回	プレゼンテーションソフトの基本知識	△プレゼンソフトの種類を調べる	90
		▽プレゼンソフトの基礎知識をまとめる	90
第7回	プレゼンテーションソフトによる資料作成	△プレゼンソフトの利用場面を調べる	90
		▽プレゼンソフト資料作成の留意点をまとめる	90
第8回	プレゼンテーションソフトにおける実践演習	△プレゼンソフトの基本操作を復習する	90
		▽プレゼンソフト実践の留意点をまとめる	90
第9回	ワープロソフトの基本知識	△ワープロソフトの種類を調べる	90
		▽ワープロソフトの基礎知識をまとめる	90
第10回	ワープロソフトにおける実践演習	△ワープロソフトの基本操作を復習する	90
		▽ワープロソフト実践の留意点をまとめる	90
第11回	表計算ソフトの基本知識	△表計算ソフトの種類を調べる	90
		▽表計算ソフトの基礎知識をまとめる	90
第12回	表計算ソフトによる資料作成	△表計算ソフトの利用場面を調べる	90
		▽表計算ソフト資料作成の留意点をまとめる	90
第13回	表計算ソフトにおける実践演習	△表計算ソフトの基本操作を復習する	90
		▽表計算ソフト実践の留意点をまとめる	90
第14回	プログラミング教育の基礎知識	△コミュニケーションに活用できるソフト	90
		▽プレゼンソフト実践の留意点をまとめる	90
第15回	まとめと授業の総括	△情報機器の操作についての復習	90
		▽情報機器の操作に関するレポート作成	90

備考： 2700

【履修上の留意点】 ・演習や協議を行いながらの学修が多くなります。主体的な参加を期待しています。 ・データを保存するためのUSBメモリを準備してください。
【テキスト】 ・必要に応じて提示します。
【参考書・参考資料等】 ・文部科学省HP内「教育の情報化の推進」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1369613.htm
【連絡方法】 授業の際に伝えます。
【オフィスアワー】 授業前後の時間

評価方法	評価基準		到達目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	試験 (発表含む)	期末レポート							
試験 (発表含む)									
期末レポート	①	30%	課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。		課題の意図を理解し、記述されている。	課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。	課題の意図を断片的にし、か理解しておらず、記述内容が不十分である。	課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。	
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	50%	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。		主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	授業内での取組に参加することができた。	授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。	
授業外での取組	②	20%	課題に意欲的に取り組み、授業で学んだことを自分なりに工夫した成果物を期限内に遅れることなく提出した。		課題に取り組む、授業で学んだことを生かした成果物を期限内に遅れることなく提出した。	課題に取り組む、意図にあった成果物を期限内に遅れることなく提出した。	課題に取り組む、成果物をおおむね期限内に遅れることなく提出した。	課題の取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。	

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	2.3.4.5.6.9.11		7.8.13.15		5.7.10.12.13.14	

科目名／基礎教育	YHS003-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
児童文学		1年前期	選択必修	講義/単独	2単位	高根沢 紀子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎						
専門的知識や技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○						
実践的能力・表現コミュニケーション力	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△						
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△						
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△						
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○						

【授業のねらい】
 ①日本の児童文学についての歴史を学び、基礎的な知識を身につけ、さまざまな作品を読解する力を養う。
 ②児童文学における児童とは何かという問題意識を持ち、積極的に考察する力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 講義形式で行う。日本(明治～現在)の児童文学史の流れを押さえながら、なるべく多くの作品を読んでいく。作品読解の際は、問題意識を持って読めるよう、課題を出しながら進めていく。適宜、映像表現を参照し、原作と比較をすることや、他と意見を聞くを通して、問題点を明らかにしていく。

【到達目標と学修成果】
 ①日本の児童文学についての歴史を理解し、作品を読解することができる。
 ②児童文学における児童とは何かという問題意識を持ち、作家・作品について積極的に課題に取り組むことができる。
 ③他の意見を知り、自分の考えを相手に的確に伝えることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス 日本児童文学とは何か	△これまでの読書体験についてまとめ、児童文学とは何か、考えておく。 100 ▽児童文学の定義についてノートにまとめる。 90
第2回	日本児童文学の起源(日本近代文学(明治)の歴史を知る)	△配布資料(作品)を読む。 100 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第3回	日本の近代化と翻訳——「イソップ物語」(明治という時代と児童文学を考える)	△配布資料(作品)を読む。 40 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第4回	キリスト教と児童文学——有島武郎「一房の葡萄」(歴史を知り、作品を読解する)	△配布作品を読む。疑問点を書き出す。 90 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第5回	昔話と児童文学——桃太郎(明治から現代の変化について考え、ディスカッションする。)	△自分の知る桃太郎についてノートに整理する。 90 ▽昔話について、自分の考えをまとめる。 90
第6回	雑誌「赤い鳥」の出現——芥川龍之介「蜘蛛の糸」(児童文学と教育について考える。)	△配布作品を読む。疑問点を書き出す。 90 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第7回	小川未明「赤い蠟燭と人魚」(アンデルセン「人魚姫」と比較する。)	△配布作品を読む。疑問点を書き出す。 90 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第8回	児童文学の大衆化——川端康成「級長の探偵」(作品にある謎について、意見交換する。)	△配布作品を読む。疑問点を書き出す。 90 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第9回	宮沢賢治「注文の多い料理店」(作品にある謎について、ディスカッションする。)	△配布作品を読む。疑問点を書き出す。 60 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第10回	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」(問題意識を持ち映画を見る。)	△配布作品を読む。疑問点を書き出す。 120 ▽映画について、自分の考えをまとめる。 90
第11回	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」(作品と映画の比較から、作品を読解する。)	△映画との相違点について考える。 90 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第12回	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」(宮沢賢治について考える。)	△作品を読み直し、宮沢賢治について調べる。 90 ▽宮沢賢治の他の作品を読み、感想をまとめる。 90
第13回	新美南吉「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」(作品と教科書、教えることについて考える。)	△配布作品を読む。疑問点を書き出す。 60 ▽作品について、自分の考えをまとめる。 90
第14回	やなせたかし「アンパンマン」(作者について知り、作品と時代の変化について考える。)	△やなせたかしについて調べておく。 90 ▽作者の考えについて、自分の考えをまとめる。 90
第15回	現代の児童文学(児童文学にある現代の問題について考える。)	△これまでの授業の復習をする。 120 ▽児童文学について、歴史を踏まえまとめる。 120

備考： 2700

【履修上の留意点】
 事前に作品を読んで、分からない言葉などは調べておくこと。短い作品は、繰り返し読み積極的に課題を見つける努力を要すること。

【テキスト】
 使用しない。適宜授業内で資料を配付する。

【参考書・参考資料等】
 授業内で適宜紹介する。

【連絡方法】 授業内で指示する
 【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験(発表含む)	①	②	60%	・児童文学の歴史を理解し、作品を読解することができる。 ・問題を的確に整理し、自分の言葉で考えを述べていくことができる。	・児童文学の歴史を理解し、作品を読解することができる。 ・問題を的確に整理することができる。	・児童文学の歴史を理解し、作品を読解することができる。	・児童文学の歴史理解に欠けるところがあり、努力を要する。	・基本的な知識が習得できておらず、内容の理解に乏しい。
期末レポート								
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	①	②	20%	・一貫して授業に主体的に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・他を積極的にまとめようとする態度がみられる。 ・他の模範となる解答が多くある。	・授業に主体的に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がみられる。 ・他と積極的に意見交換する姿勢がみられる。	・主体的に授業へ臨もうとする努力がみられる。 ・積極性には欠けるが、人の話をよく聞き、理解しようとする態度がみられる。	・授業内での取り組みに参加することができるが、受動的な態度が多い。 ・集中力に欠けるところがある。	・授業内での取り組みが不十分で、授業へ参加する意欲が認められない。
授業外での取組	①	②	20%	・授業外でも積極的に知識の獲得につとめる姿勢がある。 ・成果が授業内での取り組みや提出物に反映されている。	・授業外でも積極的に知識を増やす努力をしている。 ・指定された提出期限、体裁等を守られている。	・授業外での取り組みに対して努力が認められる。 ・提出物の期限、指定された体裁等があるていど出来ている。	・授業外での取り組みに対して努力しようとする様子がみられる。 ・提出期限、指定された体裁等を守ろうとする努力が認められる。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	5回・8回・9回				14回・15回	

科目名／基礎教育	YHS003-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
地域社会概論		1年前期	選択必修	講義/単独	2単位	山本 剛		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

「社会に開かれた教育・保育課程」の実現が謳われる今日、園や学校の所在する地域社会との連携・協働は不可分の課題である。この授業では、本学が所在する江東区・臨海副都心地域を対象としたフィールドワークを実施し、地域社会の様々な文化や伝統、あるいは政治・経済に関する理解を深めることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

「地域」とは何か。教育者・保育者を目指す上で、「地域」への理解と関わりがいかなる意味をもつのか。受講生間の主体的な関心に沿って考察を深めていく。具体的には、各グループの設定課題に基づくフィールドワークの実施と成果としてのプレゼンテーションを中心に授業が進められる。※新型コロナウイルス感染症の感染状況により、フィールドワークの内容は変わる可能性があります。

【到達目標と学修成果】

- ①地域社会の文化や伝統について、東京都や江東区・臨海副都心地区を事例として理解し、説明することができる。
- ②地域社会の政治や経済について、東京都や江東区・臨海副都心地区を事例として理解し、説明することができる。
- ③フィールドワークの経験を踏まえて、自身に關係の深い地域社会の特徴について理解し、説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「地域」について自分の意見をまとめておく ▽「私のふるさと」についてノートにまとめる	90 90
第2回	I. 地域としての江戸・東京① 「地域」とは何か	△ 前回授業内容の復習 ▽ Community についてノートにまとめる	90 90
第3回	I. 地域としての江戸・東京② 江戸・東京の地域構造とコミュニティ	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「江戸の成り立ち」についてノートにまとめる	90 90
第4回	II. 地域としての江戸・東京③ 江戸・東京の形成過程	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「東京の成り立ち」についてノートにまとめる	90 90
第5回	II. 地域としての江戸・東京④ 首都・東京の形成過程	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「後藤新平」についてノートにまとめる	90 90
第6回	III. 地域としての江戸・東京⑤ 江東区・臨海副都心の形成過程	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「東京五輪」についてノートにまとめる	90 90
第7回	III. 地域としての江戸・東京⑥ 臨海副都心の地域構造とコミュニティ	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「臨海副都心」についてノートにまとめる	90 90
第8回	IV. フィールドワークの準備① グループワークと課題の設定	△ 前回授業内容の復習 ▽ グループワーク①に関する振り返り	90 90
第9回	IV. フィールドワークの準備② スケジューリングと課題の決定	△ グループワーク②の準備 ▽ グループワーク②に関する振り返り	90 90
第10回	V. フィールドワークの実施(学外授業)① 聞き取り調査の方法	△ フィールドワーク①の準備 ▽ フィールドワーク①に関する振り返り	90 90
第11回	V. フィールドワークの実施(学外授業)② アンケート調査の方法	△ フィールドワーク②の準備 ▽ フィールドワーク②に関する振り返り	90 90
第12回	V. フィールドワークの実施(学外授業)③ 分析の方法	△ フィールドワーク③の準備 ▽ フィールドワーク③に関する振り返り	90 90
第13回	VI. 課題研究発表(プレゼンテーション)① 質疑応答の仕方	△ プレゼンテーション①の準備 ▽ プレゼンテーション②に関する振り返り	90 90
第14回	VI. 課題研究発表(プレゼンテーション)② 今後の課題の提示	△ プレゼンテーション②の準備 ▽ プレゼンテーション②に関する振り返り	90 90
第15回	授業の総括とリフレクション	△ 授業内容の総復習 ▽ 各自の取り組みに関する振り返り	90 90

備考:

2700

【履修上の留意点】

・グループ(あるいは個人)によるフィールドワークと成果としてのプレゼンテーションが中心の授業となるため、授業計画策定の前提となる前半期に欠席がcaさんだ者は、以後の履修を認めない。
※学外授業の際、交通費等実費負担(前年度実績:910円)

【テキスト】

授業内で適宜、配付する。
※江東区観光協会web [http://koto-kanko.jp/] 等を適宜、参照のこと。

【参考書・参考資料等】

青山尚『痛恨の江戸東京史』祥伝社、2008年、『実践 自分で調べる技術』岩波新書2020年

【連絡方法】

授業時に伝える

【オフィスアワー】

金曜日、昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達	目標						
試験 (発表含む)								
期末レポート	③	60%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠を先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	40%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考: 授業内での取組(評価内訳)「フィールドワーク(40%)」に基づく「プレゼンテーション(40%)」とその振り返り(20%)
※授業時間内の取り組みだけでは限界があるため、授業外の取り組みが大前提となる。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			第13回～第14回	第8回～第12回		

科目名／基礎教育	YHS003-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
芸術文化論	1年後期	選択必修	講義/ オムニバス	2単位	有福 一昭・松田 扶美子・伊藤菜々子			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

芸術とさまざまな学問との関わりを理解し、多様な鑑賞活動や体験をとらえて、人間と芸術を多面的に捉える視点を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

オムニバス形式で行う。音楽と美術を中心としたさまざまな芸術文化を学ぶ。

【到達目標と学修成果】

- ①芸術作品を鑑賞することにより、豊富な知識、感性、人間性を得る。
- ②音楽、美術(映像、工芸、絵画)、文学等のさまざまなジャンルの芸術作品にふれる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▼事後 / 分】	
第1回	オリエンテーション 授業の進め方と評価について	△シラバスを読み、授業の概要を確認する ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90 90
第2回	絵画の誕生	△前回配布資料を読み、絵画の歴史について予習 ▽絵画の歴史についてまとめる	90 90
第3回	彫刻の誕生	△前回配布資料を読み、彫刻の歴史について予習 ▽彫刻の歴史についてまとめる	90 90
第4回	デザインの歴史	△前回配布資料を読み、デザインの歴史について予習 ▽デザインの歴史についてまとめる	90 90
第5回	音の世界 音響学的要素と音楽的要素	△身の回りの音について調べる ▽配布資料をみながら「音響学的要素」と「音楽的要素」を日常生活の音と照らし合わせ、ノートにまとめる	90 90
第6回	音楽の世界 音楽の知覚認知と音響心理	△前回の配布資料をみながら、音楽とそれ以外の音(言語音、環境音)について、ノートにまとめる ▽配布資料をみながら「音響学的要素」と「音楽的要素」を日常生活の音と照らし合わせ、ノートにまとめる	90 90
第7回	西洋音楽史 音楽ジャンルを探る (バロック、古典からジャズ、ロックまで)	△音楽のさまざまなジャンルや著名なアーティスト、曲について、ノートにまとめる。 ▽配布資料や書籍を参考にしながら、音楽の歴史の変遷をノートにまとめる	90 90
第8回	西洋美術と日本美術	△2回～4回までの授業内容の復習 ▽西洋美術と日本美術についてミニツペーパーにまとめる	90 90
第9回	サウンドスケープ、サウンドエデュケーション	△「サウンドエデュケーション」、「サウンドスケープ」という語について、関連書籍、インターネット等で調べる ▽配布資料や書籍を参考にしながら、サウンドスケープの理念、サウンドエデュケーションの概要をノートにまとめる	90 90
第10回	現代アートと越境する美術(ディスカッション)	△映像・アニメーションについての予習 ▽映像・アニメーションについてまとめる	90 90
第11回	環境音楽と地域社会 サウンドスケープ、サウンドエデュケーション	△配布資料やインターネット等を参考にしながら、「環境音楽」についてノートにまとめる ▽配布資料を参考にして、サウンドスケープ、サウンドエデュケーションの実践例をノートにまとめる	90 90
第12回	映像・アニメーションの世界(ディスカッション)	△映像・アニメーションについての予習 ▽映像・アニメーションについてまとめる	90 90
第13回	バックグラウンドミュージック	△身近なBGMについて取り上げ、ノートにまとめる ▽配布資料を参考にし、BGMの機能・社会的役割についてノートにまとめる	90 90
第14回	芸術と文化 これまでの振り返り	△美術、音楽それぞれの授業内容の要点をノートにまとめる ▽これまでの学習をレポートにまとめる	90 90
第15回	まとめ	△授業内容及び資料の復習 ▽15回の授業のうち、特に重要な点をノートにまとめる	90 90

備考：

【履修上の留意点】

5回以上の欠席は、単位修得不可とする。授業開始時間より20分以降は入室不可とする。

【テキスト】

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

随時、授業の中で紹介する。

【連絡方法】 授業開始時に提示する

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	80%	芸術に関する知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	芸術に関する知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	芸術に関する基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	芸術に関する基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後努力を要する。	芸術に関する基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ②	5%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内で の取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外で の取組	① ②	5%	・授業外での取り組みに積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取り組みに積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取り組みに積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取り組みに積極的に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	2回、10回、12回		13回			

科目名／基礎教育	YHS003-4	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
国際理解教育		1年後期	選択必修	講義/単独	2単位	山本 剛		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

人間は何故、争いを止められないのか。——共生と平和のための社会と世界の構築を目指し、ユネスコなどを中心に展開されている教育が「国際理解教育」である。この授業では、多文化・多民族共生時代に求められる教育とは何か、諸外国における教育事例を踏まえつつ、人間にとつての教育の意味について改めて考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

現代教育の重要な論点の一つである国際理解教育と異文化理解(多文化・多民族教育)および生涯教育をテーマとし、「生きる権利」としての生涯学習が各国でどのように取り組まれているのか、受講生間の主体的な学びに基づき理解を深めていく。具体的には、グループワークとプレゼンテーションを中心に授業が進められる。

【到達目標と学修成果】

- ①ユネスコを中心とする国際理解教育の理念について理解し、説明することができる。
- ②諸外国における国際理解教育の取り組みについて理解し、説明することができる。
- ③日本における国際理解教育の取り組みについて理解し、説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	イントロダクションとグループング(スケジュールの確定)	△「異文化」について自分の意見をまとめておく ▽「私の異文化体験」についてノートにまとめる	90 90
第2回	教育と人間①——生涯学習の展開	△テキストp.6-12の予習 ▽「学習社会」についてノートにまとめる	90 90
第3回	教育と人間②——多文化・多民族共生への現代的課題	△テキストp.12-18の予習 ▽「共生社会」についてノートにまとめる	90 90
第4回	アメリカにおける多文化・多民族共生と生涯学習(プレゼン①)	△テキストp.44-55の予習 ▽プレゼン①についてノートにまとめる	90 90
第5回	カナダにおける移民・先住民の成人教育(プレゼン②)	△テキストp.56-67の予習 ▽プレゼン②についてノートにまとめる	90 90
第6回	イギリスにおける多民族・多文化共生へ向けた取り組みと生涯学習(プレゼン③)	△テキストp.68-81の予習 ▽プレゼン③についてノートにまとめる	90 90
第7回	ドイツにおける多文化・多民族共生と生涯学習の今(プレゼン④)	△テキストp.82-93の予習 ▽プレゼン④についてノートにまとめる	90 90
第8回	ロシアにおける多文化・多民族共生と生涯学習(プレゼン⑤)	△テキストp.94-106の予習 ▽プレゼン⑤についてノートにまとめる	90 90
第9回	フィンランドにおける生涯学習(プレゼン⑥)	△テキストp.107-118の予習 ▽プレゼン⑥についてノートにまとめる	90 90
第10回	韓国における多文化教育と地域社会のNPO活動での平生教育(プレゼン⑦)	△テキストp.119-128の予習 ▽プレゼン⑦についてノートにまとめる	90 90
第11回	中国における多文化・多民族共生と終身教育(プレゼン⑧)	△テキストp.129-138の予習 ▽プレゼン⑧についてノートにまとめる	90 90
第12回	オーストラリアにおける多文化・多民族共生と相互理解構築のための哲学対話(プレゼン⑨)	△テキストp.150-162の予習 ▽プレゼン⑨についてノートにまとめる	90 90
第13回	アイヌ民族の言語・文化復興と学校教育への取り組み(プレゼン⑩)	△テキストp.175-186の予習 ▽プレゼン⑩についてノートにまとめる	90 90
第14回	沖縄における多文化共生教育の特質と生涯学習の課題(プレゼン⑪)	△テキストp.187-199の予習 ▽プレゼン⑪についてノートにまとめる	90 90
第15回	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習 ▽各自の取り組みに関する振り返り	90 90

備考:

2700

【履修上の留意点】

・グループ(あるいは個人)のプレゼンテーションが中心の授業となるため、授業計画策定の前提となる前半期に欠席がかさんだ者は、以後の履修を認めない。

【テキスト】

岩崎正吾編『多文化・多民族共生時代の世界の生涯学習』学文社、2018年

【参考書・参考資料等】

岩崎正吾編『生涯学習と多文化・多民族教育の研究』学文社、2013年

【連絡方法】

初回授業時に伝える

【オフィスアワー】

授業の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達	目標						
試験 (発表含む)								
期末 レポート	③		40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠と先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに等しい。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②		60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組								

備考: 授業内での取組(評価内訳)「フィールドワーク(40%)」に基づく「プレゼンテーション(40%)」とその振り返り(20%) ※授業時間内の取り組みだけでは限界があるため、授業外の取り組みが大前提となる。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			第4回～第14回			

科目名／基礎教育	YHS003-5	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ドラマとコミュニケーション		1年後期	選択必修	演習/単独	2単位	鈴木 聡之		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							◎

【授業のねらい】
 事前に何も決まっていない「インプロ(即興表現)」の演習を通じて、「身体表現」「感情表現」「演劇表現」をする経験を積み重ねながら、自分の表現方法や考え方の特性を見つめ直し、個々の持つ多様なコミュニケーションの可能性について考えていく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 ワークショップ形式の演習授業である。服装は動きやすいものを推奨する。前半では「インプロ(即興表現)」にチャレンジすることで、自分の表現方法や考え方の特性を見つめ直す。後半では、「インプロ(即興表現)」のパフォーマンスを楽しみながら、各自のもつ多様なコミュニケーションの可能性について考える。

【到達目標と学修成果】
 ①架空の設定の中で即興的な表現をすることの意義を理解し、説明することができる。
 ②参加者同士の協働作業で創造的な表現を創り出し、その作業をふり返ることができる。
 ③インプロ(即興表現)を積み重ねてきたことによる自分の変化を見つめ、考察することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	オリエンテーション:授業の概要、成績評価について	△ 自分のコミュニケーションの特徴についてまとめておく ▽ 第1回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する	90 90
第2回	インプロ(即興表現)へのチャレンジ①:【緊張感】をテーマとした取り組み	△ テキストp.2-15、p.114-115 の予習 ▽ 第2回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第3回	インプロ(即興表現)へのチャレンジ②:【失敗】をテーマとした取り組み	△ テキストp.20-21、p.47-60、p.94-97の予習 ▽ 第3回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第4回	インプロ(即興表現)へのチャレンジ③:【自己検閲】をテーマとした取り組み	△ テキストp.17-23の予習 ▽ 第4回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第5回	インプロ(即興表現)へのチャレンジ④:【多様性】をテーマとした取り組み	△ テキストp.19-20、p.27-46の予習 ▽ 第5回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第6回	インプロ(即興表現)で遊ぶ①:【言葉で遊ぶ】	△ テキストp.40-46、p.71-75、p.92-94の予習 ▽ 第6回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第7回	インプロ(即興表現)で遊ぶ②:【身体表現で遊ぶ】	△ テキストp.81-92の予習 ▽ 第7回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第8回	インプロ(即興表現)で遊ぶ③:【即興劇で遊ぶ】	△ テキストp.60-71、p.97-119の予習 ▽ 第8回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第9回	ここまでの取り組みをふり返る:【リフレクション】	△ 前半の活動をふり返り、テーマ別に考察する。 ▽ 第9回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第10回	インプロ(即興表現)のパフォーマンスにチャレンジ①:【演目を選ぶ】	△ 出演演目の検討 ▽ 第10回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第11回	インプロ(即興表現)のパフォーマンスにチャレンジ②:【構成を考える】	△ 発表会全体の構成を考える ▽ 第11回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第12回	インプロ(即興表現)のパフォーマンスにチャレンジ③:【発表リハーサル】	△ 発表リハーサルに向けての準備(演出に関する検討) ▽ 第12回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第13回	インプロ(即興表現)のパフォーマンスにチャレンジ④:【発表会】	△ 発表に向けての準備(小道具等に関する検討) ▽ 第13回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第14回	インプロ(即興表現)パフォーマンスをふり返る:【リフレクション】	△ 後半の活動をふり返り、テーマ別に考察する。 ▽ 第14回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する。	90 90
第15回	授業の総括とリフレクション	△ 授業内容の総復習 ▽ 授業全般をふり返る。	90 90

備考: 2700

【履修上の留意点】
 6回以上欠席した場合は、単位修得不可とする。

【テキスト】
 「子どもたちとレッツ！インプロ！」鈴木聡之(晩成書房2020年)

【参考書・参考資料等】
 授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】 メール utakani@yahoo.co.jp
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合 (%)						
試験 (発表含む)								
期末レポート	① ③	40%		・即興表現に取り組む意義を的確に理解し、記述できている。 ・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、真摯に見つめ、考察できている。	・即興表現に取り組む意義を理解し、記述できている。 ・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、考察できている。	・即興表現に取り組む意義をおおむね理解しているが、改善すべき点がある。 ・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、考察しようとしている。	・即興表現に取り組む意義への理解が、不十分である。 ・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化への考察が不十分である。	・即興表現に取り組む意義が、理解できていない。 ・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、考察できていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	60%		・主体的に授業に臨み、インプロ(即興表現)に意欲的に取り組み、創造的な表現を生み出し、皆の模範となっている。 ・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、ふり返り、考察することができる。	・主体的に授業に臨み、インプロ(即興表現)に意欲的に取り組んでいる。 ・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、考察しようとしている。	・主体的に授業に臨もうと努力している。 ・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、考察しようとしている。	・授業内の取り組みに参加することができる。 ・授業のふり返りを提出することができる。	・授業内での取り組みが不十分である。 ・授業のふり返りが不十分である。
授業外での取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				11		

科目名／基礎教育	YHS101	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
英語コミュニケーションⅠ		1年前期	必修	演習/単独	1単位	寺澤 君江	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

グローバル化が進む現在、幼児教育の現場でも英語による意思疎通が必要とされることがある。そういった状況に対応することを念頭に置き、本授業では、中学・高校での学習内容をもとに、幼児教育および保育に役立つ歌・ゲーム・絵本に慣れ親しむ活動を通じ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

教科書および配布ワークシートを用い、ペアワークやグループ練習等によるコミュニケーション活動を中心に授業を進める。幼児教育や保育に関わる英語の表現や文法および単語の定着を図るため、授業内では簡単な確認テストを実施する。英語の発音練習として、毎回、フォニックスを取り入れた学習を位置づける。

【到達目標と学修成果】

- ①日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を聞き取ることができる。
- ②日常生活および幼児教育に関わる話題について、英語で表現することができる。
- ③基本的な文法事項を理解し日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を読み、英語で書くことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス:授業の内容・進め方:評価の方法/自己紹介(1) 1. Children's Garden 疑問詞(when/what/how等)の用法	△自己紹介の準備 20 ▽自己紹介に関する単語と表現 25
第2回	自己紹介(2) 幼稚園での実習の打ち合わせでのやりとり 1.Children's Garden 比較級・最上級の用法	△教科書10頁の音声を読み音読する 20 ▽教科書9~10頁の単語と表現を覚える 25
第3回	園児との会話 園児の日常生活に関してのやりとり 2. The First Day of the Internship to不定詞の用法	△教科書12頁1~10の単語の意味を確認する 20 ▽遊具/台所用品に関する単語や表現を覚える 25
第4回	実習初日の様子 職場(幼稚園)の様子の描写 2. The First Day of the Internship 一般動詞の用法	△教科書16頁の音声を読み音読する 20 ▽教科書15~16頁の単語と表現を覚える 25
第5回	幼稚園周辺の様子 街中の建物の位置関係を説明 3. Out We Go! 命令文の用法	△教科書18頁1~10の単語の意味を確認する 20 ▽街中の様子を説明する単語や表現を覚える 25
第6回	幼稚園周辺の散歩 身の回りの物の位置関係を描写 3. Out We Go! 前置詞(in/on/at/of等)の用法	△教科書22頁の音声を読み音読する 20 ▽教科書21~22頁の単語と表現を覚える 25
第7回	屋外での活動 活動方法や動作を説明 4. Splish, Splash 現在分詞の用法	△教科書24頁1~10の単語の意味を確認する 20 ▽水遊びに関する単語や表現 25
第8回	屋内での活動 園児の活動の様子を描写 4. Splish, Splash whichの非制限用法	△教科書28頁の音声を読み音読する 20 ▽教科書27~28頁の単語と表現を覚える 25
第9回	食生活・食育 食べ物の原材料と簡単な調理法の説明 5. Pancake Day 助動詞canの用法	△教科書30頁1~10の単語の意味を確認する 20 ▽料理に関する単語や表現を覚える 25
第10回	ランチタイム・給食 5. Pancake Day 使役動詞(have/get/let等)の用法	△教科書34頁の音声を読み音読する 20 ▽教科書33~34頁の単語と表現を覚える 25
第11回	物語の読み聞かせ(1)ブリーディング ペア活動 6. Read Me, Tell Me Stories 後置修飾の方法	△教科書36頁1~10の単語の意味を確認する 20 ▽問いかける際の表現を覚える 25
第12回	物語の読み聞かせ(2)ポストリーディング ペア活動 6. Read Me, Tell Me Stories 冠詞(a/an/the)の用法	△教科書40頁の音声を読み音読する 20 ▽絵本のあらすじを説明・確認する際の表現を覚える 25
第13回	プレゼンテーション(1)グループディスカッション Additional 1 Are You All Right? 助動詞willの用法	△事前の配布プリントの基本的な例文の確認 20 ▽病気やけがに関する単語や表現を覚える 25
第14回	プレゼンテーション(2)グループディスカッション Additional 2 Are You Feeling Good? 接続詞becauseの用法	△事前の配布プリントの基本的な例文の確認 20 ▽感情や気分に関する単語や表現を覚える 25
第15回	まとめ	△既出の単語と表現の意味を確認する 20 ▽基本的な例文の用法と意味を確認する 25

備考: この科目では、担当者の実務経験(在外教育施設での幼稚園・小学部・中学部の英語教育コーディネータ、公立小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。 675

【履修上の留意点】

積極的に英語でコミュニケーション活動に参加する態度が必要である。

【テキスト】

Children's Garden: 保育英語 ISBN 978-4-7919-1095-3

【参考書・参考資料等】

Jolly Songs Jolly Learning Ltd. 2005

【連絡方法】 初回授業時に通知する

【オフィスアワー】 授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)	
	①	②							
試験 (発表含む)	①	②	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や学習の内容理解が認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や学習内容の理解が不足している。	
期末レポート	③		20%	・課題の意図を的確に理解し、自分の考えをもとに解答できている。 ・書式のミスがない。	・課題の意図を理解し、明確に解答できている。 ・書式のミスがほぼない。	・課題の意図を概ね理解し、適切に解答できている。 ・書式のミスが散見する。	・課題の意図を断片的に理解できているが、テーマとの関わりが見られない。 ・字数が不足しており、書式のミスが多い。	・課題の意図や授業内容の理解が不十分であり、解答が見られない。 ・字数が不足しており、書式のミスが多い。 ・提出期限が守られない。	
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	③	10%	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に意欲的に取り組む姿勢が見られ、模範である。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に取り組む姿勢が見られる。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加しようとする。 ・学習を通じて、知識/理解/実践力の習得に努めようとする。	・授業の学習活動に参加することができる。 ・知識/理解/実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業の学習活動への参加が不十分であり、知識/理解/実践力の習得が不足している。
授業外での取組	③		10%	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められ、その成果も見受けられる。	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習に積極的に取り組む努力をしていることが認められる。	・授業外での学習に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習への取り組みが不十分で、内容の理解が不足している。	

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第13回・第14回		第13回・第14回		第1回~第10回(授業の一部)	第11回・第12回(授業の一部)

科目名／基礎教育	YHS102	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
英語コミュニケーションⅡ		1年後期	必修	演習/単独	1単位	寺澤 君江	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
コミュニケーション力	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

グローバル化が進む現在、幼児教育の現場でも英語による意思疎通が必要とされることがある。そういった状況に対応することを念頭に置き、本授業では、中学・高校での学習内容をもとに、幼児教育や保育に役立つ歌・ゲーム・絵本に慣れ親しむ活動を通じ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

教科書および配布ワークシートを用い、ペアワークやグループ練習等によるコミュニケーション活動を中心に授業を進める。幼児教育や保育に関わる英語の表現や文法および単語の定着を図るため、授業内では簡単な確認テストを実施する。英語の発音練習として、毎回、フォニックスを取り入れた学習を位置づける。

【到達目標と学修成果】

- 日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を聞き取ることができる。
- 日常生活および幼児教育に関わる話題について、英語で表現することができる。
- 基本的な文法事項を理解し日常生活および幼児教育に関わる話題についての英語を読み、英語で書くことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【A事前 ▼事後 / 分】	
第1回	ガイダンス:授業の内容・進め方:評価の方法 / 再会した時のやりとり 7. Activities with Watermelon	△ 再会したときのやりとりの準備 ▽ 挨拶に関する単語と表現	20 25
第2回	月ごとの特徴 年中行事の楽しみ方の説明 7.Activities with Watermelons that 節の用法	△ 教科書44頁の音声を読み音読する ▽ 教科書43~44頁の単語と表現を覚える	20 25
第3回	お誕生日会 お誕生日会でのやりとり 8. Happy Birthday 受動態の用法	△ 教科書48頁1~10の単語の意味を確認する ▽ 行事に関する単語や表現を覚える	20 25
第4回	幼稚園の同僚とのやりとり 職業に対する考えを語る 8. Happy Birthday 現在完了の用法	△ 教科書52頁の音声を読み音読する ▽ 教科書51~52頁の単語と表現を覚える	20 25
第5回	室内での活動 遊び方やルールの説明 9. Children at Play 勧誘や提案の表現	△ 教科書54頁1~10の単語の意味を確認する ▽ ゲームに関する単語や表現を覚える	20 25
第6回	屋外での活動 仲良く遊ぶためのやりとり 9. Children at Play 単数形と複数形の使い方	△ 教科書58頁の音声を読み音読する ▽ 教科書57~58頁の単語と表現を覚える	20 25
第7回	乳幼児のケア 乳幼児の着替えを説明 10. Baby News 関係代名詞の制限用法	△ 教科書60頁1~10の単語の意味を確認する ▽ 衛生に関する単語や表現	20 25
第8回	乳幼児と過ごす 乳幼児の行動を描写 10. Baby News 助動詞mayの用法	△ 教科書64頁の音声を読み音読する ▽ 教科書63~64頁の単語と表現を覚える	20 25
第9回	生活のルール よりよい生活習慣の説明 11. The Tooth Fairy 時や頻度を表す副詞句の用法	△ 教科書66頁1~10の単語の意味を確認する ▽ 数字に関する単語や表現を覚える	20 25
第10回	歯磨き指導 専門用語を用いた説明 11. The Tooth Fairy 助動詞wouldの用法	△ 教科書70 頁の音声を読み音読する ▽ 教科書69~70頁の単語と表現を覚える	20 25
第11回	演劇・読み聞かせ(1)プレゼンテーション(グループ) 12. The Green-Eyed Witch 擬態語・擬音語	△ 教科書76頁1~10の単語の意味を確認する ▽ 問いかける際の表現を覚える	20 25
第12回	演劇・読み聞かせ(2)プレゼンテーション(グループ) 12. The Green-Eyed Witch so --- that 構文の用法	△ 教科書76頁の音声を読み音読する ▽ あらすじを説明する際の表現を覚える	20 25
第13回	保育所・幼稚園の役割 オリジナル教材1 veryとtooの使い方	△ 事前の配布プリントの基本的な例文の確認 ▽ 人物描写に関する単語や表現を覚える	20 25
第14回	幼稚園における決まり・ルール オリジナル教材2 禁止の用法	△ 事前の配布プリントの基本的な例文の確認 ▽ 決まりに関する単語や表現を覚える	20 25
第15回	まとめ	△ 既出の単語と表現の意味を確認する ▽ 基本的な例文の用法と意味を確認する	20 25

備考: この科目では、担当者の実務経験(在外教育施設での幼稚園・小学部・中学部の英語教育コーディネータ、公立小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。 675

【履修上の留意点】

積極的に英語でコミュニケーション活動に参加する態度が必要である。

【テキスト】

Children's Garden: 保育英語 ISBN 978-4-7919-1095-3

【参考書・参考資料等】

Jolly Songs Jolly Learning Ltd. 2005 ISBN 978-1-84414-069-5
Goldilocks and the Three Bears ISBN 978-1-60710-352-3

【連絡方法】

初回授業時に通知する

【オフィスアワー】

授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)	
	①	②							
試験 (発表含む)	①	②	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や学習の内容理解が認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や学習内容の理解が不足している。	
期末レポート	③		20%	・課題の意図を的確に理解し、自分の考えをもとに解答できている。 ・書式のミスがない。	・課題の意図を理解し、明確に解答できている。 ・書式のミスがほぼない。	・課題の意図を概ね理解し、適切に解答できている。 ・書式のミスが散見する。	・課題の意図を断片的に理解し、解答できているが、テーマとの結びつきが弱い。 ・書式のミスが多い。	・課題の意図や授業内容の理解が不十分であり、解答できているが、テーマとの関わりが見られない。 ・字数が不足しており、書式のミスが多い。 ・提出期限が守られない。	
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	③	10%	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に意欲的に取り組む姿勢が見られ、模範である。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に取り組む姿勢が見られる。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加しようとする。 ・学習を通じて、知識/理解/実践力の習得に努めようとする。	・授業の学習活動に参加することができる。 ・知識/理解/実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業の学習活動への参加が不十分であり、知識/理解/実践力の習得が不足している。
授業外での取組	③		10%	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められ、その成果も見受けられる。	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習に積極的に取り組む努力をしていることが認められる。	・授業外での学習に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習への取り組みが不十分で、内容の理解が不足している。	

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			第11回・第12回		第1回~第10回 (授業の一部)	第13回・第14回 (授業の後半)

科目名／基礎教育	YHS201	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
運動と健康 I	1年前期	必修	実技・講義 単独	1単位	黒須 育海			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							◎

【授業のねらい】
様々な活動を介して多様な人間相互のつながりを形成する。身体表現や各種のスポーツを通して時間と空間を共有し、自らの心と身体のあり方について考え、理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実技と講義形式で実施する。活動内容によって室内か屋外いずれかでの授業となる。スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きおよび外履きを用意すること。将来保育者や教師を目指す学生が対象であることから、各々が教育的な視点を持って活動に主体的に参加すること。

【到達目標と学修成果】
①主体的に活動を計画・展開し、その教育的な意図を説明することができる。
②心と身体の健康について、人間相互のつながりを理解することができる。
③身体運動の意義と実践方法について理解し、生涯スポーツにおける健康増進の知識を得ることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	(講義)オリエンテーション (1)授業説明 (2)グルーピング (3)自己紹介ゲーム	△シラバスを確認する ▽次回以降の実技に向けた準備	20 25
第2回	体ほぐし運動を用いた多様な遊び	△体ほぐし運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第3回	心と体のほぐし運動1 (1)歩く(2)走る(3)コンタクトワーク	△コンタクトワークについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第4回	心と体のほぐし運動2 (1)道具を使った実践(2)イメージを具現化	△イメージの具現化について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第5回	(講義)心身相関の仕組み	△心身相関について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第6回	ドッチビー1 (1)説明 (2)投げ方	△ドッチビーについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第7回	ドッチビー2 (1)ルール (2)ディスクドッチ	△ディスクドッチについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第8回	ドッチビー3 (1)ディスクドッチ戦略 (2)まとめ	△ディスクドッチの戦略について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第9回	(講義)舞踊教育における表現の自由	△身体表現について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第10回	(講義)身体表現とコミュニケーション	△表現とコミュニケーションの繋がりについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第11回	コンテンポラリーダンス1 (1)ワードツリー (2)創作メゾット	△コンテンポラリーダンスについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第12回	コンテンポラリーダンス2 (1)イメージの発信 (2)創作活動	△ダンス作品を深めていくための情報を集める ▽内容をノートにまとめる	20 25
第13回	コンテンポラリーダンス3 (1)創作活動 (2)中間発表	△作品の流れ、振付を確認する ▽内容をノートにまとめる	20 25
第14回	コンテンポラリーダンス4 (1)創作活動 (2)発表	△作品内容を確認する ▽内容をノートにまとめる	20 25
第15回	(講義)レポートまとめ	△半期授業を振り返る ▽内容をノートにまとめる	20 25

備考:

【履修上の留意点】
実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。実技が中心であるので、欠席をしないように努めること(減点の対象となる)。

【テキスト】
随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】
舞踊教育研究会「舞踊学講義」大修館書店、高橋和子「からだ-気づき学びの人間学-」見洋書房

【連絡方法】 kurosu@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】 授業の前後

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②③						
試験 (発表含む)	①②③	30%		・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①③	20%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にし、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	50%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考:

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第12～13回					

科目名／基礎教育	YHS202	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
運動と健康Ⅱ	1年後期	必修	実技・講義 単独	1単位	黒須 育海			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							◎

【授業のねらい】
様々な活動を介して多様な人間相互のつながりを形成する。身体表現や各種のスポーツを通して時間と空間を共有し、自らの心と身体のあり方について考え、理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
実技と講義形式で実施する。活動内容によって室内か屋外いずれかでの授業となる。スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きおよび外履きを用意すること。将来保育者や教師を目指す学生が対象であることから、各々が教育的な視点を持って活動に主体的に参加すること。

【到達目標と学修成果】
①主体的に活動を計画・展開し、その教育的な意図を説明することができる。
②心と身体の健康について、人間相互のつながりを理解することができる。
③身体運動の意義と実践方法について理解し、生涯スポーツにおける健康増進の知識を得ることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	(講義)オリエンテーション	△シラバスを確認する ▽次回以降の実技に向けた準備	20 25
第2回	(講義)障害を越える環境 インクルーシブ・フィールド	△インクルーシブについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第3回	コンタクトワーク1 (1)立つ・座る (2)歩く・走る	△コンタクトワークについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第4回	コンタクトワーク2 (1)押す・引く (2)主張・協調	△コンタクトインプロビゼーションについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第5回	コンタクトワーク3 (1)型どる (2)抜ける	△スティープ・バクストンについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第6回	コンタクトワーク4 (1)まとも (2)即興	△合気道について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第7回	(講義)ライフステージに応じたスポーツ活動	△ライフステージについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第8回	遊びを通した運動1(1)鬼ごっこ (2)助け鬼	△粗大運動・微細運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第9回	遊びを通した運動2(1)大縄跳び (2)サメ鬼	△道具を使用しない外遊びについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第10回	遊びを通した運動3(1)運動強度 (2)振り返り	△道具を使用した外遊びについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第11回	(講義)生涯スポーツと障害スポーツ	△生涯スポーツ、障害スポーツについて調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第12回	サーキット運動1 (1)説明 (2)実践	△運動強度について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第13回	サーキット運動2 (1)考察 (2)計画 (3)実践	△実践のための計画を立てる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第14回	サーキット運動3 (1)実践 (2)振り返り	△年齢と運動強度について調べる ▽内容をノートにまとめる	20 25
第15回	(講義)レポートまとめ	△半期授業を振り返る ▽内容をノートにまとめる	20 25

備考： 675

【履修上の留意点】
実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。実技が中心であるので、欠席をしないように努めること(減点の対象となる)。

【テキスト】
随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】
舞踊教育研究会「舞踊学講義」大修館書店、高橋和子「からだ-気づき学びの人間学-」見洋書房

【連絡方法】 kurosu@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 授業の前後

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②③						
試験 (発表含む)	①②③	30		・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①③	20		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にし、か理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	50		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考：

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回		第2回			第13～14回	

科目名／基礎教育	YHS301	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ライフキャリア演習 I	1年前期	必修	演習／ クラス分け	1単位	子ども教育学科 教員			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第1学年前期の学修の過程を支援し、大学での学びと生活についての基本的な知識と理解を身につけさせることをねらいとする。また、ライフキャリアに関して、キャリアデザインの意義と必要性を理解させ、職業についての基本的な知識を獲得させる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を提供する。授業時間外に個人面談を行う。

【到達目標と学修成果】

- ①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
- ②自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。
- ③大学での学びとライフキャリアについて、基本的な知識と理解を身につけている。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス(授業のねらい、授業の進め方等の説明)、G.クラスルーム登録	△学生ハンドブックの該当箇所を読む ▽授業のねらいと進め方について整理する	15 30
第2回	クラス交流／オリエンテーション・学生カルテの作成	△学生ハンドブックの該当箇所を読む ▽オリエンテーションの内容を整理する	15 30
第3回	公務員試験ガイダンス	△公務員試験に関する資料を調べる ▽公務員試験について整理する	15 30
第4回	キャリアガイダンス	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽ガイダンスの内容を整理する	15 30
第5回	避難訓練/課題研究	△避難経路を確認する ▽課題研究の内容をまとめる	15 30
第6回	課題研究(文章表現の基礎)	△文章表現の基礎に関するプリントを読む ▽文章表現の基礎について整理する	15 30
第7回	身だしなみ・マナー講座	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽講座の内容を整理する	15 30
第8回	課題研究(文章表現の工夫)	△文章表現の工夫に関するプリントを読む ▽文章表現の工夫について整理する	15 30
第9回	課題研究(メールマナー)	△メールマナーの基礎に関する資料を読む ▽メールマナーの課題を作成し、内容を整理する	15 30
第10回	職業としての小学校教諭 (現場の小学校教諭の仕事、現場の小学校教諭に必要な力・心構え)	△小学校教諭についての資料を読む ▽小学校教諭について整理する	15 30
第11回	課題研究(文章表現の技法)	△文章表現の技法に関するプリントを読む ▽文章表現の技法について整理する	15 30
第12回	前期試験・夏休みの諸注意・履修カルテの記入	△定期試験・夏休みに関するプリントを読む ▽前期のふりかえりについて整理する	15 30
第13回	基礎学力テスト・前期学修実態アンケート	△文章表現に関するプリントを読む ▽研究発表参加について整理する	15 30
第14回	3年生 卒業論文中間発表会	△研究構想レジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30
第15回	3年生 卒業論文中間発表会	△研究構想レジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30

備考:

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】

各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】

クラス担当に確認すること。

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合						
試験 (発表含む)								
期末 レポート	①	50%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮されている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	50%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	14・15	14・15				

科目名／専門教育	YHS302	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ライフキャリア演習Ⅱ		1年後期	必修	演習／ クラス分け	1単位	子ども教育学科 教員		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第1学年後期の学修の過程を支援し、大学での学びと生活についての基本的な知識と理解を身につけさせることをねらいとする。また、ライフキャリアに関して、職業についての基本的な知識を獲得させ、自身のキャリアデザインに対する見通しを持たせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を提供する。授業時間外に個人面談を行う。

【到達目標と学修成果】

- ①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
- ②自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。
- ③大学での学びとライフキャリアについて、基本的な知識と理解を身につけ、見通しを持つ。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	前期学修成果・基礎学力のフィードバック	△前期の学びにおける改善点を検討する 15
		▽後期の学修目標を整理する 30
第2回	職業としての幼稚園教諭 (現場の幼稚園教諭の仕事、現場の幼稚園教諭に必要な力・心構え)	△幼稚園教諭の仕事に関するプリントを読む 15
		▽幼稚園教諭の仕事内容について整理する 30
第3回	避難訓練/課題研究	△文章表現の工夫に関するプリントを読む 15
		▽文章表現の工夫について整理する 30
第4回	有明祭	△有明祭の事前準備を行う 15
		▽有明祭から学んだことについて整理する 30
第5回	人権講習	△人権に関する資料を読む 15
		▽講習の内容について整理する 30
第6回	職業としての保育士 (現場の保育士の仕事、現場の保育士に必要な力・心構え)	△保育士の仕事に関するプリントを読む 15
		▽保育士の仕事内容について整理する 30
第7回	課題研究(文章表現の技法)	△文章表現の技法に関するプリントを読む 15
		▽文章表現の技法について整理する 30
第8回	職業としての施設職員 (現場の施設職員の仕事、現場の施設職員に必要な力・心構え)	△施設職員の仕事に関するプリントを読む 15
		▽施設職員の仕事内容について整理する 30
第9回	実習体験談から学ぶ	△実習体験談に関するプリントを読む 15
		▽実習体験談から学んだことについて整理する 30
第10回	課題研究(文章表現の応用)	△文章表現の応用に関するプリントを読む 15
		▽文章表現の応用について整理する 30
第11回	課題研究(卒業研究に向けて)	△卒業研究に関するプリントを読む 15
		▽卒業研究の内容を整理する 30
第12回	試験・春休みの諸注意・履修カルテ記入・後期学修実態アンケート 江東区ボランティア活動報告会	△定期試験・春休みに関するプリントを読む 15
		▽1年間のふりかえりについて整理する 30
第13回	内定者の就職活動体験談を聴こう	△就職活動体験談に関するプリントを読む 15
		▽就職活動体験談の話を整理する 30
第14回	3年生 卒業論文発表会	△研究発表のレジュメを読む 15
		▽研究発表聴講の観点について整理する 30
第15回	3年生 卒業論文発表会	△研究発表のレジュメを読む 15
		▽研究発表聴講の観点について整理する 30

備考：

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】

各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】

各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)	
試験 (発表含む)								
期末 レポート	①	50%		<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に読み進められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・課題の意図をおおむね守られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	50%	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取組に参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。 	
授業外での 取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	14・15	14・15				

科目名／基礎教育	YHS303	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ライフキャリア演習Ⅲ		2年前期	必修	演習／ クラス分け	1単位	子ども教育学科 教員		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第2学年前期の学修の過程を支援し、大学での学びと生活についての知識と理解を身につける。また、ライフキャリアに関して、自己分析のもと、将来の姿をイメージさせながら仕事への意識を高めさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を提供する。授業時間外に個人面談を行う。

【到達目標と学修成果】

- ①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
- ②自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。
- ③仕事も含めた人生そのものを意識し、自分のキャリアをデザインするために何が必要か理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス(授業のねらい、授業の進め方等の説明)、G.クラスルーム登録	△学生ハンドブックの該当箇所を読む ▽授業のねらいと進め方について整理する	15 30
第2回	クラス交流／オリエンテーション・学生カルテの作成	△学生ハンドブックの該当箇所を読む ▽オリエンテーションの内容を整理する	15 30
第3回	公務員試験ガイダンス	△公務員試験に関する資料を調べる ▽公務員試験について整理する	15 30
第4回	キャリアガイダンス	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽ガイダンスの内容を整理する	15 30
第5回	避難訓練/課題研究	△避難経路を確認する ▽課題研究の内容をまとめる	15 30
第6回	課題研究(文章表現の基礎)	△文章表現の基礎に関するプリントを読む ▽文章表現の基礎について整理する	15 30
第7回	身だしなみ・マナー講座	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽講座の内容を整理する	15 30
第8回	課題研究:実習前個別面談	△事前OTを実施し、内容を確認する ▽事前OTの内容を整理する	15 30
第9回	課題研究:実習後個別面談	△実習園でのOT内容をまとめ報告する ▽実習に向けた課題を整理する	15 30
第10回	OB・OGのキャリアから学ぶ	△OB・OGのキャリアについてのプリントを読む ▽OB・OGのキャリアから学んだことについて整理する	15 30
第11回	課題研究(文章表現の工夫)	△文章表現の工夫に関するプリントを読む ▽文章表現の工夫について整理する	15 30
第12回	前期試験・夏休みの諸注意・履修カルテの記入	△定期試験・夏休みに関するプリントを読む ▽前期のふりかえりについて整理する	15 30
第13回	基礎学力テスト・前期学修実態アンケート	△文章表現に関するプリントを読む ▽研究発表参加について整理する	15 30
第14回	3年生 卒業論文中間発表会	△研究構想レジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30
第15回	3年生 卒業論文中間発表会	△研究構想レジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30

備考:

675

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】

各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】

各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合						
試験 (発表含む)								
期末 レポート	①	50%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠と先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	50%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	14・15	14・15				

科目名／基礎教育	YHS304	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ライフキャリア演習Ⅳ		2年後期	必修	演習／ クラス分け	1単位	子ども教育学科 教員		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第2学年後期の学修の過程を支援し、第3学年の学修に向けた基礎固めを行わせることをねらいとする。また、ライフキャリアに関して、仕事をする上で必要なコミュニケーションスキルの重要性を理解させる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を提供する。授業時間外に個人面談を行う。

【到達目標と学修成果】

- ①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
- ②自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。
- ③自分が大事にしたいものや、興味を持っているものに気付き、将来の姿をイメージする。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	前期学修成果・基礎学力のフィードバック	△前期の学びにおける改善点を検討する ▽後期の学修目標を整理する	15 30
第2回	自分を知らう①(適性検査)	△適性検査に関するプリントを読む ▽適性検査の内容について整理する	15 30
第3回	避難訓練/課題研究	△文章表現の工夫に関するプリントを読む ▽文章表現の工夫について整理する	15 30
第4回	有明祭	△有明祭の事前準備を行う ▽有明祭から学んだことについて整理する	15 30
第5回	人権講習	△人権に関する資料を読む ▽講習の内容について整理する	15 30
第6回	自分を知らう②(自己分析)	△自己分析に関するプリントを読む ▽自己分析の内容について整理する	15 30
第7回	卒業研究A/Bについて	△卒業研究に関するプリントを読む ▽卒業研究A/Bの内容について整理する	15 30
第8回	自分を知らう③(履歴書・エントリーシート対策)	△履歴書に関するプリントを読む ▽エントリーシートについて整理する	15 30
第9回	実習体験談から学ぶ	△実習体験談報告に関する資料を作成する ▽実習体験談から学んだことについて整理する	15 30
第10回	課題研究(文章表現の技法)	△文章表現の技法に関するプリントを読む ▽文章表現の技法について整理する	15 30
第11回	課題研究(卒業研究に向けて)	△卒業研究に関するプリントを読む ▽卒業研究の内容を整理する	15 30
第12回	試験・春休みの諸注意・履修カルテ記入・後期学修実態アンケート 江東区ボランティア活動報告会	△定期試験・春休みに関するプリントを読む ▽1年間のふりかえりについて整理する	15 30
第13回	内定者の就職活動体験談を聴こう	△就職活動体験談に関するプリントを読む ▽就職活動体験談の話を整理する	15 30
第14回	3年生 卒業論文発表会	△研究発表のレジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30
第15回	3年生 卒業論文発表会	△研究発表のレジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30

備考：

675

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】

各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】

各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	①	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	14・15	14・15				

科目名／基礎教育	YHS305	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ライフキャリア演習Ⅴ		3年前期	必修	演習／ クラス分け	1単位	子ども教育学科 教員		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第3学年前期の学修の過程を支援するとともに、最高学年としての自覚を持たせ、3年間の学修のふりかえりと総まとめを行う機会を提供する。また、ライフキャリアに関して、卒業後の将来に向けてやらなければならないことを整理し、行動をする力を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を提供する。授業時間外に個人面談を行う。

【到達目標と学修成果】

- ①課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
- ②自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。
- ③最高学年であることを自覚するとともに、卒業後の将来に向けてやらなければならないことを整理する。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス(授業のねらい、授業の進め方等の説明)、G.クラスルーム登録	△学生ハンドブックの該当箇所を読む ▽授業のねらいと進め方について整理する	15 30
第2回	クラス交流／オリエンテーション・学生カルテの作成	△学生ハンドブックの該当箇所を読む ▽オリエンテーションの内容を整理する	15 30
第3回	公務員試験ガイダンス	△公務員試験に関する資料を調べる ▽公務員試験について整理する	15 30
第4回	キャリアガイダンス	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽ガイダンスの内容を整理する	15 30
第5回	避難訓練・課題研究	△避難経路を確認する ▽課題研究の内容をまとめる	15 30
第6回	課題研究(文章表現の工夫)	△文章表現の工夫に関するプリントを読む ▽文章表現の工夫について整理する	15 30
第7回	身だしなみ・マナー講座	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽講座の内容を整理する	15 30
第8回	課題研究:卒業研究B動画視聴	△卒業研究について調べる ▽動画の内容をまとめる	15 30
第9回	自分を知ってもらおう(面接対策①)	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽講座の内容を整理する	15 30
第10回	自分を知ってもらおう(面接対策②)	△キャリアガイドブックの該当箇所を読む ▽講座の内容を整理する	15 30
第11回	課題研究(文章表現の技法)	△文章表現の技法に関するプリントを読む ▽文章表現の技法について整理する	15 30
第12回	前期試験・夏休みの諸注意・履修カルテの記入	△定期試験・夏休みに関するプリントを読む ▽前期のふりかえりについて整理する	15 30
第13回	基礎学力テスト・前期学修実態アンケート	△文章表現に関するプリントを読む ▽研究発表参加について整理する	15 30
第14回	3年生 卒業論文中間発表会	△研究構想レジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30
第15回	3年生 卒業論文中間発表会	△研究構想レジュメを読む ▽研究発表聴講の観点について整理する	15 30

備考:

675

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】

各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】

各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達	目標						
試験 (発表含む)								
期末 レポート	①		50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③		50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	14・15		14・15			

科目名／基礎教育	YHS306	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ライフキャリア演習Ⅵ		3年後期	必修	演習／ クラス分け	1単位	子ども教育学科 教員		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

第3学年後期の学修の過程を支援するとともに、最高学年としての自覚を持たせ、3年間の学修のふりかえりと総まとめを行う機会を提供する。また、ライフキャリアに関して、社会人として必要な心構えやマナーを身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

この授業はクラスセミナーとして位置づけられ、演習形式をとる。大学での学び方や有意義な過ごし方について、クラス単位、グループ単位、個別で学ぶ。他学年との合同授業では、意見交換や研究発表を通して、学生が互いに研鑽を積む機会を提供する。授業時間外に個人面談を行う。

【到達目標と学修成果】

- ① 課題研究を通して、個別およびグループでの学習方法を学ぶ。
- ② 自身の考えを持ち、他者に伝達する手法を習得する。
- ③ 社会人として必要な心構えやマナーを理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	前期学修成果・基礎学力のフィードバック	△ 前期の学びにおける改善点を検討する 15
		▽ 後期の学修目標を整理する 30
第2回	働くとは(労働法)	△ 労働法に関するプリントを読む 15
		▽ 労働法の内容について整理する 30
第3回	避難訓練/課題研究	△ 文章表現の工夫に関するプリントを読む 15
		▽ 文章表現の工夫について整理する 30
第4回	有明祭	△ 有明祭の事前準備を行う 15
		▽ 有明祭から学んだことについて整理する 30
第5回	人権講習	△ 人権に関する資料を読む 15
		▽ 講習の内容について整理する 30
第6回	課題研究(卒業研究の手順)	△ 卒業研究に関するプリントを読む 15
		▽ 卒業研究の内容について整理する 30
第7回	課題研究(卒業研究の方法)	△ 卒業研究に関するプリントを読む 15
		▽ 卒業研究の内容について整理する 30
第8回	社会人として必要なこと(健康で働くために)	△ 社会人生活に関するプリントを読む 15
		▽ 社会人の健康について整理する 30
第9回	実習体験談から学ぶ	△ 実習体験談報告に関する資料を作成する 15
		▽ 実習体験談から学んだことについて整理する 30
第10回	課題研究(卒業研究作成)	△ 卒業研究に必要な情報を整理する 15
		▽ 卒業研究を作成する 30
第11回	課題研究(卒業研究発表に向けて)	△ 卒業研究内容をまとめる 15
		▽ 卒業研究の発表内容を確認する 30
第12回	試験・春休みの諸注意・履修カルテ記入・後期学修実態アンケート 江東区ボランティア活動報告会	△ 定期試験・春休みに関するプリントを読む 15
		▽ 1年間のふりかえりについて整理する 30
第13回	内定者の就職活動体験談を聴こう	△ 就職活動体験談に関するプリントを読む 15
		▽ 就職活動体験談の話を整理する 30
第14回	3年生 卒業論文発表会	△ 研究発表のレジュメを読む 15
		▽ 研究発表聴講の観点について整理する 30
第15回	3年生 卒業論文発表会	△ 研究発表のレジュメを読む 15
		▽ 研究発表聴講の観点について整理する 30

備考:

【履修上の留意点】

予習・復習に取り組むこと。授業前に必ず掲示を確認すること。

【テキスト】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【参考書・参考資料等】

必要に応じて、担当教員より提示する。

【連絡方法】

各自、掲示にて確認のこと。

【オフィスアワー】

各自、クラス担任に確認のこと。

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達	目標						
試験 (発表含む)								
期末 レポート	①		50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③		50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	14・15	12	14・15			

科目名/専門教育	YHS401	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども理解の方法		3年前期	必修	演習/単独	1単位	赤坂 澄香		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

子どもの生活や遊びの実態に即して、子どもの行動並びに内面を知る必要性を理解するとともに、子どもの多様な姿について識見を深める。子ども理解を基盤として、保育・教育場面で子どもどのように接すればよいか、基礎的な態度や具体的な方法について理解することをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

事例についてのグループ協議やロールプレイ等の演習を取り入れ、主体的・対話的な授業を行う。心理学的、社会学的あるいは歴史的な子ども理解の一般的な方法を学ぶと同時に、他の科目で修得した保育・教育についての知識・技能を利用して考える習慣を身につける。

【到達目標と学修成果】

- ① 子ども理解の意義を理解することができる。
- ② 子ども理解についての知識を身につけ、基礎的な考え方や態度、関わり方を理解することができる。
- ③ 子ども理解の方法を具体的に理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	講義の進め方の説明 子ども理解の意義、子どもの発達や学びを捉える原理について理解する	△ 子ども理解の意義について意見をまとめておく ▽ 子どもの発達を捉える原理についてまとめる	15 30
第2回	子ども理解の方法① 目的に応じた子ども理解の方法や記録について理解する	△ エピソード記述について調べ、まとめておく ▽ 子ども理解に用いる方法の長所・短所をまとめる	15 30
第3回	子ども理解の方法② 観察の手法を学ぶ、観察・記録の演習を行う	△ 観察法について調べ、まとめておく ▽ 観察の手法についてまとめる	15 30
第4回	子ども理解の方法③ 検査法について学び、検査法の演習を行う	△ 検査法について調べ、まとめておく ▽ 検査法の留意点についてまとめる	15 30
第5回	子ども理解の方法④描画法「HTPテスト」の演習を行い、絵を用いた子ども理解の方法を体験的に学ぶ	△ HTPテストについて調べ、まとめておく ▽ HTPテストの分析方法をまとめる	15 30
第6回	子ども理解の方法⑤描画法「スクイグル法」の演習を行い、絵を用いた子ども理解の方法を体験的に学ぶ	△ スクイグル法について調べ、まとめておく ▽ スクイグル法の分析方法をまとめる	15 30
第7回	子ども理解の視点① 自己の幼児期の生活や遊びを振り返り、子どもが何を身につけているかを考える	△ 幼児期の生活や遊びを自分史としてまとめておく ▽ 子どもが生活や学びを通して学ぶことをまとめる	15 30
第8回	子ども理解の視点② つまずきのある幼児についての理解を深め、発達の課題に応じた援助と関わりについて学ぶ	△ 発達障害の特徴についてまとめておく ▽ 発達の課題に応じた援助や関わり方をまとめる	15 30
第9回	子ども理解の視点③ 気になる子どもへの対応について事例を通して考える(短縮事例法の演習)	△ 事例研究の方法について調べ、まとめておく ▽ 事例に対する対応についてさらに検討をする	15 30
第10回	子ども理解の視点④ 気になる子どもへの対応について理解を深める(グループごとに発表・補足の講義)	△ 発表に向けて、発表内容・原稿をまとめておく ▽ 気になる子どもの事例における留意点をまとめる	15 30
第11回	子ども理解の視点⑤ 事例を通して、個と集団、環境、保育者・教育者の役割を考える	△ 保育者の個および集団に対する役割をまとめておく ▽ インリアル・アプローチについてまとめる	15 30
第12回	保育実践におけるカウンセリングマインド 「共感」について学ぶ、カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を身につける	△ 「共感」とは何かについて意見をまとめておく ▽ カウンセリングの基本的姿勢・技法をまとめる	15 30
第13回	保護者の現状と子育て支援 保護者の心情を理解し、家庭との連携のあり方を学ぶ	△ 統計資料等から保護者が抱える課題を読み取る ▽ 家庭との連携のあり方や留意点についてまとめる	15 30
第14回	支援体制の整備と連携 園内の協力体制のあり方、就学への支援について学ぶ	△ 接続期カリキュラムについて調べておく ▽ 保幼小連携についてまとめる	15 30
第15回	まとめ	△ 子ども理解の意義や方法について復習しておく ▽ 子ども理解における留意点についてまとめる	15 30

備考：

675

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回到Google classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【テキスト】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

「育ての心(上)」 「育ての心(下)」 倉橋惣三 フレーベル館(2008年)
その他、必要に応じて紹介する。

【連絡方法】

akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】

火曜日昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	60%	・子ども理解の意義を理解し、子ども理解についての知識や方法が十分に身につけていることが認められる。	・子ども理解の意義を理解し、子ども理解についての知識や方法が身につけていることが認められる。	・子ども理解についての基本的な知識は習得されていることが認められる。	・子ども理解についての基本的な知識の習得が断片的であるため、今後とも知識の習得に努力を要する。	・子ども理解についての基本的な知識の習得がされていない。
	③							
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	③	40%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第9回・第12回 第13回・第14回		第10回			

科目名/専門教育	YHS402	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育の心理学		2年前期	必修	講義/単独	2単位	赤坂 澄香		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎ ○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○ ○

【授業のねらい】

乳幼児・児童・生徒の心身の発達や学習の過程についての心理学的知識を学び、発達を捉える視点や各発達段階の特性を踏まえた保育・教育について基礎的な考え方を理解することをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式であるが、個人・グループでのワークやディスカッション等も交えながら進める。

【到達目標と学修成果】

- ①乳幼児・児童・生徒の心身の発達及び特徴を理解することができる。
②子どもの発達に関する心理学的知識を身につけ、発達を踏まえた保育や教育の在り方について基礎的な考え方を理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス 発達理解の意義、保育実践と心理学について理解する	△ 発達理解の意義について意見をまとめておく ▽ 保育実践と心理学についてまとめる	90 90
第2回	発達の要因 子どもの発達と環境について理解する	△ 子どもの発達の要因に関する諸説を調べる ▽ 遺伝説、環境説、相互作用説について復習する	90 90
第3回	発達理論① フロイトの発達理論について学ぶ	△ フロイトについて調べ、予習する ▽ フロイトの発達理論をまとめ、復習する	90 90
第4回	発達理論② ハヴィガーストとマズローの発達理論について学ぶ	△ ハヴィガーストとマズローについて調べ、予習する ▽ ハヴィガーストとマズローの発達理論を復習する	90 90
第5回	子ども観と保育観 子ども観の変遷をたどる、KJ法を用いて子ども観と保育観を考える	△ 子ども観の変遷を調べ、予習する ▽ 自己の子ども観と保育観をまとめる	90 90
第6回	子どもの発達過程① 身体発達の基本原理と運動機能の発達について学ぶ	△ 乳幼児の身体発達について調べ、予習する ▽ 身体発達の基本原理についてまとめ、復習する	90 90
第7回	子どもの発達過程② 感情・自己意識の発達プロセスについて学ぶ	△ 感情の種類についてまとめておく ▽ 感情の発達プロセスをまとめ、復習する	90 90
第8回	子どもの発達過程③ 認知機能の発達について学ぶ	△ 認知機能とは何か調べ、まとめておく ▽ 認知機能の発達プロセスをまとめ、復習する	90 90
第9回	子どもの発達過程④ 言語機能の発達の变化について学ぶ	△ 言語機能について調べ、予習する ▽ ピアジェとヴィゴツキーの理論をまとめる	90 90
第10回	子どもの発達過程⑤ 社会性・道徳性の発達について学ぶ	△ 道徳性とは何か調べ、予習する ▽ 道徳性の発達理論をまとめる	90 90
第11回	子どもの学びと保育・教育① 子どもの学習に関わる理論について学ぶ	△ 学習理論を調べ、予習する ▽ 強化や動機づけについてまとめ、復習する	90 90
第12回	子どもの学びと保育・教育② 子どもの生活と学びについて考える	△ 生活の中で学ぶことについて自分の意見をまとめる ▽ 生活を通じた学びにおける現代的課題をまとめる	90 90
第13回	子どもの学びと保育・教育③ 子どもの遊びと学びについて考える	△ 遊びの中で学ぶことについて自分の意見をまとめる ▽ 遊びを通じた学びにおける現代的課題をまとめる	90 90
第14回	子どもの発達を踏まえた保育・教育の在り方 発達に関する心理学的知見をもとに実践事例の検討を行う	△ 発達を踏まえた保育・教育実践を調べ、予習する ▽ 事例から得た知見をまとめ、復習する	90 90
第15回	まとめ	△ 心身の発達に関する心理学的知識を復習する ▽ 心理学的知識の活用について自己で考えをまとめる	90 90

備考：

2700

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回にGoogle classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【テキスト】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

「保育の心理学」長谷部比呂美・日々眺美・山岸道子・吉村真理子 ななみ書房(2019年)
「保育の心理学演習ブック」松本峰雄監修/大野雄子・小池庸生ほか ミネルヴァ書房(2016年)

【連絡方法】

akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】

火曜日昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	評価基準		到達目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合 (%)							
試験 (発表含む)	① ②	50%			・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について十分に理解していることが認められる。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について理解していることが認められる。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について必要最低限は理解していることが認められる。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について理解が断片的であるため、今後も知識の習得に努力を要する。	・子どもの心身の発達及び特徴に関する心理学的知識や発達を踏まえた保育や教育の在り方について基本的な知識の習得がされていない。
期末レポート									
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	50%			・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組									

備考：・授業内での取り組み：小テストを全体評価の30%、授業中の発言、ディスカッションへの参加度等を全体評価の20%に充当する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第5回・第14回					

科目名/専門教育	YHS403	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの保健		1年前期	必修	講義/単独	2単位	澤田 由美	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。			
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。		△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。		◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。		○

【授業のねらい】
 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の重要性について理解する。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間との連携、協働の下での適切な対応について理解できるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 講義形式で行う。保育における保健的対応に関する基礎的事項を習得する科目になるため、前回授業の復習を含めながら授業を進めていく。

【到達目標と学修成果】
 ①子どもの身体的な発育・発達と保健について、また心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解できる。
 ②子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。
 ③疾病とその予防及び他職種間との連携、協働の下での適切な対応について理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス 保健活動の意義と目的	△シラバスを読み、授業の概要を確認する テキストのpp.3-8を精読する ▽保健活動の意義と目的について整理する 60 120
第2回	子どもの健康と健康指標	△テキストのpp.9-16を読み、概要を確認する 60 ▽健康指標について整理する 120
第3回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	△テキストのpp.18-22を読み、概要を確認する 60 ▽子どもの健康に関する現状と課題について整理する 120
第4回	子どもの身体的発育と評価	△テキストのpp.33-38、pp.49-52を精読する 60 ▽身体的発育と評価について整理する 120
第5回	子どもの生理機能の発達と保健	△テキストのpp.39-48を精読する 60 ▽生理機能の発達について整理する 120
第6回	子どもの運動・精神機能と保健	△テキストのpp.54-61を精読する 60 ▽運動・精神機能について整理する 120
第7回	子どもの健康状態の観察と不調等の早期発見	△テキストのpp.75-76を精読する 60 ▽健康状態の観察についてまとめる 120
第8回	発育・発達の把握と健康診断	△テキストのpp.80-83を精読する 60 ▽発育・発達の把握と健康診断について整理する 120
第9回	子どもの心身の健康状態と保護者との情報共有	△テキストのpp.83-84を精読する 60 ▽健康状態と保護者との情報共有について整理する 120
第10回	子どもの疾病の特徴と予防および対応 1. 感染症	△テキストのpp.85-87を精読する 60 ▽感染症の機序について整理する 120
第11回	子どもの疾病の特徴と予防および対応 2. 感染症の予防と対応	△テキストのpp.87-94を精読する 60 ▽様々な感染症について整理する 120
第12回	子どもの疾病の特徴と予防および対応 3. アレルギー疾患	△テキストのpp.95-100を精読する 60 ▽アレルギー疾患についてまとめる 120
第13回	子どもの疾病の特徴と予防および対応 4. 消化器、呼吸器、循環器、その他の疾病	△テキストのpp.101-106を精読する 60 ▽子どもの疾病の特徴を整理する 120
第14回	地域における保健活動と子ども虐待防止	△テキストのpp.25-30を精読する 60 ▽虐待防止について整理する 120
第15回	試験とまとめ	△第1回から第14回の授業内容を確認する 60 ▽授業内容を整理する 120

備考： 2700

【履修上の留意点】
 毎回授業終了後ミニッツペーパー(授業開始時に配布)を提出してください。

【テキスト】
 堀浩樹・梶美保編著『保育を学ぶ人のための子どもの保健』建帛社、2019年

【参考書・参考資料等】
 授業内で適宜紹介する。

【連絡方法】 授業内で指示
【オフィスアワー】 火曜日 休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	試験 (発表含む)	① ② ③	70%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁、期日が守られていない。	
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。	
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第2回		第14回			

科目名／専門教育	YHS404	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども家庭支援の心理学		2年後期	必修	講義/単独	2単位	赤坂 澄香		○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【**授業のねらい**】

生涯発達に関する心理学的知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解することをねらいとする。また、家庭・家族の意義と機能を理解するとともに、現代の子育て家庭をめぐる社会的状況と課題や子どもの心の健康に関わる問題について理解することをねらいとする。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

講義形式であるが、個人・グループでのワークやディスカッション等も交えながら進める。

【**到達目標と学修成果**】

- ①生涯発達に関する心理学的な知識を習得する。
- ②家庭・家族の意義と機能を理解するとともに、現代の子育て家庭をめぐる社会的状況と課題を理解する。
- ③子どもの精神保健とその課題を理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス	△「生涯発達」とは何か調べておく	90
		▽「家庭支援」とは何かまとめておく	90
第2回	生涯発達を学ぶ① 胎児期と乳児期の発達過程について理解する	△胎児期の発達過程を調べておく	90
		▽乳児期の発達課題をまとめる	90
第3回	生涯発達を学ぶ② 幼児期の発達過程について理解する	△幼児期の発達過程について予習しておく	90
		▽幼児期の発達課題をまとめる	90
第4回	生涯発達を学ぶ③ 児童期の発達過程について理解する	△ギャングエイジについて調べておく	90
		▽児童期の発達課題をまとめる	90
第5回	生涯発達を学ぶ④ 青年期の発達過程について理解する	△アイデンティティの発達について調べておく	90
		▽青年期の発達課題についてまとめる	90
第6回	生涯発達を学ぶ⑤ 成人期・老年期の発達過程について理解する	△中年期危機について調べておく	90
		▽成人期以降の発達課題をまとめる	90
第7回	家族・家庭の理解① 家族関係の理解を通して、子ども理解を深める	△子どもにとって家族とは何か意見をまとめる	90
		▽家族の発達過程について復習する	90
第8回	家族・家庭の理解② 子どものパーソナリティの形成と発達に影響する親の姿勢態度を理解する	△パーソナリティとは何か調べ、まとめておく。	90
		▽人格形成と養育態度の関係性をまとめる	90
第9回	家族・家庭の理解③ 子育ての現実と親としての育ちについて理解を深める	△子ども誕生後の親に与えられる課題は何か考えておく	90
		▽親としての育ちについてまとめる	90
第10回	子育て家庭の現状と課題① 子育て家庭をめぐる社会的状況、ライフコースとワークライフバランスについて理解する	△ワークライフバランスについて調べ、まとめておく	90
		▽子育て家庭を取り巻く社会的状況をまとめる	90
第11回	子育て家庭の現状と課題② 家族の多様化について理解する	△家族はどのように多様化しているか情報を集める	90
		▽家族の多様化にともなう課題をまとめる	90
第12回	子育て家庭の現状と課題③ 特別な配慮を要する家庭について知る	△特別な配慮を要する家庭について情報を集める	90
		▽特別な配慮を要する家庭が抱える問題点をまとめる	90
第13回	子育て家庭の現状と課題④ 特別な配慮を要する家庭に対する支援を考える	△配慮を要する家庭が抱える問題に対する対策を考える	90
		▽特別な配慮を要する家庭への支援の在り方をまとめる	90
第14回	子どもの精神保健と課題 子どものメンタルヘルスに影響する環境について学び、その課題を理解する	△子どものメンタルヘルス不調について調べておく	90
		▽子どものメンタルヘルスケアをまとめる	90
第15回	まとめ	△生涯発達に関する知識を総復習する	90
		▽現代の家庭をめぐる社会的状況と課題をまとめる	90

備考：

【**履修上の留意点**】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回到Google classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【**テキスト**】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【**参考書・参考資料等**】

必要に応じて紹介する。

【**連絡方法**】

akasaka@ariake.ac.jp

【**オフィスアワー**】

火曜日昼休み

【**評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	50%	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題を十分に理解していることが認められる。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題を理解していることが認められる。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題を必要最低限、理解していることが認められる。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題への理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	生涯発達に関する知識及び家庭・家族の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代的課題に関する基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	50%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：授業内での取り組み：小テストを全体評価の30%、授業中の発言、ディスカッションへの参加度等を全体評価の20%に充当する。

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第7回・第8回 第11回・第13回					

科目名/専門教育	YHS405	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの食と栄養		2年前期	必修	演習/単独	2単位	伊藤 野里子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
専門的知識や技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
実践的能力・表現コミュニケーション力	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

食生活が健康な生活の基本であることを念頭に、子どもの食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を習得し、子どもの発育・発達の特徴を踏まえた上で食生活の特徴や問題を理解する。保育の営みにおける食育の意義や内容や、家庭や児童福祉施設における食生活の問題から、食育の課題について主体的に考える。又、特別な配慮が必要な子どもの食と栄養の知識について知識を得る。以上のような、子どもの食と栄養の学習を通して保育の対象である子どもへの理解を深めていくことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

子どもの食生活の意義や栄養の基本、子どもの発達段階に応じた食生活の特徴や問題、食育の基本の理解、家庭や児童福祉施設の食生活の課題、特別な配慮が必要な子どもの食と栄養について、テキストによる講義や省庁のガイドライン、統計データ等資料の解説を通して、知識・理解を深めていく。それを基に、学生自身のレポートや教材製作を通して子どもや養育者への食育のあり方を考察し、食育の方法についての実践的な力と態度を深める。

【到達目標と学修成果】

- ①子どもの食生活の意義と栄養に関する基本的な知識が習得できる。
- ②子どもの発達段階や健康状態に応じた食生活のあり方を理解できる。
- ③食育の基本を理解し、子どもや養育者への食育の方法を理解し表現できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス 授業のねらい、内容、進め方や成績評価の方法について 子どもの健康と食生活の意義と課題	△シラバスを読む テキストの最初～p10の予習 ▽「子どもの健康と食生活の意義・課題の復習」の復習	90 90
第2回	栄養に関する基本的知識① ・栄養と食事摂取基準/栄養の基礎的知識と摂り方 i 三大栄養素	△テキスト12～p31の予習 ▽「食事摂取基準と栄養の基礎的知識・摂り方 i」の復習	90 90
第3回	栄養に関する基本的知識② ・栄養の基礎的知識と摂り方 ii ミネラル・ビタミン他/食べ物の消化と吸収	△テキスト32～p48の予習 ▽「栄養の基礎的知識と摂り方 ii /食べ物の消化と吸収」の復習	90 90
第4回	子どもの発育・発達と食生活① ・発育・発達の特徴と栄養状態による発育・発達の評価	△テキスト68～p77の予習 ▽「発育・発達の特徴と栄養状態による発育・発達の評価」の復習	90 90
第5回	子どもの発育・発達と食生活② ・胎児期(妊娠前、妊娠中)の母体の食生活	△テキスト78～p90の予習 ▽「胎児期(妊娠期)の食生活」の復習	90 90
第6回	子どもの発育・発達と食生活③ ・乳児期の乳汁(母乳、人工乳、混合栄養) 栄養の役割や授乳の実際	△テキスト91～p113の予習 ▽「乳児期の乳汁栄養の役割や授乳の実際」の復習	90 90
第7回	子どもの発育・発達と食生活④ ・乳児期における離乳の考え方や進め方	△テキスト114～p121の予習 ▽「乳児期における離乳の考え方や進め方」の復習	90 90
第8回	子どもの発育・発達と食生活⑤ ・幼児期の食生活と献立作成(「お弁当作りとレポート」目的、内容、方法/準備)	△テキストp122～129、p49～65の予習 ▽「幼児期の食生活と献立作成」の復習/「お弁当作りとレポート」作成	90 90
第9回	子どもの発育・発達と食生活⑥ ・幼児期の間食の意義と内容/幼児期の食生活の問題と対応	△テキストp129～p135の予習 ▽「幼児期の間食/幼児期の食生活の問題と対応」の復習	90 90
第10回	子どもの発育・発達と食生活⑦ ・学童期の発達及び生涯発達の視点と食生活	△テキストp136～p152の予習 ▽「学童期の発達及び生涯発達の視点と食生活」の復習	90 90
第11回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ・疾病、食物アレルギー、障害のある場合の食と栄養への対応	△テキストp190～218の予習 ▽「特別な配慮を要する子どもの食と栄養」の復習	90 90
第12回	家庭や児童福祉施設における食育の基本と内容 ・食育の意義と推進、家庭との関連	△テキストp166～188、p154～163の予習 ▽「家庭や児童福祉施設の食育と栄養」食育の基本と内容」の復習	90 90
第13回	食育をテーマとした教材製作の目的と方法/製作の計画と準備(ペーパーサート)	△食育の教材のねらいや事例に関する資料を読み予習 ▽「食育の教材(ペーパーサート)の製作	90 90
第14回	食育をテーマとした教材の発表と評価 ・ペーパーサートのプレゼンテーション(班毎の発表)と評価	△ペーパーサートの仕上げ、プレゼンテーションの準備 ▽「食育に関する教材と作品・発表」の復習	90 90
第15回	まとめ 学期末定期試験と振り返り	△授業内容の総復習 ▽授業内容や各自の取り組みの振り返り	90 90

備考:

【履修上の留意点】

授業内提出プリント20%、「お弁当づくりとレポート」、「ペーパーサート作成とプレゼンテーション」20%(実施、提出は両課題とも単位認定に必須)、学年末定期試験60%に基づき総合的に判断します(定期試験の点数は60%以上が単位認定の必要な要件です)。お弁当づくりの材料、用具等は自己負担になります。教材製作(プレゼンテーション用のペーパーサート)に必要な材料や用具は学生個人が用意します(100～200円くらい)。

【テキスト】

「最新 子どもの食と栄養—食生活の基礎を築くために—」飯塚美和子他編集 学健書院 2022年 第9版第3刷 2400円+税

【参考書・参考資料等】

「子どもの食と栄養演習[第5版]」小川雄二編著 建帛社 2020年 2700円+税
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

【連絡方法】

主としてGoogle Classroom(n-ito@g.ariake.ac.jp) 。UNIPAの掲示板も使用することがあります。

【オフィスアワー】

基本的に授業時間の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	60%	食生活の意義を踏まえた上で、栄養と、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法について、基本的な知識を習得し、十分に理解している。	食生活の意義を踏まえた上で、栄養と、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法について、基本的な知識を習得し理解している。	栄養と、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法について、基本的な知識を習得し理解している。	栄養と、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法について、基本的な知識の習得や理解が断片的でばらつきがあり、努力を要する。	栄養と、発達段階や健康状態に応じた食生活、食育の内容や方法について、基本的な知識の習得や理解がなされていない。
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	③	20%	授業プリントが提出され授業内容の理解が十分できている。主体的な態度のもと、発達段階に応じた食生活の課題の発表、および食育の基本に 応じた教材発表において、十分な成果を発揮している。	授業プリントが提出され授業内容の理解ができてきている。主体的な態度のもと、発達段階に応じた食生活の課題の発表、および食育の基本に 応じた教材発表において、成果を発揮している。	授業プリントが提出され授業内容の理解が断片的である。発達段階に応じた食生活の課題の発表、および食育の基本に 応じた教材発表に 取り組んだが、課題の理解や成果に努力を要する。	授業プリントの提出に不足があり、授業内容の理解が断片的である。発達段階に応じた食生活の課題の発表、および食育の基本に 応じた教材発表への取り組みが不十分で、課題の理解や成果がなされていない。	授業プリントの提出がなされず授業内容の理解ができていない。発達段階に応じた食生活の課題の発表、および食育の基本に 応じた教材発表への取り組みが不十分で、課題の理解や成果がなされていない。
授業外での取組	①	②	20%	授業外での取り組みに十分な成果が見られ、作成・製作そしてその発表の準備に十分な取り組みが見て取れた。	授業外での取り組みに積極性が見られ、作成・製作そしてその発表の準備の取り組みが見て取れた。	授業外で積極的に取り組む努力が見られ、作成・製作そしてその発表の準備の取り組みへの努力が見て取れた。	授業外での積極的な取り組みや、作成・製作そしてその発表の準備の取り組みに対して、努力不足が見られた。	授業外での取り組みや、作成・製作そしてその発表の準備について理解や取り組みの努力が見られない。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			第14回	第8, 13, 14回		

科目名/専門教育	YHS406-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの生活習慣		2年後期	選択必修	講義/単独	2単位	伊藤 野里子	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							

【授業のねらい】
乳幼児期に身に付けられることが望まれる生活習慣について、その意義や内容及び指導や援助のあり方などを学ぶことを通し、子ども理解を目指す。また、子どもの生活習慣をめぐる実態を把握し課題を考察することを通して、教育・保育に自主的に関わろうとする姿勢を引き出すことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義形式である(調理、製作実習を含む)。身近生活をめぐる生活習慣の基本と概要、及び習慣形成の土台となる子どもの発達について解説する。基本的な生活習慣について、子どもの発達に沿った、指導・援助のあり方について講義や実習を通して理解できるよう学習する。子どもの生活習慣の実態について調べ課題を検討する。

【到達目標と学修成果】
①子どもの生活習慣の、意義や内容及び習慣形成に関する子どもの発達について理解し、説明できる。
②基本的な生活習慣について、発達の段階に沿った指導・援助の内容や方法について理解、説明できる。
③子どもの生活習慣をめぐる課題を指摘して、その対応に向けた考えを述べることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス 授業のねらいや内容、方法、成績の評価について 1. 子どもの生活習慣の概要	△シラバスを読む ▽授業の進め方の確認と「子どもの生活習慣」の概要の復習	90 90
第2回	2. 子どもの生活習慣の意義と基本(目標、内容、方法)	△幼稚園教育要領から「生活習慣」に関連する箇所を挙げる ▽「子どもの生活習慣」の意義と基本について復習	90 90
第3回	3. 生活習慣の形成と子どもの発達課題	△乳幼児の発達における特徴についての資料を読み予習 ▽習慣形成に関連の深い発達課題について復習する	90 90
第4回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (1)基本的な生活習慣 ①食事の習慣 i 子どもの発達と食事行動の自立	△食事行動の自立についての資料を読み予習する ▽食事行動の自立と発達課題の関連について復習する	90 90
第5回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (1)基本的な生活習慣 ①食事の習慣 ii 食具の使用の進み方/食事の習慣の問題と対応	△自身の「食具」の使用状況、方法についての確認 ▽食具使用の進み方及び食事の習慣の課題について復習	90 90
第6回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (1)基本的な生活習慣 ①食事の習慣 iii 離乳食・間食実習	△実習する離乳食や間食のレシピを覚えてくること ▽授業での反省、改善点を踏まえて自宅で再実践	90 90
第7回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (1)基本的な生活習慣 ②睡眠の習慣 睡眠と生活リズム	△睡眠の習慣と生活リズムについての資料を読み予習 ▽睡眠の習慣形成の進み方や習得の課題について復習する	90 90
第8回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (1)基本的な生活習慣 ③排泄の習慣	△排泄の仕組みや自立に関する資料を読み予習 ▽排泄の習慣形成の進み方や習得の課題について復習する	90 90
第9回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (1)基本的な生活習慣 ④衣服の着脱の習慣	△子どもの衣服の形状や着方の実態について調べる予習 ▽着脱の習慣形成の進み方や習得の課題について復習	90 90
第10回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (1)基本的な生活習慣 ⑤清潔の習慣	△清潔の習慣と健康に関する資料を読み予習する ▽清潔の習慣形成の進み方や習得の課題について復習する	90 90
第11回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (2)安全の習慣 危険な事象に対する行動・意識の自立と環境整備	△子どもの事故の実態や安全対策の資料を読み予習する ▽安全の習慣形成の進み方や習得の課題について復習する	90 90
第12回	4. 基本的な生活習慣の内容と指導・援助 (3)社会生活に関する習慣 集団生活での行動/生活習慣と情報機器	△乳幼児の社会性の発達についての資料を読み予習する ▽社会生活の習慣形成の進み方や習得の課題について復習	90 90
第13回	5. 生活習慣形成の指導・援助における保育環境——家庭との連携 習慣形成を援ける生活環境の整備や用具の工夫についての製作実習	△「基本的な生活習慣」の習得を援ける教材について調べる ▽教材作品について製作の過程や結果を評価する	90 90
第14回	6. 現代の子どもの生活習慣をめぐる課題と考察	△「子どもの生活習慣」の実態や問題に関する資料を収集 ▽授業での考察を踏まえ実態や問題をまとめ文章化する	90 90
第15回	まとめ 学期末定期試験と振り返り	△定期試験の範囲の予習 ▽学習した内容について目標到達状況の自己評価	90 90

備考： 2700

【履修上の留意点】
授業内提出プリント20%、調理実習・教材の作品30%、学期末定期試験50%に基づき総合的に判断します(ただし定期試験の点数は60%以上取れていることを単位認定の必要な要件とします)。作品の完成・提出は単位認定に必須です。

【テキスト】
授業時にプリントを配布します。

【参考書・参考資料等】
『睡眠・食事・生活の基本(赤ちゃんで理解する乳児の発達と保育 第1巻)』三池輝久、中央法規 2016年/『保育学講座5 幼児の生活指導』山下俊郎、フレーベル館 1982年/イラスト版6歳までのしつけと自立: 家庭・園で教える基本的生活習慣』谷田貝公昭、合同出版 2015年

【連絡方法】 主としてGoogle Classroom(n-ito@g.ariake.ac.jp)。UNIPAの掲示板も使用することがあります。
【オフィスアワー】 基本的に授業時間の前後

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	50%					
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	50%					
授業外での取組								

備考：

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				第6, 13回		

科目名/専門教育	YHS406-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの文化		2年後期	選択必修	演習/ クラス分け	2単位	深澤 瑞穂・信太 朋子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

「こどもの文化」の領域を広くとらえて、様々な視点からこどもと文化の関係を考察する。そして、こどもの健やかな発達、生活を保障するために、どのような文化財や文化的環境が大切なのかを考える。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を想定し、保育者として様々な文化や伝統に親しむための知識、方法を習得する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

それぞれのこども時代を振り返りながらこどもと文化と社会の関係を考える。エプロンシアターや手作りシアターの製作や実践を交えながらこどもの文化を体感し、今後の課題を考察する。また、児童文化活動の実践として、製作したエプロンシアター・手作りシアターを皆の前で発表し、意見交換をする。

【到達目標と学修成果】

- ①【知識・理解】保育者として子どもに必要な児童文化を理解し、知識を得て支援することができる。
 ②【思考・表現】子どもの発達段階に応じた文化活動を思考し、保育の本質を基盤とした児童文化の必要性について実践を通して表現し、子どもの健やかな成長のために発信することができる。
 ③【技術】子どもの興味や関心に基づいた作品を作成し、地域や保育者と連携し児童文化活動を深めることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	授業のガイダンス、こどもの文化からイメージすることを書きだす。(深澤・信太)	△シラバスを確認しておく ▽子どもの文化についての資料を再度読む	90 90
第2回	手作りシアター・エプロンシアターから学びたい内容を選択する。(深澤・信太)	△第2回の授業で学びたい内容を考える ▽手作りシアター・エプロンシアターの特徴を調べる	90 90
第3回	・決めた題材の脚本作りを行う。(深澤) ・手作りシアターについて知る。(信太)	・脚本のもととなる絵本や童話を調べておく ▽脚本の原稿を仕上げしておく	90 90
第4回	・作成した脚本の読み聞かせの実践。(深澤) ・スケッチブックシアターの題材を決める。(信太)	△脚本に沿って練習をしておく ▽演じ方について振り返りをする	90 90
第5回	・エプロンシアターの下絵作成。(深澤) ・スケッチブックシアターの題材を決める。(信太)	△台紙に下絵の構想を考えておく ▽下絵を完成させる	90 90
第6回	・エプロンシアターのフェルトに下絵を写す。(深澤) ・スケッチブックシアターの場面割りや進め方を考える。(信太)	△授業の予習(技法を考える・下絵を写す) ▽各授業内容の復習	90 90
第7回	・エプロンシアターフェルトの人物や背景を裁断する。(深澤) ・スケッチブックシアターの下絵を作成する。(信太)	△各授業内容の予習(第6回の仕上げ) ▽各授業内容の復習	90 90
第8回	・エプロンシアターの背景を作成する。(深澤) ・スケッチブックシアターの仕掛けや技法について考える。(信太)	△各授業内容の予習(第7回の仕上げ) ▽各授業内容や配布物の復習	90 90
第9回	・エプロンシアターの人形を刺繍糸で縫う。(深澤) ・スケッチブックシアターの脚本作り、演じ方を考える。(信太)	△各授業内容の予習(第8回の仕上げ) ▽各授業内容の復習	90 90
第10回	・エプロンシアターの人形や小物類を刺繍糸で縫う。(深澤) ・スケッチブックシアターを仕上げる。(信太)	△エプロン小物作成・用具や材料の準備 ▽各授業の復習(第10回のまとめ)	90 90
第11回	・エプロンシアターの人形や小物類を刺繍糸で縫う。(深澤) ・手作りシアターの制作をする。(信太)	△各授業の予習 ▽各授業の復習(第11回のまとめ)	90 90
第12回	・エプロンシアターの人形を完成させる。(深澤) ・手作りシアターの演じ方を考える(信太)	△各授業の予習 ▽各授業の復習(第12回のまとめ)	90 90
第13回	・手作りシアターの演じ方、エプロンシアターの演じ方を学びあう(深澤・信太)	△各授業発表の演じ方の予習 ▽各授業の演じ方の復習	90 90
第14回	・こどもの文化活動を模擬実演する。 ・エプロンシアター・手作りシアター発表(深澤・信太)	△発表の予習 ▽授業の反省・課題の改善	90 90
第15回	こどもの文化のまとめ(深澤・信太)	△発表後の仕上げ ▽親子サロンでの発表	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(幼稚園教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】
・各回のテーマに基づく「リフレクションペーパー」(20%)及び、作品発表(60%)その他授業中の進捗状況等によって、総合的に評価する。 ・教材費としておおよそエプロンシアターは3,500円、手作りシアターはスケッチブックその他で1,000円集金する。
【テキスト】
適宜、授業に必要な資料を配布する。
【参考書・参考資料等】
特になし
【連絡方法】
初回授業で通知する
【オフィスアワー】
授業終了後教室で行う

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	② ③	60%	・発表を通して実践力が十分に身につけていることが認められる。	・発表を通して実践力が身につけていることが認められる。	・発表を通して基本的な知識の習得のもと表現していることが認められる。	・基本的な知識の習得と理解が断片的であるため、発表(表現)において今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていないため、十分な発表ができない。
期末 レポート	① ②	20%	・課題の意図を的確に理解し、子どもの興味関心に基づいた内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容をわかっていない。 ・誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	10%	丁寧な作品を仕上げ、ストーリーを理解し、意欲的に語り方の工夫をすることができる。	丁寧な作品を仕上げ、ストーリーを理解し、語り方の工夫をすることができる。	作品を最後まで仕上げ、ストーリーに沿って語る事ができる。	作品の仕上げが雑で、ストーリーの理解が不十分で語り方がスムーズではない。	作品を最後まで仕上げることができず、作品発表の期日も守られていない。
授業外での 取組	③	10%	自分の選んだ作品の下準備に意欲的に行い、製作について積極的に取り組むことができる。	自分の選んだ作品の下準備や作成について努力し取り組むことができる。	自分の選んだ作品の下準備や作成について期日までに取組むことができる。	自分の選んだ作品の下準備や作成について時間がかかると、取組むことができない。	作品の製作が雑であり、仕上げの期日までに間に合わない。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第1回・第13回		第14回			

科目名/専門教育	YHS406-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
発達と障害		2年後期	選択必修	講義/単独	2単位	池口 洋一郎	○	
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							◎
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							△

【授業のねらい】
乳児期から青年期までの子どもの発達と認知的特徴について学ぶ。
発達障害児が示す様々な行動と心理的關係から、個別の支援のあり方について考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
講義形式であるが、授業の後半では、各回のテーマにそってディスカッションを行う。
障害児のコミュニケーション支援に重点をおき、具体的な援助方法を発達の観点から考察する。

【到達目標と学修成果】
この授業をとらえて、障がいをもつ子どもの日常的な行動から、その心理的意味をとらえ、具体的な支援のありかたを探りつつ、実践できるようにすることを旨とする。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 授業の概要と進め方、評価方法についての説明、成長と発達	△シラバスを読み、授業の概要を確認する ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90 90
第2回	発達の理論 生涯発達理論、乳児期、幼児期、児童期、青年期までの発達過程	△「成長」と「発達」の用語の捉え方の違いを配布資料をみながら確認する ▽「生涯発達」乳児期、幼児期の発達の特徴をノートにまとめる	90 90
第3回	障害の概念と診断基準 障害のとらえ方、障害の診断基準(DSM, ICD等)	△障害の診断基準について、関連図書やインターネットで調べる ▽障害の捉え方に関する歴史的背景についてノートにまとめる	90 90
第4回	学習障害(ALD)児への理解 学習障害児の認知・行動的特性と心理、事例に基づく支援のあり方	△「学習障害」、「二次的障害」という語について、関連図書等で調べる ▽テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第5回	自閉症(ASD)児の理解1 自閉症スペクトラムの分類、自閉症児の認知・行動的特性と心理	△「自閉症スペクトラム」という語について、関連図書等で調べる ▽テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第6回	自閉症(ASD)児の理解2 さまざまな事例(アスペルガー症候群ほか)に基づく支援のあり方	△「アスペルガー症候群」、「ソーシャルスキル」という語について、関連図書等で調べる ▽テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第7回	注意欠陥/多動性障害(ADHD)児への理解 注意欠陥/多動性障害児の認知・行動的特性と心理、事例に基づく支援のあり方	△「注意欠陥多動性障害」、「認知(機能)」という語について、関連図書等で調べる ▽テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第8回	発達障害全般 (発達性強調運動障害、2Eなど)	△その他の発達障害について、関連図書等で調べる ▽テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第9回	知的障がい児への理解 知的障がい児の認知・行動的特性と心理、事例(ダウン症児)に基づく支援のあり方	△「知的障害」「非言語コミュニケーション」という語について、関連図書等で調べる ▽配布資料をみながら、要点をノートにまとめる	90 90
第10回	言語障害児への理解 言語障害児の認知・行動的特性と心理、事例(緘黙、吃音ほか)に基づく支援のあり方	△「言語」、「コミュニケーション」という語について、関連図書等で調べる ▽テキスト、配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第11回	障害児保育と特別支援教育 障がい児の保育および特別支援教育のシステム	△「障害児保育」と特別支援教育の対象について、関連図書やインターネットで調べる ▽配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第12回	特別支援教育の背景、条約、法律の整備、合理的配慮	△条例や法律について、関連図書やインターネットで調べる ▽配布資料を見ながら、要点をノートにまとめる	90 90
第13回	子どもの発達に関するアセスメント1 アセスメントの意義と代表的な知能検査、発達検査	△「アセスメント」という語について、関連図書やインターネット等で調べる ▽授業でとりあげた知能検査や発達検査の概要について、ノートにまとめる	90 90
第14回	子どもの発達に関するアセスメント2 さまざまな発達検査とアセスメントの実際(事例検討)	△アセスメントの利用について、関連図書やインターネットで調べる ▽授業でとりあげた知能検査や発達検査について、ノートにまとめる	90 90
第15回	まとめ 子どもの発達過程とさまざまな障害に関する理解の確認	△これまでの授業内容について、テキストと配布資料をみながらノートにまとめる ▽この授業で学んだ要点を振り返る	90 90

備考： 2700

【履修上の留意点】 授業後に行う「リフレクションペーパー」(40%)および期末試験(40%)、授業外での活動(20%)によって総合的に評価する。
【テキスト】 授業内で適宜紹介する。
【参考書・参考資料等】 随時、授業の中で提示する。
【連絡方法】 授業開始時に提示する。
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合(%)						
試験 (発表含む)	すべて	40%		・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	すべて	40%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	すべて	20%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第4,6,7,14回					

科目名／専門教育	YHS501	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教職・保育者論		2年前期	必修	講義/単独	2単位	石井 友行		○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【**授業のねらい**】

本講義では、現在の社会における教員・保育士という職業の特徴や社会的役割について理解を深める。我が国の教員免許制度(資格認定制度)、教員・保育士養成制度、その服務内容などの基本事項を理解する。教員・保育士を志す学生に対して、進路選択に資する情報を提供し、職業に対する具体的なイメージを持つことができる。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

講義形式である。教職は社会的公務である。その職務の性質と役割をどのように自覚し実行するか、教職者に求められる資質、倫理観とともに、教職・保育職に関する法的システムの趣旨を理解する。教員・保育士のモラルが問われる昨今の事件等の実例を参考にして理解を深める。

【**到達目標と学修成果**】

- ①教職に対する具体的なイメージを持つことができ、自分なりに適性を判断できる。
- ②教員・保育士という職業の特徴や社会的役割について理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	講義の進め方の説明。授業概要と進め方、評価方法を説明する。なぜ、教員・保育士を目指したのか、志した意味を改めて考える。	△教職について考えをまとめてくる。 ▽教職の意義などについて復習する。	90 90
第2回	教師・保育士の地位と育成システムについて教員の構成と社会的な地位について考える。また、日本の教員養成制度について考える。	△資料(教師の地位と育成システム)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第3回	幼稚園教諭・保育士とは、教師・保育士の仕事を知り、それらを取り巻く諸問題(認定こども園等について)を考える。	△資料(幼稚園教諭・保育士)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第4回	小学校教諭とは、教科指導を含めた仕事内容の概略を知り、教師をめぐる問題や課題を考える。	△資料(小学校教諭)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第5回	世界の中の教師・保育士 日本の教師・保育士と海外の教師・保育士を比較し教師・保育士をめぐる問題や課題を考える。	△資料(世界の中の教師)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第6回	教師・保育士の仕事(1) 学習指導と保幼小連携について考える。	△資料(保幼小連携)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第7回	教師・保育士の仕事(2) 近年の教育問題について知り、「指導」について考える。	△資料(近年の教育問題)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第8回	チーム学校運営を推進するための施策について ①教職員等がチームとして連携及び協働②学校の教職員等と学校の関係者等との連携及び協働③その他の学校が直面する諸課題に対応するために必要な施策	△資料(チーム学校運営)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第9回	放課後の子ども達の生活を支える保育活動との連携 学童保育・子どもの達の貧困問題などについて考える。	△資料(放課後の子どもの生活)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第10回	教師の権利と義務 教師の義務とはなにか、職務上の権利とは、法的および実践的変化についても考える。	△資料(教師の権利と義務)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第11回	教師の日常生活と課題 教師の生活を初任期・中堅期・ベテラン期にわけ、それぞれの課題や実践について考える。	△資料(教師の日常生活)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第12回	教師のワークライフバランス ジェンダーの視点から教師についてからのライフデザイン描いてみる	△資料(ワークライフバランス)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第13回	子ども理解と教師のメンタルヘルス 教師が学級を担任するにあたり、子ども理解の視点とアプローチ方法について考える。	△資料(子ども理解)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第14回	新しい時代における教師の役割と責務 教師としての成長・発達そして、自分の適性を考えた教職の道について考える。	△資料(教師の役割と責務)を予習する。 ▽今日の学修を振り返り復習ノートにまとめる。	90 90
第15回	まとめ	△今までの資料を振り返り予習する。 ▽今日の学修を振り返り学修したことをまとめる。	90 90

備考：

2700

【 履修上の留意点 】	
授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末試験(50%)、課題(20%)によって総合的に評価する。	
【 テキスト 】	
山崎準二・矢野博之編著『新・教職入門』学文社、2020(2100円+税)	
【 参考書・参考資料等 】	
『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017年)・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年)、文部科学省『小学校学習指導要領』(最新版)、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年)	
【 連絡方法 】	授業時に伝える
【 オフィスアワー 】	授業の前後、昼休み

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	50%	知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がなされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がなされていない。
期末レポート	① ②	20%	課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りが少ない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容をわかっていない。 ・誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日も守られていない。	
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第12回				第6回	第2回～14回

科目名/専門教育	H514	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実践演習		3年前期	保育士必修	演習/複数	2単位	菊地 大介	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

保育士を目指して、これまで学習してきた知識・技能等について振り返り、確認することを主たるねらいとする。また、保育所や児童福祉関係における保育士としての役割や業務さらにはその専門性について主体的に学び議論していく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

グループ討論、ロールプレイング等の授業方法を活用し、保育士の意義や責任・役割など倫理的な観点から議論し、保育実習などにおける体験と結びつけながら進めていく。また、実地調査なども取り入れ保育に関わる今日の社会的状況の課題について議論し、背景や要因またその解決の方法などについても検討していく。

【到達目標と学修成果】

- ①保育者としての専門性について深く学び、自身の課題を可視化していく。
- ②子ども理解について様々な観点から議論し、多様な保育観について理解する。
- ③ディベートを通して、客観的に物事を捉えプレゼンテーション能力を身につける。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス	△シラバスに目を通しておく ▽ガイダンスの資料の確認と次回以降の準備	90 90
第2回	保育者に求められる見えにくい専門性と、人間性について	△保育者の専門性についてまとめておく ▽課題レポートの作成	90 90
第3回	子ども理解と保育の専門性	△自分シートの記入 ▽他者の考えをレポートにまとめておく	90 90
第4回	事例から見る子ども理解	△子ども理解の事例を考えておく ▽ブレイバーク見学の下調べ	90 90
第5回	ブレイバークの見学および実態調査	△ブレイバーク見学の準備 ▽ブレイバーク報告書の作成	90 90
第6回	ブレイバークの報告書作成とプレゼンテーション	△プレゼンテーションシートの作成 ▽子どもの発達過程を復習しておく	90 90
第7回	遊びと発達について	△危険な遊びあり？なし？の意見を考えておく ▽ディベートシートの作成	90 90
第8回	多様な保育から考える専門性(特色を生かした保育から)	△アフォーダンスについて調べておく ▽ディベートシートの作成	90 90
第9回	多様な保育から考える専門性(最近接領域について)	△子どもの最近接領域について調べておく ▽課題レポートの作成	90 90
第10回	子育て支援と保育について	△地域の子育て支援について調べておく ▽課題レポートの作成	90 90
第11回	子どもの育ちと地域との関係について考える	△地域における子育て支援について調べておく ▽課題レポートの作成	90 90
第12回	地域の子育て支援センターレポート	△近くの子育て支援センターに行ってみる ▽課題レポートの作成	90 90
第13回	多文化共生のありかたを考える	△多文化共生に関する記事を読んでおく ▽ディベートシートの作成	90 90
第14回	生活基盤型の保育について考える	△家庭的保育について調べておく ▽ディベートシートの作成	90 90
第15回	まとめ	△課題レポートの作成・提出 ▽各々授業の振り返りをする	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(保育士)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【履修上の留意点】

・各自での校外学習(調査)の授業も予定しています。日程・内容などについては授業内で告知します。

【テキスト】

・配付プリント・DVDなどを使用します。

【参考書・参考資料等】

イラストたっぷりやさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック 2017年 告示版 Gakken

【連絡方法】

授業時に連絡する。

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	30%	知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考：

#

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回		第7・8・13・14回		第5回		

科目名／専門教育	YS515	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教職実践演習(幼・小)		3年後期	幼児小免必修	演習/複数	2単位	信太 朋子・石井 友行	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

これまでに学習してきた教員としての知識・技能・実践的能力がどのように身につけてきたのかについての最終確認をねらいとする。教員を目指す上で、自分にとって何が課題であるのかを探り出し、習得している能力をさらに伸ばしていくことはもちろん、不足している知識・技能を再学習して身につけることを目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義、グループ討議、事例研究発表、模擬授業、現地調査等を取り入れて授業を展開する。なお、履修履歴の把握は学期末に実施し、シラバス作成の際に学校現場の意見聴取も行っている。受講者数を考慮してクラスの人数を少人数に分けて実施する。

【到達目標と学修成果】

- ①危機管理や保護者対応などの重要性を知り、現場に出る際の心構えをもつことができる。
- ②これまでの学びをふりかえり、不足している知識・技能を身につけることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	教師への歩み —教師に求められている多様な資質・能力—	△履修ガイドを予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第2回	「教師力を磨こう」求められる教師像に近づぐために	△資料(教師の指導力)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第3回	教育課程とカリキュラム・学校経営方針を受けて協働	△資料(教育課程とカリキュラム)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第4回	教職における職務内容・子どもに対する責任(危機管理の内容を含む) ゲスト講師:江東区教育委員会 指導主事	△資料(危機管理)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第5回	問題行動の理解と対応 —いじめ問題・不登校配慮を要する子などの理解と援助—	△資料(いじめ、不登校対策)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第6回	保育内容と保育方法の研究	△資料(保育内容と保育方法)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第7回	保幼小の接続	△資料(保幼小接続)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第8回	命の授業 妊娠から(生命尊重と人権)	△資料(妊娠と命)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第9回	教育の最新事情・社会の動きや職業選択について	△資料(教育の最新事情)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第10回	教師と保護者および地域との協働・連携	△資料(協働・連携)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第11回	社会性・対人関係能力の基礎	△資料(対人能力)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第12回	音楽遊び 音楽の楽しさを伝える活動の実践	△資料(音楽遊び)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第13回	ICTを活用した授業づくり	△資料(ICTの活用)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第14回	ICTを活用した模擬授業の実践	△資料(模擬授業)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第15回	まとめ(幼児指導要録・小学校指導要録の取扱いを含む)	△これまでの授業について振り返りをする。 ▽今までの学修を復習しノートにまとめる。	90 90

備考: この科目では、担当者の実務経験(幼稚園教諭・小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末試験(30%)、課題(40%)によって総合的に評価する。

【テキスト】

「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017年)・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017年)、文部科学省「小学校学習指導要領」(最新版)

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜伝えます。

【連絡方法】

【オフィスアワー】

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がなされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がなされていない。
期末レポート	①	②	20%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・河相の意図やこれまでの授業内容をわかっていない。 ・誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁・期日を守っていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	1回2回3回 10回11回13回		14回	12回		

科目名／専門教育	YHS502	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育原理とカリキュラム論	1年後期	必修	講義/単独	2単位	山本 剛			

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

現代教育の基盤を形成する諸原理・諸理念は、いかなる歴史的・思想的な変遷を経て現在に至っているのか、この授業では、教育の理念とその歴史から導かれる「教育学」的なものの見方・考え方を養い、そのような知見をもとに、教育が直面する諸課題を克服しようとする基本的な姿勢を育むことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

現代教育の理念につながる歴史(教育の思想史)に関する講義を行う。これまで受講生が体験的に理解してきたと思われる現代日本の学校教育を構成する諸領域(教育課程の意義・編成の方法を含む)の基礎的な事項について、教育学的な知見から改めて考察を加え、受講生自身の教育観の確立に資することを目的とする。

【到達目標と学修成果】

- ①教育の理念について、これまでの歴史的・思想的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
- ②学校教育の意義について、カリキュラム・マネジメントの視点も踏まえて理解し、説明することができる。
- ③教育学の知見を踏まえて、自身の教育体験を科学的に理解し、自分の言葉で説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「教育」について自分の意見をまとめておく 90 ▽「私の教育体験」についてノートにまとめる 90
第2回	I. 教育の意義① 人間の可能性と教育の必要性	△テキストp.1-4の予習 90 ▽「生理的早産」についてノートにまとめる 90
第3回	I. 教育の意義② 形式陶冶と実質陶冶	△テキストp.5-12の予習 90 ▽「陶冶」についてノートにまとめる 90
第4回	II. 発達と教育・家庭の福祉① 発達段階と発達課題	△テキストp.13-20の予習 90 ▽J.Piaget についてノートにまとめる 90
第5回	II. 発達と教育・家庭の福祉② 乳幼児期から青年期までの特性	△テキストp.20-28の予習 90 ▽Identity についてノートにまとめる 90
第6回	III. 教育の目的① 教育思想の歴史的変遷	△テキストp.29-34の予習 90 ▽J.Dewey についてノートにまとめる 90
第7回	III. 教育の目的② 子ども観と教育観の歴史的変遷	△テキストp.34-40の予習 90 ▽「教育基本法」についてノートにまとめる 90
第8回	IV. 教育の課程① 教育課程の基礎理論	△テキストp.41-45の予習 90 ▽Core Curriculum についてノートにまとめる 90
第9回	IV. 教育の課程② 社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメント	△テキストp.46-52の予習 90 ▽「学習指導要領」についてノートにまとめる 90
第10回	V. 教育の方法① 教育実践の基礎理論	△テキストp.53-57の予習 90 ▽Active Learning についてノートにまとめる 90
第11回	V. 教育の方法② 教育実践の取り組みと計画・評価	△テキストp.57-63の予習 90 ▽「教育評価」についてノートにまとめる 90
第12回	VI. 教育の歴史と思想的背景① 近代教育の制度的変遷	△テキストp.161-168の予習 90 ▽「教育勅語」についてノートにまとめる 90
第13回	VI. 教育の歴史と思想的背景② 現代教育の制度的変遷	△テキストp.168-171の予習 90 ▽「戦後教育改革」についてノートにまとめる 90
第14回	VI. 教育の歴史と思想的背景③ 生涯学習社会と現代教育の課題	△テキストp.172-183の予習 90 ▽「知識基盤社会」についてノートにまとめる 90
第15回	授業の総括とリフレクション	△テキストp.1-63,161-183の復習 90 ▽学期末試験に関する振り返り 90

備考：

2700

【履修上の留意点】

・教職課程の法定科目として最も基本的な内容を取り扱うため、基礎知識の確実な定着を第一義とする。

【テキスト】

・湯川次義編『新編 よくわかる教育の基礎(第2版)』学文社、2016年
※「教育の組織と運営(2年後期配当科目)」において購入済みの者は、購入不要。

【参考書・参考資料等】

・池田幸代・田中謙編『マネジメントする教育・保育課程』教育情報出版、2018年
・『小学校学習指導要領』(最新版) ・『幼稚園教育要領』2017年
・『保育所保育指針』2017年 ・『幼児保育類型認定こども園教育・保育要領』2017年

【連絡方法】

授業内で指示をする

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	40%	知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③		60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)								
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名/専門教育	YHS503	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育の心理	1年前期	必修	講義/単独	2単位	齋藤 朗子			

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。		
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○ △
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎ ○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○ △

【授業のねらい】
 教師や保育者を目指す学生の専門科目である(区分:子ども教育の基礎理論)。
 本講義では、教師や保育者に必要な教育心理学の基礎的な知識を提供する。
 教育心理学の代表的な理論と歴史を学ぶことを通して、教育の基礎となる人間理解を深められるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 講義形式で進めるが、必要に応じて演習やディスカッションを通して、理解を深められるようにする。

【到達目標と学修成果】
 ①教育心理学の代表的な理論と歴史、その教育的意義を理解し、説明することができる。
 ②子どもの発達、学習、動機づけのしくみを理解し、子どもの成長発達を支える教育について考察できる。
 ③教育評価の意義と方法、その統計的基礎を理解し、今日の特別支援教育との関係を理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス 授業の進め方の説明	△シラバスを熟読する ▽シラバスとガイダンス資料を熟読する	90 90
第2回	教育心理学概論 教育心理学の研究領域と研究法、歴史と意義	△教育心理学について調べる ▽教育心理学について講義内容を振り返る	90 90
第3回	発達1 遺伝と環境 ー成熟説と学習説	△成熟説と学習説について調べる ▽遺伝と環境について講義内容を振り返る	90 90
第4回	発達2 子どもの心身の発達	△発達段階について調べる ▽子どもの心身の発達について講義内容を振り返る	90 90
第5回	発達3 子どもの認知機能の発達 ーピアジェの発達理論、心の理論	△ピアジェについて調べる ▽認知機能の発達について講義内容を振り返る	90 90
第6回	発達4 発達と教育の関係 ーヴィゴツキーの発達の最近接領域	△ヴィゴツキーについて調べる ▽発達の最近接領域について講義内容を振り返る	90 90
第7回	学習理論 学習のメカニズム ー条件づけ、プログラム学習	△バプロフについて調べる ▽学習理論について講義内容を振り返る	90 90
第8回	動機づけ 子どものやる気・意欲を育てる ー内発的動機づけ、学習性無力感	△学習性無力感について調べる ▽動機づけについて講義内容を振り返る	90 90
第9回	知能・パーソナリティ 知能・パーソナリティの発達 ーその人らしさ、個人差	△パーソナリティについて調べる ▽心理検査について講義内容を振り返る	90 90
第10回	教育・学習の評価 評価の意義と方法 ー子どもを理解する方法としての知能検査	△知能検査について調べる ▽評価の意義について講義内容を振り返る	90 90
第11回	特別支援教育1 特別支援教育の歴史と現在の取り組み	△特別支援教育について調べる ▽現在の特別支援教育について講義内容を振り返る	90 90
第12回	特別支援教育2 発達障害の理解と対応	△発達障害について調べる ▽発達障害について講義内容を振り返る	90 90
第13回	特別支援教育3 子どもを理解してかわるために ー発達障害当事者研究	△当事者研究について調べる ▽発達を支える教育について講義内容を振り返る	90 90
第14回	心の健康教育 ストレス・マネジメントとカウンセリング・マインド	△ストレスについて調べる ▽ストレス・マネジメントについて講義内容を振り返る	90 90
第15回	まとめ	△授業内容の総復習 ▽授業・試験内容について振り返る	90 90

備考: 2700

【履修上の留意点】
 6回以上欠席の場合、単位修得不可。

【テキスト】
 特になし。授業内で必要に応じて参考資料を配布する。

【参考書・参考資料等】
 鎌原雅彦・竹綱誠一郎著(2019)やさしい教育心理学 第5版ー有斐閣アルマ。(2,090円),

【連絡方法】 必要時は掲示する

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	50%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)								
授業外での取組	①	②	50%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしてきたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みむことができた。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名/専門教育	YHS504	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育の組織と運営	2年後期	必修	講義/単独	2単位	山本 剛			

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

現代教育の基盤を形成する諸組織・諸制度は、いかなる社会的・経営的な合意を経て成り立っているのか、この授業では、公教育の基本的な構造と今日的な課題について、法的・制度的および社会的背景を踏まえて考察し、教育の現場が直面する諸課題を克服しようとする教育者にふさわしい姿勢を育むことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

現代公教育の組織と運営に関する基礎的な事項について講義する。これまで受講生が体験的に理解してきたと思われる日本の学校教育が、いかなる法的・制度的・社会的環境のもとでなされてきたのか。またその課題は何か、改めて省察し、受講生自身の問題意識に問いかけることを目的とする。

【到達目標と学修成果】

- ①公教育の組織と運営を支える法と制度について、社会的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
- ②学校と地域との連携・協働の在り方について、学校安全の視点も踏まえて理解し、説明することができる。
- ③教育学の知見を踏まえて、現代教育の意義と課題を科学的に理解し、自分の言葉で説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「公教育」について自分の意見をまとめておく ▽「私の実習体験」についてノートにまとめる	90 90
第2回	I. 現代社会と教育① 子どもを取り巻く環境	△テキストp.172-177の予習 ▽Informal Edu.についてノートにまとめる	90 90
第3回	II. 教育制度① 公教育の基本原則	△テキストp.122-126の予習 ▽「公教育の3原則」についてノートにまとめる	90 90
第4回	II. 教育制度② 諸外国の教育制度	△テキストp.126-137の予習 ▽「学校体系」についてノートにまとめる	90 90
第5回	III. 教育法規① 教育法規の基本構造	△テキストp.138-144の予習 ▽「法律主義」についてノートにまとめる	90 90
第6回	III. 教育法規② 教育法規の今日的課題	△テキストp.144-149の予習 ▽Compliance についてノートにまとめる	90 90
第7回	IV. 教育行政① 教育行政の基本構造	△テキストp.150-153の予習 ▽「教育行政の3原則」についてノートにまとめる	90 90
第8回	IV. 教育行政② 教育行政の今日的課題	△テキストp.153-160の予習 ▽「教育委員会」についてノートにまとめる	90 90
第9回	V. 教育経営① 教育経営の基本的視点	△テキストp.100-102の予習 ▽「PDCAサイクル」についてノートにまとめる	90 90
第10回	V. 教育経営② 教育のマネジメントとガバナンス	△テキストp.102-108の予習 ▽「学校経営」についてノートにまとめる	90 90
第11回	VI. 現代教育の課題① いじめと不登校	△テキストp.177-181の予習 ▽「いじめの定義」についてノートにまとめる	90 90
第12回	VI. 現代教育の課題② 学校と地域の連携	△テキストp.109-110の予習 ▽「地域連携」についてノートにまとめる	90 90
第13回	VI. 現代教育の課題③ 学校安全への対応	△テキストp.109-110の復習 ▽「学校安全」についてノートにまとめる	90 90
第14回	VII. 現代社会と教育② 人権・共生・平和の教育	△テキストp.181-183の予習 ▽「生涯学習社会」についてノートにまとめる	90 90
第15回	授業の総括とリフレクション	△テキストp.100-110,122-160,172-183の復習 ▽学期末試験に関する振り返り	90 90

備考:

2700

【履修上の留意点】

・教職課程の法定科目として最も基本的な内容を取り扱うため、基礎知識の確実な定着を第一義とする。

【テキスト】

・湯川次義編『新編 よくわかる教育の基礎(第2版)』学文社、2016年
※「教育原理とカリキュラム論」(1年後期配当科目)において購入済みの者は、購入不要。

【参考書・参考資料等】

・木村草太編『子どもの人権をまもるために』晶文社、2018年
・『小学校学習指導要領』(最新版) ・『幼稚園教育要領』2017年
・『保育所保育指針』2017年 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年

【連絡方法】 授業内で指示をする

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	40%	知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③		60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)								
授業外での取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名/専門教育	YHS05	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
特別支援教育概説		3年前期	必修	講義/単独	2単位	矢島 卓郎		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。 3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

特別支援教育の対象となる子どもの発達支援について、教育学・心理学的視点から学び理解することを目的とする。乳幼児期、学童期における発達支援の現状と特別支援教育において実践されている指導法やその成果を知ることによって、特別支援教育の専門性について理解を深めることを目指す。また、他の教員や関係機関との連携のあり方の必要性についても理解を深める。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

各回の授業内容(テーマ)にそった問題提起とディスカッション、具体的な指導法、援助方法に関するロールプレイ等を含む。

【到達目標と学修成果】

- ①インクルーシブ教育の理念および特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。
- ②特別支援教育の対象となる幼児児童生徒のコミュニケーションの様相と心理について理解する。
- ③特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の日常生活での行動の意味を知り、具体的な援助につなげる方法について考えることができる
- ④特別支援教育の対象となる子どもの現状を理解し、適切な支援のあり方について考えることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【A事前 ▼事後 / 分】	
第1回	ガイダンス 特別支援教育について、授業概要と進め方	△シラバスを読み、授業の概要を確認する ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90 90
第2回	特別支援教育の概要1 学校教育の制度と特別支援教育、歴史の変遷 インクルーシブ教育	△教科書の第1章のp.10-p.19を読んで予習しておく ▽生涯の概念(ICF)について具体例を考えてノートにまとめる	90 90
第3回	特別支援教育の概要2 特別支援教育の対象 教育課程 個別の教育支援計画	△教科書の第2章のp.20-p.29を読んで予習しておく ▽特別支援教育における教育課程の概要をノートにまとめる	90 90
第4回	特別支援教育の概要3 特別支援学級 通級による指導 特別支援教育コーディネーターの役割	△教科書の第2章のp.20-p.29と第14章のp.119-p.124を読んで予習しておく ▽特別支援教育におけるコーディネーターの役割をノートにまとめる	90 90
第5回	特別支援教育の対象となる子どものアセスメントの実際1 行動観察におけるアセスメント	△教科書の第3章のp.30-p.38を読んで予習しておく ▽就学相談の流れについてノートにまとめる	90 90
第6回	特別支援教育の対象となる子どものアセスメントの実際2 社会適応性、コミュニケーションに関するアセスメント	△教科書の第3章のp.30-p.38を改めて読んで予習しておく ▽就学相談におけるアセスメントのツールについてノートにまとめる	90 90
第7回	特別支援教育における支援の実際1 事例検討におけるカンファレンス、学校と地域との連携 学校と特別支援コーディネーターとの連携 個別の教育支援計画	△「個別の教育支援計画」について、関連図書やインターネットで調べる ▽授業で取り上げた学校と地域の連携の事例について特徴を整理してノートにまとめる	90 90
第8回	特別支援教育における支援の実際2 聴覚障害、学習障害児への支援 トータルコミュニケーション 読字、書字、計算に関する個別指導	△教科書の第5章のp.46-p.57、第11章のp.100-p.105を読んで予習しておく ▽聴覚障害児、学習障害児への個別指導事例を配布資料を参考にしてノートにまとめる	90 90
第9回	特別支援教育における支援の実際3 自閉症スペクトラム障害児、知的障害児への支援(1)補助・代替コミュニケーション(AAC)、TEACCHプログラム	△教科書の第10章のp.91-p.99、第16章のp.127-p.131を読んで予習しておく ▽自閉症スペクトラム障害児と知的障害児の違いを整理してノートにまとめる	90 90
第10回	特別支援教育における支援の実際4 自閉症スペクトラム障害児、知的障害児への支援(2)応用行動分析(ABA)	△教科書の第10章のp.91-p.99を改めて読んで予習しておく ▽「応用行動分析」「TEACCH」の概要についてノートにまとめる	90 90
第11回	特別支援教育と教育課程 「通級による指導」「自立活動」について	△「通級による指導」、「自立活動」について、関連書籍やインターネットで調べる ▽各障害児の「通級による指導」、「自立活動」の概要を整理してノートにまとめる	90 90
第12回	個別の教育支援計画の作成1 小学校(通常学級、特別支援学級)における支援の実践事例	△学童期における個別支援の例について、配布資料を一読する ▽フィクション事例に基づく個別支援計画を配布資料を参照しながら作成する	90 90
第13回	個別の教育支援計画の作成2 幼稚園(保育所)における就学までの支援の実践事例	△幼児期における個別支援の例について、配布資料を一読する ▽フィクション事例に基づく個別支援計画を配布資料を参照しながら作成する	90 90
第14回	個別の教育支援計画の作成3 小学校(通常学級、特別支援学級)における支援の実践事例	△就学前と就学後における個別支援の例について、配布資料を一読する ▽フィクション事例に基づく個別支援計画を配布資料を参照しながら作成する	90 90
第15回	さまざまなニーズをもつ児童生徒の現状と支援 コミュニケーション(ことば)の問題、貧困の問題から生じる教育的ニーズ	△教科書の第13章のp.112-p.118を読んで予習しておく ▽これまでの授業内容を振り返り、要点をノートにまとめる	90 90

【履修上の留意点】

5回以上の欠席は、単位修得不可とする。授業開始時間より20分以降は入室不可とする。公共交通機関による大幅な遅れ(30分以上)以外の遅延は認めない。本授業は必修科目であり、必ず出席することを期待する。特に、授業外での学習、予習・復習を必ずすることで授業の理解を深めることを期待する。

【テキスト】

『特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』橋本創一他 編著 福村出版 ISBN978-4-571-12140-1

【参考書・参考資料等】

『特別支援教育総論—インクルーシブ時代の理論と実践—』川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳 編著 北大路書房 2016 ISBN978-4-7628-2949-9
『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』文部科学省 2018

【連絡方法】

授業内での指示及び掲示を確認する

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③ ④	80%	・知識・理解・応用力(支援の在り方)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(支援の在り方)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や支援の在り方を理解できていることが認められる。	・基本的な知識の習得や支援の在り方が断片的であるため、今後努力を要する。	・基本的な知識の習得や支援の在り方が理解されていない。
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・支援の在り方が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・支援の在り方が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・支援の在り方の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・支援の在り方の習得が断片的であるため、今後努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	③ ④	10%	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に取り組むことができた。 ・知識、理解・支援の在り方の習得が断片的であるため、今後努力を要する。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

上記以外で出席状況、レポート提出状況も最終評価において考慮する。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第12回、13回、14回		第8回、9回			

科目名／専門教育	YHS506	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育原理Ⅰ(理念)		1年前期	必修	講義/単独	2単位	山本 剛		

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【**授業のねらい**】

現代保育の基盤を形成する諸原理・諸理念は、いかなる歴史的・思想的な変遷を経て現在に至っているのか、この授業では、保育の理念とその歴史から導かれる「保育学」的なものの見方・考え方を養い、そのような知見をもとに、保育が直面する諸課題を克服しようとする基本的な姿勢を育むことをねらいとする。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

現代保育の理念につながる歴史(保育の思想および制度史)に関する講義を行う。日本の保育を構成する諸領域の基盤的事項の理念的背景について、保育学的な知見から改めて考察を加え、受講生自身の保育観の確立と「子ども教育学」の基本的視座を提供することを目的とする。

【**到達目標と学修成果**】

- ①保育の理念について、これまでの歴史的・思想的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
- ②『保育所保育指針』の法的・制度的位置づけと保育所保育の基本について理解し、説明することができる。
- ③保育学の知見を踏まえて、現代保育の意義と目的、その課題を理解し、自分の言葉で説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「保育」について自分の意見をまとめておく ▽「私の入学動機」についてノートにまとめる	60 60
第2回	I. 保育の意義と目的① 保育の理念と社会的意義	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「保育の理念」についてノートにまとめる	60 120
第3回	I. 保育の意義と目的② 家庭の保育と保育所保育／子どもの利益と養護・福祉の在り方	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「生活と遊び」についてノートにまとめる	60 120
第4回	I. 保育の意義と目的③ 職業としての保育／保育者の役割と社会的責任	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「保育者の役割」についてノートにまとめる	60 120
第5回	II. 保育思想の歴史の変遷① 歴史の中の保育	△ 前回授業内容の復習 ▽ J.H.Pestalozzi についてノートにまとめる	60 120
第6回	II. 保育思想の歴史の変遷② 近代社会と保育	△ 前回授業内容の復習 ▽ F.Frobel についてノートにまとめる	60 120
第7回	II. 保育思想の歴史の変遷③ 現代社会と保育	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「児童福祉法」についてノートにまとめる	60 120
第8回	III. 保育の法的・制度的変遷① 『保育要領』と幼・保の二元化／教育と福祉の法体系	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「倉橋惣三」についてノートにまとめる	60 120
第9回	III. 保育の法的・制度的変遷② 『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』／カリキュラム・マネジメントの視点から	△ 前回授業内容の復習 ▽ 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』についてノートにまとめる	60 120
第10回	III. 保育の法的・制度的変遷③ 「こども園」と幼・保の一元化／子ども・子育て支援のこれから	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「子育て支援」についてノートにまとめる	60 120
第11回	IV. 現代保育の現状と課題① 保育所保育の目標・計画・内容	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「保育所の歴史」についてノートにまとめる	60 120
第12回	IV. 現代保育の現状と課題② 保育所保育の環境・方法・過程	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「保育士の歴史」についてノートにまとめる	60 120
第13回	IV. 現代保育の現状と課題③ 諸外国の保育事情	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「諸外国の保育」についてノートにまとめる	60 120
第14回	IV. 現代保育の現状と課題④ 日本型保育のこれから	△ 前回授業内容の復習 ▽ 「保幼小の連携」についてノートにまとめる	60 120
第15回	授業の総括とリフレクション	△ 授業内容の総復習 ▽ 学期末試験に関する振り返り	120 120

備考：

2700

【**履修上の留意点**】

- ・保育士養成課程の法定科目として最も基本的な内容を取り扱うため、基礎知識の確実な定着を第一義とする。

【**テキスト**】

2017(平成29)年改訂『保育所保育指針』厚生労働省
2017(平成29)年改訂『幼稚園教育要領』文部科学省
2017(平成29)年改訂『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省

【**参考書・参考資料等**】

民秋言ほか編『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林、2017年

【**連絡方法**】

授業内で指示をする

【**オフィスアワー**】

授業前後の休み時間

【**評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	③		60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)								
授業外での 取組								

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名/専門教育	YHS507	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育原理Ⅱ(計画と評価)		1年後期	必修	講義/単独	2単位	菊地 大介	○	○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

- ①保育の計画と評価についての意義と役割を理解する。
- ②保育現場における多様な実情を理解し、保育所保育指針に準拠した保育を展開する方法を学ぶ。
- ③保育の質向上に資する保育の在りかたを学ぶ。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

講義形式である。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園保育・教育要領に基づき、実践的な視点で保育の計画について解説し、指導計画の意義・方法と保育の評価について学ぶ。保育の質向上に向けた計画や評価の在りかたについて、保育所保育指針を読み解き理解を深める。

【**到達目標と学修成果**】

- ①保育所保育指針に準拠した保育の計画および評価の意義について理解している。
- ②子ども理解に基づく保育の過程について理解している。
- ③保育の質向上に向けて保育計画を作成することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス-授業の概要、到達目標、成績評価について 保育の意義、内容と方法の基本を理解することと保育所保育指針	△テキスト(総則)を予習する ▽テキスト(総則)を復習する	60 90
第2回	計画と評価の意義を考える ・保育における教育の目的と保育指針の内容	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.8-20を理解する	60 90
第3回	保育における基本原則 ・保育の内容と方法の理解	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.22-33を理解する	60 90
第4回	保育の計画と評価の基本 ・全体的な計画の意義と位置づけ	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.34-37を理解する	90 90
第5回	保育計画と質の向上 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とカリキュラム・マネジメント	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.38-43を理解する	90 120
第6回	子どもの発達過程と計画① ・養護と教育の一体的な展開/乳児	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.66-81を理解する	90 90
第7回	子どもの発達過程と計画② ・情緒の安定と発達/1〜3歳未満児	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.82-103を理解する	90 90
第8回	子どもの発達過程と計画③ ・遊びと発達/3歳以上児	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.104-136を理解する	90 90
第9回	保育の記録と省察 ・保育の基盤としての子ども理解	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.138-145を理解する	90 90
第10回	保育者および保育所の評価 ・保育の記録と保育の質向上	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.146-158を理解する	90 90
第11回	指導計画の考えかた ・指導計画と保育の質向上	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.160-166を理解する	90 90
第12回	保育の計画と保育形態 ・生活基盤型保育と保育指針	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.168-176を理解する	90 120
第13回	生活基盤型保育と保育の質向上 ・生活そのものを教育へ	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.178-183を理解する	60 90
第14回	保育における生活と協働志向性 ・保育指針の読み解きと保育の質向上	△前回授業内容の復習 ▽テキストp.184-189を理解する	90 90
第15回	まとめ ・子どもへのまなざしと保育の在りかた	△授業内容の総復習 ▽授業に関する振り返りをノートにまとめる	120 120

備考：この科目では、担当担当者の保育者としての実務経験(保育士)も踏まえて、保育計画の実際について講義する。

2700

【 履修上の留意点 】 ・「保育計画と評価」の理解は、将来の保育の質を高めることにつながります。当事者意識をもって授業に参加し、学びを深めることを望みます。
【 テキスト 】 イラストたっぷりやさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック 2017年 告示版 Gakken
【 参考書・参考資料等 】 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園保育・教育要領<原本> チャイルド本社
【 連絡方法 】 kikuchi@ariake.ac.jp
【 オフィスアワー 】 授業日の昼休み

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ② ③	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠と先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	6~12					

科目名／専門教育	HS508	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会福祉		2年前期	必修	講義/単独	2単位	前田 優二		○
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎						
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○						
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○						
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○						
実践的能力 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○						
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△						
【授業のねらい】 社会福祉の意義と歴史の変遷を踏まえて、児童家庭を支援するための社会福祉の他の分野への理解、現行の法制度を理解し、児童の人権保障とそのための家庭支援について、現状と課題を認識し、保健医療を含む教育その他の領域との連携も含めて、その在り方を学ぶ。								
【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】 教科書の他、視聴覚教材を多用する。毎回、リアクションペーパーを記述して提出することによって、自己の学びを可視化し、深められるようにする。								
【到達目標と学修成果】 ①現代社会における社会福祉の意義を理解し、その歴史の変遷を踏まえて基礎的な知識を身につける。 ②社会福祉の制度や実施体系について理解し、その上で社会福祉における相談援助や利用者の保護についての仕組みを踏まえ、子どもと家庭を支援できるようにする。 ③他の社会福祉専門職や関連分野の専門職との連携についても学び、現代の社会福祉の動向と課題について理解する。 ④保育士として、社会福祉における児童家庭福祉の位置づけを踏まえ、その関連性・児童の人権保障とそのための家庭支援の在り方についても理解し、社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解・支援できるようにする。 ⑤社会の中で生き生きと感じている当事者の心情を理解して共感し、その声を代弁できるようにする。								
回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】					
第1回	【ガイダンス】 社会福祉の理念と概念について学ぶ。社会福祉の歴史について、学ぶ。	△教科書「1 社会福祉の基礎概念」～6スウェーデンの社会福祉の動向」を予め読む ▽モニターセッションとソーシャルインクルージョンを保育はどう活かすかをまとめる。	30 150					
第2回	【社会福祉と児童家庭福祉】 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉の位置づけを理解し、人権擁護、家庭支援など、児童家庭を中心とした保育士としての社会福祉の在り方について理解を深める。	△教科書「V 社会福祉の機関と施設」から「1 厚生労働省」「2 福祉事務所と児童家庭相談室」「V 子ども家庭福祉」から「1 子ども家庭福祉という考え方」「2 子どもと児童の権利に関する条約」「3 子ども家庭福祉の実施体制」「4 2009年以降の児童福祉法改正」「5 児童福祉施設の体系」「6 在宅児童の福祉サービスの体系」「7 少子化対策から児童育成支援対策へ」「8 子ども・子育て関連法3法と子ども子育て支援新制度」「9 児童虐待の対応」から「10 子どもの親家庭、女性への福祉的支援」「V 社会福祉の機関と施設」から「3 児童相談所」を予め読む。 ▽形式的「子ども家庭福祉」における学びを振り返り、社会福祉全体の動向について、報道された事例を比較して、考察する。	30 150					
第3回	【社会福祉の法制度と実施体系(1)】 社会福祉の制度と法体系について、また、行財政と実施機関について学ぶ。	△教科書「IV 社会福祉の仕組みと運営」から「1 社会福祉の法律」「2 社会福祉行政の仕組み(国と地方)」「3 社会福祉審議会」「4 社会福祉の財源」「5 社会福祉サービスの利用システム」「6 社会福祉サービスの提供システム」「7 社会福祉の計画的推進」「8 社会福祉と地方分権」を予め読む。 ▽自分がかつあった法律や制度、自分が最も関心を持った法律や制度について、それぞれ理由と共に箇条書きにまとめる。	30 150					
第4回	【社会福祉の法制度と実施体系(2)】 社会福祉施設と、施設や相談機関に所属する専門職・実施者について学ぶ。	△教科書「IV 社会福祉の仕組みと運営」から「5 社会福祉サービスの利用システム」「6 社会福祉サービスの提供システム」「7 社会福祉の計画的推進」「8 社会福祉と地方分権」を予め読む。 ▽関心を抱いた施設と専門職について、理由と共にまとめる。	30 150					
第5回	【社会福祉の制度と実施体系(3)】 社会保険及び関連制度について学ぶ。	△教科書「VII 社会保険・公的扶助」から「10 生活保護の施設と体系」を予め読む。 ▽自分が関わっている社会保険について調べる。	30 150					
第6回	【社会福祉における相談援助(1)】 相談援助の意義と原則について学ぶ。	△「V 社会福祉の機関と施設」→「ソーシャルワークとソーシャルワーカー」「2 ソーシャルワークの体系」「3 ソーシャルワークの展開過程」「4 ソーシャルワークの歴史的发展」「5 ケースワーク(個別援助技術)の展開過程」「6 グループワーク(集団援助技術)の展開過程」「7 コミュニティワーク(地域援助技術)の展開過程」「8 社会福祉援助方法における社会調査の意義」「9 社会福祉援助方法の倫理」「10 ヘルプとピア・サポート」「11 ヘルプのメカニズムとヘルプ・システム」を予め読む。 ▽授業での学びと共に、自分自身に考えられた思入人へのインタビューについて振り返る。	30 150					
第7回	【社会福祉における相談援助(2)】 相談援助の方法と技術について理解を深める。	△子どもとその保護者などどのような相談援助を行っていくか、前回の授業をもとに考える。 ▽授業でのロールプレイを踏まえ、自分の課題について、振り返る。	30 150					
第8回	【社会福祉における利用者保護(1)】 情報提供と第三者評価について学ぶ。	△教科書「VII これからの社会福祉の課題」から、「1 苦情解決と福祉オプトアウト」「2 サービスと福祉情報システム」を予め読む。 ▽個人情報保護のあり方について、児童虐待を例に考察する。	30 150					
第9回	【社会福祉における利用者保護(2)】 利用者の権利擁護の在り方と、苦情解決について学ぶ。	△教科書「VIII 地域福祉」から「11 成年後見制度と日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)」を予め読む。 ▽授業で配られた事例について、利用者の気持ちで権利を守ってほしいか、そして援助者としてどの制度を使うか、考察する。	30 150					
第10回	【社会福祉の動向と課題(1)】 少子高齢化と児童家庭福祉との関係を理解し、その対応について考察する。	△教科書「IX 高齢者福祉」～「9 ホームヘルパーの仕事」を予め読む。 ▽共生型サービスについて調べて、まとめる。	30 150					
第11回	【社会福祉の動向と課題(2)】 在宅福祉、地域福祉の推進について理解する。	△教科書「XII 地域福祉」から「1 地域福祉の概念」「2 地域の組織化と福祉の組織化」「3 オフタリズムとボランティア」「4 NPO(民間非営利組織)活動の役割」「5 住民参加と身近な地域活動」「6 地域福祉とまちづくり」「7 コミュニティケア」「8 オンライン・コミュニティワークの役割」「9 社会福祉主事」「10 民生委員・主任児童委員」「10 ソーシャル・サポート・ネットワーク」を予め読む。 ▽授業で配られた事例について、それぞれのニーズを把握し、地域のどのサービスを使い、存在しないサービスはどのような考察する。	30 150					
第12回	【社会福祉の動向と課題(3)】 保育・教育・療育・保健・医療・住宅などの連携とネットワークの在り方について学ぶ。	△教科書「XI 地域福祉」から「8 地域福祉計画の理論と策定過程」「12 ソーシャル・インクルージョン」「XIII これからの社会福祉の課題」から「4 福祉教育と社会福祉」「5 住宅政策と社会福祉」「6 医療福祉におけるソーシャルワーカーの展望」を予め読む。 ▽授業で視聴した映像の事例についてとりあげ、地域における多職種連携のあり方について考察する。	30 150					
第13回	【社会福祉の動向と課題(4)】 諸外国の社会福祉の動向について学ぶ。	△教科書「XIII これからの社会福祉の課題」から「3 国際福祉の現状と課題」を予め読む。 ▽授業で視聴した映像について、印象に残ったものについて理由と共にまとめる。	30 150					
第14回	【事例研究】子ども家庭の貧困、インクルーシブ保育を例に、事例を検討する。	△子ども家庭の貧困について、新聞や雑誌の記事を調べる。 ▽授業で取り上げた実践を振り返り、自分がもし実践するとしたら取り組みを考察する。	30 150					
第15回	【振り返り】 講義全体を振り返り、学びを確認する。	△これまで取り組んだ単元の中で、最も関心を持った単元と、関心を抱きつづらせた単元について、理由と共に挙げておく。 ▽「地域共生社会の実現」に向けて、自分はどう動くか考察する。	30 150					

【履修上の留意点】 授業におけるリアクションペーパーを毎回提出する。視聴覚教材を多用し、授業内容と映像とを結びつけた小レポートを執筆する。欠席は、授業回数の1/3以下までを認め、遅刻は3回で1回分の欠席とする。
【テキスト】 明文書林『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田句哉 編著)
【参考書・参考資料等】 授業において、随時紹介する。
【連絡方法】 メールにて行う。
【オフィスアワー】 授業実施準備の昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】							
評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ③	50%	授業で学んだ専門的な知識を全般的に深く理解し、9割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、8割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、7割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識を最低限理解し、6割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない
	② ③ ④ ⑤	30%	1 授業で学んだ専門的な知識を全般的に深く理解し、適切に詳しく説明することができる 2 指定された最低限の文字数を越えた分量で執筆している 3 指定された書式を守っている 4 指定された期日を守って提出している	1 授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、適切に説明することができる 2 指定された文字数で執筆している 3 指定された書式を守っている 4 指定された期日を守って提出している	1 授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、要点を押さえて説明することができる 2 指定された文字数で執筆している 3 指定された書式を守っていない点がある 4 指定された期日を守って提出している	1 授業で学んだ専門的な知識を6割程度理解し、キーワードを使って説明することができる 2 指定された文字数と少ないが、近い文字数で執筆している 3 指定された書式をほぼ守っていない 4 指定された期日を守らなかったが、すぐに連絡して期日後2日以内に提出している	1 授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない 2 指定された文字数に、大幅に達していない 3 指定された書式をほぼ守っていない 4 指定された期日を守らず、期日後2日以内に提出しているが、未提出。
期末レポート	② ③ ④ ⑤	30%	1 授業で学んだ専門的な知識を全般的に深く理解し、適切に詳しく説明することができる 2 指定された最低限の文字数を越えた分量で執筆している 3 指定された書式を守っている 4 指定された期日を守って提出している	1 授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、適切に説明することができる 2 指定された文字数で執筆している 3 指定された書式を守っている 4 指定された期日を守って提出している	1 授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、要点を押さえて説明することができる 2 指定された文字数で執筆している 3 指定された書式を守っていない点がある 4 指定された期日を守って提出している	1 授業で学んだ専門的な知識を6割程度理解し、キーワードを使って説明することができる 2 指定された文字数と少ないが、近い文字数で執筆している 3 指定された書式をほぼ守っていない 4 指定された期日を守らなかったが、すぐに連絡して期日後2日以内に提出している	1 授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない 2 指定された文字数に、大幅に達していない 3 指定された書式をほぼ守っていない 4 指定された期日を守らず、期日後2日以内に提出しているが、未提出。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③ ④ ⑤	10%	その日の授業に能動的な姿勢で取り組み、学んだ内容を全般的に深く理解し、適切に詳しく説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、適切に説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、要点を押さえて説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識を6割程度理解し、キーワードを使って説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない
授業外での取組	② ③ ④ ⑤	10%	1 授業に関する調べ学習や振り返りのまとめ学習などに対して、双方共に複数の文献やメディアを通して学習し、能動的に取り組んでいる 2 指定された最低限の文字数を越えた分量で執筆している 3 指定された書式を守っている 4 指定された期日を守って提出している	1 授業に関する調べ学習もしくは振り返りのまとめ学習などに対して、1つの文献やメディアを通して学習し、能動的に取り組んでいる 2 指定された文字数で執筆している 3 指定された書式を守っている 4 指定された期日を守って提出している	1 授業に関する調べ学習と振り返りのまとめ学習の双方において、1つだけの文献やメディアを通して学習し、取り組んでいる 2 指定された文字数より少ないが、近い文字数で執筆している 3 指定された書式を守っていない点がある 4 指定された期日を守って提出している	1 授業に関する調べ学習において、資料を用いずに学習し、取り組んでいる 2 指定された文字数に、大幅に達していない 3 指定された書式をほぼ守っていない 4 指定された期日を守らず、期日後2日以内に提出しているが、未提出。	

備考:

種類	ディスカッション	デバート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						2回～14回

科目名/専門教育	YHS509	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと家庭の福祉		1年前期	必修	講義/単独	2単位	前田 優二		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について学び、権利主体としての子どもの人権について理解する。現在の、児童家庭福祉の法と制度など、実施体系について理解し、現状と課題を学ぶことから、今後の動向と展望について考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式。教科書の他、視聴覚教材を多用する。毎回、リアクションペーパーを記述して提出することによって、自己の学びを可視化し、深められるようにする。

【到達目標と学修成果】

- 児童家庭福祉の意義を学び、その歴史の変遷について理解する。「児童の権利条約」ならびに「児童福祉法」など、児童家庭福祉の法について理解を含め、権利主体としての子どもの人権と、子どもを取り巻く社会環境について、学びを深める。
- 現状の制度や実施体系について理解し、社会問題などに鑑みて、今後どう動くべきか、児童家庭福祉の課題と展望について考察し、自ら動力を身につける。
- 子どもと子どもを養育者の心情や状況を理解し、当事者の声を代弁できるようになる

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▼事後 / 分]	
第1回	ガイダンス:児童家庭福祉とは何か。理念と概念について、学ぶ。	△教科書「第1章1 子ども家庭福祉って？」を予め読む 30 ▼「児童家庭福祉の課題と実践方法」について、最も関心のある分野について、小レポートを書く。 150	50%
第2回	児童家庭福祉の歴史の変遷	△教科書「第2章 子ども家庭福祉の歴史」を予め読む 30 ▼「日本の児童家庭福祉の先駆者」の中から、関心の深い人物を1名選出し、より深く調べ学習をする。 150	
第3回	現代社会と児童家庭福祉	△教科書「第1章2 子どもと家庭を取り巻く社会」を予め読む 30 ▼現代社会における児童家庭福祉の問題について、新聞記事を取り上げ、考察を加える。 150	30%
第4回	児童家庭福祉の一分野としての保育:社会福祉全体における、児童福祉の位置づけを学ぶ。その上で、児童家庭福祉の一分野としての、保育の専門性について理解を深める。	△教科書「第3章3 保育サービス」を予め読む 30 ▼「子どもを幸せにする保育」について、考えをノートにまとめる。 150	
第5回	児童の人権擁護と児童家庭福祉:「子どもの権利条約」について学びを深め、「権利主体としての子ども」の存在意義について、また、子どもの人権と、人権保障について理解を深める。	△教科書「第7章2 子ども権利擁護」を予め読む 30 ▼授業で視聴した子どもの労働や内戦の中での子どもの映像などの感想をまとめる。 150	
第6回	児童家庭福祉の制度と法体系:児童福祉法を中心として、児童家庭を支える法律と制度について、理解を深める。	△教科書「3章 子ども家庭福祉の制度と法律」を予め読む 30 ▼分かつかなかった法律や制度と、自分が最も関心を持った法律や制度について、それぞれ理由と共に簡単にまとめる。 150	10%
第7回	児童家庭福祉行政と実施機関:児童相談所を中心とする相談機関、手当など財政的な支援、児童家庭を取り巻く社会保障について、学ぶ。	△教科書「第4章1 子ども家庭福祉を実施する機関」を予め読む 30 ▼自分の住んでいる地域の要保護児童対策地域協議会の運営について、自治体に確認する。 150	
第8回	児童家庭福祉施設:保育園、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホームなど、子どもと家庭を支える施設について学び、合わせて、相談機関、施設などにおける児童家庭福祉の専門職について、理解を深める。	△教科書「4章2 児童福祉施設の種別」「4章3 児童福祉施設のルールと現状」「4章4 子ども家庭福祉分野で働く専門職」を予め読む 30 ▼自分が関心を抱く児童福祉施設と専門職について学び、その理由と、どうあるべきかをまとめる。 150	
第9回	児童家庭福祉の現状と課題(1) 少子高齢化と、子育て支援サービスの現状と課題について、また、母子保健と児童の健全育成について、学ぶ。	△教科書「第5章1 少子化と子育て支援 2 母子保健サービス」を予め読む 30 ▼少子化の要因について身近にたらし、家庭への支援について考察する。 150	
第10回	児童家庭福祉の現状と課題(2) 多様な保育ニーズについて学び、どう支援するか考察する。	△教科書「第6章1 地域の子育て支援サービス」「第7章1 子ども・家庭と社会をめぐる状況」を予め読む 30 ▼家庭的保育・放課後児童クラブ・病後児保育など、自分の住んでいる自治体のサービスを調べ、 150	
第11回	児童家庭福祉の現状と課題(3) 児童虐待、ドメスティックバイオレンスについて現状を知り、児童家庭支援について学ぶ。	△教科書「第6章2 児童虐待・DV」を予め読む 30 ▼児童虐待とドメスティックバイオレンスとの関連性について、近年報道されている虐待事件を振り返って学びを深める。 150	
第12回	児童家庭福祉の現状と課題(4) 社会的養護について、家庭的養護と施設養護について理解し、保育士の支援の在り方について学ぶ。	△教科書「第6章3 社会的養護」を予め読む 30 ▼虐待と社会的養護の関係性、社会的養護の在り方について、家庭的養護と施設養護のそれぞれの利点について考察する。 150	
第13回	児童家庭福祉の現状と課題(5) 障害のある児童の理解と対応、少年非行への理解とその対応について学ぶ。	△教科書「第6章4 障害児の福祉 5 少年非行」を予め読む 30 ▼交流保育、インクルーシブ保育などのあり方について、自らの体験を踏まえて考察する。また、少年の非行への良い対応について、考察する。 150	
第14回	児童家庭福祉の動向と展望 次世代育成支援と児童家庭福祉の推進、児童家庭福祉と関連する教育・療育・保健・医療との連携の在り方について学び、より良いネットワークを築けるようになる。	△教科書「第7章3 これからの子ども家庭福祉を考えよう！」を予め読む 30 ▼マクロ・ミクロのそれぞれの視点から、保育を家庭と所属機関と地域とでどのように連携を図っていくか、考察する。 150	
第15回	諸外国の児童家庭福祉の動向について、学ぶ。 授業全体の振り返りを行う。	△教科書「第7章4 海外の子育て支援」を予め読む 30 ▼世界の先進的な保育事例を調べ、どう取り入れたいか考察する。 150	

備考: 2700

【履修上の留意点】

授業におけるリアクションペーパーを毎回提出する。視聴覚教材を多用し、授業内容と映像とを結びつけた小レポートを執筆する。欠席は、授業回数の1/3以下までを認め、遅刻は3回で1回分の欠席とする。

【テキスト】

萌文書林『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』(直島正樹)

【参考書・参考資料等】

授業において、随時紹介する。

【連絡方法】

メールにて行う

【オフィスアワー】

授業実施曜日の昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	50%	授業で学んだ専門的な知識を全般的に深く理解し、9割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、8割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、7割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識を最低限理解し、6割以上の得点である	授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない
期末 レポート	② ③	30%	1.授業で学んだ専門的な知識を全般的に深く理解し、適切に詳しく説明することができる 2.指定された最低限の文字数を超えた分まで執筆している 3.指定された書式を守っている 4.指定された期日を守って提出している	1.授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、適切に説明することができる 2.指定された文字数で執筆している 3.指定された書式を守っている 4.指定された期日を守って提出している	1.授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、キーワードを使って説明することができる 2.指定された文字数より少ないが、近似的に執筆している 3.指定された期日を守っていないが、事前に連絡して期日後2日以内に提出している。	1.授業で学んだ専門的な知識を6割程度理解し、キーワードを使って説明することができる 2.指定された文字数より少ないが、近似的に執筆している 3.指定された書式をほぼ守っていない 4.指定された期日を守らず、期日後2日以降に提出しているが、未提出。	1.授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	10%	その日の授業に能動的な姿勢で取り組み、学んだ内容を全般的に深く理解し、適切に詳しく説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識をおおむね理解し、適切に説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識をある程度理解し、キーワードを使って説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識を6割程度理解し、キーワードを使って説明することができる	その日の授業で学んだ専門的な知識の理解が半分以下であり、ほぼ説明できない
授業外での 取組	② ③	10%	1.授業に関する調べ学習や振り返りのための学習などに対して、双方共に積極的な文獻やメディアを通して学習し、能動的に取り組んでいる 2.指定された最低限の文字数を超えた分まで執筆している 3.指定された書式を守っている 4.指定された期日を守って提出している	1.授業に関する調べ学習もしくは振り返りのための学習などに対して、1つだけの文獻やメディアを通して学習し、能動的に取り組んでいる 2.指定された文字数で執筆している 3.指定された書式を守っていないが、事前に連絡して期日後2日以内に提出している 4.指定された期日を守って提出している	1.授業に関する調べ学習や振り返りのための学習において、資料を用いずに学習し、取り組んでいる 2.指定された文字数より少ないが、近似的に執筆している 3.指定された期日を守っていないが、事前に連絡して期日後2日以内に提出している。 4.指定された期日を守らず、期日後2日以降に提出しているが、未提出。	1.授業に関する調べ学習や振り返りのための学習などにおいて、資料を用いた学習に取り組んでいる 2.指定された文字数に、大幅に達していない 3.指定された書式をほぼ守っていない 4.指定された期日を守らず、期日後2日以降に提出しているが、未提出。	

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						2回~14回

科目名／専門教育	YHS510	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会的養護 I		1年後期	必修	講義/単独	2単位	佐藤 東	○	

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

社会的養護の歴史的、時代的背景を辿り、養護形態、養護理論及び人権擁護の変遷を概観し、その上で今日の社会的養護の理念、制度と実施体系等を理解する。更に、深刻化する児童虐待のセーフティネットとして期待される今日的な役割や機能と児童及び家族の複雑、多様化する諸ニーズや対応する専門職等の現状、課題などを理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

・講義形式で行う。①社会的養護の歴史、法制度等の変遷、②今日の社会的養護の理念と制度体系、③里親、施設養護の現状と課題等について学ぶ。
・授業では、随時、社会的養護の現状・トピックを取上げ演習的な講義を盛り込む。また、授業の最後には課題整理を行い小テスト等を実施する。

【到達目標と学修成果】

①社会的養護の歴史、目的、意義等を理解し説明することができる。②社会的養護を構成する施設養護・家庭養護等の体系を理解し説明することができる。③施設養護、家庭養護の養育・支援の基本を理解し説明することができる。④社会的養護の現状と課題の概要について理解し説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス及び社会的養護の概要 ・シラバスの概要 ・社会的養護の概要	△シラバスの内容を熟読する。 ▽設定課題のまとめ	90 90
第2回	社会的養護の理念と概念 ・社会的養護とは ・社会的養護の理念と原理	△テキストP2～P12の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第3回	社会的養護の歴史の変遷 ・イギリス及びアメリカの社会的養護の歴史 ・日本の社会的養護の歴史	△テキストP14～P24の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第4回	子どもの人権擁護と社会的養護 ・子どもの権利擁護及び取り組み・社会的養護における虐待	△テキストP26～P36の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第5回	社会的養護の基本原則 ・児童福祉法の平成28年改正の内容と意義 ・新しい社会的養育ビジョンについて	△テキストP122～P150の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第6回	社会的養護における保育士等の倫理と責務 ・倫理と価値 ・職業倫理と倫理綱領	△テキストP50～P60の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第7回	社会的養護の制度と法体系 ・社会的養護の制度の根幹 ・社会的養護の基本法	△テキストP62～P72の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第8回	社会的養護のしくみと実施体系 ・社会的養護の基本的な仕組み ・社会的養護の実施体系	△テキストP74～P84の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第9回	社会的養護とファミリーソーシャルワーク ・ソーシャルワークの定義と意義 ・ファミリーソーシャルワーク	△テキストP86～P94の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第10回	社会的養護の対象と支援の在り方 ・代替養育に至る理由(措置理由) ・児童虐待と社会的養護	△テキストP98～P106の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第11回	家庭養護と施設養護 ・施設養護から家庭養護へ ・家庭養護の要件	△テキストP110～P120の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第12回	社会的養護にかかわる専門職 ・求められる専門性 ・児童福祉施設で働く専門職 ・関係分野の専門職	△テキストP122～P132の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第13回	社会的養護に関する社会的状況 ・現代における養護問題 ・近年の児童福祉法改正の背景と意義 等	△テキストP134～P143の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第14回	施設等の運営管理の現状と課題 ・施設の運営管理 ・施設における家庭的養護の推進 ・被措置児童等虐待	△テキストP146～P168の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題 ・地域福祉 ・少子化と児童虐待	△テキストP170～P180の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(社会福祉士・介護支援専門相談員指導者)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【履修上の留意点】
【テキスト】 新基本保育シリーズ「社会的養護 I」 (中央法規)
【参考書・参考資料等】 ① 相澤仁・奥山真紀子編「生活の中の養育・支援の実際」明石書店 ② 相澤仁・柏女壺峰・渋谷昌子史編「子どもの養育・支援の原理(社会的養護総論)」明石書店 ③ 庄司順一編「里親養育を知るための基礎知識」明石書店
【連絡方法】 授業時に指示する
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	① ② ③ ④	60%		・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ② ③ ④	40%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠と先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)								
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名/専門教育	YHS511	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもの健康と安全		1年後期	必修	演習/単独	1単位	澤田 由美		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。		
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○ △

【授業のねらい】
 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解するとともに、ガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について知識・技能が身につくよう指導する。また配慮を要する子どもへの対応について基本的援助技術を習得し、子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画・評価等を理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 保育士が働く場所は多様であるが、どのような場であっても子どもの命を守り、健やかな成長を支える安全・安心の確保は重要である。授業では各種ガイドラインを踏まえた対策や配慮を要する子どもへの基本的な対応について演習形式で進めていく。

【到達目標と学修成果】
 ①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。
 ②ガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、感染症対策について知識・技能を身につける。
 ③子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解し、基本的援助技術を習得する。
 ④子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス 子どもの健康と保育の環境	△シラバスを読み、授業の概要を確認する テキストのpp.2-3を精読する 15 ▽子どもの健康と保育の環境について整理する 30
第2回	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康	△テキストのpp.12-13を精読する 15 ▽保健に関する個別対応と集団の健康管理について整理する 30
第3回	保育における健康及び安全の管理 1. 衛生管理	△テキストのpp.24-29を精読する 15 ▽衛生管理について整理する 30
第4回	保育における健康及び安全の管理 2. 事故防止及び安全対策	△テキストのpp.36-39を精読する 15 ▽事故防止及び安全対策について整理する 30
第5回	保育における健康及び安全の管理 3. 災害への備えと危機管理	△テキストのpp.48-51を精読する 15 ▽災害への備えと危機管理について整理する 30
第6回	体調不良や傷害に対する適切な対応と応急処置	△テキストのpp.60-63を精読する 10 ▽体調不良や傷害等に対する対応と応急処置について整理し、対応できるようにする 45
第7回	救急処置と救急蘇生法	△テキストのpp.72-81を精読する 15 ▽救急処置と救急蘇生法が実施できるよう復習をする 50
第8回	感染症の集団発生の予防	△テキストのpp.86-87を精読する 15 ▽感染症の集団発生の予防について整理する 30
第9回	感染症発生時と罹患後の対応	△テキストのpp.88-93を精読する 15 ▽感染症発生時と罹患後の対応について整理する 30
第10回	保育における保健的対応	△テキストのpp.98-101を精読する 15 ▽保健的対応の基本的考え方について整理する 20
第11回	3歳未満児への保健的対応	△テキストのpp.110-114を精読する 15 ▽3歳未満児への保健的対応について整理する 30
第12回	個別的に配慮を要する子どもや障害のある子どもへの対応	△テキストpp.122-129, pp.136-139を予習 15 ▽配慮を要する子どもへの対応について整理する 30
第13回	健康及び安全の管理における職員間の連携・協働と組織的取組	△テキストのpp.148-149を精読する 15 ▽健康及び安全の管理における職員間の連携・協働について整理する 20
第14回	保健活動の計画と評価 母子保健・地域保健における自治体との連携 家庭、専門機関、関係機関等との連携	△テキストのpp.160-163, pp.172-177を精読する 15 ▽保健活動の計画と評価、家庭と関係機関等との連携について整理する 25
第15回	試験とまとめ	△第1回から第14回の授業内容を確認する 15 ▽授業内容を整理する 25

備考： 675

【履修上の留意点】
 毎回授業終了後ミニッツペーパー(授業開始時に配布)を提出してください。

【テキスト】
 公益財団法人児童育成協会監修『子どもの健康と安全』中央法規、2019年

【参考書・参考資料等】
 厚生労働省『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』2011年
 厚生労働省『2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン』2018年
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『教育・保育施設等における事故防止及びひ事故発生時の対応のためのガイドライン』2016年

【連絡方法】 授業内で指示
【オフィスアワー】 火曜日 休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	① ② ③ ④	70%		・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②	10%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁・期日が守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	20%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第7回		第14回			

科目名／専門教育	YHS512	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども家庭支援論	3年前期	必修	講義/単独	2単位	益川 順子			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

現代の子育て家庭をとりまく社会的状況の変化の理解を通して、子育て家庭への支援の必要性和その支援内容について知り、専門職としての視点と知識を身につけ、支援の実践について学ぶ。又、家庭支援政策や地域の支援サービス等の社会資源の活用と関係機関との連携についてを学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

家庭の機能と意義について学び、データや事例などを通して、現代の子育て家庭の社会的状況背景及び、機能の変化をとらえ、家庭支援について課題を理解する。更に、保育の視点から、多様な子育て家庭への相談支援や社会資源の活用、関係機関との連携についての実践について学ぶ。尚、授業では、視聴覚教材の活用、事前課題の取り組みを前提としたアクティブ・ラーニング形式で展開する。

【到達目標と学修成果】

- ①現代の子育て家庭の現状と家庭支援の必要性を説明できる。
- ②子育て家庭に関わる専門職としての支援の方法を得る。
- ③子育て家庭が抱える課題に対しての社会資源の活用、関係機関との連携について理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	授業ガイダンス 家庭支援を学ぶ意義	△テキストの目次に目を通す ▽「子育て」に関する新聞記事検索	90 90
第2回	家庭の定義・意義・機能の変遷	△「子育て」に関する新聞記事についてまとめる ▽「家庭とは何か？」についての考察	90 90
第3回	少子高齢化と家族	△テキストの予習(P42～P69) ▽「少子高齢化」による家族への影響についての考察	90 90
第4回	家族の発達と家庭支援	△テキストの予習(P86～P99) ▽「支援が必要な家庭」についての考察	90 90
第5回	子どもにとっての家族・家庭(1)多様な家庭で育つ子ども	△「多様な家庭」についての事例を文献や記事検索 ▽「家庭と子どもの成長」についての考察	90 90
第6回	子どもにとっての家族・家庭(2)子どもの発育発達と家庭	△「子どもの成長を促す家庭」についてまとめる ▽「子どもの成長を促す家庭」についての考察	90 90
第7回	現代社会における保護者の役割と協働	△敵外の予習(P78～P98) ▽「保護者の役割」についての考察	90 90
第8回	家庭支援と社会資源(子育て支援)の概要	△テキストの予習(P100～P106、P204～P210) ▽居住地域の子育て支援の概要をまとめる	90 90
第9回	多様な家庭への支援(1)ひとり親家庭・ステップファミリー	△テキストの予習(P118～P135) ▽「多様な家庭への支援」の事例についての考察	90 90
第10回	多様な家庭への支援(2)障がいのある子ども	△テキストの予習(P136～P150) ▽「多様な家庭への支援」の事例についての考察	90 90
第11回	多様な家庭への支援(3)家族病理と親の病理	△テキスト予習(P152～P167) ▽「多様な家庭への支援」の事例についての考察	90 90
第12回	多様な家庭への支援(4)こころ・からだに疾病のある子ども	△配布資料の予習 ▽「病児を抱える家庭への支援」についての考察	90 90
第13回	海外における家庭支援	△配布資料の予習 ▽「自身の理想の家庭像・家庭支援」についての考察	90 90
第14回	次世代の家庭支援の展開と関係機関との連携	△テキストの予習(P186～P195) ▽子育て家庭支援と各関係機関の専門性について	90 90
第15回	まとめ	△「子どもが育つ土壌」と保育士の役割について考察 ▽「子育て・子育ての難しさ」と家庭支援について考察	90 90

備考：

【履修上の留意点】

各回のテーマに基づきリアクションペーパーの提出(20%)、事前課題(ワークシート)の提出(20%)、期末レポート(60%)による総合評価、遅刻欠席回数は自己管理すること。

【テキスト】

特になし。授業内で適宜、配布する。

【参考書・参考資料等】

浜口順子編著『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』福村出版、2015。
草野いづみ編著『みんなで考える家族・家庭支援論』同文書院、2016。その他適時資料提示

【連絡方法】 masukawa@ujc.ac.jp

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	① ② ③	60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述され考察が含まれている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多いため、指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。 ・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。	

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第1,3,5,7,9,11,14,15回				第2,4,6,8,10,12,13回	

科目名／専門教育	YHS513	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育相談		3年後期	必修	演習/単独	2単位	矢島 卓郎		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎						
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△						
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○						
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△						
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△						
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							

【授業のねらい】
 教育相談は、幼児児童生徒が集団生活のなかで人間関係を構築する発達過程を支援する教育活動である。この授業では、幼児児童生徒の個々の発達状況に応じた支援のあり方を探り、カウンセリングマインドに基づく教育相談の理論と技法を学び、具体的な支援に必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 演習形式である。教育相談の意義と基本理念について理解し、その実際の専門的な援助技術の理論と方法、関係機関との連携のあり方等を学ぶ。また、教育相談の実践について、フィクション事例をとおして学び、内容や方法についての理解を深めていく。

【到達目標と学修成果】
 ①学校現場における教育相談の意義と課題について理解する。
 ②心理学に基づくカウンセリング等の理論と技法を学ぶ。
 ③フィクション事例をとおしてカウンセリング技法を実践的に学び、学校現場において教育相談を行う過程を理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 教育相談とは	△シラバスを読み、授業の概要を確認する ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90 90
第2回	学校において教育相談を行うことの意味 「教育相談」に関わる心理学の基礎理論	△教科書の第10章p.193-p.198を読んで予習しておく ▽教科書と配付資料を参照して「教育相談」を行うことの意味をノートにまとめる	90 90
第3回	教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識1 幼児期から青年期までの発達過程とその理解	△幼児期に生じる心理発達上の問題を考え、ノートにまとめる ▽幼児期に生じる心理発達上の問題について、配付資料参照しながらノートにまとめる	90 90
第4回	教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識2 児童期、青年期における心理的特徴と問題行動	△児童期、青年期に生じる心理発達上の問題点を考え、ノートにまとめる ▽児童期、青年期に生じる心理発達上の問題点を考え、ノートにまとめる	90 90
第5回	教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識3 教育者に求められるカウンセリングマインドの視点、心理アセスメント	△教科書の第11章p.199-p.204を読んで予習しておく ▽カウンセリングマインドの視点に関して理解できたことをノートにまとめる	90 90
第6回	教育相談におけるカウンセリング技法1 学校教育におけるおけるカウンセリングマインド	△教科書の第12章p.205-p.211を読んで予習しておく ▽学校カウンセリングの概要を整理しノートにまとめる	90 90
第7回	教育相談におけるカウンセリング技法2 受容的態度、傾聴、共感的理解	△「受容的態度」、「傾聴」、「共感的理解」とはどのようなことを考え、ノートにまとめる ▽「傾聴」など面接技法のビデオを見て、その要点を整理してノートにまとめる	90 90
第8回	学校における教育相談の進め方1 組織の中での保護者への対応	△幼児期、児童期の子どもの保護者の現状に関する新聞記事を探す ▽教科書の第15章p.226-p.232と参考資料から、幼児・児童と保護者の現状を考察する	90 90
第9回	学校における教育相談の進め方2 学校と地域連携のあり方	△近年の学校と地域とのつながりの現状を、新聞記事やインターネット等で調べる ▽教科書の第15章p.226-p.232と参考資料から、学校と地域連携の現状を考察する	90 90
第10回	学校・保育現場で生じる諸問題1 いじめ、不登校・不登園の事例から ロールプレイを含む	△「いじめ」、「不登校」に関連する新聞記事を探す ▽授業のロールプレイから学んだことをノートにまとめる	90 90
第11回	学校現場で生じる諸問題2 虐待、非行の事例から ロールプレイを含む	△「虐待」、「非行」に関連する新聞記事を探す ▽教科書の第8章p.180-p.187とロールプレイから学んだことをノートにまとめる	90 90
第12回	教育相談における事例研究の進め方	△教科書の第13章と第14章p.212-p.225を読んで予習しておく ▽授業でとおげた事例研究から気づいたことをノートにまとめる	90 90
第13回	教育相談における校内体制の整備のあり方	△教科書の第12章p.205-p.211を読んで予習しておく ▽学校・園の組織と教育相談の体制づくりにおける現状や問題点を考え、ノートにまとめる	90 90
第14回	教育相談における地域との連携 医療機関、教育・福祉施設などの専門機関との連携に関する具体例をとおして	△教科書の第15章p.226-p.232を読んで予習しておく ▽教育相談における専門機関との連携の意義を考え、ノートにまとめる	90 90
第15回	まとめ 学校教育現場における相談支援の意義 地域の専門機関との連携の必要性	△教科書の第4章から第8章p.156-p.187を読んで予習しておく ▽これまでの授業内容を振り返り、要点をノートにまとめる	90 90

【履修上の留意点】
 5回以上の欠席は、単位修得不可とする。授業開始時間より20分以降は入室不可とする。公共交通機関による大幅な遅れ(30分以上)以外の遅延は認めない。本授業は必修科目であり、必ず出席することを期待する。特に、授業外での学習、予習・復習を必ずすることで授業の理解を深めることを期待する。

【テキスト】
『特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』橋本創一他 編著 福村出版 ISBN978-4-571-12140-1

【参考書・参考資料等】
『こころの発達によりそ教育相談』藤田・斎藤・宇部編著 福村書店 2018 ISBN978-4-571-24067-6
『教育相談とカウンセリング 子どもの発達理解を基盤として』金子恵志子編著 樹村房 2018 ISBN978-4-88367-296-7

【連絡方法】 授業内での指示及び掲示を確認する
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】						
	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	80%	知識・理解・応用力(相談支援・事例分析)が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・応用力(相談支援・事例分析)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や相談支援・事例分析を理解できていることが認められる。	・基本的な知識の習得や相談支援・事例分析の理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や相談支援・事例分析が理解されていない。
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・相談支援・事例分析が十分に身につけていると認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・相談支援・事例分析が身につけていると認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・相談支援・事例分析の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・相談支援・事例分析の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	10%	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組、予習、復習の課題に取り組むことができた。 ・授業外での取組、予習、復習の課題に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

上記以外で出席状況、レポート提出状況も最終評価において考慮する。
 備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第10回、11回、15回		第10回、11回、14回			

科目名/専門教育	YHS601	開設学期	履修形態	授業形態	単位数		実務家	AL
乳児保育 I	2年前期	必修	講義/単独	2単位	澤田 由美			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○ △

【授業のねらい】

現代における乳児を取り巻く環境を知り、保育者が実践している乳児保育についての意義・目的・役割等を理解する。また3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容、運営体制について理解し、保護者や地域の関係機関との連携の重要性を理解できるよう指導する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

教科書と「保育所保育指針」を使用し、乳児保育の意義・役割等、また発育・発達を踏まえた保育について学習していく。

【到達目標と学修成果】

- ①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割、乳児保育の現状と課題について理解できる。
- ②3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。
- ③乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	△シラバスを読み、授業の概要を確認する。テキストのpp.8-12を精読する 60 ▽乳児保育の意義・目的と歴史の変遷について整理する 120
第2回	乳児保育の役割と機能	△テキストのpp.10-13を精読する 60 ▽乳児保育の役割と機能について整理する 120
第3回	乳児保育における養護および教育	△テキストのpp.14-17を精読する 60 ▽乳児保育における養護および教育について整理する 120
第4回	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	△テキストのpp.20-29を精読する 60 ▽乳児保育の社会的状況と課題を整理する 120
第5回	保育所における乳児保育	△テキストのpp.32-42を精読する 60 ▽保育所における乳児保育について整理する 120
第6回	児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	△テキストのpp.44-56を精読する 60 ▽児童福祉施設における乳児保育について整理する 120
第7回	家庭的保育等における乳児保育	△テキストのpp.58-67を精読する 60 ▽家庭的保育等における乳児保育について整理する 120
第8回	3歳未満児の生活と環境	△テキストのpp.82-89を精読する 60 ▽3歳未満児の生活と環境について整理する 120
第9回	3歳未満児の遊びと環境	△テキストのpp.92-104を精読する 60 ▽3歳未満児の遊びと環境について整理する 120
第10回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	△テキストのpp.106-118を精読する 60 ▽3歳以上保育に移行する時期の保育について整理する 120
第11回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりと保育における配慮	△テキストのpp.120-141を精読する 60 ▽保育士等による援助や関わりについて整理する 120
第12回	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	△テキストのpp.144-151を精読する 60 ▽計画・記録・評価とその意義について整理する 120
第13回	職員間、関係機関等との連携・協働	△テキストのpp.154-163を精読する 60 ▽職員間、関係機関等との連携・協働について整理する 120
第14回	保護者との連携・協働	△テキストのpp.166-176を精読する 60 ▽保護者との連携・協働について整理する 120
第15回	試験とまとめ	△第1回から第14回の授業内容を確認する 60 ▽授業内容を整理する 120

備考: 2700

【履修上の留意点】

予習・復習をしっかりと行ってください。
毎回授業終了後ミニッツペーパー(授業開始時に配布)を提出してください。

【テキスト】

監修：公益財団法人児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷香『新基本保育シリーズ15 乳児保育I・II』中央法規、2019年

【参考書・参考資料等】

厚生労働省『保育所保育指針』平成29年告示

【連絡方法】

授業内で指示

【オフィスアワー】

火曜日 休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	70%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	③	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解、実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第3回					

科目名／専門教育	YHS602	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
乳児保育Ⅱ		2年後期	必修	演習/単独	1単位	澤田 由美		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。		
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○ △

【授業のねらい】
3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解し、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、また乳児保育における配慮の実践について知識・技能が身につくよう指導する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式で行う。3歳未満児の生活の流れを理解し、発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わり、環境の構成について学習する。

【到達目標と学修成果】
①3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解できる。
②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子ども生活や遊びと保育の方法及び環境について理解できる。
乳児保育における配慮の実践について知識・技能が身につく。
④乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 子どもと保育士等との関係の重要性	△テキストのp.192を精読する ▽子どもと保育士等との関係の重要性を整理する	15 30
第2回	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	△テキストのpp.192-194を精読する ▽受容的・応答的な関わりについて整理する	15 30
第3回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	△テキストのp.194を精読する ▽主体性の尊重と自己の育ちについて整理する	15 30
第4回	子どもの体験と学びの芽生え	△テキストのp.195を精読する ▽子どもの体験と学びの芽生えについて整理する	15 30
第5回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境(0歳児)	△テキストのpp.202-205を精読する ▽0歳児の生活の流れと環境について整理する	15 30
第6回	生活や遊びを支える環境の構成(0歳児)	△テキストのpp.212-213を精読する ▽0歳児の生活や遊びの環境構成について整理する	15 30
第7回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びと援助の実践(0歳児)	△テキストのpp.222-225を精読する ▽0歳児の生活・遊びと援助の実践について整理する	15 30
第8回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境(1・2歳児)	△テキストのpp.232-235,pp.262-263を精読する ▽1歳児の生活の流れと保育の環境について整理する	15 30
第9回	子どもの生活や遊びを支える環境の構成(1・2歳児)	△テキストのpp.242-245,pp.272-273を精読する ▽1歳児の生活・遊びと援助の実践について整理する	15 30
第10回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びと援助の実践(1・2歳児)	△テキストのpp.252-255,pp.282-283を精読する ▽2歳児の生活の流れと保育の環境について整理する	15 30
第11回	子ども同士の関わりとその援助の実践	△テキストのp.258を精読する ▽2歳児の生活・遊びと援助の実践について整理する	15 30
第12回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	△テキストのpp.292-295を精読する ▽子ども同士の関わりとその援助について整理する	15 30
第13回	集団での生活における配慮及び環境の変化や移行に対する配慮	△テキストのpp.302-305,pp.312-315を精読する ▽心身の健康・安全と情緒の安定について整理する	15 30
第14回	長期的な指導計画と短期的な指導計画・個別の指導計画と集団の指導計画	△テキストのpp.326-331,pp.338-339を精読する ▽生活や環境の変化に対する配慮について整理する	15 30
第15回	試験とまとめ	△第1回～第14回の整理した内容を確認する。 ▽授業内容全体を整理する。	15 30

備考： 675

【履修上の留意点】
毎回授業終了後ミニッツペーパー(授業開始時に配布)を提出してください。授業に必要な持ち物は事前に連絡します。

【テキスト】
監修：公益財団法人児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷香『新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』中央法規、2019年

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】 授業内で指示
【オフィスアワー】 火曜日 休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	試験 (発表含む)	① ② ③ ④	70%		・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。
期末レポート	③ ④	10%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・根拠かつ丁寧に推察されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁・期日が守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③ ④	20%		・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第2回					

科目名／専門教育	YHS603	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
障害児保育		2年前期	必修	演習/単独	2単位	池口 洋一郎		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会的・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

障害児保育を支える理念や歴史の変遷の背景を学ぶとともに、様々な障害の特性を理解しインクルーシブ保育における支援の在り方を探る。その中でも発達障害については、その特性や検査についても理解する。また、保護者対応や関係機関との連携についても理解し、将来保育、幼稚園等の現場で有効な対応力の基礎を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

障害児、特別な配慮を必要とする子どもへの保育に関する現状を学ぶ。映像や配布資料により具体的に学び、協議し、自分で考えたことや調べたことをまとめていく。また、個別指導計画や個別支援計画についても学ぶ。

【到達目標と学修成果】

①障害の特性を理解する。②発達検査について理解する。③子どもの状況に応じた個別指導計画や個別支援計画を理解、策定することができる。④特別支援教育全体の視点からインクルーシブ保育の視点で保育者の役割を理解する。⑤保護者との適切な対応ができる基礎力を身に付ける。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▼事後 / 分】	
第1回	ガイダンス 授業の概要と進め方、評価方法についての説明	△シラバスを読み、授業の概要を確認する。 ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90 90
第2回	障害児保育の基本、「障害」の概念、障害児保育、教育（特別支援教育）の歴史的変遷	△テキスト第1,2講を読み、障害児保育、世界の動きについて理解する。 ▽配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第3回	障害児支援に関する法制度、合理的配慮とは	△テキスト第1,2講を読み、障害児保育、世界の動きについて理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第4回	肢体不自由児の理解と援助	△テキスト第3講を読み、肢体不自由児について事前に理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第5回	知的障害児の理解と援助	△テキスト第4講を読み、知的障害児について事前に理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第6回	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助	△テキスト第5講を読み、視覚・聴覚・言語障害児について事前に理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第7回	発達障害児の理解と援助 (ADHD, LD)	△テキスト第6講を読み、発達障害児について事前に理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第8回	発達障害児の理解と援助 (ASD) 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助	△テキスト第7講を読み、発達障害児、特別な配慮を要する子どもについて理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第9回	発達検査の基礎	△WISK・IVについて文献、インターネット等で事前に調べる。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第10回	発達検査の見取りと活用	△WISK・IVの活用事例について文献、インターネット等で事前に調べる。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第11回	個別の指導計画、支援計画	△テキスト第8講を読み、個別指導計画、個別支援計画について理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第12回	職員間の連携・共働 (就学支援委員会や保育園、幼稚園、小学校内での委員会の取組)	△テキスト第11講を読み、個別指導計画、個別支援計画について理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第13回	保護者に対する理解や支援	△テキスト第12講を読み、家族支援の概要について理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第14回	保護者対応についての基本的な在り方	△テキスト第12講を読み、家族支援の概要について理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90
第15回	家庭及び自治体、関係機関との連携、全体のまとめ	△テキスト第13,14講を読み、家族支援の概要について理解する。 ▽テキスト、配布資料等を参考に、授業をまとめる。	90 90

備考：

2700

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(40%)および期末試験(40%)、授業外での活動(20%)によって総合的に評価する。

【テキスト】

障害児保育 公益財団法人児童育成協会 西村・水田(編) 中央法規(2019)

【参考書・参考資料等】

随時、授業の中で紹介する。

【連絡方法】

授業開始時に提示する。

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	割合 (%)						
試験 (発表含む)	① ② ③ ④ ⑤	40	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③ ④ ⑤	40	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ② ③ ④ ⑤	20	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第2・10・13・14回					

科目名／専門教育	YHS604	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会的養護Ⅱ		2年前期	必修	演習/単独	2単位	佐藤 東	○	

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

今日の社会的養護は、深刻化する児童虐待のセーフティネットとしての役割が高まるとともに、要保護児童、家族の支援ニーズが複雑化、多様化している。これらの諸ニーズに適切に対応していくために子どもと家族の状況の理解と日々の養育・支援や専門的な支援、関係者、関係機関との連携方法等の実際についての理解を深めることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

①社会的養護の基本原理に基づく、日常生活支援、治療的支援、家族支援、自立支援等の実際を事例を用い演習形式で学ぶ、②支援技法の柱、アセスメント(課題分析)と自立支援計画作成手法を演習形式で学ぶ、③被措置児童等虐待、マルトリートメントなど児童の権利擁護の実際を演習形式で学ぶ。

【到達目標と学修成果】

①社会的養護における子どもの特性等を理解し支援できる。②施設養護及び家庭養護の養育・支援の基本原則等を理解し説明できる。③アセスメント手法及び児童自立支援計画作成手法等を理解し活用できる。④生活支援、治療的支援、自立支援、家族支援、チーム支援(職種間連携)の実際を理解し実践できる。⑤児童相談所等関係機関連携の理解し実践できる。⑥専門職として児童の権利擁護の理解し実践できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▼事後 / 分]	
第1回	ガイダンス及び社会的養護Ⅰの振り返り	△社会的養護Ⅰの振り返り ▽設定課題のまとめ	90 90
第2回	子どもの権利擁護及び子どもの理解 ・権利擁護の基本 ・権利擁護の具体的取組 ・子どもの理解	△テキストP2～P22の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第3回	社会的養護の内容 ①日常生活支援 ②心理的支援 ・日常生活支援 ・心理的支援	△テキストP26～P48の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第4回	社会的養護の内容 ③自立支援 ④家庭支援 ・自立支援 ・家庭支援	△テキストP50～P60 P158～P170の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第5回	施設養護の生活特性及び実際 ①乳児院等 ②児童自立支援生活施設等 ・乳児院等の生活特性等 ・児童自立支援施設等の生活特性等	△テキストP62～P84の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第6回	家庭養護の生活特性及び実際 ・家庭養護の生活特性等	△テキストP86～P94の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第7回	社会的養護における専門的知識・技術等① ・保育の専門性 ・保育士の実践 ・記録及び自己評価	△テキストP110～P132の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第8回	社会的養護における専門的知識・技術等② ・ソーシャルワークの基本 ・児童相談所等関係機関との連携・協同	△テキストP134～P143の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第9回	社会的養護における専門的知識・技術等② ・社会的養護におけるソーシャルワーク ・ジェノグラム、エコマップ等	△テキストP146～P156の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第10回	児童養護施設等のアセスメントと児童自立支援計画① 課題分析手法(アセスメント手法)と自立支援計画作成手法	△テキストP98～P108の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第11回	児童養護施設等のアセスメントと児童自立支援計画② 課題分析手法(アセスメント手法)と自立支援計画作成手法	△テキストP98～P108の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第12回	児童養護施設等のアセスメントと児童自立支援計画③ 課題分析手法(アセスメント手法)と自立支援計画作成手法	△テキストP98～P108の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第13回	社会的養護の課題と展望 ・社会的養護の時代的背景と課題 ・社会的養護の展望	△テキストP172～P181の予習 ▽設定課題のまとめ	90 90
第14回	社会的養護Ⅱ全般のまとめ	△これまでの授業をふりかえる ▽設定課題のまとめ	90 90
第15回	試験とまとめ	△これまでの資料を整理し、ふりかえる ▽試験内容に関して、ふりかえる	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(社会福祉士・介護支援専門相談員指導者)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【履修上の留意点】
【テキスト】 新基本保育シリーズ®「社会的養護Ⅱ」中央法規
【参考書・参考資料等】 ① 相澤仁・奥山真紀子編「生活の中の養育・支援の実際」明石書店 ② 相澤仁・柏女壺峰・渋谷昌子史編「子どもの養育・支援の原理(社会的養護総論)」明石書店 ③ 庄司順一編「里親養育を知るための基礎知識」明石書店
【連絡方法】 授業時に指示する。
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90～100点)	優れている (A:80～89)	平均的 (B:70～79)	努力を要する (C:60～69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ⑤ ⑥	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ⑤ ⑥	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠と先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)							
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名／専門教育	YHS605	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
地域の子育てと保育体験		1年後期	必修	演習/複数	1単位	菊池 大介	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

保育所保育指針を読み解き、民主主義的な価値観と乳幼児期における保育の在り方の関連性を理解する。人間学的な視点から保育についての理解を深め、専門性を通した子育ての支援について理解を深める。フィールドワークを通して当事者意識を持ち、具体的な援助の内容や方法、援助の基本を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。様々な地域における子育てを援助する意義や基本について理解したうえで、さまざまな場や対象に合った実践的専門的な援助の内容、方法及び技術を学び、理解を深める。地域の子育てに関連する現場(プレーパークを予定)に赴いて、保育の視点から家庭や地域への援助の在り方を子どもの育ちと関連づけて考察し、事後にはレポートを作成して各自の課題をまとめる。

【到達目標と学修成果】

①保育者の専門性を踏まえて、地域における子育ての意義、役割を理解している。②具体的な援助のねらい、内容、方法について理解している。③保育所保育指針を読み解き、保育の質向上の必要性を理解している。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	オリエンテーション 授業の進め方	△シラバスを読み、授業の概要を確認する 20 ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する 25
第2回	私たちの保育を理解する:世界の保育との対比から子育て支援の概要(1)地域社会における子育て支援の現状	△子育て支援の現状についてインターネットで検索する 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第3回	地域社会における子育て①子育て支援を考える	△子育て支援についてインターネットで検索する 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第4回	地域社会における子育て②地域における子育てと援助	△地域の子育ての実際をインターネットで検索する 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第5回	プレーパークから考える子どもの育ちと援助①プレーパーク	△プレーパークについてインターネットで調べる 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第6回	プレーパークから考える子どもの育ちと援助②子どもの権利条約(川崎)	△プレーパークについてインターネット等で調べる 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第7回	民主主義の場としての地域	△エンゲストロームと学びの理論について調べる 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第8回	民主主義と地域の子育て	△エンゲストロームと学びの理論について調べる 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第9回	地域における子どもの育ち	△民主主義と子育てについて調べる 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第10回	子どもの居場所作りと家庭支援	△子ども居場所作りについて調べる 20 ▽事前学習と授業をとおして理解した内容についてノートにまとめる 25
第11回	フィールドワーク(子育て支援センター)	△書類、持参物、服装について確認する 20 ▽保育体験をとおして気づいたことをノートにまとめる 25
第12回	フィールドワーク(児童館)	△書類、持参物、服装について確認する 20 ▽保育体験をとおして気づいたことをノートにまとめる 25
第13回	フィールドワーク(プレーパーク)	△書類、持参物、服装について確認する 20 ▽保育体験をとおして気づいたことをノートにまとめる 25
第14回	フィールドワーク(保育所)	△書類、持参物、服装について確認する 20 ▽保育体験をとおして気づいたことをノートにまとめる 25
第15回	まとめ レポート作成 省察と課題	△保育体験をとおして学んだことをレポートにまとめる(下書き) 20 ▽保育体験をとおして学んだことをレポートにまとめる(清書) 25

備考: この科目では、担当者の実務経験(保育士)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】
5回以上の欠席は、単位修得不可とする。授業開始時間より20分以降は入室不可とする。公共交通機関による大幅な遅れ(30分以上)以外の遅延は認めない。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書・参考資料等】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編) その他、授業のなかで適宜、紹介する。
イラストたぶつりやさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック 2017年 告示版 Gakken

【連絡方法】

実習メール、授業内での指示及び掲示を確認

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・根重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みむことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				11~14		5, 6

科目名/専門教育	YHS606	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育方法(理論と実践)		1年後期	必修	講義/単独	2単位	石井 友行	○	○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

幼児、児童の実態に合わせた教育方法と教育技術(情報機器及び教材活用を含む)の習得はとても大切なことである。教育方法の歴史や変遷について基礎的基本的なことを概説する。そして、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

教育方法の基礎的な部分は、講義形式で行うが双方向的な議論も取り入れる。実践的な課題に取り組み、実際に教材開発を行う。そのために、教材開発の視点について考えたり話し合ったりする。

【**到達目標と学修成果**】

- ①教育方法の基礎的理論を理解する。
- ②効果的な授業作りへの指導技術(情報機器を含む)を身につける。
- ③適切な教材作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	教育方法を学ぶことの意義について 「教育という営みと授業」について考える。教育の目指すものは何か。教育で育つものは何か。	△資料(教育の目指すものについて)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第2回	社会的な背景によって変わる学校教育・幼児教育と教育方法	△資料(教育方法)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第3回	カリキュラム論「何を教えるか」「どう教えるか」 新学習指導要領で変わる教育	△資料(カリキュラム論)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第4回	教育方法と学校・学級の経営① 学校という制度、学校の経営と教育方法の工夫	△資料(学校・学級経営)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第5回	教育方法と学校・学級の経営② 学級という集団と教師の役割について考える。 教師の仕事内容、リーダーシップの在り方について検討する。	△資料(教師の仕事内容)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第6回	教育方法・技術①(語術・板書など) 授業や保育を行う上で基礎的な技術について	△資料(基礎的技術)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第7回	教育方法・技術②(授業構成力) 主体的・対話的学びを作り出すために	△資料(授業構成力)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第8回	教育方法・技術③(学習指導要領から指導案作り) 授業づくりと学習指導案の関連性。	△資料(指導案作り)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第9回	教材研究① 教材・学習材の活用 教材・学習材とは何か。教科書の果たす役割は何か。教具の種類と使い方を考える。	△資料(教材・学習材の活用)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第10回	教材教具の活用 板書計画、黒板への板書、実物投影機の活用など	△資料(視聴覚教材の活用)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第11回	視聴覚教材の作成 これまでの学習成果を生かして教材を作成する。	△資料(視聴覚教材)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第12回	視聴覚教材を提示した授業づくりと評価 模擬的な授業をプレゼンテーションする。授業評価の仕方について。	△資料(教材作り)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第13回	情報機器の基本的活用 パワーポイントを活用した模擬授業を考案する。	△資料(情報機器の活用)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第14回	情報機器を利用した授業づくり 模擬的な授業のプレゼンテーションする。	△資料(情報機器の授業づくり)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第15回	まとめ 教育のできる教育者・保育者を目指して	△今までの学修を振り返る。 ▽この授業での学びについてまとめる。	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【**履修上の留意点**】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末試験(50%)、課題(20%)によって総合的に評価する。

【**テキスト**】

特になし

【**参考書・参考資料等**】

柴田義松・山崎準二編 『教育方法と技術』学文社 2013
篠原正典・宮寺晃夫編 『新しい教育方法と技術』ミネルバ書房 2013

【**連絡方法**】

授業時に伝える

【**オフィスアワー**】

授業前後の休み時間

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	50%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がなされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がなされていない。
期末 レポート	②	20%	・課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	・課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 ・誤字・脱字・文法などに誤りがない。 ・指定の体裁が整えられている。	・課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 ・論理に一貫性はあるが、客観的な根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法などに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 ・論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 ・誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 ・指定の体裁は守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容をわかっていない。 ・誤字・脱字・文法に誤りが多い。 ・指定の体裁、期日も守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			12回～14回	10回・11回		

科目名／専門教育	YHS607	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育教材研究(うたと手遊び)		1年前期	必修	演習/複数	1単位	松田 扶美子・信太 朋子	○	○
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							○

【授業のねらい】
 子どもの関わりを豊かにするための手遊び・わらべうた・ペープサートの演習をとおして実習における技能を高める。
 グループワークやディスカッションをとおして保育現場で必要とされるチームワーク力を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 演習形式で行う。グループワークを取り入れてうたとわらべうた、手遊びの習得およびその必要性について理解する
 手遊びBOOK作製においては、事前に連絡されたものを各自準備して授業に臨む。

【到達目標と学修成果】
 ①保育の内容に即した手遊びやうた・わらべうたの技能を身につけることができる。
 ②演習で学んだ技術を現場における教材の活用に応用できる。
 ③美しい声の出し方、発声の基礎を学び、手遊びやわらべうたに反映することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	オリエンテーション(みんなで歌おう・歌って楽しい！)	△シラバスに目を通しておく 15 ▽群読の練習 30
第2回	保育の中のわらべうたと手遊びの意義と役割	△群読の練習 15 ▽わらべうたの意義と役割のレポート作成提出 30
第3回	歌ってみよう手遊びとわらべうた(乳児編・実践演習)	△教科書指定ページを読み練習しておく 15 ▽本日のわらべうたの反復練習 30
第4回	実践・手遊び(ほ歌ってみよう手遊びとわらべうた(幼児編・実践演習))	△教科書指定ページを読み練習しておく 15 ▽本日のわらべうたの反復練習 30
第5回	実践・手遊び(保育活動と手遊びの関係)	△教科書指定ページを読み練習しておく 15 ▽本日の手遊びの反復練習 30
第6回	実践・手遊び(季節・行事・時間・場面をとらえた手遊び)	△教科書指定ページを読み練習しておく 15 ▽本日の手遊びの反復練習 30
第7回	保育で生かせる手遊びとうた	△子どものころのわらべ歌を思い出しておく 15 ▽本日の手遊びの反復練習 30
第8回	二人組・集団でできる手遊びとわらべうた	△教科書指定ページを読み練習しておく 15 ▽本日の手遊びの反復練習 30
第9回	ペープサート製作題材決め・案作り・作成・動かし方・歌い方	△教科書指定ページを読み練習しておく 15 ▽本日の手遊びの反復練習 30
第10回	ペープサート製作	△教科書指定ページを読み返しておく 15 ▽振り返りレポートの作成 30
第11回	手遊び・ペープサートの実践発表会に向けての練習・発表①	△手遊び・わらべうた発表会に向けグループ練習 15 ▽改善点を振り返りグループ練習 30
第12回	手遊び・ペープサートの実践発表会②	△手遊びBOOKの準備 15 ▽手遊びBOOKの表紙製作 30
第13回	指導案の作成・手遊びBOOKの製作(作り方とアイデア)	△手遊びBOOKの準備 15 ▽手遊びBOOKの表紙製作 30
第14回	指導案の発表①手遊びBOOKの製作(完成)	△手遊びBOOK 15 ▽プレゼンシートの仕上げ 30
第15回	指導案の発表②まとめ・振り返りシート	△手遊びBOOKの活用法を考える 15 ▽学んできた手遊び・うた・わらべうたの整理をする 30

備考：この科目では、担当者の実務経験(幼稚園教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】 ・うたと手遊び専用のプリント収納ファイルを1冊準備し、毎回持参すること ・ペープサートおよび手遊びBOOK作製においてクレヨン・のり・サインペンなどは各自準備のこと
【テキスト】 「子どもに人気のふれあい遊び」 ひとなる書房
【参考書・参考資料等】 「わらべうた わたしたちの音楽 保育園・幼稚園の実践」 コダウイ芸術教育研究所著 明治図書出版
【連絡方法】 毎回授業時に知らせる
【オフィスアワー】 水曜日 昼休み

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)	
	試験 (発表含む)	①	③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②		30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。	
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	③	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②		20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みむことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。	

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	12・13		12		5・8	3・4・5

科目名／専門教育	YHS608	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽Ⅱ(うたと楽器)	2年前期	必修	演習/複数	1単位	松田 扶美子・坂田 舞子			

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○ ○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎ ○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○ ◎

【授業のねらい】

音楽Ⅰにおいて獲得した保育・幼児教育・初等教育現場に必要な音楽的技術・技能をさらに応用できる力の獲得を目指す。常に現場を意識し、子どもの表現を受け止めることのできる豊かな感性・表現力を身につけ、実習に対応できる音楽技術・技能・総合的音楽表現力の獲得を目指す。日本の楽器の奏法や子ども教育への応用について学び、伝統音楽を身近に感じられるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。音楽Ⅰで修得した音楽的技術を子どもの発達に即した遊び・表現に関連させて学習する。そのための歌唱・器楽奏法(日本の楽器を含む)・作編曲法・指揮法・伴奏法の技術・技能の一層の向上をはかり、現場での実践力を身につけるために音楽創作活動・音楽表現活動・身体表現活動・造形表現活動などを取り入れた総合的な表現能力を身につける。

【到達目標と学修成果】

①音楽の基礎理論及び基礎的な技術・技能をもとに、さらに新しい知識、記述、技能を修得することができる。
②歌唱及び器楽(日本の楽器を含む)の基礎実技を生かし、実習を意識し現場に必要な音楽創作活動、音楽表現活動、身体表現活動、造形表現活動を取り入れた総合的な表現力を身につける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス、授業の概要の説明、授業準備について、授業の進め方、評価方法について	△子どもの歌レパートリー表の作成 20 ▽三味線のセッティングの練習 20
第2回	①保育における子どもの歌「童謡1」、ボイストレーニング ②三味線のセッティング、調弦の練習	△セッティングの練習、発声時の姿勢の復習 20 ▽三味線の片づけの練習、調弦の練習 20
第3回	①保育における器楽演奏法1 ②三味線の調弦と開放弦の奏法及び開放弦を使ったリズム練習	△調弦の練習、発声におけるの腹式呼吸 20 ▽三味線の片づけの練習、呼吸トレーニング 20
第4回	①保育における子どもの歌「童謡2」、ボイストレーニング ②文化譜の読譜、三下り練習曲	△読譜の練習、ハミングの練習 20 ▽三下り練習曲1、ハミングの応用 20
第5回	①保育における器楽演奏法2 ②「スクイ」の練習	△調弦及び読譜の練習、発声練習 20 ▽「スクイ」の練習、春の童謡の練習 20
第6回	①春の童謡、夏の童謡②「ハジキ」の練習	△「スクイ」の練習、春の童謡の練習 20 ▽「ハジキ」の練習、夏の童謡の練習 20
第7回	①「スクイ」と「ハジキ」の練習	△「ハジキ」の練習、夏の童謡の練習 20 ▽「スクイ」と「ハジキ」の練習 20
第8回	①歌唱と音楽遊び実践1(グループ活動) ②夏の曲Aの練習1	△秋の童謡の練習 20 ▽三味線夏の曲Aの練習 20
第9回	①合奏編曲と音楽遊び実践2(グループ活動) ②夏の曲Aの練習2	△三味線夏の曲Aの練習 20 ▽秋の童謡の練習 20
第10回	①歌唱と音楽遊び実践2(グループ活動) ②夏の曲Bの練習1	△冬の童謡の練習 20 ▽三味線夏の曲Bの練習 20
第11回	①合奏編曲と音楽遊び実践3(グループ活動)	△三味線夏の曲Bの練習 20 ▽冬の童謡の練習 20
第12回	①歌唱と音楽遊び実践3(グループ活動) ②夏の練習曲Bの練習2	△合奏の練習、調弦の練習 30 ▽合奏の練習 30
第13回	合唱奏題材、資料研究	△唱と合奏の発表課題曲練習 30 ▽歌唱と合奏の発表課題練習曲 30
第14回	合唱奏のグループ分けと役割分担	△三味線発表課題曲の練習 30 ▽三味線発表課題曲の練習 30
第15回	まとめ	△歌唱と合奏の課題曲のふりかえり 30 ▽授業の振り返りシートの作成 25

備考：

675

【履修上の留意点】

【テキスト】

「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2」 吉田梓監修 音楽之友社

【参考書・参考資料等】

【連絡方法】

matsuda@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】

木曜日昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験(発表含む)	① ②	50%	音楽の知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	音楽の知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	音楽の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	音楽の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	音楽の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	30%	課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第15回		第13,14回			

科目名/専門教育	YHS608	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽Ⅱ(うたと楽器)		2年後期	必修	演習/複数	1単位	松田 扶美子・坂田 舞子		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

音楽Ⅰにおいて獲得した保育・幼児教育・初等教育現場に必要な音楽的技術・技能をさらに応用できる力の獲得を目指す。常に現場を意識し、子どもの表現を受け止めることのできる豊かな感性・表現力を身につけ、実習に対応できる音楽技術・技能・総合的音楽表現力の獲得を目指す。日本の楽器の奏法や子ども教育への応用について学び、伝統音楽を身近に感じられるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。音楽Ⅰで修得した音楽的技術を子どもの発達に即した遊び・表現に関連させて学習する。そのための歌唱・器楽奏法(日本の楽器を含む)・作編曲法・指揮法・伴奏法の技術・技能の一層の向上をはかり、現場での実践力を身につけるために音楽創作活動・音楽表現活動・身体表現活動・造形表現活動などを取り入れた総合的な表現能力を身につける。

【到達目標と学修成果】

①音楽の基礎理論及び基礎的な技術、技能をもとに、さらに新しい知識、技術、技能を修得することができる。
②歌唱及び器楽(日本の楽器を含む)の基礎実技を生かし、実習を意識し現場に必要な音楽創作活動、音楽表現活動、身体表現活動、造形表現活動を取り入れた総合的な音楽活動を実践・展開することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス、大鼓・箏の楽器の扱い方	△前期の復習	20
		▽小鼓の使い方	20
第2回	グループ合奏編曲譜作成①(ペースを入れる)、縮太鼓・大太鼓を用いたリズム練習	△小鼓のリズム練習	20
		▽合奏編曲譜の書き方の復習	20
第3回	旋律をつくろう①(メロディーを入れる)、箏の基礎学習、読譜及び「さくら」の練習	△縮太鼓・大太鼓の理済み練習	20
		▽箏の「さくら」の練習	20
第4回	旋律をつくろう②(リズムパートを入れる)、童謡のインザッツ指導法	△箏の基本奏法の練習	20
		▽童謡の指揮法の練習	20
第5回	箏の基本奏法、押し手の練習	△童謡の指揮法の応用練習	20
		▽押し手の練習	20
第6回	ピアノ弾き歌い(生活の歌)(秋の歌)、押し手の復習	△ピアノ弾き歌いの練習(生活の歌)	20
		▽ピアノ弾き歌いの練習(秋の歌)	20
第7回	グループ合奏編曲譜作成②、グループ合奏パート決め、ピアノ弾き歌い(冬)	△ピアノ弾き歌いの練習(冬の歌)	20
		▽箏の課題曲の練習	20
第8回	グループ合奏編曲譜作成③(和音伴奏付け)、合唱奏パート練習	△三味線のセンティングの練習	20
		▽三味線の課題曲の練習	20
第9回	グループ合奏編曲譜仕上げ、合唱奏パート練習、発表に向けた三味線練習	△合唱奏の練習	20
		▽合唱奏の練習	20
第10回	グループ合奏練習①(編曲譜グループ合奏)、合唱奏通し練習とパート練習(テンポ・リズム)	△箏及び三味線の調弦の練習	20
		▽箏及び三味線の調弦の練習	20
第11回	グループ合奏練習②(編曲譜グループ合奏仕上げ)、合唱奏通し練習とパート練習	△箏及び三味線の課題曲の練習	20
		▽箏及び三味線の課題曲の練習	20
第12回	合唱奏通し練習(曲想・強弱)、編曲譜グループ合奏発表	△和楽器の練習	30
		▽和楽器の練習	30
第13回	合唱奏の仕上げ(リハーサル)	△箏、三味線、小鼓の練習	30
		▽大太鼓・縮太鼓の練習	30
第14回	発表に向けた合唱奏仕上げ(舞台づくり)、合奏編曲譜提出	△合奏編曲の楽譜作成	30
		▽合奏編曲の楽譜訂正	30
第15回	発表とまとめ	△発表のための練習	30
		▽振り返りシートの作成	25

備考:

675

【履修上の留意点】
【テキスト】
「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2」吉田梓監修 音楽之友社
【参考書・参考資料等】
授業の進行にしたがって資料等配布する。
【連絡方法】
matsuda@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】
木曜日昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	50%	・音楽の知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・音楽の知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・音楽の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・音楽の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・音楽の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	① ②	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨むと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第13回		第14,15回			

科目名／専門教育	YHS609	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ピアノⅠ(ピアノの基礎)		1年前期	必修	演習/複数 クラス分け	1単位	伊藤 菜々子・角田 玲奈 中目 ますみ・福田 久美		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

ピアノ奏法の基礎を学ぶ。保育・初等教育の現場で必要なピアノ及び音楽の基礎知識を身につけ、楽譜から必要なことを読み取る力、美しい音でピアノを演奏する力を養い、音楽性豊かに教育現場で活用できる能力の獲得を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。ピアノ奏法の基礎を学ぶと同時に保育・教育の現場に求められる力としての歌唱教材伴奏法の修得による応用力、表現力を身につける。学生のピアノ経験別によるグレード制を取り入れ、グループレッスン、及び、個人レッスンの形態で授業を進める。

【到達目標と学修成果】

- ①ピアノ奏法の基礎を身につけ、基本的な読譜ができる。初心者の前期到達目標はバイエル78番とする。
- ②実習現場で必要とされる生活の歌などの童謡の伴奏ができる。
- ③能力に応じた簡単なピアノの楽曲演奏ができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス ピアノの授業の進め方、グレード制の説明、授業準備・レッスン記録についての説明	△ピアノ授業受講に際しての楽譜・楽器の準備、読譜練習 ▽授業の進め方・グレード確認・教材準備	25 20
第2回	基礎奏法の学習1 読譜練習1、運指法、ピアノの練習方法について	△読譜練習1予習・課題練習1 ▽読譜練習1復習・課題練習1復習	25 20
第3回	基礎奏法の学習2 読譜練習2、運指法、ピアノ楽曲紹介、模範演奏	△読譜練習2予習・課題練習2予習 ▽読譜練習2復習・課題練習2復習	25 20
第4回	基礎奏法の学習3 読譜練習3、運指法、ピアノ楽曲々目選択と練習1	△読譜練習3予習・課題練習3予習 ▽読譜練習3復習・課題練習3復習・楽曲練習1復習	25 20
第5回	基礎奏法の学習4 読譜練習4、運指法、ピアノ楽曲練習2(ト音記号の楽曲)	△読譜練習4予習・楽曲練習2予習 ▽読譜練習4復習・楽曲練習2復習	25 20
第6回	基礎奏法の学習5 読譜練習5、運指法、ピアノ楽曲練習3(ヘ音記号の楽曲)	△読譜練習5予習・楽曲練習3予習 ▽読譜練習5復習・楽曲練習3復習	25 20
第7回	基礎奏法の学習6 読譜練習6、運指法、ピアノ楽曲練習4(強弱・曲想のつけ方)	△読譜練習6予習・楽曲練習4予習 ▽読譜練習6復習・楽曲練習4復習	25 20
第8回	基礎奏法の学習7 読譜練習7、運指法、ピアノ楽曲練習5(付点音符の演奏方法)、童謡(生活の歌)紹介、模範演奏	△読譜練習7予習・楽曲練習5予習 ▽読譜練習7復習・楽曲練習5復習	25 20
第9回	基礎奏法の学習8 読譜練習8、運指法、ピアノ楽曲練習6(スケールについて)、童謡(生活の歌)曲目選択	△読譜練習8予習・楽曲練習6予習・童謡練習予習 ▽読譜練習8復習・楽曲練習6予習・童謡練習復習	25 20
第10回	基礎奏法の学習9 読譜練習9、運指法、ピアノ楽曲練習7(調号・臨時記号)、童謡(生活の歌)伴奏練習	△読譜練習9予習・楽曲練習7予習・童謡伴奏練習予習 ▽読譜練習9復習・楽曲練習7復習・童謡伴奏練習復習	25 20
第11回	基礎奏法の学習10 読譜練習10、運指法、ピアノ楽曲練習8(3連符について)、童謡(季節の歌)紹介、模範演奏	△読譜練習10予習・楽曲練習8予習・童謡伴奏練習予習 ▽読譜練習10復習・楽曲練習8復習・童謡伴奏練習復習	25 20
第12回	基礎奏法の学習11 読譜練習11、運指法、ピアノ楽曲練習9(重音について)、童謡(季節の歌)曲目選択	△読譜練習11予習・楽曲練習9予習・童謡伴奏練習予習 ▽読譜練習11復習・楽曲練習9復習・童謡伴奏練習復習	25 20
第13回	基礎奏法の学習12 読譜練習12、運指法、ピアノ楽曲練習10(美しい音での演奏)、童謡(季節の歌)伴奏練習	△読譜練習12予習・楽曲練習10予習・童謡伴奏練習予習 ▽読譜練習12復習・楽曲練習10復習・童謡伴奏練習復習	25 20
第14回	ピアノ楽曲、童謡伴奏のまとめ	△ピアノ楽曲練習予習・童謡伴奏練習予習 ▽ピアノ楽曲練習復習・童謡伴奏練習復習・まとめ(暗譜)	25 20
第15回	まとめ 評価と課題のまとめ	△ピアノ楽曲発表練習・童謡伴奏発表練習 ▽発表のふりかえりとまとめ・後期予習課題の整理	25 20

備考:

【履修上の留意点】

グループレッスン、及び、個人レッスン形態である。個人レッスンの待機時間を自主練習とする。

【テキスト】

「バイエルピアノ教本」全音楽譜出版社、「ポケットいっぱい」教育芸術社

【参考書・参考資料等】

授業の中で適宜資料等を配布する。

【連絡方法】 授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	70%	・ピアノ奏法についての知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・ピアノ奏法についての知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・ピアノ奏法についての基本的な知識の習得が認められる。	・ピアノ奏法についての基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・ピアノ奏法についての基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	③	10%	・積極的に主体的に授業に臨み、ピアノ演奏課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・技能が十分に身につけていることが認められる。	・積極的、主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・技能が身につけていることが認められる。	・積極的、主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・技能の習得に努めようとしていた。	・積極的、主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・技能の習得に努めようとしていた。	・授業に対する取り組みが不十分で、学習内容の理解、技能の習得が不足している。
授業外での 取組	② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			15回			

科目名／専門教育	YHS609	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ピアノⅠ(ピアノの基礎)		1年後期	必修	演習/複数クラス分け	1単位	伊藤 菜々子・角田 玲奈 中目 ますみ・福田 久美		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

ピアノ奏法の基礎を学ぶ。保育・初等教育の現場で必要なピアノ及び音楽の基礎知識を身につけ、楽譜から必要なことを読み取る力、美しい音でピアノを演奏する力を養い音楽性豊かに教育現場で活用できる能力の獲得を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。ピアノ奏法の基礎を学ぶと同時に保育・教育の現場に求められる力としての歌唱教材伴奏法の修得による応用力、表現力を身につける。学生のピアノ経験別によるグレード制を取り入れ、グループレッスン、及び、個人レッスンの形態で授業を進める。

【到達目標と学修成果】

- ①ピアノ奏法の基礎を身につけ、基本的な読譜ができる。
- ②実習現場で必要とされる生活の歌などの童謡の伴奏ができる。
- ③能力に応じた簡単なピアノの楽曲演奏ができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▼事後 / 分】	
第1回	ガイダンス ピアノ曲の学習について学ぶ、童謡伴奏について学ぶ	△ピアノ受講に際しての楽譜の準備・前期復習 ▽童謡伴奏曲の決定・事前練習	25 20
第2回	基礎の復習1 ピアノ楽曲紹介、模範演奏	△基礎練習復習1 ▽基礎練習復習1・楽曲選択及び練習1	25 20
第3回	基礎の復習2 ピアノ楽曲々目選択、練習1	△基礎練習復習2・楽曲練習予習1 ▽基礎練習復習2・楽曲練習復習1	25 20
第4回	童謡伴奏法1 かんたん伴奏法を学ぶ、ピアノ楽曲練習2	△童謡伴奏練習予習1・楽曲練習予習2 ▽童謡伴奏練習復習1・楽曲練習復習2	25 20
第5回	童謡伴奏法2 和音伴奏法を学ぶ、ピアノ楽曲練習3	△童謡伴奏練習予習2・楽曲練習予習3 ▽童謡伴奏練習復習2・楽曲練習復習3	25 20
第6回	童謡伴奏応用2 弾き歌い練習(和音伴奏による)、秋の童謡の練習2、ピアノ楽曲練習6	△童謡伴奏練習予習3・楽曲練習予習4 ▽童謡伴奏練習復習3・楽曲練習予習4	25 20
第7回	童謡伴奏応用1 弾き歌い練習(かんたん伴奏による)、秋の童謡の練習1、ピアノ楽曲練習5	△童謡伴奏応用練習予習1・弾き歌い練習予習1・楽曲練習予習5 ▽童謡伴奏応用練習復習1・弾き歌い練習復習1・楽曲練習復習5	25 20
第8回	童謡伴奏応用2 弾き歌い練習(和音伴奏による)、秋の童謡の練習2、ピアノ楽曲練習6	△童謡伴奏応用練習予習2・弾き歌い練習予習2・楽曲練習予習6 ▽童謡伴奏応用練習復習2・弾き歌い練習復習2・楽曲練習復習6	25 20
第9回	童謡伴奏応用3 弾き歌い練習(分散和音伴奏による)、冬の童謡の練習1、ピアノ楽曲練習7	△童謡伴奏応用練習予習3・弾き歌い練習予習3・楽曲練習予習7 ▽童謡伴奏応用練習復習3・弾き歌い練習復習3・楽曲練習復習7	25 20
第10回	童謡伴奏応用4 弾き歌いのまとめ、冬の童謡の練習2、ピアノ楽曲練習8	△童謡伴奏応用練習予習4・弾き歌い練習予習4・楽曲練習予習8 ▽童謡伴奏応用練習復習4・弾き歌い練習復習4・楽曲練習復習8	25 20
第11回	ピアノ楽曲読譜の完成 強弱・曲想のつけ方について学ぶ	△ピアノ楽曲読譜練習予習1・強弱・曲想記号予習1 ▽ピアノ楽曲読譜練習復習1・強弱・曲想記号復習1	25 20
第12回	ピアノ楽曲の完成 美しい音での演奏について学ぶ、暗譜について学ぶ	△美しい音での演奏練習予習1・暗譜練習予習1 ▽美しい音での演奏練習復習1・暗譜練習復習1	25 20
第13回	童謡伴奏の完成 子どもが歌いやすい伴奏について学ぶ	△童謡伴奏完成練習予習1・歌に合わせる練習予習1 ▽童謡伴奏完成練習復習1・歌に合わせる練習復習1	25 20
第14回	ピアノ楽曲・童謡伴奏の仕上げとまとめ	△ピアノ楽曲まとめ練習予習・童謡伴奏まとめ練習予習 ▽ピアノ楽曲まとめ練習復習・童謡伴奏まとめ練習復習	25 20
第15回	まとめ・評価と課題のまとめ	△ピアノ楽曲発表練習予習・童謡伴奏・弾き歌い発表練習 ▽演奏発表のふりかえり・ピアノⅡに向けた課題についてのまとめ	25 20

備考：

675

【履修上の留意点】

グループレッスン、及び、個人レッスン形態である。個人レッスンの待機時間を自主練習とする。

【テキスト】

「バイエルピアノ教本」全音楽譜出版社、「ポケットいっぱいの子」教育芸術社

【参考書・参考資料等】

授業の中で適宜資料等を配布する。

【連絡方法】 授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	70%	・ピアノ奏法についての知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・ピアノ奏法についての知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・ピアノ奏法についての基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・ピアノ奏法についての基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・ピアノ奏法について基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート							
授業内で の取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	③	10%	・積極的に主体的に授業に臨み、ピアノ演奏課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・技能が十分に身につけていることが認められる。	・積極的、主体的に授業に臨み、ピアノ演奏課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・技能が身につけていることが認められる。	・積極的、主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、ピアノ演奏に関する知識理解・技能の習得に努めようとしていた。	・積極的、主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、ピアノ演奏に関する知識理解・技能の習得に努めようとしていた。	・授業に対する取り組みが不十分で、学習内容の理解、技能の習得が不足している。
授業外で の取組	② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みができていた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			15回			

科目名／専門教育	617	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ピアノⅡ (弾き歌いと伴奏)		2年前期	選択	演習/複数クラス分け	1単位	伊藤 菜々子・角田 玲奈 中目 ますみ・福田 久美		
【ディプロマポリシー (DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							
【授業のねらい】								
ピアノⅠ (ピアノの基礎)で身に付けたピアノ演奏の基礎力をさらに高め、保育や教育の現場における音楽活動に必要な実践力、応用力、表現力を向上させる。具体的には、弾き歌いと伴奏法の基本、即興演奏の知識と技術を学び、現場で活用できる技能を養う。								
【授業概要 (授業形態・進め方等を含む)】								
演習形式である。童謡の弾き歌い、ピアノ伴奏法、ピアノによる即興演奏などの技術が身につくようソルフェージュ力を高めるとともに、美しい音楽の表現について理解し学べるよう個人と集団による授業を行う。各自の進捗については、「ピアノⅡ (弾き歌いと伴奏)ピアノグレード表」より適切な曲目を課題とする。								
【到達目標と学修成果】								
①教育実習や保育実習で、童謡、唱歌の伴奏、弾き歌いができる。 ②初見演奏、移調演奏、即興演奏、アンサンブル等の経験を通し、現場で必要な実践力と表現力を身につける。								

回数	授業内容	授業時間外の学修 【△事前 ▼事後 / 分】	
第1回	ガイダンス ・シラバスに基づき授業の進め方、授業内容の説明と各自の進捗の確認	△ 童謡数曲を準備し、弾けるようにしておく ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.7～p.8	25 20
第2回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎1(和音伴奏による) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.9～p.10	25 20
第3回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎2(かんたん伴奏による) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.12～p.13	25 20
第4回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎3(分散和音による) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.14	25 20
第5回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の基礎4(応用) ・和音伴奏法、コード伴奏法の練習	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.15	25 20
第6回	初見演奏の基本1 ・ハ長調とト長調の初見視唱と初見演奏	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.16	25 20
第7回	初見演奏の基本2 ・ヘ長調とニ長調の初見視唱と初見演奏	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.17、p.20	25 20
第8回	移調演奏の基本1 ・簡単な移調演奏 ハ長調→ト長調	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)より抜粋、テキスト3)p.21	25 20
第9回	移調演奏の基本2 ・簡単な移調演奏 ハ長調→ヘ長調	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.22	25 20
第10回	ソルフェージュ・チェック1 ・弾き歌い 生活の歌2曲、季節の歌2曲	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.23	25 20
第11回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の応用1 ・和音伴奏のアレンジの基本	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.24	25 20
第12回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の応用2 ・和音伴奏のアレンジの応用	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.26	25 20
第13回	発表に向けて1(個人練習)	△ 前回の復習 ▽ テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.27	25 20
第14回	発表に向けて2(グループリハーサル)	△ 前回の復習 ▽ 試験曲の準備、練習	25 20
第15回	まとめ ・発表、課題のまとめ	△ 前回の復習 ▽ 授業のまとめ	25 20

備考:

675

【履修上の留意点】
・子どもの音楽的経験を豊かにするための知識と技能を十分に身に付けることを目指す。 ・修得したピアノ演奏の基礎を活かした音楽的表現、美しい音の表現を目指す。
【テキスト】
1)「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2」吉田梓監修 東亜音楽社、2)「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社、3)「バイエルピアノ教本」全音出版社
【参考書・参考資料等】
授業の進行に沿って資料を配布する。
【連絡方法】
授業時に伝える
【オフィスアワー】
授業日の昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応 (評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	100%	・知識・理解・応用力 (実践力・ピアノ演奏能力) が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力 (実践力・ピアノ演奏能力) が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解及び技能の習得がなされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解及び技能の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の理解及び技能の習得がなされていない。
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)							
授業外での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			15回			

科目名/専門教育	617	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ピアノⅡ(弾き歌いと伴奏)	2年後期	選択	演習/複数クラス分け	1単位	伊藤 菜々子・角田 玲奈 中目 ますみ・福田 久美			
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション 力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							○
【授業のねらい】								
ピアノⅠ(ピアノの基礎)で身に付けたピアノ演奏の基礎力をさらに高め、保育や教育の現場における音楽活動に必要な実践力、応用力、表現力を向上させる。具体的には、弾き歌いや伴奏法の基本、即興演奏の知識と技術を学び、現場で活用できる技能を養う。								
【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】								
演習形式である。童謡の弾き歌い、ピアノ伴奏法、ピアノによる即興演奏などの技術が身につくようソルフェージュ力を高めるとともに、美しい音楽の表現について理解し学べるよう個人と集団による授業を行う。各自の進捗については、「ピアノⅡ(弾き歌いと伴奏)ピアノグレード表」より適切な曲目を課題とする。								
【到達目標と学修成果】								
①教育実習や保育実習で、童謡、唱歌の伴奏、弾き歌いができる。 ②初見演奏、移調演奏、即興演奏、アンサンブル等の経験を通し、現場で必要な実践力と表現力を身につける。								
回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▼事後 / 分]						
第1回	ソルフェージュ・チェック2 ・伴奏アレンジ 童謡3曲	△テキスト4)p.32～33を読み、授業に備える			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.34～p.35			20			
第2回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の音楽的表現1・さまざまな伴奏形の基	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.36			20			
第3回	童謡、唱歌の弾き歌いと伴奏法の音楽的表現2 ・さまざまな伴奏形の応用	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.37			20			
第4回	初見演奏の応用1 ・初見演奏 へ長調、ト長調	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.38			20			
第5回	初見演奏の応用2 ・初見演奏 へ長調	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.39			20			
第6回	初見演奏の応用3・初見演奏 二長調	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.43～p.44			20			
第7回	移調演奏の実践 ・簡単な移調演奏 ト長調→ホ短調	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.45			20			
第8回	即興演奏の実践1 ・簡単なテーマ曲をモチーフとする即興演奏	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.46			20			
第9回	即興演奏の実践2 ・自作メロディの即興演奏	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)p.47			20			
第10回	アンサンブルの基礎1 ・重唱、合唱の伴奏づけ(和音)	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)より抜粋			20			
第11回	アンサンブルの基礎2 ・重唱、合唱の伴奏づけ(分散和音)	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)より抜粋			20			
第12回	発表に向けて1(曲目決め)	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)より抜粋			20			
第13回	発表にむけて2(個人練習)	△前回の復習			25			
		▽テキスト1)・2)・4)より抜粋、テキスト3)より抜粋			20			
第14回	発表にむけて3(グループリハーサル)	△前回の復習			25			
		▽発表曲の準備、練習			20			
第15回	まとめ 演奏発表	△前回の復習			25			
		▽授業のまとめ			20			

備考:

675

【履修上の留意点】
・子どもの音楽的経験を豊かにするための知識と技能を十分に身に付けることを目指す。 ・修得したピアノ演奏の基礎を活かした音楽的表現、美しい音の表現を目指す。
【テキスト】
1)「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1,2」吉田梓監修 東亜音楽社、2)「ポケットいっぱいの歌」教育芸術社、3)「バイエルピアノ教本」以上全音出版社
【参考書・参考資料等】
授業の進行に沿って資料を配布する。
【連絡方法】
授業時に伝える
【オフィスアワー】
授業日の昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	100%	・知識・理解・応用力 (実践力・ピアノ演奏能力) が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力 (実践力・ピアノ演奏能力) が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得 や理解及び技能の習得 がなされていることが認められる。	・基本的な知識の習得 や理解及び技能の習得 が断片的であるため、 今後も努力を要する。	・基本的な知識の理解 及び技能の習得がなされていない。
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)							
授業外での 取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			15回			

科目名／専門教育	YHS610	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容総論		3年後期	必修	演習/単独	2単位	菊地 大介	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された各領域のねらい及び内容を理解する。
- ・乳幼児の発達に即した主体的・対話的な保育の実践方法を学ぶ。
- ・5領域で学んだ「保育内容」を「総論」として学びかつその意義について事例を通して捉えていく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

保育を実践するための具体的な環境構成と教材を活用した援助や方法を理解する。事例をもとにしたグループワークや発表を行い、学びを深める。保育・教育現場において効果的な情報機器の活用を学ぶ機会とする。

【到達目標と学修成果】

- ①園生活全体をとおして総合的に指導するという考え方を理解する。
- ②5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びをとおして育つことを理解する。
- ③保育における指導計画の考え方を理解し、子どもの発達過程を見通した指導計画作成を理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 保育内容総論とは 一総合的に指導するという考え方について	△教科書part1 保育の構造を読んでおく ▽課題レポートを仕上げる	90 90
第2回	保育内容の歴史的変遷について 社会的背景の変化と保育内容の関連について	△教科書P184～203を読んでおく ▽課題レポートを仕上げる	90 90
第3回	領域のねらい及び内容のつながり 遊びを通して総合的に育つことを理解し、指導上の留意点を考える	△教科書P14～16を読んでおく ▽自分レポート(遊び編)の作成	90 90
第4回	3歳未満児の発達の特性と生活と遊び・環境を通して行う総合的な保育について	△教科書P33～36を読んでおく ▽自分レポート(生活編)の作成	90 90
第5回	3歳以上児の発達の特性と生活と遊び・環境を通して行う総合的な保育について 幼児期の終わりまでに育ってほしい力の理解	△教科書p39～43を読んでおく ▽課題レポートを仕上げる	90 90
第6回	保育・教育現場におけるICTの利活用について	△幼児教育現場におけるICT利活用記事の収集 ▽記事の編集作業	90 90
第7回	養護と教育が一体的に展開する保育について 乳幼児の発達の特性をふまえた年齢別の遊びと環境について	△配付プリントを読んでおく ▽年齢別一覧の完成	90 90
第8回	個と集団の発達をふまえた保育／子どもの主体性を尊重する保育	△新聞遊びとおにごっこレポートの作成 ▽レポートを仕上げる	90 90
第9回	連携をふまえた保育について 0歳児から児童期まで発達の継続性／地域・家庭(子育て支援を含む)・小学校との連携	△プリント「ディベートの方法」の熟読 ▽ディベートレポートの作成	90 90
第10回	保育の多様な展開 長時間の保育／特別な配慮を要する子どもの保育／多文化共生の保育	△配付プリントを読んでおく ▽ディベートレポートの作成	90 90
第11回	教育課程・全体的な計画と指導計画について	△教科書P86～93を読んでおく ▽授業を踏まえて指導計画案および内容を考えておく	90 90
第12回	長期の指導計画・短期の指導計画の特徴について 一計画、評価の考え方と作成	△教科書P99～102を読んでおく ▽授業を踏まえて指導計画案および内容を考えておく	90 90
第13回	保育内容を総合的に理解し、教材を効果的に活用した指導案の作成を行う	△教科書P86～102を復習しておく ▽授業解説をもとに自身で指導案の手直しをする	90 90
第14回	指導案に基づいた模擬保育の実践	△グループで話し合いを行い実践計画をたてておく ▽グループで反省会を行い報告書作成・提出	90 90
第15回	模擬保育と授業のふりかえり	△振り返りシートの作成 ▽他者の意見を加えた振り返りシートの作成・提出	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(保育士)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】
・模擬保育における教材・素材などは各自準備する事(画用紙・折り紙などは要相談) ・配付プリントおよびワークシートを閉じるためのファイルは1冊あらかじめ購入しておくこと
【テキスト】
阿部和子・前原博・久富陽子 『新保育内容総論 保育の構造と実践の研究』 萌文書林
【参考書・参考資料等】
編集代表 秋田喜代美『よくわかる幼保連携型認定こども園教育・保育要領徹底ガイド』 『保育所保育指針』フレーベル館(2017)、『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(2017)、新聞記事など
【連絡方法】
【オフィスアワー】 水曜日昼休みなど

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	②	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁・期日が守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	③		20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	③		20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に不十分で、学習内容の理解が不足している。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：上記に加え、授業ファイルの作成と提出を義務付け評価に加味する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	14	15	14		4・5・6・7・8・9・10	7・8・9

科目名／専門教育	YHS611	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容(健康)	1年後期	必修	演習/単独	2単位	鈴木 琴子			○

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎ ○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
 幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基盤を作る時期であり、その能力を育むために必要な教育と指導を行うことは、保育の基本となる。「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために必要な理論、方法論を提供する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 パワーポイントのスライドや関連の映像を提示しながら講義形式で進める。保育者として必要な健康の概念、健康を守るためのシステムなどを基礎に、子どもを取り巻く現状、子どもと遊び、事故防止など具体的に新聞記事や映像資料等で確認しながら、理解を深める。

【到達目標と学修成果】
 ①保育内容における健康の意義を理解できる。
 ②子どもの健康を守る方法について理解でき、指導案の作成や情報機器等を活用した教材研究ができる。
 ③現代の子どもの現状を理解し、その対応について理解している。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	保育内容(健康)とはなにかを学ぶのか 幼稚園教育要領・保育所保育指針との関連から	△教科書P16～P18を予習する。 ▽教科書P78～P82を復習する。	90 90
第2回	健康とはなにか健康を守るシステムと保育実践	△教科書P8～P10を予習する。 ▽教科書P83～P85を復習する。	90 90
第3回	健康とはなにか わが国の保健行政	△教科書P51～P53を予習する。 ▽教科書P90～P95を復習する。	90 90
第4回	健康を守る方法 社会保障制度	△教科書P96～P98を予習する。 ▽教科書P86～P89を復習する。	90 90
第5回	現代の子どもの現状 現代の子どもの体力、遊び方について	△教科書P14～P15を予習する。 ▽教科書P121～P127を復習する。	90 90
第6回	子どもと遊び1 遊びと健康	△教科書P39～P46を予習する。 ▽教科書P121～P127を復習する。	90 90
第7回	子どもと遊び2 子どもの日常の変化と保育実践	△教科書P41～P50を予習する。 ▽教科書P143～P148を復習する。	90 90
第8回	子どもの発達 身体・運動の発達と生活習慣の形成(保健指導のための教材とその使用方法について)	△教科書P19～P32を予習する。 ▽教科書P72～P76、P134～P136を復習する。	90 90
第9回	生活習慣の形成 健康観察の方法(実践事例とその応用方法)	△教科書P32～P35を予習する。 ▽教科書P107～P112を復習する。	90 90
第10回	子どもと安全1 安全な環境のために	△教科書P134～P142を予習する。 ▽授業中に配布した資料を読み、ノートにまとめる	90 90
第11回	子どもと安全2 事故の原因(事故予防を目的とした情報機器の活用方法について)	△教科書P54～P62を予習する。 ▽教科書P154～P157を復習する。	90 90
第12回	子どもと安全3 事故防止における情報機器を活用した指導案および教材の作成	△教科書P62～P66を予習する。 ▽安全指導の指導案についてまとめる。	90 90
第13回	応急処置 ケガの手段について	△教科書P99～P101を予習する。 ▽授業中に配布した資料を読み、ノートにまとめる	90 90
第14回	保育における感染予防の考え方 感染を予防する技術および情報機器を活用した保健指導について	△教科書P70～P72、P149～P153を予習する。 ▽感染予防の指導案についてまとめる。	90 90
第15回	まとめ	△1～14回のまとめをする。 ▽授業時間中に理解できなかったことについて復習する。	90 90

備考： 2700

【履修上の留意点】 反転授業をするので、予習をしっかりとしておくこと。
【テキスト】 事例で学ぶ保育内容 健康 萌文書林 2010
【参考書・参考資料等】 「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017) 「保育所保育指針」フレーベル館(2017) 「幼保連携型認定こども園・教育保育要領」フレーベル館(2017)
【連絡方法】 授業時に伝える
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	試験 (発表含む)	① ②	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	20%	・主体的に授業に臨み、発言など授業に積極的に参加する姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、積極的に発言をし、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・実践力の習得に努めようとした。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。	
授業外での取組	① ② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。	

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回					第1～2回	第1～14回

科目名／専門教育	YHS612	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容(人間関係)	1年前期	必修	演習/単独	2単位	赤坂 澄香			○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【**授業のねらい**】

幼稚園教育要領・保育所保育指針に準拠した領域としての「人間関係」のねらい・内容を学習し内容の取り扱いにおける実践力を身につける。具体的には、乳幼児の発達に応じた「人とかわる力」を遊びや生活の中でどのように身につけていくのかを「子どもの学び」から理解し、保育実践に結びつく知識・技能を習得する。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

乳幼児の人間関係の発達の特性をふまえながら、人と関わる力を育てる保育内容および援助・指導方法を事例研究・教材研究を基にしたディスカッションや発表等を通して具体的に学ぶ。人と関わる力を育てる環境設定、教材、遊びを重視した指導計画を作成する。

【**到達目標と学修成果**】

- ①領域「人間関係」のねらい・内容を踏まえ、人と関わる力を育てる保育内容および援助・指導方法を理解し、具体的な指導案を作成することができる。
- ②情報機器及び教材の活用法を理解し、人間関係を育てる保育の構想に活用することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	オリエンテーション 領域「人間関係」における子ども理解と評価の考え方	△テキストP12-20の予習 ▽教育要領・保育指針の総則を読み、復習する	90 90
第2回	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」 ねらい及び内容の理解・小学校とのつながり	△テキストP21-42の予習 ▽教育要領・保育指針の第2章を読み、復習する	90 90
第3回	遊びを通して育つ人との関わり 保育者の援助の在り方や環境構成を考える	△テキストP100-122の予習 ▽遊びの中での保育者の援助の在り方をまとめる	90 90
第4回	生活を通して育つ人との関わり 保育者の援助の在り方や環境構成を考える	△テキストP124-146の予習 ▽生活の中での保育者の援助の在り方をまとめる	90 90
第5回	乳児期の発達と人との関わり① 0・1歳児に対する援助と留意点	△テキストP44-66の予習 ▽0・1歳児の人と関わる力の発達についてまとめる	90 90
第6回	乳児期の発達と人との関わり② 2歳児に対する援助と留意点、温かな関わりを育む教材の活用法(絵本・手作り人形など)	△テキストP68-98の予習 ▽2歳児の人と関わる力の発達についてまとめる	90 90
第7回	幼児期の発達と人との関わり① 自立心を培う援助を考える(事例検討・ロールプレイ・グループディスカッション)	△テキストP181-186の予習 ▽自立心を育む環境について意見をまとめる	90 90
第8回	幼児期の発達と人との関わり② 道徳性を培う援助を考える(事例検討・ロールプレイ・グループディスカッション)	△テキストP193-200の予習 ▽道徳性を育む環境について意見をまとめる	90 90
第9回	幼児期の発達と人との関わり③ 協同性を培う援助を考える(協同性をテーマにした運動会競技の構想と月間指導案作成)	△テキストP165-174、P187-192の予習 ▽指導案を見直し、改善点を見つける	90 90
第10回	人と関わる力を育てる教材の活用法① 自立心・道徳性・協同性をテーマとした絵本作成	△絵本で取り扱うテーマ、作成案を考えてくる ▽絵本の続きを作成する	90 90
第11回	人と関わる力を育てる教材の活用法② 作成した絵本を活用した模擬保育(PCおよびプロジェクターを用いた読み聞かせ)	△作成した絵本の読み聞かせを練習してくる ▽模擬保育のふりかえりを通して改善案を考える	90 90
第12回	保育の中で育つ人との関わり① 指導案作成および教材研究(PCを用いた情報収集と資料作成・教材作成)	△人と関わる力を育てる活動を調べてくる ▽指導案・教材作成の仕上げを行ってくる	90 90
第13回	保育の中で育つ人との関わり② 保育を改善する視点を考える(模擬保育と写真や録画映像を活用したふりかえり)	△模擬保育に向けて、練習や準備をしてくる ▽模擬保育のふりかえりを通して改善案を考える	90 90
第14回	人との関わりが難しい子どもへの支援 関わりにおける留意点を事例を基に考える(DVD視聴・グループディスカッション)	△関わりが難しいと感じた体験をまとめておく ▽人との関わりが難しい子どもへの支援をまとめる	90 90
第15回	まとめ	△人と関わる力を育てる保育内容及び援助をまとめる ▽人間関係における現代の保育の課題をまとめる	90 90

備考：

2700

【**履修上の留意点**】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回にGoogle classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。授業で作成する教材に使用する廃材、はさみ、のり、サインペン、色鉛筆やクレヨン等の画材は各自用意すること。

【**テキスト**】

「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」無藤隆(監修) 萌文書林(2018年)

【**参考書・参考資料等**】

- 「保育所保育指針」フレーベル館(2017年)
- 「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017年)
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017年)

【**連絡方法**】 akasaka@ariake.ac.jp

【**オフィスアワー**】 火曜日昼休み

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	40%	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を自らの力で構想する実践力が十分に身につけていることが認められる。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を構想する実践力が身につけていることが認められる。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育に活用していることが認められる。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を構想する実践力の習得には、今後も努力を要する。	・人と関わる力を育てる援助・指導方法や情報機器及び教材の活用法を理解し、具体的な保育を構想する実践力の習得がなされていない。
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	60%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・作成した教材に、オリジナリティがあり、十分な創意工夫が見られ、発表や模擬保育も熱心に取り組んだ。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・作成した教材には丁寧な作りがあり、発表や模擬保育も熱心に取り組んだ。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・教材製作、発表なども含め、与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第7回・第8回 第14回		第6回・第11回			

科目名／専門教育	YHS613	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容(環境)		2年前期	必修	演習/単独	2単位	深澤 瑞穂	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

子どもを取り巻く環境について、子どもが主体的に学ぶ方法について考え、具体的に教育・保育実践者として子どもの健やかな成長を育むための環境を本授業履修者が主体的に創造していく能力を培うことが本授業のねらいである。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

保育・幼児教育において育みたい資質・能力、幼児期のおわりまでに育ってほしい姿を理解し、領域「環境」のねらい及び内容を踏まえて理解を深める。環境に関わる力を育てるための具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を学ぶ。

【到達目標と学修成果】

- ①保育・幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解し、実践的な環境構成と指導法を身につける。
- ②子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想することができる。
- ③情報機器および教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 本授業の概要、幼稚園教育要領・保育所保育指針・子ども園教育・保育要領の領域(環境)の関連部分の概要(幼児期に育みたい資質能力と領域「環境」の保育内容)	△シラバスやテキストP11～P13の予習 ▽テキスト・おりがみ教本の復習	90 90
第2回	園内の環境① 乳児の育ちと環境とのかわり ー乳児期から幼児期にふさわしい環境と子どもの興味や関心を育む遊びや活動の事例検討	△乳児についてテキストP16～P32の予習 ▽テキストP16からの授業内容をノートにまとめる	90 90
第3回	園内の環境② 幼児の育ちと環境のかわり ー幼児期から児童期にふさわしい環境と子どもの興味や関心を育む遊びや活動の事例検討	△幼児についてテキストP33～P76の予習 ▽グループでディスカッションした内容をまとめる	90 90
第4回	園庭の環境①身近な自然に親しみ、四季折々の植物や樹木に興味や関心をもつための指導法 ー園庭マップや栽培の仕方の絵表示の作成	△園の樹木や栽培物の栽培方法について調べる ▽おりがみ教本を参考に植物の折り紙製作を行う	90 90
第5回	園庭の環境② 身近な小動物や四季折々の昆虫などに興味や関心をもつための指導法 ー園庭マップや飼育の仕方の絵表示の作成	△小動物や昆虫のクイズを作ってみる ▽園での飼育物等についておりがみノートにまとめる	90 90
第6回	園内や園外の安全管理の考え方・事故が起こった時の対応	△安全管理について事例を考える ▽安全管理の配布物についてノートにまとめる	90 90
第7回	園外の環境① 自然環境・社会環境のねらい及び内容と指導法 ー園外で行われる幼児の遊びの事例及び、標識、文字、情報等に触れる活動ー	△テキストP93の予習 ▽自然物を利用した遊びを調べておく	90 90
第8回	園外の環境② 公園での自然と関わる遊び・安全面の留意点 情報機器を活用した公園マップの作成及び発表	△公園の物的・自然環境等を撮影・写真準備 ▽グループでディスカッションした内容を振り返る	90 90
第9回	日本の文化にふれる年間行事 ー行事の由来と活動についての教材作成と指導法	△四季の園行事の由来・及び壁面飾りの内容を考えておく ▽おりがみ教本を参考に折り紙製作を行う	90 90
第10回	行事を生かした保育の展開	△四季の園行事や遊びについて調べておく ▽行事についての授業内容をノートに整理する	90 90
第11回	文字や数量及び様々な国旗に親しむための遊びや教材研究	△テキストP49・P58・P113・P155の予習 ▽様々な国の特徴などの復習	90 90
第12回	身近な素材や自然物を用いた遊びについて① ー年齢別の遊びや活動の留意点	△植物や木の実など自然物についての予習 ▽自然物についての授業内容をノートにまとめる	90 90
第13回	身近な素材や自然物を用いた遊びについて② ー指導案の作成	△遊びの選択と指導案記入についての予習 ▽指導案を完成させる	90 90
第14回	身近な素材や自然物を用いた遊びについて③ ー指導案に基づく模擬保育及び評価	△模擬保育を行うための教材準備や予習 ▽模擬保育の振り返りと指導案の改善	90 90
第15回	環境を通した指導法のまとめ	△ノート(折り紙製作の宿題を含む)のまとめ ▽課題の振り返り	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(幼稚園教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【履修上の留意点】

5回以上の欠席は、失格とする。

【テキスト】

神長美津子監修『保育内容 環境』光生館2018 おりがみ教本

【参考書・参考資料等】

『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017 / 『保育園保育指針』フレーベル館 2017
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館2017/ 森本信也・磯部頼子編 幼児の体験活動に見る「科学の芽」2013/ 神長美津子編 子ども楽しむ自然体験活動 光生館

【連絡方法】

初回授業で通知する

【オフィスアワー】

授業終了後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	評価基準		大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達 目標	割合 (%)					
試験 (発表含む)	① ②	50%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ②	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・根重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	20%	・主体的に授業に臨み、課外活動に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課外活動に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に課外活動に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での課外活動の取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みむことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第1回・第8回		第14回	第7回	第6回	

科目名／専門教育	YHS614	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容(言葉)		1年前期	必修	演習/単独	2単位	長田 信彦		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							△

【授業のねらい】
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育要領」の領域「言葉」のねらい及び内容について具体的に理解する。その上で、乳幼児の言葉の発達に即した保育者の援助の在り方について、事例を通して具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
乳幼児期の子どもの言葉の発達を促すための環境構成や援助について、実践していく力を教材研究や模擬保育を通して身につける。

【到達目標と学修成果】
①領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定した保育を構想し、実践する指導法を身につける。
②指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。
③ICT機器を活用した指導案を作成し、模擬保育に活用する力を身につける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 授業の計画・進め方・評価の仕方について 保育における言葉とは何か。保育・幼児教育における評価について	△「言葉」の働きについて考えをまとめておく。 ▽保育・幼児教育の評価についてノートにまとめる。	90 90
第2回	保育内容「言葉」の意義について 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容を 確認する。あわせて、小学校低学年国語科とのつながりについて考える。	△テキストp35～43の予習 ▽「言葉」と「国語」の幼小関連をノートにまとめる。	90 90
第3回	言葉の機能や発声のメカニズムについて理解する 言葉を獲得するための条件や環境について考え、乳児期から児童期までの 言葉の発達過程を学ぶ。	△テキストp8～12の予習。 ▽言葉の機能をノートにまとめる。	90 90
第4回	言葉の発達と援助(乳児期) 言葉の準備期の発達過程に即した適切な援助の方法について考える	△テキストp46～48の予習。 ▽言葉の準備期についてノートにまとめる。	90 90
第5回	言葉の発達と援助(乳児期) 一語、二語発話時期の発達過程に即した適切な援助の方法について考える	△テキスト49～50、p72～75の予習。 ▽0,1,2歳児の言葉と育ちの発達をノートにまとめる。	90 90
第6回	言葉の発達と援助(幼児期) 日常生活に必要な言葉を身に付け、言葉の感覚や語彙を豊かにするための 適切な援助の方法を考える	△テキストp50～55、p76～79の予習。 ▽3歳児の言葉と育ちの特徴をノートにまとめる。	90 90
第7回	言葉の発達と援助(幼児期) 日常生活の中で育つ言葉や対話する喜びを支える援助の方法を考える	△テキストp56～64、p77～80の予習。 ▽4～5歳児の言葉と育ちの特徴をまとめる。	90 90
第8回	発語を促すための保育者の関わりや環境構成などを事例を通して考察し、 理解する	△テキストp85～101の予習。 ▽テキストp86の事例を考察し、ノートにまとめる。	90 90
第9回	児童文化財について 保育・教育現場におけるICTの効果的な活用方法と留意点／言葉を育む環 境構成と援助	△テキストp119～122の予習。 ▽ICTを活用し、紙芝居を制作する。	90 90
第10回	子どもの言葉を育むための保育構想 領域「言葉」に関する保育場面を想定した指導案の作成	△幼児対象、絵本の読み聞かせの指導案を考えてくる。 ▽指導案作成の留意点をノートにまとめる。	90 90
第11回	子どもの発達に応じた絵本を選定し、模擬保育を実践する	△3歳～5歳に適した絵本を調べておく。 ▽模擬保育の分析と課題をノートにまとめる。	90 90
第12回	子どもの発達に応じた紙芝居を選定し、模擬保育を実践する	△3歳～5歳に適した紙芝居を調べておく。 ▽模擬保育の分析と課題をノートにまとめる。	90 90
第13回	パネルシアター、エブロンシアター、ペープサートを活用した模擬保育を実 践する	△テキストp154～p178の予習 ▽模擬保育の分析と課題をノートにまとめる。	90 90
第14回	模擬保育の映像記録をもとに、乳幼児の言葉の発達の観点から評価し、改 善点を見出す	△これまでの模擬保育の振り返りをしておく。 ▽模擬保育の改善点をノートにまとめる。	90 90
第15回	まとめと振り返り 言葉の発達を促す指導法の考察とまとめ	△テキスト、資料の復習をしておく。 ▽「言葉」の発達と支援についてノートにまとめる。	90 90

備考： 2700

【履修上の留意点】
テキストをよく読んで授業に臨むこと。

【テキスト】
大越和孝「改訂新版 『保育内容・言葉』『言葉とふれあい、言葉で育つ』」東洋館出版社、2018

【参考書・参考資料等】
『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017/『保育所保育指針』フレーベル館、2017/
『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』フレーベル館、2017 /『小学校学習指導要領解説・国語編』東洋館出版、最新版

【連絡方法】 授業時に伝える
【オフィスアワー】 授業日の昼休み

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90～100点)	優れている (A:80～89)	平均的 (B:70～79)	努力を要する (C:60～69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	試験 (発表含む)	①	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識・理解・実践力の習得に努めようとした。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。	
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第2-9, 14回		第11-13回		第10回	

科目名/専門教育	YHS615	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容(表現) I	1年前期	必修	演習/ オムニバス	1単位	有福 一昭・山田 麻美子		/	○
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。						△	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。						○	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。						○	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。						○	
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。						○	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。						◎	

【授業のねらい】
領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達や学びの過程への理解を深め、造形表現・音楽表現活動を通して、子どもの感性及び表現力を養い高めていく方法を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
子どもの発達を視野に入れ、協同的かつ創造的な表現を育むために、様々な素材を活用した表現活動の具体的・実践的な環境構成と指導方法を身につける。

【到達目標と学修成果】
①領域「表現」のねらい及び内容を子どもの発達や学びの過程と関連させ、造形表現・音楽表現の具体的な場面を想定した保育を構想する力を身につけることができる。
②ICTを活用した教材研究および指導計画を作成することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス。 領域「表現」と保育内容との関連について	△「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園保育・教育要領」を読んでくる ▽保育内容「表現」に求められることについてノートにまとめる 20 25
第2回	子どもの発達と表現活動の特性をとらえる	△資料「乳幼児期の子どもの育ちと表現」の予習 ▽「乳幼児期の子どもの育ちと表現」についてノートにまとめる 20 25
第3回	保育現場における素材の特性を生かした造形表現と教材研究1(紙類を用いた造形活動実践例から指導場面を考える)	△資料「素材との出会い」の予習 ▽〈紙類を用いた造形活動の〉実践についてまとめる 20 25
第4回	保育現場における素材の特性を生かした造形表現と教材研究2(自然素材等を用いた造形活動実践例から指導場面を考える)	△資料「生活環境・自然環境の活用」の予習 ▽〈自然素材などを用いた造形活動の〉実践についてまとめる 20 25
第5回	音を素材とした教材研究1 身近な素材による活動の特徴、楽しさ、指導上の留意点などを考える	△資料「子どもの音を聴く力の発達・身近な音を聴く」の予習 ▽「子どもの音を聴く力の発達・身近な音を聴く」に関する活動を進めてくる 20 25
第6回	音を素材とした教材研究2 オノマトペによる表現あそび指導法を学ぶ	△資料「オノマトペについて・オノマトペを使った遊び」の予習 ▽「オノマトペ・オノマトペを使った遊び」に関する活動を進めてくる 20 25
第7回	表現活動における子どもに対する具体的な言葉かけや遊び方の援助と子どもの評価	△資料「子どもの表現を支えるための保育者の役割と評価について」の予習 ▽「子どもの表現を支えるための保育者の役割と評価について」考えをノートにまとめる 20 25
第8回	リズム遊び・音楽遊びについての教材研究を行い、子どもの表現が広がる指導法を考える	△資料「リズム遊び・音楽遊びの活動例」の予習 ▽「リズム遊び・音楽遊びの活動例」をノートにまとめる 20 25
第9回	身近な道具などを使った制作指導	△資料「いろいろな材料の造形」の予習 ▽身近な道具などを使った制作指導についてまとめる 20 25
第10回	子どもの日常的な表現やその環境構成について考える	△資料「保育の中の表現を支える環境づくり」の予習 ▽「保育の中の表現を支える環境づくり」についてノートにまとめる 20 25
第11回	表現活動を効果的に生み出す環境構成と支援のあり方を学ぶ 保育・教育現場におけるICTの活用について	△資料「表現活動の効果的な環境構成と支援のあり方」の予習 ▽保育・教育現場におけるICTの活用についてまとめる 20 25
第12回	造形表現と音楽表現の総合的な表現活動をとらえて、指導上の留意点を考える	△資料「造形表現・音楽表現の総合的な活動」の予習 ▽「造形表現・音楽表現の総合的な活動」について具体的な活動例をまとめる 20 25
第13回	3歳未満児及び3歳以上児の指導案を作成する	△資料「造形表現・音楽表現活動指導案について」の予習 ▽3歳未満児及び3歳以上の「造形表現・音楽表現活動指導案」を作成させる 20 25
第14回	模擬保育の実践	△グループによる模擬保育準備を行う ▽実践した模擬保育についてグループで課題を考える 20 25
第15回	模擬保育の省察と振り返り	△模擬保育のふりかえりと課題についてノートにまとめる 他のグループによる模擬保育のふりかえりに対する気づき・感想をまとめる 20 25

備考：

675

【履修上の留意点】 授業環境の条件により1コマの定員は35名とする。4回以上の欠席は失格とする。
【テキスト】 保育内容 領域 表現－日々わくわく生きる子どもの表現－堂本真実子 わかば社
【参考書・参考資料等】 「作ってあそべる製作ずかん」(今野道裕;学研)「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017) 「保育所保育指針」フレーベル館(2017)・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017)
【連絡方法】 yamada@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】 11:30～12:30

評価基準 評価方法	【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】						
	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	① ②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が適切で参考できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参考できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁が守られていない。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	①	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みむことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	12, 13回		14, 15回			

科目名／専門教育	YHS616	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育内容(表現)Ⅱ		1年後期	必修	演習/複数	1単位	山田 麻美子・大島 靖史		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎						
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○						
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○						
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○						
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○						
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎						

【授業のねらい】
 領域「表現」のねらい及び内容と子どもの発達や学びの過程への理解を深め、身体表現・音楽表現活動を通して、子どもの感性及び表現力を養い高めていく方法を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 子どもの発達を視野に入れ、協同的かつ創造的な表現を育むために様々な音・音楽・身体の動きを活用した表現活動の具体的・実践的な環境構成と指導方法を身につける。

【到達目標と学修成果】
 ①領域「表現」のねらい及び内容を子どもの発達や学びの過程と関連させ、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身につけることができる。
 ②ICTを活用した教材研究および指導計画を作成することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス 領域「表現」と保育内容との関連について	△「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園保育・教育要領」を認んでくる ▽保育内容「表現」に求められることについてノートにまとめる	20 25
第2回	身近な遊びをとおして、乳幼児の心情や思考についての理解を深める	△身近な遊びの場を設定し、子どもの心情・思考についてノートにまとめる ▽第2回目の授業内容をノートにまとめ記録する	20 25
第3回	身体表現活動で使ういろいろな手具活用の指導法について学ぶ	△ポンポン作成を行う ▽手具活用について指導法・留意点をまとめる	20 25
第4回	保育現場における子どもの表現活動の事例から、効果的な環境や支援を学ぶ	△保育現場の子どもの表現活動環境・支援についてノートにまとめる ▽第4回目の授業内容についてノートにまとめ記録する	20 25
第5回	音楽表現活動の指導案を立案する上での教材研究	△子どもの音楽遊びについて具体的な例を調べる ▽子どもの音楽遊びについて具体的な例をノートにまとめる	20 25
第6回	身体表現活動の指導案を立案する上での教材研究	△子どもの身体遊びについて具体的な例を調べる ▽子どもの身体遊びについて具体的な例をノートにまとめる	20 25
第7回	モデル指導案に基づいた保育実践をとおして、保育者の援助の留意点について考えるとともに、幼児の表現への評価について学ぶ	△資料「モデル指導案」の実践について保育者の援助を考える ▽モデル指導案実践を通して保育者の援助と子どもへの評価についてノートにまとめ記録する	20 25
第8回	保育・教育現場における総合的な表現活動のためのICTの利活用① 基本と留意点	△身体と音楽の総合的な表現活動のための参考音源データを準備する ▽身体と音楽の総合的な表現活動のための音源データ作成について要点をノートにまとめる	20 25
第9回	保育・教育現場における総合的な表現活動のためのICTの利活用② 応用	△身体と音楽の総合的な表現活動のための音源及び記録用機器の準備をする ▽身体と音楽の総合的な表現活動のための音源及び記録用機器の扱いについてノートにまとめる	20 25
第10回	幼児期の表現活動と小学校の体育、生活、音楽その他の教科との学びの関連について具体的な実践例から考える	△保育・教育現場で行われる運動会マスゲームについて調べる ▽授業内容をノートにまとめる	20 25
第11回	総合的な表現活動を実践するために、グループで指導案を作成する	△グループで身体表現指導案を作成する ▽授業の内容及び留意点をノートにまとめ記録する	20 25
第12回	指導案に沿って総合的な表現活動を実践するための教材研究を深める	△指導案に沿った活動実践のための資料を収集する ▽活動実践のための資料を元に模擬保育実践計画をたてる	20 25
第13回	3歳児未満の模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善を考える	△3歳児未満の子どもの特徴を捉え模擬保育準備をする ▽3歳児未満の模擬保育のふりかえりを行う	20 25
第14回	3歳以上児の模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善を考える	△3歳以上児の子どもの特徴を捉え模擬保育準備をする ▽3歳以上児の模擬保育のふりかえりを行う	20 25
第15回	授業のまとめと振り返り	△これまでの授業のまとめをノートに記録してくる ▽これまでの授業のふりかえりをノートに記録してくる	20 25

備考： 675

【履修上の留意点】
【テキスト】 随時資料を配布する。
【参考書・参考資料等】 「幼稚園教育要領」フレーベル館(最新版)・「保育所保育指針」フレーベル館(最新版)／「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」フレーベル館(最新版)
【連絡方法】 yamada@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】 木 10:00～10:35

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合 (%)						
試験 (発表含む)								
期末レポート	① ②	50%		・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	①	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしてきたことが認められる。	・授業外での取組内容に不十分で、学習内容の理解が不足している。	・授業外での取組内容に不十分で、学習内容の理解が不足している。	

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	10, 11, 12回		13, 14回			

科目名／専門教育	YS618	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
道徳教育の指導		2年前期	小免必修	講義/単独	2単位	石井 友行	○	○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

平成27年『学習指導要領』の一部改訂に示された道徳教育の目標・内容・方法および道徳の時間の基本的な指導方法など基礎的な理論を概説し、道徳の時間の学習指導案作成からそれに基づいた授業が行えるようになることをねらいとする。また、今後の道徳教育の方向性と道徳科の理論と実践についても理解する。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

講義形式と演習形式を取り入れる。教師として道徳授業を実践するにあたり、授業者自身のアイデアや持ち味が活かされることが児童の感性を大事にした授業につながる。教師自身が誠実に児童と向き合う道徳科の時間をもてるように教師自身の道徳的な資質や豊かな道徳性についても考えていきたい。

【**到達目標と学修成果**】

- ①学習指導要領に基づいて道徳教育の目的や内容について理解する。
- ②道徳の授業を行える実践力を身に付ける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	学校における道徳教育の位置づけについて 学校で道徳をなぜ行うのか、道徳は教えられるかなどについてを考える。	△資料(道徳教育の位置づけ)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第2回	道徳教育の本質と目標道徳的価値とその矛盾について考える。	△資料(道徳教育の本質と目標)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第3回	道徳性の発達理論について フロイト、ピアジェ、コールバーグ等の理論の概要を知る。	△資料(道徳性の発達理論)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第4回	道徳教育の内容 道徳授業に対する批判についても知り、考える。	△資料(道徳教育の内容)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第5回	道徳教育の方法 道徳の時間の位置づけについて知り、学校での道徳教育の計画についても知る。	△資料(道徳の方法)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第6回	全教育活動を通しての道徳活動 学校における道徳教育の指導計画、道徳教育の充実のため指導の必要性について	△資料(指導計画)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第7回	道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育について知る。	△資料(戦前の道徳教育)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第8回	道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育について知る。	△資料(戦後の道徳教育)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第9回	世界の学校における道徳教育 宗教と道徳の関連性を考える。	△資料(世界の道徳教育)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第10回	道徳の時間の役割と学習指導要領 これからの道徳教育が育てたい児童について考える。	△資料(学習指導要領)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第11回	道徳教育の授業① 道徳教育の方法、道徳教育用教材について知る。	△資料(道徳教育教材)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第12回	道徳教育の授業② 授業例の検討、道徳教育の評価の考え方について	△資料(道徳教育の評価)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第13回	指導案作成の試み① 道徳指導案について知り、指導案を作成する。	△資料(指導案)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第14回	指導案作成の試み② 作成した指導案の発表と検討	△資料(指導案作成)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第15回	まとめ	△今までの学修を振り返る。 ▽学修したことをまとめる。	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【**履修上の留意点**】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末試験(40%)、課題(30%)によって総合的に評価する。

【**テキスト**】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(最新版)

【**参考書・参考資料等**】

赤堀博行監修『これからの道徳教育と「道徳科」の展望』東洋館出版社、2016年
高橋陽一／伊東毅著『道徳科教育講義』武蔵野美術大学出版局、2017年

【**連絡方法**】

授業時に伝える

【**オフィスアワー**】

授業前後・昼休み

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	40%	知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	基本的な知識の習得や理解がなされていることが認められる。	基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	基本的な知識の習得や理解がなされていない。
期末 レポート								
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとした。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	②		30%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みることができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	13回14回		14回			

科目名／専門教育	YS620	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
特別活動と総合的な学習の指導法	3年前期	小免必修	講義/単独	2単位		石井 友行	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用し、実社会・実生活の課題を探究することを理解する。そして、指導計画の作成・具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チームとしての学校」の視点を持ち、学年の違いによる活動の関差、各教科等との往還的な関連、地域や教職員と連携等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

総合的な学習の時間と特別活動の意義、目標、内容、指導法、評価などの基本的なことを理解できるよう講義し、双方向的な議論を行う。また、指導内容や実践的な事項については話し合いや実際の体験から理解させる。

【到達目標と学修成果】

- ①総合的な学習の時間と特別活動における学習指導要領の目標、内容などを理解する。
- ②総合的な学習の時間と特別活動の指導内容や指導方法について理解している。
- ③総合的な時間と特別活動の評価の方法や留意点を理解している。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	総合的な学習の時間の歴史と意義について	△資料(総合的な時間の変遷)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第2回	総合的な学習の時間の教育課程において果たす役割について	△資料(教育課程)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第3回	各教科等で育まれる見方・考え方の活用を視野に入れた総合的な学習の時間とは	△資料(総合的な学習)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第4回	学習指導要領における総合的な学習の時間の目標・各学校において目標及び内容を定める際の考え方について	△資料(学習指導要領)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第5回	各教科等との関連性と総合的な学習の時間の年間指導計画を作成	△資料(年間計画)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第6回	総合的な学習の時間の単元計画の作成 一主体的・対話的で深い学びを表現を目指して一	△資料(単元計画)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第7回	総合的な学習の時間の指導と評価	△資料(評価について)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第8回	特別活動の学習指導要領における目標・内容と教育課程における位置づけ	△資料(学習指導要領)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第9回	話し合い活動及び集団活動の意義や指導の在り方を考える	△資料(話し合い活動など)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第10回	望ましい学級集団づくりとその指導について 学級活動について、キャリア教育について	△資料(望ましい学級集団づくり)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第11回	児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事について	△資料(児童会・クラブ活動など)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第12回	特別活動の教育課程全体で取り組む指導の在り方について	△資料(指導の在り方)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第13回	特別活動における評価・改善について	△資料(評価・改善)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第14回	特別活動における家庭・地域との連携の在り方について	△資料(家庭地域の連携)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第15回	まとめ	△今までの学修を振り返る。 ▽この授業での学びをまとめる。	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末試験(30%)、課題(40%)によって総合的に評価する。

【テキスト】

『小学校学習指導要領解説 総合的な時間』(最新版)文部科学省
『小学校学習指導要領解説 特別活動』(最新版)文部科学省

【参考書・参考資料等】

『小学校教育課程講座 特別活動』(ぎょうせい)
『小学校新学習指導要領の展開 特別活動編』(明治図書)

【連絡方法】 授業時に伝える

【オフィスアワー】 授業前後・昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	① ② ③	30%		知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	基本的な知識の習得や理解がなされていることが認められる。	基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	基本的な知識の習得や理解がなされていない。
期末レポート	② ③	40%		課題の意図を的確に理解し、論理的な内容で記述されている。 慎重かつ丁寧に推敲され、平易に読み進めることができる。	課題の意図を理解し、論理の一貫した文章で記述されている。 誤字・脱字・文法などに誤りがない。 指定の体裁が整えられている。	課題の意図を概ね理解しているが、改善すべき点がある。 論理的な根拠に欠ける。 誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。	課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容も不十分である。 論理の飛躍などにより文章が分かりにくい。 誤字・脱字・文法に配慮する必要がある。 指定の体裁は守られている。	課題の意図やこれまでの授業内容をわかっていない。 誤字・脱字・文法に誤りが多い。 指定の体裁・期日も守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	② ③	30%		主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	授業内での取組に参加することができた。 知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	9回10回					

科目名／専門教育	YS619	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
生徒指導とキャリア教育		2年後期	小免必修	講義/単独	2単位	池口 洋一郎	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○						
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○						
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○						
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○						
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎						
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○						

【授業のねらい】
 生徒指導は、問題が起きたときに対応するものであると考えがちであるが、そのような「消極的な生活指導」と、子供たちの生活を有意義にさせる「積極的な生活指導」がある。本講義では、ディスカッションや体験を通して、生徒指導の基本的な理解と具体的な指導方法を学ぶ。さらに、いじめや不登校などの教育課題を取り上げ、実践的な指導法についても学ぶ。また、キャリア教育については、中学校以降の指導と異なっているが、小学校1年生からすでに始まっているものであり、全教育活動で実施する進路指導のあり方について基礎理論とともに具体的な指導方法を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 講義形式を原則として、ディスカッション及び演習を取り入れる。小学校の教師としての役割や基本的な考え方を身に付け、実際の事例研究を通して、課題への対処法を考えていく。

【到達目標と学修成果】
 ①生徒指導の原理、ねらい、指導方法を理解している。
 ②子供たちを取り巻く現状や課題を理解し、具体的な対応について理解している。
 ③小学校における進路指導の基礎理論と具体的な指導の在り方を身につけている。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス 授業の進め方 ・生徒指導の概念整理	△資料(生活指導とは)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第2回	生徒指導・原理と方法 ・生徒指導の3本柱	△資料(生徒指導)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第3回	関係機関との連携 ・抱え込みから開かれた連携へ	△資料(関係機関との連携)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第4回	家庭との連携 ・家庭との連携の意義、方法、配慮点	△資料(家庭との連携)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第5回	問題行動の指導① いじめ ・いじめの定義、いじめの未然防止と早期対応、いじめ防止対策推進法	△資料(いじめ問題)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第6回	問題行動の指導② 不登校 ・不登校の定義 推移 理由	△資料(不登校)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第7回	問題行動の指導③ 少年非行 ・少年非行とは ・少年非行の対応	△資料(少年非行)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第8回	ネット社会 ・情報教育の在り方	△資料(ネット社会)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第9回	学校カウンセリング ・スクールカウンセラー、ソーシャルスキルトレーニングの理論と実際	△資料(学校カウンセリング)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第10回	キャリア教育(進路指導)の理論① ・社会全体で行うキャリア教育について	△資料(キャリア教育①)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第11回	キャリア教育(進路指導)の理論② ・小学校における進路指導	△資料(キャリア教育②)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第12回	全教育活動で行うキャリア教育(進路指導)③ ・進路指導の配慮事項 ・5つの視点	△資料(キャリア教育③)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第13回	地域と連携したキャリア教育(進路指導)④ ・職場体験の意義、実践事例	△資料(キャリア教育④)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第14回	様々な視点からのキャリア教育(進路指導)⑤ ・職業人から学ぶ	△資料(キャリア教育⑤)を予習する。 ▽今日の学修を復習ノートにまとめる。	90 90
第15回	生徒指導 キャリア教育のまとめ	△今までの学修を振り返る。 ▽今までの学修をまとめる。	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】 授業後に行う「リフレクションペーパー」(40%)および期末試験(40%)、授業外での活動(20%)によって総合的に評価する。スマートフォン等を使用して、双方向型授業を教回行う。
【テキスト】 文部科学省『生徒指導提要』(最新版)教育出版
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜紹介する。
【連絡方法】 授業時に伝える
【オフィスアワー】 授業前後・昼休み

評価方法	評価基準		大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合(%)					
試験(発表含む)	① ②	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ② ③	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨むと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第3・4・5・6回			第7・9・14回		

科目名／専門教育	YS622	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育とICT活用		3年前期	小免 選択必修	演習/単独	1単位	松波 紀幸	/	○
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							△
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							△
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							

【授業のねらい】
 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方及び児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 本授業では、情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法について学び、実践的な指導力を育成することを目的としている。最初に情報通信技術の活用の意義と理論を押しえ、そのうえで、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進について詳しく学ぶ。その後、児童に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法の理解を深める。また、単位の実質化にあたり、自学自習の充実が求められていることに鑑み、毎回、文献や資料の講読、演習などの課題を課す。

【到達目標と学修成果】
 ①情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。
 ②情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。
 ③児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための基礎的な指導法を身につけている。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	情報通信技術の活用の意義と在り方及び理論	△ 文部科学省(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指してを通過し、その内容をつかむ 100 ▽ 情報通信技術の活用の意義と在り方についてまとめる 15
第2回	情報活用能力を育成するための指導法	△ 文部科学省(2020)教育の情報化に関する手引-追補版-を通過し、その内容をつかむ 100 ▽ 情報活用能力を育成するための指導法についてまとめる 15
第3回	教育データを活用した指導と評価 理論	△ 松波・永井(2018)小学校が保有する教育情報の関係付けと分析の可能性に関する研究を通過し、その内容をつかむ 15 ▽ 教育データの活用とはどのようなことかについてまとめる 15
第4回	教育データを活用した指導と評価 演習	△ 松波(2018)「音声化教材を活用した学修支援環境の構築と検証」を通過し、その内容をつかむ 15 ▽ 演習で学んだ手法について、習熟する 15
第5回	社会的背景の変化を踏まえたICT活用による授業改善 理論	△ 松波(2019)特別の教科道徳における授業構想時の視点を通過し、その内容をつかむ 15 ▽ 松波(2020)総合的な学習の時間における授業構想時の視点を通過し、その内容をつかむ 15
第6回	社会的背景の変化を踏まえたICT活用による授業改善 演習	△ 事前課題として教示された方法に基づき、必要なテキストデータを準備する 15 ▽ 演習で得られた視点をもとにその視点の意味と資料をもとに調べ理解を深める 30
第7回	ICTを効果的に活用した指導事例	△ 松波・永井(2012)デジタルベンを活用した授業でのエキスパート等による学習支援の有効性を通過し、その内容をつかむ 15 ▽ Matsumi, Nagai(2019)「Gifted Flipped Learning for Math Classroom With Video Materials」等を通過し、その内容をつかむ 20
第8回	指導事例をもとにした授業考案	△ 指導事例をもとに授業提案できるように資料準備する 30 ▽ 授業考案した内容についてブラッシュアップする 15
第9回	オンライン教育の意義と使用法	△ 松波(2021)LMSとWeb会議システムを用いたオンライン試験の試行を通過し、その内容をつかむ 15 ▽ 事例をもとにデバイスを用いて他者と実験を行い、理解を深める 15
第10回	ICTの基本操作と指導法	△ 松波ほか(2020)新型コロナウイルスの学校における対応について等を通過し、その内容をつかむ 15 ▽ Googleサイトの使い方について習熟する 15
第11回	ICTを活用した校務の推進 理論	△ 文部科学省(2021)全国の学校における働き方改革事例集を通過し、その内容をつかむ 30 ▽ ICTを活用した校務の推進についてまとめる 15
第12回	ICTを活用した校務の推進 演習	△ QRコードの作成方法について調べてくる 10 ▽ Googleサイト、フォームの使い方について習熟する 15
第13回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 理論	△ 松波ほか(2007)情報活用能力育成のためのカリキュラム開発とその検証を通過し、その内容をつかむ 15 ▽ 情報活用能力育成に伴う課題についてまとめる 15
第14回	各教科等横断的に育成する情報活用能力 授業考案	△ 松波・福島(2019)教育実習等事前指導における情報モラル教材の開発についてを通過し、その内容をつかむ 10 ▽ 授業考案した内容についてブラッシュアップする 15
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト)	△ これまでの資料を及び教示を整理し、理解を深める 30 ▽ これまでの資料を及び教示をもとに各自再演習を行う。 15

備考：
675

【履修上の留意点】
 ・欠席は原則認めない(除 病欠等により証明書等の提出がある場合)
 ・演習で利用したデータ等の保管用にUSBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。
 ・スマートフォン及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。
 ・大学から案内されているシステムやZoom(遠隔授業が必要な場合)の利用環境を整えておくこと。
 ・提出物等は大学から案内されているシステムを利用する予定である。それ以外の提出、例えばメール添付などは評価の対象外とする。また、1MB以上のメール添付を了解なく授業担当者に送信した場合、礼節に欠けたメール等の連絡は、減点対象とする。
 ・授業で使用するコンテンツについては、受講生以外が閲覧、所持することはできない。受講生にあっては、受講生以外に複写を渡す、webにアップするなどのことがないようにする。
 ・reflectionについては、評価対象であるとともに、自身の学びにとって必要なものである。授業で記録をとり、自宅等でまとめ直すなど、課外の学習時間の充実を図り、求められた際には提出すること。
 ・何事も「できなかった理由」を考えるのではなく、どのようにすれば「できるか」、「ベター」であるかを考えること。
 ・提出物などの締切は、厳守すること。原則遅延は評価対象外とする。
 ・連絡が全てメールによる事前連絡を原則とするが、所属や氏名など記入忘れのないようにするとともに、PCメールが受信できるアドレスから発信すること。
 ・本科目で取り扱う知識は、全てを講義内で網羅することはできないことから、必要に応じて各自調べるとともに、受講者間で学び合うこと。

【テキスト】
 文部科学省(2021)「令和の日本型学校教育」、文部科学省(2020)教育の情報化に関する手引-追補版、小学校学習指導要領(平成29年3月告示)、文部科学省(2021)全国の学校における働き方改革事例集

【参考書・参考資料等】
 参考資料・参考文献等は、LMS等を用いて教示する。

【連絡方法】 面接授業における授業内及び前後を基本とし、必要に応じて授業内に教示されるメールにて一週間の余裕をもって連絡

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート							
授業内 での取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	100%	情報通信技術の意義と理論について非常に理解している。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について非常に理解している。またさらに、児童に情報活用能力を十分に育成するための指導法を考案できる。	情報通信技術の意義と理論について概ね理解している。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について概ね理解している。またさらに、児童に情報活用能力を育成するための指導法をかき取り考案できる。	情報通信技術の意義と理論についてあまり理解できていない。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方についてあまり理解できていない。またさらに、児童に情報活用能力を育成するための指導を少し検討できる。	情報通信技術の意義と理論についてほとんど理解できていない。また、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方についてほとんど理解できていない。またさらに、児童に情報活用能力を育成するための指導をほとんど検討できない。	
授業外 での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第14回		第14回	第4.6.12回	第6回	

科目名/専門教育	YS621-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
国語科指導法	2年後期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	長田 信彦		○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎ △
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】
 小学校国語科の目標と内容を踏まえた上で、国語科の授業を構築するための基本的な学習指導過程、教材研究の方法を理解する。そして、学習指導案が作成できるようにし、実際の授業を構想できるようにすることが目標である。作成した指導案によって模擬授業も行う。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 演習形式である。小学校国語科の目標と内容の基礎的事項を認識するとともに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」並びに「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」などの領域ごとの指導計画、教科書の使い方、評価の方法を実践的、具体的な事例を用いて学習する。

【到達目標と学修成果】
 ①小学校国語科教育の目標と内容を理解することができる。
 ②教壇に立った際に実践できる国語科の指導法を身につける。
 ③国語科各領域の具体的な学習指導案の作成を通して、各領域ごとの実践的な授業構想力と指導力を身につけることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▼事後 / 分]
第1回	ガイダンス。国語科教育の目標・内容を理解する。国語科教育の歴史概観について学ぶ。	△「国語科教育」について考えをまとめておく。 90 ▼「国語科教育」についてレポートを書く。 90
第2回	小学校学習指導要領に基づいた各学年の目標と内容について理解し、課題について認識する。	△「小学校学習指導要領解説国語編」の予習 90 ▼各学年の目標と内容をまとめてノートに書く。 90
第3回	言語のもつ特質を理解し、言語活動の充実の重要性について理解を深める。	△小学校学習指導要領解説国語編p16～22の予習。 90 ▼言語活動についてノートにまとめる。 90
第4回	国語科学習指導案の構成や内容を理解する。評価規準と判定基準について理解する。ICT機器を用いて板書計画を行う。	△指導案に関する資料を読んでおく。 90 ▼ICT機器を活用した板書計画を作成する。 90
第5回	学習指導案作成の実際。教材「ひとつの花」の作品分析を通して指導案の構成を考える。指導案を作成する。	△教材「ひとつの花」を読んでおく。 90 ▼4年「読むこと」の留意点をノートにまとめる。 90
第6回	学習指導案作成の実際。教材「ひとつの花」の指導案に基づき、模擬授業を実践する。	△「ひとつの花」の板書計画を考えておく。 90 ▼模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。 90
第7回	学習指導案作成の実際。低学年対象「かたかなのひろば」の教材研究と指導案作成。	△「かたかなのひろば」の教材を読んでおく。 90 ▼2年言葉の特徴や使い方に関する事項をまとめる。 90
第8回	模擬授業の実際と分析。「かたかなのひろば」の模擬授業の実践と分析。	△板書計画を考えておく。 90 ▼模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。 90
第9回	学習指導案作成の実際。中学年対象「ごんぎつね」の教材研究と指導案作成。	△『ごんぎつね』の教材を読んでおく。 90 ▼一回めの授業の指導案を作成する。 90
第10回	模擬授業の実際と分析。「ごんぎつね」の模擬授業の実践。	△小学校学習指導要領解説国語編p206の予習。 90 ▼模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。 90
第11回	模擬授業の実際と分析。「ごんぎつね」の模擬授業の実践から見える課題について分析。	△模擬授業分析と課題のプレゼンテーション準備 90 ▼模擬授業実践の留意点をノートにまとめる。 90
第12回	学習指導案作成の実際。高学年対象「百年後のふるさとを守る」の教材研究。	△「百年後のふるさとを守る」を読んでおく。 90 ▼伝記の特長についてノートにまとめる。 90
第13回	「百年後のふるさとを守るの」学習指導案を作成する。	△小学校学習指導要領解説国語編p206の予習。 90 ▼板書計画を考えておく。 90
第14回	指導案に基づき模擬授業を実践する。分析をする。	△指導案の確認をしておく。 90 ▼模擬授業の分析と課題をノートにまとめる。 90
第15回	振り返りとまとめ	△配付資料の復習をしておく。 90 ▼模擬授業に関するレポートを作成する。 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。 2700

【履修上の留意点】
 「小学校学習指導要領解説国語編」をよく理解して授業に臨むこと。

【テキスト】
 特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】
 『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版、最新版/森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』漢水社、2010/
 牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ 小学校国語科教育法』ココ出版、2012

【連絡方法】 初回の授業時に伝える
【オフィスアワー】 授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	② ③	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が適切である。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第6, 8, 11, 14回		第6, 8, 10, 14回		第4, 5, 7, 9, 12-13回	

科目名／専門教育	YS621-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会科指導法	2年前期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	山本 剛			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

この授業は、小学校教諭免許取得希望者を対象とする、小学校社会科の授業担当者として必要な実践的能力の確立を目指すものである。具体的には、学習指導要領に示される社会科の目標と内容、指導理論および実際の指導方法と授業設計の在り方について、現場の教育(実習)を想定した実践的指導法を身に付けることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方を含む)】

小学校における社会科教育のねらいと指導の実践について、基礎知識に関する講義、受講生のパーソナルワークおよびグループディスカッションによる学習指導案の作成、情報機器および教材の活用を含む模擬授業の実施と振り返り等を通して小学校社会科の授業担当者として必要な実践的能力の確立を目的とする。

【到達目標と学修成果】

- ①小学校における社会科教育の意義について、歴史的な背景を踏まえて理解し、説明することができる。
- ②『小学校学習指導要領』に基づく社会科教育の目標と内容について理解し、説明することができる。
- ③社会科の指導理論を踏まえて、実際の授業設計と学習指導案を作成し、実習に臨むことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	イントロダクション 授業の概要と到達目標の共有、成績評価について	△「社会科」について自分の意見をまとめておく 30 ▽「私の社会科体験」についてノートにまとめる 45
第2回	I. 社会科の意義と目標・内容① 戦後教育改革と「社会科」の誕生	△テキスト第1章の予習 45 ▽「戦後教育改革」についてノートにまとめる 45
第3回	I. 社会科の意義と目標・内容② 社会科教育の歴史の変遷	△テキスト第1章の復習 45 ▽「社会科の目標」についてノートにまとめる 45
第4回	II. 小学校における社会科教育① 教育目標と全体構造	△テキスト第2章(2節1)の予習 45 ▽「社会的事象」について自分の考えをまとめる 45
第5回	II. 小学校における社会科教育② 学習内容と学習評価	△テキスト第2章(2節1)の復習 45 ▽「社会科の評価」についてノートにまとめる 45
第6回	II. 小学校における社会科教育③ 指導方法と教材研究および情報機器の活用	△テキスト第2章(2節2)の予習 45 ▽「社会科見学」について自分の考えをまとめる 45
第7回	III. 社会科指導の計画と実際① 中学年(3年生・4年生)の単元指導	△テキスト第2章(2節2)の復習 45 ▽「私たちのまち」についてノートにまとめる 45
第8回	III. 社会科指導の計画と実際② 高学年(5年生・6年生)の単元指導	△テキスト第2章(2節3)の予習 45 ▽「私たちのくに」についてノートにまとめる 45
第9回	IV. 学習指導案の検討・作成① 問題解決的な学習(導入の方法) グループワークA	△テキスト第2章(2節3)の復習 45 ▽グループワークAに関する振り返り 120
第10回	IV. 学習指導案の検討・作成② 展開(発問の仕方) グループワークB	△グループワークBの準備 180 ▽グループワークBに関する振り返り 120
第11回	IV. 学習指導案の検討・作成③ 授業のまとめ(今後の課題) グループワークC	△グループワークCの準備 180 ▽グループワークCに関する振り返り 120
第12回	V. 模擬授業の実施と振り返り① 課題探求の実践 プレゼンテーションA	△プレゼンテーションAの準備 240 ▽プレゼンテーションAに関する振り返り 120
第13回	V. 模擬授業の実施と振り返り② 調査の方法 プレゼンテーションB	△プレゼンテーションBの準備 240 ▽プレゼンテーションBに関する振り返り 120
第14回	V. 模擬授業の実施と振り返り③ 発展 プレゼンテーションC	△プレゼンテーションCの準備 240 ▽プレゼンテーションCに関する振り返り 120
第15回	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習 90 ▽各自の取り組みに関する振り返り 60

備考:

2700

【履修上の留意点】

・各自の「学習指導案」作成と「模擬授業」が中心の授業となるため、授業計画策定の前提となる前半期に欠席がかさんだ者は、以後の履修を認めない。※「地域社会概論」ないし「社会」を履修済み(もしくは履修中)であることが望ましい。

【テキスト】

・『小学校学習指導要領(社会)』(最新版)

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、提示する。

【連絡方法】

初回の授業時に伝える

【オフィスアワー】

授業の前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	③	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多いため、指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考: ・授業での取組:グループワークによる「学習指導案」の作成(50%)と「模擬授業」(プレゼンテーション)の実施(50%)
※授業時間内の取り組みだけでは限界があるため、授業外の取り組みが大前提となる。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第9回～第11回		第12回～第14回			

科目名／専門教育	YS621-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
算数科指導法		2年前期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	福田 俊彦		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】
算数科の5つの領域に関する目標、内容、手立て、評価を関連付けた数学的活動を核とした指導法について考究する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
研究課題について文献研究、調査研究、実践研究(模擬授業)を実施し、協働的な学びを通して実践力を高めていく。

【到達目標と学修成果】
①算数科の目標、内容を理解し、数学的活動を中核とした授業計画を立て、模擬授業を実施することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▼事後 / 分】	
第1回	学習指導要領に示されている目標の理解	△算数科で育む資質・能力の内容を捉える	90
		▽資質・能力の内容をノートにまとめる	90
第2回	A数と計算 整数における数学的活動と資質・能力	△整数に関わる学習内容を調べる	90
		▽整数に関わる学習内容をノートにまとめる	90
第3回	A数と計算 計算の仕方における数学的活動と資質・能力	△計算の仕方に関わる学習内容を調べる	90
		▽計算の仕方に関わる学習内容をノートにまとめる	90
第4回	B図形 平面・立体図形における数学的活動と資質・能力	△平面・立体図形に関わる学習内容を調べる	90
		▽平面・立体図形に関わる学習内容をノートにまとめる	90
第5回	B図形 図形の計量における数学的活動と資質・能力	△図形の計量に関わる学習内容を調べる	90
		▽図形の計量に関わる学習内容をノートにまとめる	90
第6回	C測定 測定における数学的活動と資質・能力	△測定に関する学習内容を調べる	90
		▽測定に関する学習内容をノートにまとめる	90
第7回	C変化と関係 変化と関係における数学的活動と資質・能力	△変化と関係に関する学習内容を調べる	90
		▽変化と関係に関する学習内容をノートにまとめる	90
第8回	Dデータの活用 データの活用における数学的活動と資質・能力	△データの活用に関する学習内容を調べる	90
		▽データの活用に関する学習内容をノートにまとめる	90
第9回	授業設計1 教材研究	△学習内容の系統性から教材の分析をする	60
		▽系統性を捉えた教材分析をノートにまとめる	90
第10回	授業設計2 授業研究	△授業の形態、板書、展開について考えをもつ	60
		▽授業の展開についてノートにまとめる	90
第11回	授業設計3 情報機器の活用	△算数科における情報機器の活用について調べる	60
		▽算数科における情報機器の活用をノートにまとめる	90
第12回	授業設計4 学習指導案の書き方	△算数科の学習指導案の構成を調べる	60
		▽算数科の学習指導案の書き方をノートにまとめる	210
第13回	授業設計5 学習指導案の発表・模擬授業	△教材・教具の準備等、模擬授業の準備をする	90
		▽授業を実施する際の留意点をノートにまとめる	90
第14回	授業設計6 学習指導案の振り返り	△学習指導案について改善点を整理する	90
		▽学習指導案の作成上の留意点をまとめる	90
第15回	まとめと授業の総括	△算数科の指導について復習する	90
		▽算数科の指導についてレポートを作成する	90

備考： 2700

【履修上の留意点】
より実践的な面からのディスカッションを行うため、事前の学習では算数科の教科書を活用し、学習内容を把握しておくこと。

【テキスト】
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 文部科学省

【参考書・参考資料等】
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 令和2年3月 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター

【連絡方法】 授業時に伝える

【オフィスアワー】 月曜日、木曜日の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	①	30%	課題の意図を的確に把握し、自分の考えを記述している。	課題の意図を的確に把握し、記述している。	課題の意図を把握し記述しているが、改善すべき内容の記述がある。	課題の意図を部分的に捉え、記述内容が不十分である。	課題の意図を捉えておらず、課題の内容に関わらない内容で記述されている部分が大部分を占めている。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	50%	課題を自分のこととして捉え、意欲的に取り組み、課題改善を図っていくなどの姿勢が窺われ、模範となった。	課題を自分のこととして捉え、意欲的に参画していた。	課題に対して自分の考えをもち参加していた。	課題への取り組みに参加しようとする努力していた。	課題への取り組みが不十分であり、算数科の指導法に関する理解が不足している。
授業外での 取組	①	20%	課題の内容を的確に捉え、課題改善を図っていた。その成果が授業で窺われた。	課題の内容を捉え授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められた。	課題の内容を捉え授業外での学習に取り組んでいた。	授業外での学習に取り組もうとする姿が見うけられた。	授業外での学習への取組が不十分であり、授業内での学びにつなげることができていなかった。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 14		13		2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	

科目名/専門教育	YS621-4	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
理科指導法		2年後期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	大高 竜午		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

小学校理科の目標、内容、方法など、現代の小学校理科教育の基礎的・基本的な内容を理解させるとともに、理科授業作りの基礎基本を身に着ける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

理科教育の目的・目標、内容、方法、そして現代的な特色などを取り上げ、検討する。その際、講義と演習を交え、できるだけ発表や討論の機会を設けることとする。

【到達目標と学修成果】

- 日本の理科教育の特色を、諸外国と比較して、その特色を指摘できる。
- 理科教育課程(カリキュラム)の水平・垂直次元の枠組み(スコープとシーケンス)を説明できる。
- 理科学習指導案の構成要素を理解し、基礎基本を踏まえた学習指導案を作成できる

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス ー本授業の内容や進め方に関するガイダンスー	△テキスト付録「学校教育法施行規則」の熟読 ▽テキスト付録「小学校学習指導要領 総則」の熟読	90 90
第2回	1.理科教育の目的・目標並びに育成すべき資質・能力と学習指導要領の特色 ー理科教育全体の目的と小学校理科教育の役割ー	△テキスト第1章「総説」の予習 ▽テキスト第2章第1節「教科の目標」の熟読	90 90
第3回	2.理科の内容の全体構成とその特色 ー諸外国との比較を交えてー	△テキスト第2章第2節「理科の内容構成」の予習 ▽配布資料により諸外国の理科教育について復習	90 90
第4回	3.小学校理科の内容① ーA:物質・エネルギー、B:生命・地球ー	△テキスト第2章の図1～3(pp.22-26)の予習 ▽同上を基にもう一度、内容とその構成について復習	90 90
第5回	3.小学校理科の内容② ー自然科学を超える要素:実社会・実生活との関連付け、キャリア教育の要素などー	△理科の内容は純粋科学だけかどうか調べる ▽配布資料により米国の内容と比較考察する	90 90
第6回	4.授業づくりの基礎基本 ー教材研究と子どもの自然認識特性ー	△つまづき・ミスコンセプションの例を調べる ▽ミスコンセプションの例と原因について復習	90 90
第7回	第6回までにに関する小テスト(30分程度)と振り返り、及び 5.理科学習指導案の構成要素	△理科学習指導案の様式について予習 ▽小テストの復習	90 90
第8回	6.理科学習指導案の作成① ー学習指導案の実例の比較検討(授業目標と評価を中心として)ー	△目標・授業展開・評価の一貫性について予習 ▽指導案での目標・展開・評価の関係に関する復習	90 90
第9回	6.理科学習指導案の作成② ー各班で選択した単元について個人ごとに授業プランを考えるー	△指定の単元について粗い授業プランを作ってみる ▽選択した単元の授業プランの具体化	90 90
第10回	6.理科学習指導案の作成③ ー別班に学習指導案として具体化(情報機器の活用を含む)ー	△理科で活用できる情報機器について調べる ▽学習指導案における情報機器の活用の復習	90 90
第11回	7.模擬授業の準備 ー学習指導案の本時を模擬授業案として具体化(情報機器の活用を含む)ー	△第一次第1時の模擬授業の実際を考える ▽同上の精緻化	90 90
第12回	8.模擬授業の実施と改善視点の探究 ー別班に導入部を中心に実施ー	△模擬授業の留意点の整理 ▽模擬授業の振り返りと改善視点の深化	90 90
第13回	9.理科教育における最近の話題を考える① ー理科における言葉・言葉の力ー	△「言語活動の充実」の背景を調べる ▽言葉・概念・論理の重要性について復習	90 90
第14回	9.理科教育における最近の話題を考える② ー理科教育と環境教育との関係・差異ー	△ESDやSDGsについて調べる ▽理科教育と環境教育の関連の復習	90 90
第15回	第14回までにに関する小テスト(30分程度)と振り返り、及び本授業全体のまとめ	△これまでの授業の復習 ▽学生時代に行うべき学習について再確認する	90 90

備考:

2700

【履修上の留意点】

「理科」と合わせて受講すること。

【テキスト】

・文部科学省編「小学校学習指導要領 解説 理科編」(最新版)、文科省HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm

【参考書・参考資料等】

- 理科教育研究会編『新学習指導要領に定める理科教育』、東洋館出版社、2009年、2200円
- 鶴岡義彦監修 千葉市教育センター編『Q&A方式でよくわかる小学校教師のための理科基礎知識』、大日本図書、2012年、933円

【連絡方法】

第1回目に伝えます。

【オフィスアワー】

昼休み12:30～13:00

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考: レポート:個人々の学習指導案について、様式、構成要素、授業展開や発問の工夫などから評価
授業内での取組:7回目と15回目の小テスト(各25%)、班活動(授業プランの検討や模擬授業の実施:20%)

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			第12回	第8回～第11回		

科目名/専門科目	YS621-5	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
生活科指導法	3年前期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	山崎 早苗		○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○						
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○						
	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○						
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○						
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎						
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△						

【授業のねらい】
生活科の教科としての特徴や魅力を実践的に体験する中で理解できるようにする。子どもの実態や地域の様子、教師の見取りや評価の在り方についても考えることができるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
演習形式である。子どもの生活環境に即した単元構成を試みながら、授業計画の立て方を指導する。生活科にふさわしい総合学習の計画と運営ができるように授業の実践例を参考にしながら教材研究し、情報機器を活用した指導案の作成や模擬授業を行うことが出来る力を養う。

【到達目標と学修成果】
①生活科の教科としての特徴がわかり、子どもの生活環境に合った指導案を作成することができる。
②作成した指導案をもとに情報機器などを活用しながら模擬授業をすることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	生活科の教科目標の構成について 自然を探索する活動「のはらたんけんたい」	△「のはらたんけん隊」の実践論文を読む	90
		▽有明キャンパスの自然探索で発見したことをまとめる	90
第2回	生活科の内容構成と教材研究について テーマ「春の自然発見から自然料理へ」	△自然料理の実践論文を読む	90
		▽自然料理の体験をレシピにまとめる	90
第3回	気付きを深める振り返りと表現活動 実践例「春の味交流会」など	△「体験を基にした多様な表現方法」の実践論文を読む	90
		▽論文の中の子どもの気付きを読み取る	90
第4回	身近な地域を探索する活動 町探検で出会うもの・人・こと	△有明の町探検を行う計画を考える	90
		▽町探検のまとめを発表する方法を整理する	90
第5回	自然の不思議や面白さ発見 「自然素材の遊び」の実際	△種や草花などの遊び方を調べる	90
		▽季節ごとの自然遊びをまとめる	90
第6回	継続的な飼育活動 「生き物ランド」「ヤゴ救出作戦」PC教材の活用	△水棲生物の生態と体験について実践論文を読む	90
		▽ヤゴの羽化を通して継続的な飼育に取り組む	90
第7回	継続的な栽培活動 有明農園で野菜を育て夏野菜料理に挑戦！	△夏野菜を収穫した料理の計画を立てる	90
		▽野菜栽培のまとめを表現する	90
第8回	幼児教育との接続 「なかよし学校探検」	△学校探検の実践論文を読む	90
		▽スタートカリキュラムの重要性をまとめる	90
第9回	交流する場の工夫 お年寄りと伝承遊び	△ゲストティーチャーを招いた実践論文を読む	90
		▽伝承遊びの遊び方をまとめる	90
第10回	他教科との関連的な活動 創作曲「ザリ君の目はビー玉」	△生き物飼育から広がった実践論文を読む	90
		▽多様な表現活動の例を考える	90
第11回	伝え合う活動 自分の成長「自分のきりり みんなのきりり」	△自分と学級の成長を発表する実践論文を読む	90
		▽自分の成長を見出せる学習を考える	90
第12回	生活科の指導計画の作成 24か月の年間指導計画と評価	△2年間を見通した年間計画例を読む	90
		▽自分の取り上げたい単元について考える	90
第13回	単元指導計画の作成 各自が設定した地域・子どもへの指導案づくり PC室でPC入力	△生活科の指導案例を構想する	90
		▽自分の指導計画を作成する	90
第14回	生活科の学習指導 情報機器を使って模擬授業 指導案の提案・課題の発見・修正 PC室で再入力	△模擬授業を行う準備をする	90
		▽指導案の修正を行う	90
第15回	まとめ	△自分の指導案を完成させる	90
		▽他の学生の指導案を読む	90

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】 調理費 200円程度
【テキスト】 文科省『小学校学習指導要領解説 生活編』（最新版）
【参考書・参考資料等】 特になし。
【連絡方法】 4228czho@jcom.zaq.ne.jp
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】						
	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。主体的に授業に臨もうと努力していた。	・授業外での取組に参加することができた。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	②	40%	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組内容に取り組みることができた。	・前時に課題として出された実践論文を読むという授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第3回、第15回		第14回	第2回、第4回		

科目名/専門教育	YS621-6	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
家庭科指導法		3年前期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	伊藤 野里子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

家庭科教育の意義を踏まえ、小学校家庭科において育成を目指す資質や能力について把握し、学習内容を拠って立つ専門的、科学的な学問と関連付けて理解しながら学習指導に必要とされる基本的な知識や技能を身に付けるとともに、実践的な授業構成の力を養うことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である(講義、調理実習、被服実習を含む)。「家庭科」の変遷や現状を解説し、家庭科教育の意義について考える機会とする。小学校家庭の目標や内容、授業実践に必要な指導方法を解説し理解を深めさせる。講義や実習により指導方法を把握し、指導例分析や学習指導案の作成、模擬授業を通して授業作りの力をつけることに資する。

【到達目標と学修成果】

- ①家庭科の意義について理解し、自己の考えを含めて説明することができる。
- ②小学校家庭科の目標と内容や指導計画、授業構成、学習形態、評価、教材研究等の学習指導方法を理解できる。
- ③小学校家庭科の特質を活かした指導計画を立てることができる(学習指導案の作成、模擬授業の実施)。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	家庭科教育の意義 ・家庭科を何のために、家庭科で何をどのように学ぶのか	△シラバスを読む ▽授業の進め方を確認し、家庭科教育の意義を復習	90 90
第2回	小学校家庭科の構成(目標と内容)	△指導要領解説の第1章、第2章の第1,2節を読み予習 ▽小学校家庭科の目標及び内容について復習する	90 90
第3回	小学校家庭科における「主體的な学び」「対話的な学び」と学習形態 ・「自分ごと」として生活に主體的な姿勢で取り組む学習 ・協働、意見交換による学び合いや、家庭や地域等との関わりにより深める学習	△「主體的」「対話的」学びが示された授業の事例を読み予習 ▽「主體的」「対話的」学びについて整理し復習する	90 90
第4回	小学校家庭科における「深い学び」と学習形態 ・生活課題の発見(生活への気づき)と問題解決的な学習	△「深い学び」が示された授業の事例を読み予習する ▽「深い学び(問題解決的な学習)」について復習する	90 90
第5回	小学校家庭科の指導計画 ・指導計画(年間、題材、単位数)の作成と配慮事項 ・学習指導案と模擬授業の目的と方法	△指導要領解説の第3章1と「教科書」を読み予習する ▽指導計画の意味、構成、留意点について復習する	90 90
第6回	「家族・家庭生活」の教材研究と指導の要点 ・「自分の成長と家族・家庭生活」のガイダンス的な意味と他の学習項目との関連	△指導要領解説の第2章第3節「A家族・家庭生活」の予習 ▽家庭科の「ガイダンス授業」の要点について復習	90 90
第7回	「衣食住の生活」1. 「食生活」(1) ・「食事の役割/栄養を考えた食事」の教材研究と指導の要点——言語活動の充実を図りながら、より生活への実感を伴った理解をめざす授業例を中心に	△指導要領解説の第2章第3節「B衣食住」(1)(3)、第3章2の予習 ▽言語活動の充実を図る授業についての復習をする	90 90
第8回	「衣食住の生活」2. 「食生活」(2) ・「調理の基礎」の教材研究と指導の要点——科学的な理解へ繋げる実践・体験的な調理実習の進め方を中心に	△指導要領解説の第2章第3節「B衣食住」(2)の予習 ▽生活事象と科学的知識・理解の復習/実習の評価	90 90
第9回	「衣食住の生活」3. 「衣生活」(1) ・「衣服の着用と手入れ」の教材研究と指導の要点——家庭との連携による、知識や技能の日常生活への活用をめざす授業例を中心に	△指導要領解説の第2章第3節「B衣食住」(4)の予習 ▽学習した知識や技能と生活への活用について復習	90 90
第10回	「衣食住の生活」4. 「衣生活」(2) ・「布を用いた製作」の教材研究と指導の要点——児童の生活体験や技能の習得状況に応じた被服実習の進め方を中心に	△指導要領解説の第2章第3節「B」(5)予習/製作計画 ▽児童の技能に応じた指導について、まとめ復習する	90 90
第11回	「衣食住の生活」5. 「住生活」 ・「快適な住まい方」の教材研究と指導の要点——ICTや視聴覚教材を取入れた授業例を中心に	△指導要領解説の第2章第3節「B衣食住」(6)の予習 ▽情報活用能力と授業展開の要点について復習する	90 90
第12回	「消費生活・環境」 ・「消費生活・環境」の教材研究と指導の要点——身近な生活の問題から知識や理解を深め地域や社会との繋がりを考えていく授業例を中心に	△指導要領解説の第2章第3節「C消費生活・環境」の予習 ▽消費生活と地域社会や環境との関わりを復習する	90 90
第13回	小学校家庭科と評価 ・評価の基本と問題解決的な学習の評価方法	△小学校家庭科の評価について資料を読み予習する ▽評価の基本と問題解決的な学習の評価方法の復習	90 90
第14回	指導計画の発表 ・学習指導案と部分的な模擬授業の発表と意見交換	△学習指導案(時案)作成と模擬授業の準備をする。 ▽発表、検討後、学習指導案の改善、修正をまとめる	90 90
第15回	まとめ ・作成した指導計画の振り返り/定期試験と振り返り	△家庭科で身に付ける力について、試験の予習 ▽学習した内容について目標到達状況の自己評価	90 90

備考:

2700

【履修上の留意点】

授業内の提出プリント20%、調理実習・裁縫作品20%、学習指導案・模擬授業30%、学期末の定期試験(30%)に基づき総合的に判断します(ただし定期試験の点数は60%以上取れていることを単位認定の必要な要件とします)。裁縫作品の完成・提出は単位認定に必須です。

【テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館出版社 2018 (税込103円)
授業時の配布プリント

【参考書・参考資料等】

堀内かおる『生活をデザインする家庭科教育』世界思想社 2020 (2300円+税)
牧野カンコ『作る手が子どもたちを輝かす②アクティブ・ラーニングが育てる「これからの家庭科」』地域教材社 2017 (税込1500円)

【連絡方法】

主としてGoogle Classroom(n-ito@g.ariake.ac.jp)。UNIPAの掲示板も使用することがあります。

【オフィスアワー】

基本的に授業時間の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	55%	小学校家庭科の意義について理解し説明することが十分にできる。指導案の計画及び発表を十分適切に行うことができる。	小学校家庭科の意義について理解し説明することができる。指導案の計画及び発表を適切に行うことができる。	小学校家庭科の意義について概ね理解し説明することができる。指導案の計画及び発表を行うことができる。	小学校家庭科の意義についての理解と説明が断片的、不十分が見られる。指導案の計画及び発表を行うが、教科の意図に沿わない部分が見受けられる。	小学校家庭科の意義について理解し説明することができていない。指導案の計画及び発表を行うことができていない。
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	②	40%	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が十分できている。授業の実習に積極的に参加し、十分な成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解ができている。授業の実習に積極的に参加し、成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が概ねできている。授業の「実習」に参加し、概ね成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされているが、授業内容の理解にばらつきがある。授業の実習に参加しているが成果が不十分である。学修に努力を要する。	授業内のプリント提出がなされず、授業内容の理解ができていない。授業の実習に参加しておらず。成果を出していない。
授業外での 取組	③	5%	指導案の計画をし、発表・検討をもとに再構成し、十分な指導案を仕上げる事ができる。	指導案の計画をし、発表・検討をもとに再構成し、指導案を仕上げる事ができる。	指導案の計画をし、発表・検討をもとに再構成し、概ね指導案を仕上げる事ができる。	指導案の計画をし、発表・検討をしたが、再構成し、概ね指導案を仕上げることに、努力を要する。	指導案の計画、発表・検討、再構成、仕上げができていない。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第14回		第14回	第8, 10回		

科目名／専門教育	YS621-7	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽科指導法	3年後期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	三小田 美穂子			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

小学校における音楽科教育の基礎知識や概念を学ぶ。発表・模擬授業を主に行う。小学校の音楽教育で大切なことは何か、自ら考え行動できる力を身につけることを目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

表現と鑑賞の各活動を体験しながら、知識を獲得し、指導法について考える。また、授業計画の立て方や指導案の書き方について学ぶ。ICTを利用する方法やアクティブラーニングを取り入れた、発表や模擬授業などの演習中心の授業となる。

【到達目標と学修成果】

- ①小学校音楽科の授業内容を知り、教材研究ができるようになる。
②授業の評価と評価の方法を理解し、指導案を作成できるようになり、模擬研究を行うことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス 授業の内容と進め方	△シラバスを見て、授業の流れを把握しておく 90
		▽音楽の授業の内容と活動をまとめる 90
第2回	音楽科の目標と指導内容	△学習指導要領の全体と各学年の目標を読む 90
		▽音楽科の目標と学習内容をまとめる 90
第3回	表現(歌唱)領域の内容と指導方法 ICTを使った指導方法	△学習指導要領の歌唱を読み、疑問をまとめる 90
		▽ICTを用いた指導方法をまとめる 90
第4回	表現(歌唱)領域の内容と指導方法 指導上のポイント 共通教材について	△歌唱の共通教材について調べる 90
		▽歌唱の指導上のポイントについてまとめる 90
第5回	表現(器楽)領域の内容と指導方法 ICTを使った指導方法	△学習指導要領の器楽を読み、疑問をまとめる 90
		▽ICTを用いた指導方法をまとめる 90
第6回	表現(器楽)領域の内容と指導方法 指導上のポイント	△器楽の指導方法について調べる 90
		▽器楽の指導上のポイントについてまとめる 90
第7回	表現(音楽づくり)領域の内容と指導方法 ICTを使った指導方法	△指導要領の音楽づくりを読み、疑問をまとめる 90
		▽ICTを用いた指導方法をまとめる 90
第8回	表現(音楽づくり)領域の内容と指導方法 指導上のポイント	△音楽づくりの指導方法について調べる 90
		▽音楽づくりの指導のポイントをまとめる 90
第9回	日本音楽の指導方法	△日本音楽について調べる 90
		▽日本音楽の指導方法についてまとめる 90
第10回	鑑賞 領域の内容と指導方法 ICTを使った指導方法	△指導要領の鑑賞を読み、疑問をまとめる 90
		▽ICTを用いた指導方法をまとめる 90
第11回	鑑賞 領域の内容と指導方法 日本の音楽・諸民族の音楽	△諸民族の音楽について調べる 90
		▽鑑賞の指導ポイントについてまとめる 90
第12回	学習指導案の作成 題材と評価	△学習指導案の内容について調べる 90
		▽学習指導案の作成 90
第13回	模擬授業の実践	△模擬授業の準備 90
		▽模擬授業の省察 90
第14回	省察をもとにした模擬授業の実践	△省察をもとにして模擬授業の準備をする 90
		▽模擬授業を通してわかった留意点をまとめる 90
第15回	授業の総括	△音楽を指導する際に重要だと思うことをまとめておく 90
		▽音楽の授業の流れと手立てについてまとめる 90

備考：

2700

【履修上の留意点】

専門的で実践的な力を身につけることを目的とし、実務経験を踏まえた教育の現場に即した授業を行う。そのため授業はグループでの活動や議論を中心に行われるので、積極的に参加することが望ましい。

【テキスト】

文部科学省編纂 『小学校学習指導要領解説 音楽編』(最新版)

【参考書・参考資料等】

学校音楽教育実践シリーズ(音楽之友社)

【連絡方法】

初回授業時に指示する

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・授業で説明した流れ、内容、留意点に沿って書かれていると同時に豊かな発想と工夫が見られる。 ・慎重かつ丁寧に推敲されている。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・授業で説明した流れ、内容、留意点に沿って書かれているが、豊かな発想と工夫は見られない。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・授業で説明した流れ、内容、留意点に沿って作成されているが、留意点が網羅されていない。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・授業で説明された流れ、内容、留意点に沿って作成されていない。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁が守られていない。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	4, 6, 8, 11,		3, 5, 7, 13, 14			

科目名/専門教育	YS621-8	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
図画工作科指導法	3年後期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	有福 一昭			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
「小学校学習指導要領解説・図画工作編」における指導計画の作成と内容の取扱い、特に材料や用具、事故防止については、実際の活動を通して把握することができる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
小学校図画工作科の目標と内容を理解し、児童の造形への興味や関心、教授や授業の特性等を教科書等から理解する。また、指導者として必要な感性や表現力、造形の知識や技能を体得する。特に安全に配慮すべき事項に関しては、実際の材料・用具、工具を用いた指導技術指導を身につける。ICT機器を活用方法を学びながら指導案作成や模擬授業ができる力を養う。

【到達目標と学修成果】
①「小学校学習指導要領解説・図画工作編」における指導計画の作成と内容の取扱い、特に材料や用具、事故防止については、実際の活動を通して把握することができる。
②美術を通じたコミュニケーション能力を培い、インクルージョン教育のスキルを獲得し、実践的に指導する力を養う。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	図画工作科の目標と内容について	△小学校学習指導要領解説第1章の予習 ▽図画工作科の目標についてまとめる	90 90
第2回	教科書を使用し、子どもの発達特性と学年目標、内容との関連	△小学校学習指導要領解説第2章の予習 ▽各学年の目標及び内容についてまとめる	90 90
第3回	表現材料の特性と用具の取扱い、および指導上の留意点(低学年)	△小学校学習指導要領解説第3章第1節の予習 ▽使用した素材・道具・技法等の取扱い指導上の留意点をまとめる	90 90
第4回	表現材料の特性と用具の取扱い、および指導上の留意点(中学年)	△小学校学習指導要領解説第3章第2節の予習 ▽使用した素材・道具・技法等の取扱い指導上の留意点をまとめる	90 90
第5回	表現材料の特性と用具の取扱い、および指導上の留意点(高学年)	△小学校学習指導要領解説第3章第3節の予習 ▽使用した素材・道具・技法等の取扱い指導上の留意点をまとめる	90 90
第6回	造形遊び(身体感覚を生かした造形活動)	△小学校学習指導要領解説第4章1の予習 ▽「造形遊び」活動についての留意点をまとめる	90 90
第7回	さまざまな造形表現について学ぶ(モダンテクニック、映像表現の体験)	△小学校学習指導要領解説第4章2の予習 ▽さまざまな造形表現技法についてまとめる	90 90
第8回	児童の発達段階と題材設定の関係について(鑑賞を通して、指導と評価)	△小学校学習指導要領解説第4章4の予習 ▽鑑賞を通じた指導と評価についてまとめる	90 90
第9回	安全指導①(鋸、錐など木工用具)と題材研究	△小学校学習指導要領解説第4章3の予習 ▽鋸、錐など木工用具の安全指導と題材についてまとめる	90 90
第10回	安全指導②(電動糸鋸)と題材研究	△資料「電動糸鋸の取り扱い」の予習 ▽電動糸鋸の安全指導と題材についてまとめる	90 90
第11回	鑑賞の指導法:カードなどを活用し、鑑賞と表現を一体化した題材研究をする。	△資料「鑑賞教育方法について」の予習 ▽題材研究を行った鑑賞教育方法についてまとめる	90 90
第12回	図画工作におけるICT機器の活用について	△ICT機器活用の予習、授業内容及び資料の復習 ▽ICT機器活用方法についてまとめる	90 90
第13回	学習指導案作成について(児童観、教材観、指導観をふまえて)	△資料「図画工作指導案について」の予習 ▽図画工作学習指導案の児童観、教材観、指導観の見直し	90 90
第14回	図画工作の指導案作成(学習指導案について理解し、題材を設定し、学習指導案を作成する)	△図画工作学習指導案発表の準備 ▽図画工作学習指導案内容の確認・準備	90 90
第15回	模擬授業と振り返り、ポートフォリオ作成	△図画工作学習指導案発表の準備 ▽発表のふりかえりについてレポートにまとめる	90 90

備考: 270

【履修上の留意点】
5回以上欠席は単位修得不可。授業開始時間より20分以降の入室は不可とする。

【テキスト】
小学校学習指導要領解説 図画工作科編 (最新版)

【参考書・参考資料等】
適宜配布、紹介する。教材費を徴収することがある。

【連絡方法】 arifuku@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】 昼休み、授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①	10%	・美術・造形の知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・美術・造形の知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	①	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・積字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・積字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・積字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・積字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・積字・脱字・文法の誤りが多いため、指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、素材・道具・技法の知識理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組に参加することができた。 ・素材・道具・技法の知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	①	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みることができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	6回、8回、11回、13回		15回			

科目名／専門教育	YS621-9	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
体育科指導法	3年後期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	角杉 美恵子			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

小学校体育科教育の目標と内容を理解し、体育の指導とその展開のために求められる基礎的な能力を養う。
模擬授業等を通して、基礎的な体育の指導技術を中心とした実践的能力を身につけることを目的とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義を織り交ぜながら、演習形式を多く取り入れて実施する。
学年ごとの教育目標と内容を理解しながら学習指導案を作成し、模擬授業を通して参加者同士による評価や振り返り活動を重ねながら体育科指導に求められる学びを深める。

【到達目標と学修成果】

- ①体育科教育の目的を踏まえ指導内容を検討し、教材を工夫して学習指導案を作成することができる。
- ②模擬授業を通して授業の計画・評価の手法を学び、より良い体育科の授業を構築することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▼事後 / 分]	
第1回	オリエンテーション 小学校体育科の目標と指導内容	△シラバスを確認する ▽内容をノートにまとめる	90 90
第2回	小学校における体育とは何か 学習指導要領から体育を考える	△体育の今日的意義について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第3回	体育科に求められている役割とねらい 運動目的論と現代社会の抱える課題から遊びを考える	△体育科の役割と使命を調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第4回	体育科指導案作成の方法と実際 これからの実践活動と授業研究に向けて	△指導案を作成する ▽指導案を作成する	90 90
第5回	遊びと教育との関係 低学年の領域としての運動遊びの指導から考える	△体育科における「遊び」について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第6回	遊びと体育との関係と教材研究 体づくり運動の指導から考える	△体づくり運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第7回	発達と体育との関係と教材研究 ゲーム運動における授業作りの方向性	△ゲーム運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第8回	運動特性と楽しさ ボール運動を通して考える	△ボール運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第9回	器械運動の授業作り 運動学的な視点からコツを捉える(映像機器の利用と活用)	△器械運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第10回	陸上運動の授業づくり 鬼ごっこから走・跳・投へ	△陸上運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第11回	表現運動の授業づくり 体育における表現とは何か(映像機器の利用と活用)	△表現運動について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第12回	水泳領域の授業づくり 水を用いた発達支援の関係から	△水泳領域について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第13回	保健領域の授業づくり 健康について再考する	△保健領域について調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第14回	多様な運動材による授業の展開 ニュースポーツを用いた実践から	△ニュースポーツについて調べる ▽内容をノートにまとめる	90 90
第15回	まとめ これからの体育の在りかたについて	△半期の内容をまとめる ▽内容をノートにまとめる	90 90

備考:

【履修上の留意点】

実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。
実技が中心であるので、欠席をしないように努めること。

【テキスト】

小学校学習指導要領解説 体育編、東洋館出版社(最新版)

【参考書・参考資料等】

学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動 文部科学省 ¥1,300+税
学校体育実技指導資料第8集 ゲーム及びボール運動 文部科学省 ¥1,800+税 その他は授業の中で適宜紹介していきます。

【連絡方法】

授業内で指示する

【オフィスアワー】

授業時間前後の休み時間等

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	30%	・知識・理解・応用力 (実践力)が十分に身 についていることが認め られる。	・知識・理解・応用力 (実践力)が身につけて いることが認められる。	・基本的な知識の習得 や理解がされていること が認められる。	・基本的な知識の習得 や理解が断片的である ため、今後も努力を要 する。	・基本的な知識の習得 や理解がされていない。
期末 レポート	① ②	30%	・課題の意図を的確に理 解し、過不足ない内容で 記述されている。 ・論理に一貫性があり、客 観的根拠や先行研究の選 択が妥当で参照できている。 ・論理に一貫性があるが、 客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りが ない。 ・指定の体裁が守られてい る。	・課題の意図を理解し、記 述されている。 ・論理に一貫性があり、客 観的根拠や先行研究の選 択が妥当で参照できている。 ・論理に一貫性があるが、 客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りが ない。 ・指定の体裁が守られてい る。	・課題の意図をおおむね 理解しているが改善すべ き点がある。 ・論理の飛躍や説明不足 により内容がわかりづら い。 ・誤字・脱字・文法の誤り等 に配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にし か理解しておらず、記述内 容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足 により内容がわかりづら い。 ・誤字・脱字・文法の誤り等 に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの 授業内容を理解できてお らず、関係のない内容が 大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが 多い。 ・指定の体裁・期日が守ら れていない。
授業内で の取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨 み、課題に意欲的に取 り組む姿勢があり、他の 学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得ら れた知識・理解・実践 力が十分に身につけて いることが認められる。	・主体的に授業に臨 み、課題に取り組んで いた。 ・取り組みを通じて得ら れた知識・理解・実践 力が身につけているこ とが認められる。	・主体的に授業に臨もう と努力をしていた。	・授業内での取組に参 加することができた。	・授業内での取組が不 十分で、学習内容の理 解が不足している。
授業外で の取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			3~13			

科目名/専門教育	YS621-10	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
外国語の指導		3年後期	小免 選択必修	演習/単独	2単位	石井 友行		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。			
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。		○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。		○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。		○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。		◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。		○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。		○

【授業のねらい】
 小学校の外国語活動が新設され、児童の特性を踏まえた英語活動を指導するために必要な知識や指導法の理論と実践を身につける。また、小学校外国語教育が果たす役割や具体的な授業づくりについても理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 講義形式ではあるが、演習も取り入れる。指導法については、理論で学ぶだけでなく学生同士が実践することで手法を身につける。実際に小学校の授業を参観し現在の小学校外国語教育についても知る。

【到達目標と学修成果】
 ①小学校における外国語活動を指導するための知識や指導法について理解することができる。
 ②実際の授業づくりと実践力を身につける。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	外国語活動の目的と目標 必修化の経緯・目的・概念・学習指導要領(外国語活動)の目標・小学校の役割について知る。	△資料(学習指導要領目的)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第2回	外国語活動の意義と方向性 コミュニケーション能力・国際教育・異文化理解について理解する。	△資料(外国語活動の意義)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第3回	指導者の役割、資質と研修 指導者の役割などについて考え、指導者に求められる資質や能力をについて知る。	△資料(指導者)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第4回	教材・テキストの構成と内容 役割・使用方法・テキスト内容などについて知る。	△資料(教材)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第5回	指導目標・年間指導計画の立て方と具体例 学習指導要領改訂の基本的考え方と指導目標・年間指導計画の作成手順などを知る。	△資料(指導目標と年間計画)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第6回	言語材料と4技能の指導 外国語活動で扱う音声・文字、語彙および表現といった言語材料について知り指導について考える	△資料(言語材料と4技能)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第7回	教材研究①児童が慣れ親しむ活動を開発する視点・具体例をmextchannelの視聴より知り、アクティビティの組み立てを知る。	△資料(授業づくり)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第8回	教材活動②電子黒板を使った授業をもとにして児童に達成感や満足感をもたらすことのできる発展的な活動について考える。	△資料(電子黒板を使った授業)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第9回	指導法と指導技術 コミュニケーション能力の育成に焦点をあてた指導法(情報機器の活用も含める)、指導技術、指導形態などを理解する。	△資料(指導法と指導技術)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第10回	教材・教具の活用法 教材・教具の選定(情報機器・電子黒板など)の視点、活用方法・留意点などを考える。	△資料(教材・教具の活用)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第11回	評価のあり方・進め方 評価の本質、観点別評価、評価方法について考察し、評価をどのように進めるかなどを考える。	△資料(評価の在り方)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第12回	授業過程と学習指導案の作り方 授業過程の役割や活動について考え、学習指導案の構成と作成法、活用方法を知る。	△資料(学習指導案の作り方)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第13回	授業づくり(模擬授業) 授業前準備、授業中、授業後とそれぞれの段階で、どのようなことに留意し行いかを理解する。クラスルームイングリッシュの活用について。	△資料(模擬授業準備)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第14回	外国語活動の成果、課題と今後の展望 領域から教科へこれからの小学校英語教育について考える。	△資料(成果と課題)を予習する。 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。	90 90
第15回	まとめ	△今までの資料を予習する。 ▽学修したことをまとめる。	90 90

備考: 2700

【履修上の留意点】 授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末レポート(30%)、課題(40%)によって総合的に評価する。
【テキスト】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(最新版) 文部科学省『Let's Try! 2』
【参考書・参考資料等】
【連絡方法】 授業時に伝える
【オフィスアワー】 授業前後・昼休み

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	試験 (発表含む)							
期末レポート	①	30%		・課題の意図を的確に理解し、論理的に記述されている。 ・慎重かつ丁寧に記述されており、誤字脱字等も平平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、論理的に記述されている。 ・慎重かつ丁寧に記述されており、誤字脱字等もない。	・課題の意図をおおむね理解し、記述しようとしているが改善すべき点もある。 ・記述についてはおおむね文意が伝わるが論理性に課題がある。誤字脱字等が若干ある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容は不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。誤字脱字への配慮が不十分である。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・求められた字数を充足せず、誤字・脱字・文法の誤りが多い。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	40%		・主体的に授業に臨み、課題に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	②	30%		・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みることができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	7回~9回			13回		

科目名/専門教育	YS706	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと健康	2年後期	幼児必修	演習/単独	1単位	澤田 由美			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

子どもの「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことについて理解することをねらいとする。具体的には、子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、子どもの特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導法にも関連していることについて理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式の授業である。「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に示された領域「健康」について、解説をもとに、子どもが健康で安全な生活するために必要な基本的な生活習慣、子どもの運動発達の特徴と意義を理解した運動遊び、安全教育や健康管理、子どもの怪我の特徴や病気の予防について、学習していく。

【到達目標と学修成果】

- ①子どもの心と体、運動発達などの健康課題や健康の定義および健康の意義について説明できる。
- ②子どもの体の発達の特徴を理解し、基本的な生活習慣の形成とその意義について説明できる。
- ③子どもの安全教育・健康管理の基本的な考え方を理解し、怪我の特徴や病気の予防について説明できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	子どもの健康課題－健康の定義と健康の意義－	△テキストのpp.10-18を精読する。	15
		▽子どもの健康問題について整理する。	30
第2回	子どもの身体の発達の特徴	△テキストのpp.42-43を精読する。	15
		▽子どもの身体の発達の特徴について整理する。	30
第3回	子どもの生活習慣の獲得と生活リズムの形成	△テキストのpp.53-60を精読する。	15
		▽生活習慣と生活リズムの形成を整理する。	30
第4回	園生活や遊びのなかで育む生活習慣	△テキストのpp.150-175を精読する。	15
		▽園生活や遊びの中で育む生活習慣を整理する。	30
第5回	子どもの健康と環境構成	△テキストのpp.126-149を精読する。	15
		▽子どもの健康と環境構成について整理する。	30
第6回	子どもの安全教育と危険(リスクとハザード)	△テキストのpp.186-190を精読する。	15
		▽子どもの安全教育と危険について整理する。	30
第7回	子どもの怪我や事故の特徴と応急処置	△テキストのpp.191-205を精読する。	15
		▽怪我や事故の特徴と応急処置を整理する。	30
第8回	子どもの病気の予防	△指示した配布資料を精読する。	15
		▽子どもの病気の予防について整理する。	30
第9回	遊びや生活のなかで育む安全の意識	△テキストのpp.191-196を精読する。	15
		▽遊びや生活から育む安全の意識を整理する。	30
第10回	子どもの運動発達の特徴	△テキストのpp.43-48を精読する。	15
		▽子どもの運動発達の特徴について整理する。	30
第11回	子どもの健康とルールのある遊び	△テキストのpp.91-99を精読する。	15
		▽子どもの健康とルールのある遊びを整理する。	30
第12回	子どもの健康と道具を使った遊び	△テキストのpp.100-117を精読する。	15
		▽子どもの健康と道具を使った遊びを整理する。	30
第13回	子どもの健康とさまざまな遊び	△テキストのpp.118-125を精読する。	15
		▽子どもの健康とさまざまな遊びを整理する。	30
第14回	子どもの「健康」をめぐる現状と課題	△テキストのpp.66-85を精読する。	15
		▽「健康」をめぐる現状と課題を整理する。	30
第15回	まとめ	△第1回～第14回の整理した内容を確認する。	15
		▽授業内容全体を整理する。	30

備考：

675

【履修上の留意点】

予習・復習をしっかりと行ってください。

【テキスト】

無藤隆監修、倉持清美編者代表『新訂 事例で学ぶ保育内容<領域>健康』、萌文書林、2018（定価：¥2,000＋税）

【参考書・参考資料等】

文部科学省著・編『幼稚園教育要領<平成29年告示>』、フレーベル館、2017
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館2017 その他にプリントを配布します。

【連絡方法】

授業内で指示

【オフィスアワー】

火曜日 休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①		70%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
	②							
	③							
期末 レポート	①		20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・根拠かつ丁寧に推察されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守されていない。
	②							
	③							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①		10%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
	②							
	③							
授業外での 取組	①							
	②							
	③							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第6回		第8回、第13回			

科目名／専門教育	YS707	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと人間関係	2年前期	幼免必修	演習/単独	1単位	赤坂 澄香			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

子どもを取り巻く人間関係の現代的課題を理解すると共に、領域「人間関係」の指導に必要な子どもの人とかかわる力の育ちに関する専門的な知識を身につけることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題や子どもの人とかかわる力の発達について、グループワークや事例検討、討議、発表などを行う。

【到達目標と学修成果】

- ①子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解することができる。
- ②子どもの人とかかわる力の発達について、関係発達論的視点から理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	オリエンテーション 絵本「わたし」を読んで「人間関係」を考える	△人と関わる力とはどのような力か意見をまとめる ▽人間関係をテーマにした絵本を探してみる	15 30
第2回	子どもを取り巻く現状と人間関係をめぐる課題① 人間関係の現代的課題についての調査	△人間関係の現代的課題について事前調査する ▽人間関係の現代的課題に関する資料を収集する	15 30
第3回	子どもを取り巻く現状と人間関係をめぐる課題② 人間関係の現代的課題についての調査・パワーポイント作成	△人間関係の現代的課題に関する資料をまとめておく ▽人間関係の現代的課題に関する意見をまとめておく	15 30
第4回	子どもを取り巻く現状と人間関係をめぐる課題③ 人間関係の現代的課題の調査結果の発表・討議	△発表のリハーサルを行い、準備しておく ▽さまざまな課題に対する自己の考えをまとめる	15 30
第5回	子どもを取り巻く環境の理解 ジェノグラム・エコマップの演習	△子どもを取り巻く環境を理解する方法を調べる ▽ジェノグラム、エコマップの作成・見方の復習	15 30
第6回	愛着の形成過程と個人差 愛着理論についての理解を深める	△「愛着」について調べ、予習する ▽「愛着理論」についてまとめておく	15 30
第7回	自我の芽生えと他者とのかかわり 事例検討	△「自我」について調べ、予習する ▽自我の発達を支える環境についてまとめる	15 30
第8回	自己主張と自己抑制 事例検討	△「自己抑制」について調べ、予習する ▽自己主張と自己抑制の関係についてまとめる	15 30
第9回	道徳性の芽生えと思いやり 事例検討	△「道徳性」について調べ、予習する ▽道徳性の育む環境についてまとめる	15 30
第10回	環境がもたらす人とのかかわり① 子どもの遊びや人とのかかわりを発展させる環境構成の作図	△母園や実習園の環境構成を作図してみる ▽人との関わりを育む環境構成について意見まとめる	15 30
第11回	環境がもたらす人とのかかわり② 子どもの遊びや人とのかかわりを発展させる環境構成の発表・討議	△発表のリハーサルを行い、準備しておく ▽発表をふりかえり、環境構成の改善案を考える	15 30
第12回	人とのかかわりを育てる保育者の役割 保育者が子どもの人間関係に与える影響について分析・討議	△保育者が人間関係に与える影響について考えておく ▽人との関わりを育てる保育者の役割をまとめる	15 30
第13回	人とかかわれない、かかわらない子どもたちについて考える	△関わりが難しい子どものエピソードをまとめておく ▽関わりにおける留意点をまとめる	15 30
第14回	園・家庭・地域の生活と人とのかかわりについて考える	△園や家庭以外で子どもに関わる人々をまとめておく ▽園・家庭・地域の役割についてまとめる	15 30
第15回	まとめ	△人と関わる力の育ちに関する専門的知識をまとめる ▽人間関係の現代的課題と保育・教育について考える	15 30

備考：

【履修上の留意点】

授業に関する連絡や資料・課題配信等にGoogle classroomを使用する。初回到Google classroomのクラスコードを伝えるので各自登録しておくこと。

【テキスト】

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

「保育所保育指針」フレーベル館(2017年)・「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017年)／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017年)／「わたし」谷川俊太郎・長新太 福音館書店(1976年)

【連絡方法】

akasaka@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】

火曜日 昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	40%	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解すると共に、人と関わる力の育ちに関する専門的知識が十分に身につけていることが認められる。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解すると共に、人と関わる力の育ちに関する専門的知識が身についていることが認められる。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解すると共に、人と関わる力の育ちに関する専門的知識が必要最低限、今後努力を要する。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題への理解や、人と関わる力の育ちに関する専門的知識の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題への理解や、人と関わる力の育ちに関する専門的知識の習得がなされていない。
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	60%	・積極的に意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が他の学生の模範となった。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が強く感じられた。	・意見を述べたり、質問をしたり等の主体的に学ぶ姿が見られた。 ・課題に意欲的に取り組む姿勢が見られた。 ・授業に対する興味・関心が感じられた。	・積極的ではないものの主体的に授業に臨もうと努力をしている姿が見られた。 ・与えられた課題に取り組んだ。	・積極性、主体性には欠けるが、授業内での取組には参加していた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第4回・第7回 第8回・第9回 第11回・第12回		第4回・第11回			

科目名／専門教育	YS708	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと環境		2年後期	幼免必修	演習/単独	1単位	信太 朋子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○ △
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○ ◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○ △

【授業のねらい】

当該科目では、領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、主体的に創造していく能力や知識・技能を身に付けることがねらいである。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

子ども一人一人の発達における環境との関わり的重要性について理解することを目指し、講義・演習形式で実施する。各専門的事項については、映像などの視覚的教材を活用し、具体的な事項などを用いて分かりやすく説明する。

【到達目標と学修成果】

- ① 幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を理解する。
- ② 幼児の物理的、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。
- ③ 幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心それらとの関わりを説明できる。
- ④ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と本授業で学んだことを結びつけて理解できる。

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス・現代社会の幼児を取り巻く環境とその課題 ー環境の諸側面、知識、ESDー	△ 幼児と環境との関わりについてP1～P6予習 ▽ テキストP.71-73をノートにまとめる	20 20
第2回	社会的な環境ー演習 標識や文字・生活に関係する情報や施設 子どもの社会生活における標識や文字、地域の公園等の環境	△ テキストP.133～P147の予習 ▽ テキストP93～P102の復習	20 20
第3回	身近な環境ー演習 遊具や用具を使って探求する 身近な物や遊具に興味をもち考えたり試したり工夫したりする	△ テキストP.146演習2の予習 ▽ 公園や地域についての資料をまとめる	20 30
第4回	演習 自然環境に触れ五感を通して気付く(フィールドワーク)	△ ポスター作成のための事前準備 ▽ フィールドワークのまとめ	40 45
第5回	公園の自然環境と社会環境等子どもに関する環境	△ グループ発表 事前打ち合わせ ▽ 公園調査結果をノートにまとめる	30 20
第6回	思考力の芽生えについて 動植物との関わりを通して幼児に育まれる力	△ テキストP54～P65の予習 ▽ テキストP.100・167をノートにまとめる	20 20
第7回	幼児を取り巻く物的環境について 保育室の様々な保育環境 幼児にとって必要な教材・教具・遊具	△ 保育室の物的環境についてまとめておく ▽ テキストP78～P88をノートにまとめる	20 20
第8回	幼児を取り巻く物的環境について 園庭における環境マップのグループワークと発表	△ 園庭における環境と危険について調べておく ▽ グループディスカッションをノートにまとめる	20 20
第9回	自然物や身近な素材を用いた製作及び製作した物を使って遊ぶ活動	△ 自然物や製作に必要な物の事前準備 ▽ 製作物の仕上げ	20 20
第10回	環境が子どもに与える影響について検討を行う	△ テキストP39～P44・P126～P128の予習 ▽ P111～P132をノートにまとめる	20 20
第11回	季節の変化と園内外の行事	△ テキストP134～P136・P146の間1の予習 ▽ グループディスカッションをノートにまとめる	20 20
第12回	幼児の思考、科学的概念の形成について 一遊びや生活の流れの中での数量や図形、文字に親しむー	△ テキストP6～P11・P113の予習 ▽ 数量概念について授業内容をノートにまとめる	20 20
第13回	幼児の思考、科学的概念の形成について 一自然などの身近な事象を取り入れるー	△ 幼児の科学的概念についてP52～P70の予習 ▽ 資料の要旨をノートにまとめる	20 20
第14回	幼児を取り巻く環境について ー手作り教材を使った遊びー	△ 文字環境についてテキストP168～P170の予習 ▽ テキストP166からの授業の内容をノートにまとめる	20 20
第15回	まとめ	△ テキストやノートの予習 ▽ 今までの学修の振り返り	30 20

備考：この科目では、担当者の実務経験(幼稚園教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

欠席5回で失格とする。

【テキスト】

神長美津子監修 保育内容 環境 光生館 2018

【参考書・参考資料等】

授業内において適宜紹介する。『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017)
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館2017

【連絡方法】

初回授業時に通知

【オフィスアワー】

授業終了時

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	50%	・知識・理解・応用力が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	③ ④	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)							
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第8回,第11回		第8回	第4回	第8回	

科目名／専門教育	YS709	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと言葉		2年前期	幼児必修	演習/単独	1単位	長田 信彦		

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

領域「言葉」のねらいと内容を理解し、人間にとっての言葉の意義や機能について理解を深める。その上で、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的知識や技能を身に付け、実践する力を養うことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

演習形式である。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするために、児童文化財を活用し、具体的・実践的な学習をする。

【到達目標と学修成果】

- ①乳幼児期の言葉の発達を踏まえ、保育の中の子どもの言葉における育ちを理解することができる。
- ②幼児の年齢に応じた絵本や紙芝居を選定し、効果的な指導法を実践することができる。
- ③日本固有の児童文化財である紙芝居の歴史と特性を理解し、上演の実践を行うことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス。授業の計画・進め方・評価の仕方について。	△1年「保育内容(言葉)」の振り返りしておく。 20 ▽「保育内容(言葉)」のねらいをノートにまとめる。 20
第2回	領域「言葉」のねらいと内容の確認。言葉の意義、言葉の機能について学ぶ。	△領域「言葉」の予習。 20 ▽言葉の機能についてノートにまとめる。 20
第3回	1年次に学習した乳児の言葉の発達過程と保育者の援助の在り方を振り返る。	△乳児の言葉の発達について復習しておく。 20 ▽乳児の言葉の発達を促す保育者の援助をまとめる。 20
第4回	1年次に学習した幼児の言葉の発達過程と保育者の援助の在り方を振り返る。	△幼児の言葉の発達について復習しておく。 20 ▽幼児の言葉の発達を促す保育者の援助をまとめる。 20
第5回	子どもの言葉の発達を促す児童文化財について学ぶ。	△児童文化財の種類について調べておく。 20 ▽児童文化財と言葉の発達の効用についてまとめる。 20
第6回	絵本と子ども。年齢別に適した絵本を選定し、読み聞かせの実践をする。	△3歳～5歳児に適した絵本を調べておく。 20 ▽対象児と読み聞かせ絵本の適性について意見を書く。 20
第7回	絵本と紙芝居。年齢別に適した紙芝居を選定し、紙芝居の上演を実践する。	△3歳～5歳児に適した紙芝居を調べておく。 20 ▽選定紙芝居の適性について意見をまとめる。 25
第8回	日本固有の児童文化財である紙芝居の歴史と特性について学ぶ。	△紙芝居の歴史について調べておく。 20 ▽紙芝居の特性と絵本の違いについてまとめる。 25
第9回	手作り紙芝居の制作。紙芝居制作の留意点について学ぶ。	△配付資料の予習。 20 ▽紙芝居制作の留意点についてまとめる。 25
第10回	手作り紙芝居の制作。対象年齢を考える。テーマを考える。ストーリーを考える。	△対象児とテーマについて考えておく。 25 ▽ストーリーについてまとめる。 30
第11回	ストーリーに応じた紙芝居の場面割と絵の構図を考える。	△紙芝居画面のプロットを考えておく。 25 ▽プロットと粗筋を作成する。 30
第12回	脚本を考える。	△脚本を考えておく。 25 ▽画面の色塗りをする。 30
第13回	手作り紙芝居の前半組発表。相互鑑賞をし、発表後に意見交換をする。	△紙芝居の効果的な上演の練習をしておく。 20 ▽紙芝居鑑賞の感想をまとめる。① 25
第14回	手作り紙芝居の後半組発表。相互鑑賞をし、発表後に意見交換をする。	△紙芝居の効果的な上演の練習をしておく。 20 ▽紙芝居鑑賞の感想をまとめる。② 25
第15回	振り返りとまとめ。	△これまでの資料の復習をしておく。 20 ▽言葉の発達と児童文化財についてレポートを作成。 25

備考：

675

【履修上の留意点】

紙芝居制作と上演は必須である。

【テキスト】

特に指定しない。資料は適宜プリントにて配付する。

【参考書・参考資料等】

右手和子他『紙芝居をつくる』大月書店、1999/『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017)
大越和孝『改訂新版『保育内容・言葉 言葉とふれあい、言葉で育つ』』、東洋館出版社(2018)/三澤裕見子『児童文学と紙芝居』有明双書、2013

【連絡方法】

授業内で伝える

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	① ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠と先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名／専門教育	YS710	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子どもと表現		2年後期	幼児必修	演習/複数	1単位	有福 一昭・山田 麻美子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園・保育要領」に示された領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現活動を援助する力の育成を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
①理論による学習(領域「表現」の内容、幼児の表現の特徴と発達の変遷などに関わる)
②演習による学習(日々の生活や遊びの場面での子どもの表現を体験・体感するための演習課題への取り組み)

【到達目標と学修成果】
①領域「表現」の基本的理論を理解している。
②子どもの表現に豊かに関わり、子どもの感性と表現力の育ちを支えるために、他者との表現活動に、協同性をもち積極的に創意工夫して取り組むことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス	△「表現」について自分の考えをまとめておく 20 ▽「子どもと表現」について課題プリントを実施する 25
第2回	理論学習：幼稚園教育要領・領域「表現」に関わる内容及び他領域との関連について、表現の捉え方について	△「幼稚園教育要領」総則及び「表現」を読んでまとめる 20 ▽「幼保連携型認定こども園・保育要領」の「表現」についてまとめる 25
第3回	理論と演習：表現・感性・コミュニケーションについて	△資料「コミュニケーションとしての表現1」の予習 20 ▽「コミュニケーションとしての表現1」についてノートにまとめる 25
第4回	理論と演習：表現における他者の存在と表現者としての育ちについて	△資料「コミュニケーションとしての表現2」の予習 20 ▽「コミュニケーションとしての表現2」についてノートにまとめる 25
第5回	子どもの表現に応える保育者自身の感性や援助スキルを磨く演習	△資料「保育者が支える表現1」の予習 20 ▽「保育者が支える表現1」についてノートにまとめる 25
第6回	子どもの表現に応える保育者自身の表現力を磨く演習	△資料「保育者が支える表現2」の予習 20 ▽「保育者が支える表現2」についてノートにまとめる 25
第7回	理論と演習：子どもの存在と表現・子どもの表現の基盤としての身体	△資料「子どもと表現・表現をつくりだす1」の予習 20 ▽「子どもと表現・表現をつくりだす1」についてノートにまとめる 25
第8回	理論と演習：子どもの表現行動の特徴 映像による子どもの表現の観察	△資料「子どもの表現行動1」の予習 20 ▽「映像による子どもの表現」についてレポートにまとめる 25
第9回	理論と演習：子どもの表現行動の特徴 実習体験からのエピソード作成	△資料「子どもと表現行動2」の予習 20 ▽「実習体験からのエピソード」を作成する 25
第10回	理論と演習：子どもの表現行動の特徴 実習体験からのエピソード発表と考察	△資料「子どもの表現行動3」の予習・発表の準備 20 ▽「実習体験からのエピソード」についての考察をまとめる 25
第11回	演習：子どもの表現・感性と環境 環境との関わりからうまれる表現活動	△資料「保育の中の表現を支える環境づくり」の予習 20 ▽「保育の中の表現を支える環境づくり」についてノートにまとめる 25
第12回	理論と演習：社会の変化と子どもの表現	△資料「幼児教育の現代的課題」の予習 20 ▽「幼児教育の現代的課題」についてノートにまとめる 25
第13回	理論：「子どもの感性と表現を育む保育者として」レポート作成	△資料「幼児教育の基本と保育者の役割」についてまとめる 20 ▽「子どもの感性を育む保育者として」のレポートを作成する 25
第14回	理論と演習：レポート提出と発表(ICTを用いて)	△「子どもの感性を育む保育者として」の発表の準備をする 20 ▽発表のふりかえりについてノートにまとめる 25
第15回	まとめ	△授業内容及び資料の復習 20 ▽「子どもの学びと育ちにおける表現の評価」についてまとめる 25

備考： 675

【履修上の留意点】
4回以上の欠席は失格とする。

【テキスト】
随時資料を配布する。

【参考書・参考資料等】
「幼稚園教育要領」プレーベル館(2017)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」プレーベル館(2017)

【連絡方法】 arifuku@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】 水 11:30～12:30

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	① ②	50%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしてきたことが認められる。	・授業外での取組内容に不十分で、学習内容の理解が不足している。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	3, 4, 5, 6, 9, 10回		9, 10, 13, 14回			

科目名／専門教育	YHS701	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽Ⅰ（理論と基礎実技）	1年前期	必修	演習/複数	1単位	山田 麻美子・松田 扶美子・伊藤 菜々子			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
 幼児教育、初等教育現場で必要な音楽的技術・技能および豊かな感性と表現力を身につけ、現場での実践力を習得するための方法論を獲得させる。常に現場を意識し、よりよい指導者としての音楽的実力、感性及び表現力を身につけさせるために、保育・教育現場に対応できる読譜力、歌唱、器楽演奏力、表現力を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 演習形式である。音楽の基礎的知識に基づき、読譜、演奏、創作、編曲に関する初歩的技術を子どもの発達や遊び・表現に関連させて学習させる。そのための音楽理論の基礎、歌唱、器楽奏法、創作編曲、指揮法、伴奏法について実践的に学習させ、音楽創作編曲活動及び音楽劇創作活動等を取り入れて表現能力を身につけさせる。

【到達目標と学修成果】
 ①音楽の基礎理論について理解し、楽譜を読むことができる。 ②鍵盤ハーモニカや小物打楽器など、簡単な器楽演奏や合奏をすることができる。 ③発声の基礎を修得し、正しい発声による歌唱や合唱をすることができる。 ④音楽創作編曲活動や音楽劇創作活動などにおいて、人と協同し積極的に活動に取り組むことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス 授業の概要、授業の進め方、評価方法について	△「音楽経験について」ノートにまとめておく 20
		▽「音楽を通した子どもの関わり」について考えをノートにまとめる 25
第2回	音楽の基礎を身につける・1 理論と器楽の基礎知識「譜表(譜表・音名・音階)」「発声と呼吸法」	△テキストp.2～11の予習 20
		▽テキストp.2～11の復習 25
第3回	音楽の基礎を身につける・2 理論と器楽の基礎知識「譜表(臨時記号)」「楽器の名称と基本的奏法・1」	△テキストp.12～15の予習 20
		▽テキストp.12～15の復習・楽器の名称と奏法についての復習 25
第4回	音楽の基礎を身につける・3 理論と声楽の基礎知識「音価(音符と休符)」「歌唱の基礎(ボイストレーニング)」	△テキストp.30～31の予習 20
		▽テキストp.30～31の復習・声の出し方の復習 25
第5回	音楽の基礎を身につける・4 理論と器楽の基礎知識「音価(付点音符と付点休符)」「楽器の名称と基本的奏法・2」	△テキストp.32～35の予習 20
		▽テキストp.34～17の復習・楽器の名称と奏法Ⅱについての復習 25
第6回	音楽の基礎を身につける・5 理論と声楽の基礎「拍子と拍子記号」「歌唱の基礎(ボイストレーニング)」「合唱の基礎」	△テキストp.36～39の予習 20
		▽テキストp.36～39の復習・自主ボイストレーニングⅠ 25
第7回	音楽の基礎を身につける・6 理論と器楽の基礎知識「拍子とリズム」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏・1」	△テキストp.40～43の予習 20
		▽テキストp.40～43の復習・鍵盤ハーモニカ奏法復習Ⅰ 25
第8回	音楽理論を技能に活かす・1 理論と声楽の基本的技能「調性と調子記号(ハ長調)」「歌唱の基礎(ボイストレーニング)」	△テキストp.54～57の予習 20
		▽テキストp.54～57の復習・自主ボイストレーニングⅡ 25
第9回	音楽理論を技能に活かす・2 理論と器楽の基本的技能「調性と調子記号(ヘト長調)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏・2」	△テキストp.58～59の予習 20
		▽テキストp.58～59の復習・鍵盤ハーモニカ奏法練習Ⅱ 25
第10回	音楽理論を技能に活かす・3 理論と器楽の基本的技能「調性(長音階・短音階)」「鍵盤ハーモニカの基礎と演奏・3」	△テキストp.48～56の予習 20
		▽テキストp.48～57の復習・自主ボイストレーニングⅡ 25
第11回	音楽理論を技能に活かす・4 理論と器楽の基本的技能「調性の理解(コードネーム)」「合奏編曲の基礎と演奏」	△テキストp.70～72の予習 20
		▽テキストp.70～72の復習・合奏曲の構成を考える 25
第12回	音楽理論を技能に活かす・5 理論と声楽の応用的技能「調性の理解(コードネームベース伴奏付)」「新曲弾き歌い」	△テキストp.73～75の予習 20
		▽テキストp.73～75の復習・新曲弾き歌い練習 25
第13回	音楽理論を技能に活かす・6 理論と器楽の応用的技能「調性の理解(和音記号による伴奏付)」「合奏編曲のまとめ」	△テキストp.62～69の予習 20
		▽テキストp.62～69の復習・合奏編曲課題の実施 25
第14回	まとめ・1 理論の復習	△これまでの理論の復習をする・課題の実施 20
		▽課題についてふりかえりをする 25
第15回	まとめ・2 器楽と声楽の復習・合唱まとめ	△器楽・声楽課題の復習と実践練習 20
		▽器楽・声楽課題の留意点の確認・合唱曲のまとめ 25

備考： 675

【履修上の留意点】

【テキスト】
 「おんがくのしくみ」今川恭子 他 教育芸術社(2017)
 「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1、2」吉田梓監修 東亜音楽社

【参考書・参考資料等】
 幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領
 授業の進行にしたがって必要な資料・楽譜等を配布する。

【連絡方法】 yamada@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 水 16:10～17:00

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	60%	・音楽の基礎知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・音楽の基礎知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・音楽の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・音楽の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・音楽の基本的な知識の習得や理解がされていない。
	②	③						
	③	④						
期末 レポート	①	②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
	②	③						
	③	④						
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に不十分で、学習内容の理解が不足している。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
	②	③						
	③	④						
授業外での 取組	①	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に不十分で、学習内容の理解が不足している。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
	②	③						
	③	④						

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			14、15回			

科目名／専門教育	YHS701	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
音楽Ⅰ（理論と基礎実技）	1年後期	必修	演習/複数	1単位	山田 麻美子・松田 扶美子・伊藤 菜々子			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。		
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】
 幼児教育、初等教育現場に必要な音楽的技術・技能および豊かな感性と表現力を身につけ、現場での実践力を習得するための方法論を獲得させる。常に現場を意識し、よりよい指導者としての音楽的実力、感性及び表現力を身につけさせるために、保育・教育現場に対応できる読譜力、歌唱、器楽演奏力、表現力を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方を含む)】
 演習形式である。音楽の基礎的知識に基づき、読譜、演奏、創作、編曲に関する初歩的技術を子どもの発達や遊び・表現に関連させて学習させる。そのための音楽理論の基礎、歌唱、器楽奏法、創作編曲、指揮法、伴奏法について実践的に学習させ、音楽創作編曲活動及び音楽劇創作活動等を取り入れて表現能力を身につけさせる。

【到達目標と学修成果】
 ①音楽の基礎理論について理解し、楽譜を読むことができる。
 ②鍵盤ハーモニカや小物打楽器など、簡単な器楽演奏や合奏をすることができる。
 ③発声の基礎を修得し、正しい発声による歌唱や合唱をすることができる。
 ④音楽創作編曲活動や音楽劇創作活動などにおいて、人と協同し積極的に活動に取り組むことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	音楽理論の基礎を修得する・理論の復習1 「音名と音階、音符と休符」	△テキストp.2～11の復習 ▽プリント課題1の実施	20 25
第2回	音楽理論の基礎を修得する・理論の復習2 「拍子とリズムパターン」	△テキストp.12～43の指定箇所の復習 ▽プリント課題2の実施	20 25
第3回	音楽理論の基礎を修得する・理論の復習3 「調性と音階・1ハ長調」発声と合唱 音楽劇創作2 役割の決定	△テキストp.54～57の復習 ▽プリント課題3の実施	20 25
第4回	音楽理論の基礎を修得する・理論の復習4 「調性と音階・2ハ長調・ト長調」発声と合唱	△テキストp.58～59の復習 ▽プリント課題4の実施	20 25
第5回	音楽理論の基礎を修得する・理論の復習5「和音の機能と童謡の伴奏付け1ハ長調の主要三和音」歌唱練習	△テキストp.62～66の復習 ▽プリント課題5の実施	20 25
第6回	音楽理論の基礎を修得する「童謡の伴奏付け・2ト長調の主要三和音」歌唱練習	△テキストp.67～69の復習 ▽プリント課題6の実施	20 25
第7回	音楽理論の基礎を修得する・理論のまとめ「和音の機能と童謡の伴奏付け3ハ長調の主要三和音」合奏パート練習	△テキストp.76～79の予習 ▽テキストp.76～79の復習	20 25
第8回	理論を応用し表現する1・理論のまとめ「童謡における調性・ハ長調の童謡」合奏全体練習1	△テキストp.84～85の予習 ▽テキストp.84～85の復習	20 25
第9回	理論を応用し表現する2・理論のまとめ「童謡における調性・ト長調の童謡」合奏全体練習2	△プリント課題1～6の復習 ▽プリント課題7の実施	20 25
第10回	理論を応用し表現する3・保育及び教育における音楽指導の基礎「指揮法の基礎」合唱全体練習1	△プリント課題8の実施 ▽音楽劇演目自主練習 合奏・合唱自主練習	20 25
第11回	理論を応用し表現する4・保育及び教育における音楽指導の基礎「合唱と指揮」舞台づくり 音楽と動きのまとめ 合唱全体練習2	△合奏・合唱自主練習 ▽合奏・合唱自主練習	20 25
第12回	理論を応用し表現する5・保育及び教育における音楽指導の基礎「合奏と指揮」舞台づくり 使用小物・道具の確認	△合奏・合唱自主練習 ▽舞台づくり確認作業及び自主練習	20 25
第13回	理論を応用し表現する6・保育及び教育における音楽指導のまとめ 舞台リハーサル	△舞台進行確認及び自主練習 ▽音楽理論まとめ・舞台リハーサルのふりかえり	20 25
第14回	合唱・合奏他舞台発表	△舞台発表に向けて留意点をノートにまとめる ▽舞台発表のふりかえりをレポートにまとめる	20 25
第15回	まとめと発表のふりかえり	△音楽理論・合唱・合奏・舞台発表のまとめ ▽色々な意見をもとに自身のふりかえりの確認をする	20 25

備考： 675

【履修上の留意点】

【テキスト】
 「おんがくのしくみ」今川恭子 他 教育芸術社（2017）
 「子どもと楽しむ童謡カレンダーVol.1、2」吉田梓監修 東亜音楽社

【参考書・参考資料等】
 幼稚園教育要領・保育所保育指針・小学校学習指導要領
 授業の進行にしたがって必要な資料・楽譜等を配布する。

【連絡方法】 yamada@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】 水 16:10～17:00

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	60%	・音楽の基礎的な知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・音楽の基礎的な知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・音楽の基礎的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・音楽の基礎的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・音楽の基礎的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ② ③ ④	15%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多いため、指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③ ④	15%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	② ③ ④	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容が取り進むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			12、13、14回			

科目名／専門教育	YHS702	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
図画工作 I	2年後期	必修	演習/単独	1単位	有福 一昭			○
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							◎
【授業のねらい】								
実際の造形表現活動を通して、基礎技能や材料・用具に関する知識、制作環境のあり方等保育者として必要な感性や表現力を養う。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「小学校学習指導要領」の「図画工作」の内容の理解を深め、指導現場における造形表現の意義を把握する。								
【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】								
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「小学校学習指導要領」の「図画工作」の理解を深め、保育における造形表現の意義を把握する。子どもの発達や遊び、興味や関心に関連した造形表現のあり様を演習形式で学ぶ。粘土や絵の具等の造形表現材料や用具を活発に扱うことにふさわしい服装、態度で臨む。アイデアスケッチやメモ用のノート、鉛筆のたぐいは各自で用意し携帯する。								
【到達目標と学修成果】								
子どもたちの生活経験や発達に応じ、さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、(到達目標①)用具を選択したり整えたりして、(到達目標②)表現する過程を大切にす支援や指導のあり方を学ぶことができる。								
回数	授業内容				授業時間外の学修 【△事前 ▽事後 / 分】			
第1回	オリエンテーション				△「造形表現」についてこれまでの体験をまとめておく	20		
					▽「造形表現」についての課題プリントの実施	25		
第2回	表現材料と表現の多様性～素材体験「紙」				△資料「幼児の造形教育の教材」紙1の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第3回	表現材料と表現の多様性～素材体験「紙」(造形遊び グループワーク)				△資料「幼児の造形教育の教材」紙2の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第4回	表現材料と表現の多様性～素材+技法体験～平面から立体表現へ～				△資料「幼児の造形教育の教材」1の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第5回	表現用具と表現の多様性 技法体験～いろいろな描画材料を使って表現する				△資料「幼児の造形教育の教材」2の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第6回	表現用具と表現の多様性 技法体験～ものの表面性～「テクスチャー」				△資料「テクスチャー」の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第7回	造形要素(平面)の分割と再構成 技法体験～「コラーージュ」1 アイデアと試作				△資料「コラーージュ」1の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第8回	造形要素(平面)の分割と再構成 技法体験～「コラーージュ」2 制作				△資料「コラーージュ」2の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第9回	造形要素(平面)の分割と再構成 技法体験～「コラーージュ」3 鑑賞				△資料「コラーージュ」3の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第10回	造形要素(立体)の分割と再構成 素材+技法体験～平面から立体へ アイデアと試作				△資料「立体」1の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第11回	造形要素(立体)の分割と再構成 素材+技法体験～平面から立体へ 制作と鑑賞				△資料「立体」2の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第12回	「絵本」の制作と鑑賞1 アイデアと試作				△資料「絵本」1の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第13回	「絵本」の制作と鑑賞2 制作				△資料「絵本」2の予習	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第14回	「絵本」の制作と鑑賞3 発表 鑑賞(アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ 各自の作品を発表し、習得した事柄を共有する)				△「絵本」の発表の準備をする	20		
					▽使用した素材・道具・技法等をミニッツペーパーにまとめる	25		
第15回	ICT機器を活用し、各自のまとめを発表する				△ICT機器活用の予習、授業内容及び資料の復習	20		
					▽発表のふりかえりについてレポートにまとめてくる	25		

備考:

【履修上の留意点】
5回以上欠席は単位修得不可。授業開始時間より20分以降の入室は不可とする。
【テキスト】
授業時に資料配布
【参考書・参考資料等】
『保育所保育指針』フレーベル館(2017)、『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017)、『小学校学習指導要領』(最新版)
【連絡方法】
arifuku@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】
昼休み、授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	②	10%	・美術・造形の知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・美術・造形の知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解が認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	②	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的に理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁をおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内で の取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、素材・道具・技法の知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・素材・道具・技法の知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	②	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みることができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業例】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	9回、11回		14回、15回			

科目名／専門教育	YHS703	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
図画工作Ⅱ	3年前期	必修	演習/単独	1単位	有福 一昭			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

実際の造形表現活動を通して、基礎技能や材料・用具に関する知識、制作環境のあり方等保育者として必要な感性や表現力を養う。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「小学校学習指導要領」の「図画工作」の内容の理解を深め、指導現場における造形表現の意義を把握する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」と「学習指導要領」の「図画工作」の内容の理解を深め、保育における造形表現の意義を把握する。子どもの発達や遊び、興味や関心に関連した造形表現のあり様を演習形式で学ぶ。粘土や絵の具等の造形表現材料や用具を活発に扱うことにふさわしい服装、態度で臨む。アイデアスケッチやメモ用のノート、鉛筆のたぐいは各自で用意し携帯する。

【到達目標と学修成果】

子どもたちの生活経験や発達に応じ、さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、(到達目標①)用具を選択したり整えたりして、(到達目標②)表現する過程を大切にす支援や指導のあり方を学ぶことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	技法とイメージの多様性(水彩絵の具・手の動き)	△資料「幼児の造形教育の教材」絵具の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第2回	技法とイメージの多様性(水彩絵の具・用具の多様性1)	△資料「絵具や道具」の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第3回	技法とイメージの多様性(水彩絵の具・用具の多様性2、モダンアート・テクニク)	△資料「絵具の技法」の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第4回	平面構成の計画と制作1 アイデアと試作(グループワーク)	△資料「平面技法」1の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第5回	平面構成の計画と制作2 制作	△資料「平面技法」2の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第6回	紙の折りと立体表現～L構造	△資料「画用紙を使って」1の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第7回	紙の切り込みと立体表現～らせん構造	△資料「画用紙を使って」2の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第8回	紙の切り込みと立体表現～リンク	△資料「画用紙を使って」3の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第9回	身近材料と造形の可能性～光と影 アイデアと制作(ICT機器の活用)	△資料「光と影」1の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第10回	身近材料と造形の可能性～光と影 制作と鑑賞	△資料「光と影」2の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第11回	身近材料による空間構成～イメージの発展1 季節行事「クリスマス」をモチーフとして	△資料「季節行事」1の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第12回	身近材料による空間構成～イメージの発展2 季節行事「正月」をモチーフとして	△資料「季節行事」2の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第13回	身近材料による空間構成～イメージの発展3 季節行事「節分」をモチーフとして	△資料「季節行事」3の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第14回	構造の理解とイメージの多様性 制作	△資料「構造」の予習 20 ▽使用した素材・道具・技法等についてミニッツペーパーにまとめる 25
第15回	ICT機器を活用し、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた各自のまとめを発表する	△ICT機器活用の予習、授業内容及び資料の復習 20 ▽発表のふりかえりについてレポートにまとめる 25

備考：

675

【履修上の留意点】

5回以上欠席は単位修得不可。授業開始時間より20分以降の入室は不可とする。

【テキスト】

授業時に資料配布

【参考書・参考資料等】

『保育所保育指針』フレーベル館(2017)、『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017)、『小学校学習指導要領』(最新版)

【連絡方法】

arifuku@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】

昼休み、授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	②	10%	・美術・造形の知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・美術・造形の知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後努力を要する。	・美術・造形の基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	②	10%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多いため、指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	70%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた素材・道具・技法の知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨むと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、素材・道具・技法の知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・素材・道具・技法の知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	③	10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みむことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	4回、10回		15回			

科目名／専門教育	YHS704	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
体育 I (運動)	2年前期	必修	演習/単独	1単位	角杉 美恵子		○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】

「生活そのものを教育へ」という乳幼児期の教育の方向性に着目し、多様な身体活動と中枢神経系の発達、感覚の育ちの関係を理解し、子どもの心と身体の発達過程を踏まえながら指導者に求められる実践的能力を身につける。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

実技を中心とした体験型の学習が主になるが、活動の理論や意義を理解するために講義を織り交ぜながら学習を進める。学生による指導実践演習と、毎回の学習内容をまとめたノートを作成し理解を深める。

【到達目標と学修成果】

- ①遊びを通じた発達支援としての体育を理解し、実践することができる。
- ②遊びの教育的意義を理解し、文化実践活動を深める為の環境を整えることの意義と価値を理解する。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	オリエンテーション:ブレイン・ジム(PACE)	△ブレインジムについて調べる 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第2回	子どもの運動能力、体力の捉え方①:フォークダンス、わらべ歌遊び	△テキストp.3-7の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第3回	子どもの運動能力、体力の捉え方②:ボール運動	△テキストp.8-11の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第4回	子どもの運動発達の特徴①:フープ・なわを使った運動	△テキストp.12-18の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第5回	子どもの運動発達の特徴②:伝承遊び	△テキストp.18-30の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第6回	子どもの発達的特徴に応じた運動指導の在りかた:マット運動(補助法)	△テキストp.45-64の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第7回	多様な運動パターンと遊び体験	△テキストp.127-166の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第8回	遊びとしての運動の重要性①:パルーン	△テキストp.85-94の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第9回	遊びとしての運動の重要性②:身近な用具を用いた遊び	△テキストp.94-104の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第10回	「遊びのなかで」という考え方①:鬼遊び	△テキストp.31-38の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第11回	「遊びのなかで」という考え方②:リズム遊び	△テキストp.38-44の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第12回	多様な運動パターンと遊び体験	△テキストp.205-209の予習 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第13回	原始反射の統合:集団での遊び	△遊びと社会性について調べる 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第14回	身体アプローチによる発達支援	△身体アプローチについて調べる 20 ▽内容をノートにまとめる 25
第15回	まとめ	△半期の授業をまとめる 20 ▽内容をノートにまとめる 25

備考:

675

【履修上の留意点】

実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。実技が中心であるので、欠席をしないように努めること。必要に応じて講義を実施する。

【テキスト】

幼児期における運動発達と運動遊びの指導－遊びのなかで子どもは育つ－杉原隆／河邊貴子(編著) ミネルヴァ書房、2014、2,400円＋税

【参考書・参考資料等】

小学校学習指導要領体育(最新版)、『幼稚園教育要領』フレーベル館(2017)／『保育所保育指針』フレーベル館(2017)／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017)／ノートを自らのテキストとして作成し、その他必要に応じて資料を紹介する。

【連絡方法】

授業内にて指示する。

【オフィスアワー】

授業時に提示する。

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	①	②	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守されていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組								

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			3~12			

科目名/専門教育	YHS705	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
体育Ⅱ(ダンス)	2年後期	必修	演習/単独	1単位	黒須 育海			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

さまざまなリズムや表現方法を学び、多様な身体感覚や豊かな感性を養う。教育現場で行われる「運動会」「お遊戯会」「季節の発表会」など、多くの行事に対応できる創作方法を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

実技形式で実施する。活動内容は基本的に室内の授業となる。スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きを用意すること。各々が教育的な視点を持って主体的に参加すること。次回に指示する課題などの予習を行い、実施した内容をノートにまとめ、授業理解を深めること。

【到達目標と学修成果】

- ①さまざまな種類のダンスを踊ることにより、身体的・精神的な表現力を豊かにすることができる。
- ②創作活動を行うことにより、表現・創作技法を身に付けることができる。
- ③グループ活動を通して、協調性を養うことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 授業の目的、方法などについて	△シラバスを確認する	20
		▽次回以降の実技に向けた準備	25
第2回	フォークダンス、リズムダンス、創作ダンスを体験する	△フォークダンス、リズムダンス、創作ダンスを調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第3回	民舞1 盆踊りを踊る	△各地域の盆踊りについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第4回	民舞2 オリジナル盆踊りを踊る	△オリジナル盆踊りについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第5回	現代的なリズムのダンス1 (1)リズムに乗って踊る (2)振付を踊る	△リズムダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第6回	現代的なリズムのダンス2(1)ヒップホップダンスの種類 (2)振付を踊る	△ヒップホップダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第7回	現代的なリズムのダンス3(1)振付を踊る (2)振り返り	△ヒップホップの文化と歴史について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第8回	創作ダンス1(1)作品づくりについて (2)グループビンゴ	△創作ダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第9回	創作ダンス2(1)曲からイメージを膨らませる (2)振付をつくり出す	△コンテンポラリーダンスの歴史について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第10回	創作ダンス3 (1)振付をグループで共有、確認 (2)構成づくり	△振付を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第11回	創作ダンス4 (1)表現したいイメージを確認、修正 (2)構成づくり	△衣装と印象について調べ、考える	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第12回	創作ダンス5(1)環境設定 (1)音楽と印象	△音楽と印象について調べ、考える	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第13回	ダンス動画作り1 ICTを活用した表現活動	△ICTについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第14回	ダンス動画作り2 撮影場所探し、撮影	△ダンス動画について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第15回	まとめ	△半期授業を振り返る	20
		▽内容をノートにまとめる	25

備考：

675

【履修上の留意点】

実技ではピアスや指輪などの装飾品は必ず外し、適切な服装で参加すること。実技が中心であるので、欠席をしないように努めること(減点の対象となる)。

【テキスト】

随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

各自用意するもの：ノート(1冊)
村田芳子「最新楽しい表現運動・ダンス」小学館、柴田礼子「子どものためののたのしい音遊び」音楽之友社

【連絡方法】

ikumilala9@gmail.com

【オフィスアワー】

授業の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①②	30	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	①②	20	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①② ③	50	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとした。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第12～14回					

科目名/専門教育	YHS711-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
国語(書写を含む)	2年後期	選択必修	講義/単独	2単位	長田 信彦		○	

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。		
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】
 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「話す・聞く・書く・読む」という国語の基本的な知識及び技能を習得するための実践的な方法を学ぶ。「国語」とは何かについて考える。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 講義形式である。小学校教科としての国語科の教科内容に対応する専門的知識を得るとともに、言語生活の基本である国語について関心を広げ、国語・国字についての基礎的な理解を深めていく。国字については、仮名、漢字の書写、筆順等に関する知識技能も含まれる。

【到達目標と学修成果】
 ①国語の基礎知識(漢字・語彙・文法・敬語など)が身についている。
 ②国語を適切に表現し、正確に理解することができる。
 ③日本語についての基本的な知識、および技能を習得し、目的に応じて実践的に活用することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス。シラバスに基づき、授業の進め方、到達目標、評価方法・基準等についての説明。	△「国語」とは何かについて考えをまとめておく。 ▽「国語教育」とは何かについてノートにまとめる。	90 90
第2回	「国語教育」と「国語科教育」の違いについて学ぶ。司馬遼太郎「なによりも国語」の文章を基に考える。	△司馬遼太郎の「なによりも国語」を読んでおく。 ▽「国語教育」と「国語科教育」の違いをレポートにまとめる。	90 90
第3回	日本の文字について理解を深める。①文字の由来 ②漢字の音訓について ③国字について ④万葉仮名について	△「文字の成立」の資料を予習しておく。 ▽「国字」と「万葉仮名」についてノートにまとめる。	90 90
第4回	日本の文字について学ぶ。平仮名、片仮名、平仮名・漢字の筆順、漢字部首について。	△教育漢字、常用漢字について調べておく。 ▽教育漢字1、2年の漢字を筆順正しくノートに書く。	90 90
第5回	表記・用字について学ぶ。仮名遣い、送り仮名、同音異義語・同訓異義語・類義語、四字熟語、ことわざ、慣用語など。	△表記、用字についての資料の予習。 ▽四字熟語、ことわざ、慣用語の問題をやる。	90 90
第6回	表現技術について学ぶ。敬語について、副詞の呼応について、文体の統一について。主語と述語の関わりについて。	△表現技術の基礎資料の予習。 ▽敬語、副詞の呼応についての問題をやる。	90 90
第7回	表現技術について学ぶ。原稿用紙の使い方について学ぶ。文章の構成について考える。	△文章の構成についての資料の予習。 ▽三段構成法で課題を原稿用紙に書く。	90 90
第8回	文章表現の実践。短文を書いて文章表現の練習をする。	△表現技術の資料の予習。 ▽課題を400字でまとめる。	90 90
第9回	小論文の実作をする。課題に基づき、1000字程度の小論文の実作をする。	△小論文の表現法についての資料の予習。 ▽課題800字程度の小論文を書く。	90 90
第10回	「書くこと」「読むこと」の表現法について考える。小学校低学年の課題作品を読解し、感想文を書く。	△小学2年生の課題作品の予習。 ▽課題作品に関する練習問題を解く。	90 90
第11回	「書くこと」「読むこと」の表現法について考える。小学校中学年の課題作品を読解し、感想文を書く。	△小学4年生の課題作品の予習。 ▽課題作品に関する練習問題を解く。	90 90
第12回	「書くこと」「読むこと」の表現法について考える。小学校高学年の課題作品を読解し、感想文を書く。	△小学6年の課題作品の予習。 ▽課題作品に関する練習問題を解く。	90 90
第13回	文字・書写① 硬筆の書写について学ぶ。(姿勢、ペンのもち方等の基本から)	△書写(硬筆)についての資料の予習。 ▽教育漢字3,4年の漢字を筆順正しくノートに書く。	90 90
第14回	文字・書写② 毛筆の書写について学ぶ。(姿勢、筆のもち方等の基本から)	△書写(毛筆)についての資料の予習。 ▽課題の漢字を毛筆で書く。	90 90
第15回	振り返りとまとめ	△授業内容の資料を用いて復習しておく。 ▽まとめのレポートを作成する。	90 90

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】
 毎回、小学校教育漢字の書き取りを行う。

【テキスト】
 特に指定しない。授業内でプリントや資料を配付する。

【参考書・参考資料等】
 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社、2017。山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、2008。有沢俊太郎『国語教育実践学の研究』風間書房、2008。『小学漢字 1006字の正しい書き方』旺文社、2008。

【連絡方法】 授業時に伝える
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価基準 評価方法	【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】						
	到達目標	割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末レポート	②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠と先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ③	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】						
種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名／専門教育	YHS711-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
社会	2年前期	選択必修	講義/単独	2単位	山本 剛			

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

われわれが生きているこの社会はどのようにして成り立ってきたのか、われわれは何者の末裔なのか。——この授業では、私たちに身近な日本社会における歴史的な事象を媒介として、講義および双方向的な議論を行い、社会的な課題を発見する力、創造的に思考する力を養うことをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

小学校社会科の最終単元で扱われる日本通史に関する講義を軸に、日本社会の在り方を改めて見つめ直し、受講生自身の社会観・歴史観および人間観の確立に資することを目的とする。具体的には、「世界史の中の日本」および「地方史から見た日本」という二つの視点に注意を払いつつ、私たちの社会の成り立ちについて理解を深めていく。

【到達目標と学修成果】

- ① 歴史学の知見を踏まえて、歴史的な事実を客観的に理解し、説明することができる。
- ② 日本社会の歴史について、歴史学上のトピックを踏まえて理解し、説明することができる。
- ③ 自身の関心が深い時代(ないし人物)についてリサーチし、客観的な評価を加えることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	イントロダクション 歴史と、歴史学・歴史認識	△「日本史」について自分の意見をまとめておく ▽「私の歴史認識」についてノートにまとめる	60 60
第2回	I. 世界史の中のヤマト王権① 聖徳太子は実在したか？	△前回授業内容の復習 ▽「中華思想」についてノートにまとめる	60 120
第3回	I. 世界史の中のヤマト王権② 平安貴族の栄華と没落	△前回授業内容の復習 ▽「承平・天慶の乱」についてノートにまとめる	60 120
第4回	II. 世界史の中の武家政権① 武士の台頭と坂東武者	△前回授業内容の復習 ▽「奥州藤原氏」についてノートにまとめる	60 120
第5回	II. 世界史の中の武家政権② 建武の新政と日明貿易	△前回授業内容の復習 ▽「倭寇」についてノートにまとめる	60 120
第6回	III. 世界史の中の戦国日本① 伊勢宗瑞と小田原北条氏	△前回授業内容の復習 ▽「国一揆」についてノートにまとめる	60 120
第7回	III. 世界史の中の戦国日本② 天下布武の虚像と実像	△前回授業内容の復習 ▽「一向一揆」についてノートにまとめる	60 120
第8回	IV. 世界史の中の武家政権③ 海禁政策と四つの口	△前回授業内容の復習 ▽「島原・天草一揆」についてノートにまとめる	60 120
第9回	IV. 世界史の中の武家政権④ 田沼意次の幕政改革	△前回授業内容の復習 ▽「百姓一揆」についてノートにまとめる	60 120
第10回	IV. 世界史の中の武家政権⑤ 幕末日本のテクノクラート	△前回授業内容の復習 ▽「水戸学」についてノートにまとめる	60 120
第11回	V. 世界史の中の近代日本① 教育勅語と軍人勅諭	△前回授業内容の復習 ▽「自由民権運動」についてノートにまとめる	60 120
第12回	V. 世界史の中の近代日本② 立憲政治の揺らぎと苦悩	△前回授業内容の復習 ▽「大正democracy」についてノートにまとめる	60 120
第13回	V. 世界史の中の近代日本③ 斎藤隆夫の反軍演説	△前回授業内容の復習 ▽「超国家主義」についてノートにまとめる	60 120
第14回	VI. 世界史の中の現代日本 歴史と、どう向き合うか？	△前回授業内容の復習 ▽「東西冷戦」についてノートにまとめる	60 120
第15回	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習 ▽授業内課題に関する振り返り	120 120

備考：

2700

【履修上の留意点】

- ・受講生の関心を刺激し議論を活性化するため、隣接諸科学の最新の成果を踏まえた視聴覚教材等を積極的に活用する予定である。
- ・受講生の関心に応じて、授業時間外での学外授業が実施される場合がある。※その際、交通費等実費負担(前年度実績:910円)

【テキスト】

授業内で適宜、配付する。

【参考書・参考資料等】

荒木敏夫・保坂智・加藤哲郎ほか『日本史のエッセンス——歴史が物語るもの(補訂版)』有斐閣、1997年

【連絡方法】

授業時に伝える

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	③	40%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ②	60%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・根重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的に理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)							
授業外での 取組							

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名／専門教育	YHS711-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
算 数		2年前期	選択必修	講義/単独	2単位	福田 俊彦	/	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎ ○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

算数科の目標、内容について系統性を踏まえた考察をし、理解を深めていく。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編をもとに、課題に対する各自の考察を協働的な学び(グループ討議、集団討議)を通して、思考を深めていく。

【到達目標と学修成果】

- ①現学習指導要領の改訂の経緯から算数科の目標、内容について理解する。
- ②算数科の内容に関して、目標、手立て、評価の関連から考察することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▼事後 / 分】	
第1回	算数科の目標の理解	△算数科の目標について自己の考えをもつ	90
		▽算数科の目標についてノートにまとめる	90
第2回	数の概念についての理解(整数、小数、分数)	△各学年の学習内容の確認	90
		▽数の概念についてノートにまとめる	90
第3回	計算の意味と方法についての考察	△各学年の学習内容の確認	90
		▽計算の意味についてノートにまとめる	90
第4回	式に表されている意味の考察	△式の働きについて自己の考えをもつ	90
		▽式の働きについてノートにまとめる	90
第5回	図形概念についての理解	△各学年の学習内容の確認	90
		▽図形概念についてノートにまとめる	90
第6回	図形の構成についての考察	△各学年の学習内容の確認	90
		▽図形の構成についてノートにまとめる	90
第7回	図形の計量についての考察	△各学年の学習内容の確認	90
		▽図形の計量についてノートにまとめる	90
第8回	量の概念と基本的な性質についての理解	△各学年の学習内容の確認	90
		▽量の概念と性質についてノートにまとめる	90
第9回	量の大きさの表現と比較の理解	△各学年の学習内容の確認	90
		▽量の比較と性質についてノートにまとめる	90
第10回	単位の関係の統合的な考察	△各学年の学習内容の確認	90
		▽単位の関係を統合的にノートにまとめる	90
第11回	関数の考えの理解	△関数について自己の考えをもつ	90
		▽関数についてノートにまとめる	90
第12回	2つの数量の比べ方の理解	△各学年の学習内容の確認	90
		▽2つの数量の比べ方についてノートにまとめる	90
第13回	統計的な問題解決活動の考察	△各学年の学習内容の確認	90
		▽統計的な問題解決活動についてノートにまとめる	90
第14回	結論について多面的・批判的に考察することの理解	△多面的・批判的な考察の事例の設定	90
		▽多面的・批判的な考察についてノートにまとめる	90
第15回	算数科に関するまとめ	△算数科の内容についての振り返り	90
		▽算数科の内容についてレポート作成	90

備考:

2700

【履修上の留意点】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編を精読すること。
各学年の算数科の教科書の学習内容を確認すること。

【テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 文部科学省

【参考書・参考資料等】

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省国立教育施策研究所教育課程研究センター

【連絡方法】

授業時に伝える

【オフィスアワー】

月曜日、木曜日の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	40%	知識、理解、応用力 (多面的な見方・考え 方)が十分に身に付い ていることが認められ る。	知識、理解、応用力 (多面的な見方・考え 方)が身に付いているこ とが認められる。	基本的な知識が習得さ れ、その内容が理解さ れていることが認められ る。	基本的な知識の習得、 理解が断片的であり、 努力を要する。	基本的な知識の習得 が不十分である。
			課題の意図を的確に捉 え、算数科の特質を踏 まえた上で、自分の考 えを記述している。	課題の意図を的確に捉 え、算数科の特質を踏 まえた記述をしている。	課題の意図を捉えて記述 している。	課題の意図を部分的に捉 え、記述内容が不十分で ある。	課題の意図を捉えておら ず、記述内容が課題に対 して正対していない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	20%	自分の考えをもって授 業に参画し、協働的に 学びを進めており、模 範となっている。	自分の考えをもち、協 働的に学びに取り組ん でいる。	意欲的に授業に取り組 もうとする努力が窺われ る。	授業内での取組に参加 している。	授業の目的を捉えてな く、取組への参加意欲 に欠けている。
			授業外での 取組				

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14					

科目名/専門教育	YHS711-4	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
理 科	2年後期	選択必修	講義/単独	2単位	大高 竜午			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

科学的知識や概念を理解することなしに、児童の興味・関心を高め、科学的なものの見方や考え方を育成するための授業を計画し、実践することは難しい。そこで、本授業では、小学校理科の授業を実践するにあたって必要な科学的知識や概念についての理解を深めることを目的とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

小学校理科で学習する内容をテーマごとに取り上げ、児童の発達段階を踏まえながら、科学的知識や概念について学修する。科学的知識や概念がどのように形成されてきたか、日常生活とどのように関わっているかを学修することを通して、自然の事物・現象の不思議さや探究の楽しさに気づいて欲しい。授業は主として講義形式ですめるが、適宜、観察や実験も取り入れる。

【到達目標と学修成果】

- ①小学校理科で取り上げられている科学的知識や概念について、説明することができる。
- ②エネルギー、粒子、生命、地球の観点から、科学的知識や概念を構造化することができる。
- ③科学的知識や概念を実社会・日常生活における事物・現象と関連づけることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 【△事前 ▽事後 / 分】	
第1回	ガイダンス・小学校理科の目標と内容 授業計画、関連法規、学習指導要領(理科)、学習内容の概要について理解する。	△小学校学習指導要領解説理科編pp.1-8の予習	100
		▽小学校学習指導要領解説理科編pp.8-11の復習	90
第2回	土地のつくりと変化 プレート活動、流水の働き等の学習を通じて、土地の作りと変化を理解する。	△小学校学習指導要領解説理科編pp.12-21の予習	100
		▽動的な視点から土地についてまとめる	90
第3回	身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を観察し、身の回りの生物と環境との関わりを理解する。	△指導要領内「生物と環境」を予習	90
		▽生物の共通点・相違点についてまとめる	90
第4回	植物の体とつくり 身近な植物の体とつくりについて、周辺環境とのかかわりの観点から、理解する。	△観察に必要な葉を選択し、採取する	60
		▽葉脈標本の様々な作り方を考察する	90
第5回	天気とその変化 日、季節による天気の変化についての理解を深める。	△指導要領内「地球の大気と水の循環」を予習	90
		▽循環という観点から天気についてまとめる	90
第6回	光の性質 鏡やルーペ等を用いて、光の性質について理解する。	△指導要領内「光と音の性質」を予習	90
		▽光の事象についてまとめる	90
第7回	燃焼の仕組み 燃焼の様子を観察を通じて、燃焼の仕組みについて理解する。	△指導要領内「燃焼の仕組み」を予習	90
		▽燃焼の仕組みについてまとめる	90
第8回	燃焼と空気 ものが燃える前と燃えた後の空気の違いについて学習する。	△燃焼前後の空気について予想を立てる	45
		▽数値を用いて燃焼前後の空気についてまとめる	90
第9回	地球と月・太陽 月と太陽の様子を学習を通じて、それらと地球の関係を理解する。	△指導要領内「地球と天体の運動」を予習	90
		▽地球・月・太陽の関係性についてまとめる	90
第10回	自然の保全と地球環境問題 地球規模での環境問題を考えることによって、自然保全の在り方を理解する。	△身近な環境問題について調べる	60
		▽環境問題解決の取り組みについてまとめる	90
第11回	電気の性質 乾電池作りを通して、電気の性質について理解する。	△乾電池の種類について調べる	45
		▽乾電池における電気の流れについてまとめる	90
第12回	磁石の性質と電流の働き 磁石・電磁石の基本的性質の学習を通して、電流の働きについて理解する。	△指導要領内「エネルギーの変換と保存」を予習	90
		▽電磁石の強さに影響する要因についてまとめる	90
第13回	動物の体とつくり 身近な動物(特に、人と昆虫)の体とつくりについて理解する。	△観察に必要な昆虫等を選択し、採取する	60
		▽観察したことについてレポートにまとめる	90
第14回	力のつり合い てこの規則性、てこのつり合いなど、物体の力学的性質を理解する。	△指導要領内「身の回りの生物」を予習	90
		▽授業で用いた以外の材料でも原理を確認する	90
第15回	まとめと確認	△これまでの学習内容についてまとめる	180
		▽理科の魅力についてレポートにまとめる	160

備考:

2700

【履修上の留意点】

日常生活において手に入るものについて持参する必要あり。詳しくは、授業初日に説明する。「理科指導法」と合わせて受講すること。

【テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』平成29年6月

【参考書・参考資料等】

授業内に、適宜、プリントや資料を配布する。

【連絡方法】

授業時に知らせる

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	100%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組							

備考: 授業での取組:ミニッツペーパー60%, グループワーク30%, プレゼンテーション10%の割合で評価する

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				第3, 4, 6, 7, 8, 11, 12, 14回		

科目名/専門教育	YHS711-5	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
生活	2年前期	選択必修	講義/単独	2単位	山崎 早苗		○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

「生活」という概念を教育の理論史、実践史の中から歴史的に学び、生活を貫く科学や文化を理解する。そして生活科学や生活文化そのものをどう理解し、総合的な教科としての生活科を教えるために必要な教養や思想をどう身に付けていったら良いのかを考える。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

小学校教科である生活科の創設の経緯や生活科を巡る議論を学び、生活を総合原理とする総合学習の意義を理解する。また、現代において部分的に分断されがちな人間の生活をトータルな視点で捉えようとする知的探求の態度を養う。基本は講義であるが、ゲストによる文化体験など演習的な側面を含む。

【到達目標と学修成果】

- ①「生活」という概念が歴史的な流れの中でどのように形成されてきたのかを理解することができる。
- ②「生活教育」の思想や実践の歴史を理解し、生活科の総合学習としての意義を理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 自分の生活や子どもをめぐるさまざまな問題について	△生活という概念について問題意識を持っているか ▽「生活」の語彙集めから自分の生活を振り返る	90 90
第2回	「生活」と「生命」の関係概念について	△「生命とは何か」(太田堯)を読む ▽「ノーベル賞医学生理学賞」の資料を読む	90 90
第3回	生活を歴史的に捉える考え方① 縄文文化と北方文化・アイヌ文化	△『アイヌ文化:歴史と現在』小学編を読む ▽資料「自然と共生するアイヌ思想」を読む	90 90
第4回	生活を歴史的に捉える考え方② アイヌ民族の文化体験	△アイヌ文化の体験刺しゅうを完成させる ▽アイヌ料理の特徴をレポートにまとめる	90 90
第5回	生活を歴史的に捉える考え方③ 弥生文化と海洋文化・琉球文化	△「米の伝来や南方の島々の暮らし」を読む ▽うちなーぐちと琉球文化の特徴をまとめる	90 90
第6回	生活を歴史的に捉える考え方④ 日本の伝統的な文化 外国人が見た庶民の暮らし	△イェズ会士たちが見た庶民の生活を読む ▽現代の日本人にも共通する特徴をまとめる	90 90
第7回	生活科学を学ぶ① 近代以前の「こつ・かん」と近代以降の「わかち・伝え」	△「学校ができる以前の伝え方」の資料を読む ▽「近代の学校教育」についての資料を読む	90 90
第8回	生活科学を学ぶ② 生活学 生活者としての概念	△「生活がどんな学問になったか」を読む ▽「日本の生活教育を担った人々」の資料を読む	90 90
第9回	生活にめぐす教育① 教育界における生活教育 ベスタロッツ 大正期の新教育運動	△ベスタロッツの「生活が陶冶する」を読む ▽「日本の生活教育」の資料を読む	90 90
第10回	生活にめぐす教育② 戦後の新教育運動と経験主義 デューイの教育理論への批判	△「生活綴り方運動」の資料を読む ▽「児童中心主義」の資料を読む	90 90
第11回	生活にめぐす教育③ 民間教育運動の大きな流れと「生活教育50年史」	△「戦後の民間教育運動」の資料を読む ▽「生活教育批判」の資料を読む	90 90
第12回	生活科をめぐる① 「生活科」の構想の背景にあるものと「生活科」の誕生	△「戦後史と教育史」の資料を読む ▽「現代の教育をめぐる諸問題」の資料を読む	90 90
第13回	生活科をめぐる② 生活科の現状と課題 「生活」をどう捉えていくか	△「生活科を誕生させるまで」の資料を読む ▽「生活科の教科目標」の資料を読む	90 90
第14回	諸外国の生活科に相当する学習について	△「各国の生活科に相当する」資料を読む ▽「生活科と総合学習」についての資料を読む	90 90
第15回	まとめ	△毎回の資料をポートフォリオにまとめる ▽自分の生活の見直しをする	90 90

備考: この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

料理などの実習については、1回100円程度の材料費を集金する。

【テキスト】

文科省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版 2018年度(生活・生活科指導法共通) 毎時、授業のテーマに即した資料を配布する。

【参考書・参考資料等】

『アイヌ民族:歴史と現在』(全員に配布予定)

【連絡方法】

4228czho@jcom.zaq.ne.jp

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	③	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足なく内容が網羅された記述がされている。	・課題の意図を理解し、記述されている。	・課題の意図は概ね理解されているが、改善すべき点がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、十分な記述がなされていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	60%	・生活に関する授業内容に明確な興味関心を持つことができ、自分なりの言葉で考えや疑問を書くことができ、模範となった。	・生活に関する授業内容について一定の興味関心を持ち、その内容を表現することができた。	・生活に関する授業内容がある程度理解することができ、それを書くことができた。	・生活に関する授業内容に断片的にしか反応できず、理解が浅い記述しかできていない。	・生活に関する授業内容に興味関心が持てず、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	②	20%	・授業外での取組に積極的に関心を示し、取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に関心を示し、積極的に取り組んでいたことが認められた。	・授業外での取組にある程度取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組にあまり積極的に取り組むことができなかった。	・授業外での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第2回、第6回			第3回、第4回		

科目名／専門教育	YHS711-6	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
家庭		2年前期	選択必修	講義/単独	2単位	伊藤 野里子		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	

【授業のねらい】

小学校家庭科の授業作りに必要な「学習内容」について、その構成を把握し、学習項目の科学的、専門的な立場に拠りながら基礎的・基本的な知識・技能を得ることをめざす。また、現代の家庭生活をめぐる課題に着目し、学習内容に関連付けて考える力を身につけられるようにする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

講義形式である(調理、被服製作の基礎的な技能の実習を含む)。小学校家庭科の学習内容の基礎・基本を把握できるよう解説し、専門的な知識を提供する。学習内容に関する技能の基礎について実習する。子どもの家庭生活をめぐる課題と学習内容との関連について考えられるよう考察や議論を行う。

【到達目標と学修成果】

- ①小学校家庭科の指導内容の構成を理解する。
- ②学習内容に関する各分野の基礎的な事項について理解し、説明できる。
- ③子どもの家庭生活をめぐる課題を見出し、学習内容の題材や教材に関連付けて考え、説明することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▼事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 小学校家庭科で何を学ぶか——「生活者」を育てる家庭科「家族・家庭生活」1. 家族・家庭生活の捉え方と子どもの関わり	△シラバスを読む ▽「小学校家庭科」と「家族・家庭生活」の概要を復習	90 90
第2回	「家族・家庭生活」2. 家庭の仕事と生活時間	△家庭の仕事について資料を読み関心事項を挙げる ▽家庭の仕事と子どもの生活との関連について復習する	90 90
第3回	「家族・家庭生活」3. 家族・家庭生活をめぐる課題と学習内容	△子どもと家族・家庭をめぐる問題について調べる ▽家族・家庭をめぐる問題と学習内容の関連を復習する	90 90
第4回	「衣食住の生活」1. 「食生活」(1) 食べることの意義と、食事の仕方	△「食を通じた子どもの育成」に関する資料を読み予習 ▽食事の意義及び子どもの発達と食事について復習する	90 90
第5回	「衣食住の生活」2. 「食生活」(2) 食品の特性と、調理の基礎的な知識・技能	△「共食」を楽しむ献立や工夫を考え、調べる ▽調理実習の反省、改善点を踏まえて自宅で再実施	90 90
第6回	「衣食住の生活」3. 「食生活」(3) 栄養素の働きと栄養的な食品摂取、献立の作成	△栄養素と働きについての資料を読み要点を列挙する ▽「小学生が身に付けたいレシピ」を考え、まとめる	90 90
第7回	「衣食住の生活」4. 「食生活」(4) 食生活の現状から見出される課題と学習内容	△子どもと食生活に関する問題について資料収集・調べ ▽食生活をめぐる問題と学習内容の関連について復習	90 90
第8回	「衣食住の生活」5. 「衣生活」(1) 衣服の機能と、快適な着用の仕方	△衣服の働きや着方に関する資料を読み予習する ▽衣服の機能と着用の仕方の基本をまとめ復習する	90 90
第9回	「衣食住の生活」6. 「衣生活」(2) 被服材料の性質と、衣服の手入れ・管理	△布や繊維の性質と衣服の管理に関する資料を読み予習 ▽被服材料の性質のまとめと衣服の手入れの実践	90 90
第10回	「衣食住の生活」7. 「衣生活」(3) 布(繊維)を用いた製作の基礎的な知識・技能	△日常生活に役立つ「布製品」の製作の計画と準備 ▽作品の完成、使用後における反省、改善点の自己評価	90 90
第11回	「衣食住の生活」8. 「衣生活」(4) 衣生活の現状から見出される課題と学習内容	△子どもと衣生活に関する問題について資料収集・調べ ▽衣生活をめぐる問題と学習内容の関連について復習	90 90
第12回	「衣食住の生活」9. 「住生活」(1) 住居の機能と、快適な住まい方	△住居の働きや住まい方に関する資料を読み予習する ▽「季節」に応じた住まい方の実例や実践のまとめ	90 90
第13回	「衣食住の生活」10. 「住生活」(2) 住生活の現状から見出される課題と学習内容	△子どもと住生活に関する問題について資料収集・調べ ▽住生活をめぐる問題と学習内容の関連について復習	90 90
第14回	消費生活・環境」1. 消費社会の仕組みと、物や金銭の使い方 2.持続可能な消費と家庭生活 3. 消費生活および消費と身近な環境への配慮から見出される課題と学習内容	△消費生活と環境について資料を読み予習する ▽授業を踏まえ、消費生活と環境の問題のまとめ文章化	90 90
第15回	まとめ 学期末定期試験と振り返り	△定期試験の範囲の予習 ▽学習した内容について目標到達状況の自己評価	90 90

備考：

2700

【履修上の留意点】

授業内の提出プリント20%、調理実習・布を用いた作品30%、学期末定期試験50%に基づき総合的に判断します(ただし定期試験の点数は60%以上とれていることを単位認定に必要な要件とします)。作品の完成・提出は単位認定に必須です。

【テキスト】

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館出版社 2018 (税込105円)
授業時の配布プリント

【参考書・参考資料等】

堀内かおる『生活をデザインする家庭教育』世界思想社 2020 (2300円+税)
牧野カンコ『作る手が子どもたちを輝かす②アクティブ・ラーニングが育てる「これからの家庭科」』地域教材社 2017 (税込1500円)

【連絡方法】

主としてGoogle Classroom(n-ito@g.ariake.ac.jp)。UNIPAの掲示板も使用することがあります。

【オフィスアワー】

基本的に授業時間の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	①	②						
試験 (発表含む)	①	②	50%	小学校家庭科の内容の理解や説明及び家庭生活をめぐる課題発見と考察が十分にできている。	小学校家庭科の内容の理解や説明及び家庭生活をめぐる課題発見と考察ができています。	小学校家庭科の内容の理解や説明及び課題発見と考察が概ねできています。	小学校家庭科の内容の理解や説明及び課題発見と考察が断片的でばらつきがあり、努力を要する。	小学校家庭科の内容の理解や説明及び課題発見と考察ができていない。
期末レポート								
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	①	②	50%	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が十分できている。授業の実習に積極的に参加し、十分な成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が概ねできています。授業の実習に積極的に参加し、成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされ、授業内容の理解が概ねできています。授業の実習に参加し、概ね成果を上げている。	授業内のプリント提出がなされているが、授業内容の理解にばらつきがある。授業の実習に参加しているが成果が不十分である。学修に努力を要する。	授業内のプリント提出がなされず、授業内容の理解ができていない。授業の実習に参加しておらず。成果を出していない。
授業外での取組								

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				第5, 10回		

科目名／専門教育	YHS711-7	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
英 語		3年前期	選択必修	講義/単独	2単位	寺澤 君江	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

英語の基本的な音声の仕組み、音声・語彙・文法の基本的な知識、発音と綴りの関係、二言語習得理論の基礎を習得し、絵本・児童文学を通して様々な国・地域の生活習慣を理解することによって、英語コミュニケーション能力の育成及び国際社会において英語を情報発信・受信の道具として活用できる人材の育成を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

担当者によるモデル授業を見た後、それぞれのグループで実践練習を行うことを中心に授業を進める。同時に、個人で予習(単語テストの準備)・復習(英文暗唱)を行ってもらい、授業では予習した単語や文法も確認していく。

【到達目標と学修成果】

- ①英語に対する興味・関心を引き出し、異なる言語や文化に触れることによって、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につける。
 ②英語の基本的な音声の仕組み、音声・語彙・文法の基本的な知識、発音と綴りの関係を理解できるようになる。
 ③二言語習得理論の基礎を習得し、絵本・児童文学を通して様々な国・地域の生活習慣を理解できるようになる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	音声による授業実践「聞くこと・話すこと」	△ 提示される音声によりリスニングの演習 ▽ 小学生向けの会話スクリプトを作成する	90 90
第2回	文字による授業実践「読むこと・書くこと」	△ 資料(テキスト)を読み内容を把握する ▽ 資料(小学生向けテキスト)の内容を要約する	90 90
第3回	技能統合型の活動:教師の語りかけを中心に4技能の活用	△ 資料をもとに4技能の関連性を調べる ▽ クラスルームイングリッシュを確認し解答する	90 90
第4回	第二言語習得論と言語学:母語転移の問題	△ 第二言語習得について調べる ▽ 外国語と第二言語習得に関する簡単な文献を読む	90 90
第5回	英語の音声の仕組み:英語に共通する音的特徴	△ 英語の音声の特徴を調べる ▽ 音声指導に有用な単語を確認し解答する	90 90
第6回	英語の音声と綴りの問題およびフォニックス指導	△ フォニックス指導のための歌の音声を聞く ▽ フォニックスの指導の小学生向けストーリーを読む	90 90
第7回	英語の文法および構文法:語順と主語の存在の大切さについての学習	△ 資料により提示される英文法を確認する ▽ 日本語との表現や用法の違いを確認し解答する	90 90
第8回	マザーグース:英語らしいリズムとは(音韻認識)	△ 図書館にあるマザーグースの絵本を読む ▽ マザーグースの英語の特徴を確認し解答する	90 90
第9回	英米の絵本:他の文化と自文化との違いや共通点の認識	△ 推奨絵本リストの中の1冊を読む ▽ 絵本の単語や表現を確認し解答する	90 90
第10回	英米の児童文学:代表的な作品の概説および抜粋の精読	△ 推奨児童文学作品のひとつを読む ▽ 児童文学の単語や表現を確認し解答する	90 90
第11回	英米の文学と生活:作品の中の文化・生活	△ 英語圏の文化と日本の文化の違いの事例を調べる ▽ 文化の違いに関わる単語や表現を確認し解答する	90 90
第12回	異文化交流と言語コミュニケーション	△ 文化によるコミュニケーションの違いの事例を調べる ▽ コミュニケーションに関わる表現を確認し解答する	90 90
第13回	異文化交流と非言語コミュニケーション:ジェスチャーやボディランゲージの類似点、相違点	△ 文化によるジェスチャーの違いの事例を調べる ▽ 文化背景による表現方法の違いを確認し解答する	90 90
第14回	文化と多様性:文化が言語に大きな影響	△ 世界の英語変種について調べる ▽ 文化と言語関連性について考えをまとめる	90 90
第15回	異文化理解とステレオタイプ:相違点の尊重と類似点の認識	△ 異文化理解に関する簡単な文献を読む ▽ 異文化理解と外国語の関係について考えをまとめる	90 90

備考: 英語教員としての実務経験(在外教育施設での幼稚部・小学部・中学部の英語教育コーディネータ、公立小学校教諭)を踏まえ、児童英語教育の実践についての講義を含む。 2700

【履修上の留意点】

積極的に英語でコミュニケーションをしようとする態度が必要です。協働学習に意欲的に取り組む姿勢が必要です。

【テキスト】

初回の授業で指示します。

【参考書・参考資料等】

『New Headway: Elementary Fourth Edition Student Book』Oxford University Press, 2011、
『The Very Hungry Caterpillar』Philomel Books, 1994 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(最新版)

【連絡方法】

授業時に伝える

【オフィスアワー】

授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	② ③	60%	・知識、理解、応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識、理解、応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や学習の内容理解が認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や学習内容の理解が不足している。
期末 レポート	①	20%	・課題の意図を的確に理解し、自分の考えをもとに解答できている。 ・書式のミスがない。	・課題の意図を理解し、明確に解答できている。 ・書式のミスがほぼない。	・課題の意図を概ね理解し、適切に解答できている。 ・書式のミスが散見する。	・課題の意図を断片的に理解し、解答できているが、テーマとの結びつきが弱い。 ・書式のミスが多い。	・課題の意図や授業内容の理解が不十分であり、解答できているが、テーマとの関わりが見られない。 ・字数が不足しており、書式のミスが多い。 ・提出期限が守られない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ② ③	10%	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に意欲的に取り組む姿勢が見られ、模範である。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加し、課題に取り組む姿勢が見られる。 ・学習を通じて得られた知識/理解/実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業の学習活動に参加しようとする。 ・知識/理解/実践力の習得に努めようとする。	・授業の学習活動に参加することができる。 ・知識/理解/実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業の学習活動への参加が不十分であり、知識/理解/実践力の習得が不足している。
授業外での 取組	③	10%	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められ、その成果も見受けられる。	・授業外での学習に積極的に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習に積極的に取り組む努力をしていることが認められる。	・授業外での学習に取り組んでいることが認められる。	・授業外での学習への取り組みが不十分で、内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第14回・第15回	第12回	第5回・第6回・第8回 第9回・第10回		第3回・第4回	第1回・第2回

科目名／専門教育	H811	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導(保育所・施設) I	2年後期	保育士必修	演習/複数	2単位	角杉 美恵子 ・ 池口 洋一郎			○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

- 保育実習の目的と意義を理解し、以下の点について学ぶ。
- ①保育所および施設の役割、職務内容の理解および実習生としての態度や心構え
- ②乳幼児の発達、利用者の状況に即した保育技術の習得
- ③実習に係る書類、実習日誌の記入、記録の仕方、部分実習責任実習の指導計画作成

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

「授業のねらい」で示した内容について具体的に学べるよう、実践的な指導を行う。事後指導では実習体験についてレポート作成や発表を行い、省察による新たな学習目標や課題を設定する。

【**到達目標と学修成果**】

①保育所、児童福祉施設、社会福祉施設における社会的役割と職務内容を理解する。②乳幼児の発達や利用者の状況に即した具体的な保育技術を知る。③実習日誌記入における具体的な内容を理解する。④部分指導計画を考案・作成する。⑤実習前に設定した目標について実習後に省察し、新たな学習課題を明確にする。

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	保育実習 I の目的 保育所実習・施設実習の目的、意義、内容を理解する	△シラバスを読み、授業の概要を確認する ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90 90
第2回	保育所実習での実習実践方法 1 3歳未満児の生活と保育	△保育所の社会的役割について、書籍、インターネットで調べる ▽保育所に入所する3歳未満児の一日の生活の流れをノートにまとめる	90 90
第3回	保育所実習での実習実践方法 2 3歳以上の幼児の生活と保育	△保育士の職務内容について、実習ガイドや配布資料を参考にしながらノートにまとめる ▽保育所に入所する3歳以上の幼児の一日の生活の流れをノートにまとめる	90 90
第4回	保育所実習の日誌と研究目的 1 日誌の記述の仕方	△保育所の一日の生活の流れをイメージしてノートにまとめる ▽保育所日誌の記述のポイントを確認する	90 90
第5回	保育所実習の日誌と研究目的 2 実習生の研究目的・着眼点	△実習目的と実習目標を考案、配布資料にまとめる ▽一日ごとの着眼点を配布資料にまとめる	90 90
第6回	施設実習の意義を理解する 児童福祉士としての社会的役割について	△児童福祉施設の社会的役割について、書籍、インターネットで調べる ▽児童福祉施設の一日の生活の流れをノートにまとめる	90 90
第7回	施設実習での実習実践方法 社会福祉施設の種類の 利用者との関わり方と援助方法	△社会福祉施設の社会的役割について、書籍、インターネット等で調べる ▽社会福祉施設の一日の生活の流れをノートにまとめる	90 90
第8回	施設実習の日誌と研究目的 日誌の記述の仕方・実習生の研究目的・着眼点	△児童福祉施設、社会福祉施設での研究目的、目標を配布資料を参考にしながら考案する ▽施設日誌の記述のポイントを確認する	90 90
第9回	保育実習の指導案の理解と作成 1 保育所における部分指導案の作成方法	△実習目的と実習目標を考案、配布資料にまとめる ▽一日ごとの着眼点を配布資料にまとめる	90 90
第10回	保育実習の指導案の理解と作成 2 施設における部分指導案の作成方法	△実習の対象者をイメージして、部分指導案の作成準備をする ▽実習の対象者をイメージして、部分指導案を修正する	90 90
第11回	保育実習の指導案の実践 1 保育所実習における指導案にもとづくロールプレイとディスカッション	△ロールプレイにむけた準備を行う ▽ロールプレイをとおした内容を振り返り省察する	90 90
第12回	保育実習の指導案の実践 2 施設実習における指導案にもとづくロールプレイとディスカッション	△ロールプレイにむけた準備を行う ▽ロールプレイをとおした内容を振り返り省察する	90 90
第13回	実習後の振り返り 実習後の成果と課題を省察して自己評価を行い、レポートを作成する。	△日誌、自己評価票をもとに、レポート作成の準備をする ▽グループ、全体発表への準備をする	90 90
第14回	実習成果の課題の発表 1 保育所実習における成果の発表とディスカッション	△発表内容の準備 ▽他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	90 90
第15回	まとめ 実習の成果と課題の発表 2 施設実習における成果の発表とディスカッション	△発表内容の準備 ▽他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	90 90

備考：

【 履修上の留意点 】
事前指導の出席回数が不足している場合は、実習を見送り、再履修となる。
【 テキスト 】
実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編) より深く理解できる施設実習 一施設種別の計画と記録の書き方― 藤京子 増南太志雄 萌文書林 2015
【 参考書・参考資料等 】
授業内に適宜紹介する。
【 連絡方法 】
実習メール、授業内での指示掲示を確認する
【 オフィスアワー 】
授業前後の休み時間

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①	20%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁が守られていない。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ② ③	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	①②④⑤		④⑤		①②	

科目名／専門教育	H814	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導(保育所)Ⅱ		3年前期	保育士 選択必修	演習/単独	1単位	角杉 美恵子	○	○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

保育実習(保育所)Ⅱの目的や意義、これまで修得してきた実習や科目との関連性を踏まえながら、より良い保育実践力の習得と、保育士の職務を理解することを目指す。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

上記の点について具体的に学べるよう、実践的な指導を行う。事後指導では実習体験についてレポート作成や発表の機会を設け、反省・評価とそれぞれの新たな学習目標や課題を明確にできるようにする。

【**到達目標と学修成果**】

- ①乳児・幼児の個々の発達に対応し、子どもの状況に即した保育技術を習得することができる。
- ②保育実習Ⅰから学んだ実習日誌の意義を再確認し、具体的な記入方法を学ぶことができる。
- ③指導計画作成および模擬保育を体験し、明確な目的をもって実習に臨むことを目指す。

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス(保育実習Ⅱの目的および実施上の規則の確認)	△「実習ガイド」の「保育実習Ⅱ」を読んでおく ▽保育実習Ⅱ「目標シート」の記入	15 30
第2回	保育所の社会的責任と役割について	△保育所における諸問題について考えておく ▽課題レポートの作成	15 30
第3回	養護と教育が一体的に行われる保育とは？	△保育所保育指針「保育の実施上の配慮事項」を読んでおく ▽課題レポートの作成	15 30
第4回	観察に基づく保育の理解と記録(子どもの活動・個人差・年齢差)	△保育実習Ⅰの日誌を振り返る ▽「日誌の書き方シート」の記入	15 30
第5回	観察に基づく保育の理解と記録(保育士などの動きや保育実践)	△保育実習Ⅰの日誌を振り返る ▽「日誌の書き方シート」の記入	15 30
第6回	環境を通して行う保育、総合的な保育の理解	△保育所保育指針「保育の環境」を読んでおく ▽手作りおもちゃの材料集めと計画	15 30
第7回	保育実践における手づくりおもちゃの製作(構想計画書作成)	△手づくりおもちゃの構想計画 ▽手づくりおもちゃの作成作業	15 30
第8回	保育実践における手づくりおもちゃの製作(製作および改良案)	△手づくりおもちゃの作成作業 ▽手作りおもちゃの仕上げ	15 30
第9回	手づくりおもちゃのプレゼンテーション発表会	△プレゼンテーションシートの作成 ▽指導案参考図書収集・閲覧	15 30
第10回	指導案作成	△指導案参考図書収集・閲覧 ▽指導案作成	15 30
第11回	指導案作成と模擬保育(グループ決めと模擬保育準備)	△模擬保育グループ決め ▽模擬保育準備計画	15 30
第12回	指導案作成と模擬保育(模擬保育準備)	△模擬保育準備計画 ▽「模擬保育振り返りシート」の記入	15 30
第13回	実習を振り返り、成果と課題を確認する。(事後指導)	△「実習成果シート」の作成 ▽事後アンケート記入	15 30
第14回	実習の成果と課題の共有をグループワークで行う(事後指導)	△「話し合いシート」の作成 ▽「グループワーク報告書」の作成	15 30
第15回	まとめ(グループ発表)(事後指導)	△「グループワーク報告書」の作成 ▽「グループワーク報告書」「日誌」「指導案」の完成・提出	15 30

備考：

【 履修上の留意点 】
この授業は、実習へ行くための必修科目です。授業の1/3を欠席すると事前指導不足となり実習辞退になります。休まずに参加すること。乳幼児の手づくりおもちゃを製作しますので、裁縫箱・フェルト・布の準備が必要になります。事前に報告します。
【 テキスト 】
・平成30年度 実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)2017 ・新人担任が知っておきたい0・1・2歳児保育のキホンまるわかりブック著：今井和子 石田 幸美 GAKKEN
【 参考書・参考資料等 】
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針
【 連絡方法 】
授業時に知らせる
【 オフィスアワー 】
水曜日

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①	20%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁が守られていない。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	30%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ② ③ ④ ⑤	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。 ・課題に基づいた指導案の作成がきちんとしてできる。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。 ・課題に基づいた指導案作成の努力が認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。 ・課題に基づいた指導案作成の努力がやや認められる。	・授業外での取組内容にに取り組むことができた。 ・課題に基づいた指導案作成に対して努力が必要である。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。 ・指導案作成未提出および内容不可

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			第9回			

科目名／専門教育	H816	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導(施設)Ⅲ		3年前期	保育士 選択必修	演習/単独	1単位	池口 洋一郎		
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							○
【授業のねらい】 児童厚生施設、社会福祉施設において、実習を行う意義と目的を理解する。 施設での実習に向けて具体的な目標を定め、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。								
【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】 実習前は、施設での実習への心構えと目標を明確にし、実習記録・指導案の記述方法について学ぶ。 事後指導では、実習体験についてレポート作成と発表を行い、さらに高度な保育実践への目標と課題を明らかにするためのスーパービジョンを行う。								
【到達目標と学修成果】 ①児童厚生施設、社会福祉施設における社会的役割と職務内容を理解する。②利用者の個別的ニーズを理解する。③保育士として必要な資質・能力の・技術を習得する。④実習での具体的な目標設定と実践を振り返り、自己省察する。⑤施設実習Ⅲを総括し、今後の課題を明確にする。								

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▼事後 / 分】	
第1回	保育実習Ⅲの意義と目的の理解 施設での実習を行うことの意義と目的、実習に臨む態度と心構えを知る。	△シラバスを読み、授業の概要を確認する ▽授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	20 25
第2回	保育実習Ⅲの内容の理解 保育実習Ⅲにおける実習の流れと具体的な実習の内容を理解する。	△実習ガイドの指定ページを熟読する ▽保育実習Ⅲに該当する施設について、インターネットで調べる	20 25
第3回	施設の役割と保育者の責務、職業倫理の理解 各施設の設置目的と役割、保育者の職務内容を理解する。児童福祉と社会福祉の法規に基づき、利用者の人権とプライバシーの保護について理解を深める。	△児童福祉法と社会福祉法の概要について、書籍等で調べる ▽利用者へのプライバシー配慮、保護に関するレポートを作成する	20 25
第4回	児童厚生施設における援助方法 児童厚生施設のデイリープログラムから、利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。接遇について。	△児童厚生施設について、インターネット等で調べる ▽児童厚生施設のデイリープログラムのモデルを作成する	20 25
第5回	社会福祉施設における援助方法 社会福祉施設のデイリープログラムから、利用者との関わり方と具体的援助の実際を学ぶ。保護者や施設の方との対応について。	△社会福祉施設について、インターネット等で調べる ▽社会厚生施設のデイリープログラムのモデルを作成する	20 25
第6回	施設実習日誌の作成方法 1 実習目的と12日間の研究課題を定める。	△実習目的と実習目標を考え、配布資料にまとめる ▽一日ごとの着眼点を配布資料にまとめる	20 25
第7回	施設実習日誌の作成方法 2 12日間における日誌の記入方法とそのポイントを理解する。	△12日間の着眼点を全体的に見直し、再構成する ▽施設日誌の記述のポイントを実習ガイド、配布資料を読みながら確認する	20 25
第8回	実習指導案の理解と作成方法 実習指導案作成の目的、具体的な手続きを学ぶ。	△指導案作成の準備をする ▽添削された指導案を見直し、修正を行う	20 25
第9回	個別支援計画の理解と作成方法 個別支援計画の作成の目的と具体的な手続きを学ぶ。	△フィクション事例に基づき個別支援計画を作成する ▽個別支援計画作成のポイントを配布資料をみながらノートにまとめる	20 25
第10回	実習指導案に基づく実践方法 1 作成した実習指導案に基づき、ロールプレイを試みる。	△ロールプレイにむけた準備を行う ▽ロールプレイをおとした内容を振り返り省察する	20 25
第11回	実習指導案に基づく実践方法 2 作成した実習指導案に基づくロールプレイをおとして、具体的な実践方法について考察する。	△ロールプレイにむけた準備を行う ▽ロールプレイをおとした内容を振り返り省察する	20 25
第12回	施設でのオリエンテーションを受け、実習への心構えと目標設定について、最終確認をする。	△オリエンテーションの記録を作成する ▽最終的なスケジュール、実習計画、内容を確認する	20 25
第13回	実習後の振り返り 実習後の成果と課題を省察して自己評価を行い、レポートを作成する。	△日誌、自己評価票をもとに、レポート作成の準備をする ▽グループ、全体発表への準備をする	20 25
第14回	実習成果の発表と課題の共有 1 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行う。	△発表内容の準備 ▽他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	20 25
第15回	まとめ 実習成果の発表と課題の共有 2 実習成果の発表と研究課題に基づく評価を行い、今後の課題を明確にする。	△発表内容の準備 ▽他グループの発表内容を参考に改めて実習を振り返る	20 25

評価基準	到達目標	割合(%)	大変優れている(S:100-90点)	優れている(A:89-80)	平均的(B:79-70)	努力を要する(C:69-60)	相当な努力を要する(F:59点以下)
試験(発表含む)							
期末レポート	① ② ③ ④ ⑤	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理の一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にし、か理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	① ② ③ ④ ⑤	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があった。他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	④ ⑤	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められた。その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みることができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

【履修上の留意点】 事前指導の出席回数が不足している場合は、実習を見送り、再履修となる。
【テキスト】 実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)
【参考書・参考資料等】 授業内に適宜紹介する。
【連絡方法】 実習メール、授業内での指示、掲示
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

評価方法	到達目標	割合(%)	大変優れている(S:100-90点)	優れている(A:89-80)	平均的(B:79-70)	努力を要する(C:69-60)	相当な努力を要する(F:59点以下)
試験(発表含む)							
期末レポート	① ② ③ ④ ⑤	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にし、か理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組(小テスト・授業内発表等)	① ② ③ ④ ⑤	60%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があった。他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	④ ⑤	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められた。その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みることができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習フィールドワーク	PBL(問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名／専門教育	H812	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習(保育所) I	3年前期		保育士必修	実習	2単位	角杉 美恵子	○	○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

学習した理論、知識、技術を総合的に実践する応用力を養う。
保育所の保育実践に触れながら、保育観察に明確な視点をもって臨み、子ども理解と保育の仕事を理解する。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

保育実習実施基準に定められた基準に従って、保育所において原則12日間(90時間)の体験学習を行う。実習日誌に毎日の記録を作成し、実習先保育所において指導を受ける

【**到達目標と学修成果**】

①保育所の役割や機能を具体的に理解する。②観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。
③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に学ぶ。④保育の計画、観察、記録および自己評価などについて具体的に理解する。⑤保育士の業務内容や職業倫理について理解する。

実 習 内 容	授業時間外の学修 【△事前 ▽事後】
<< 観察実習 >> ・実習保育所等の職員の役割や環境構成を理解する。 ・一日の保育の流れや保育所における子どもの行動を観察し、理解する。 ・乳児・幼児のあそびや生活を観察し、かかわりを通して、発達の特徴を理解する。(個と集団に着目して) << 参加実習 >> ・子どもと活動をともにして一日の生活の内容を体験する。 ・子どもと生活をともにしながら保育士の補助的な立場をとり、保育士としての態度や技術などを習得する。特に、子どもの安全面、衛生面の配慮の仕方を学ぶ。 ・保育のねらい、子どもの体験(エピソード)をとらえた実習日誌を作成し、保育についての考察を深める。 ・養護と教育が一体的に行われていることを理解する。 ・保育士などの職務内容に応じた役割分担およびチームワークについて学ぶ。 ・子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達過程や生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。 << 部分実習 >> ・保育活動の一分野の指導計画を担当保育士などの指導のもとに立案し実践する。	【実習ガイドを元に各自で確認・準備しておくこと】 △実習事前学修 ・実習先の確認とオリエンテーションの日程調整(服装・身だしなみ・あいさつ・持ちものなどの確認) ・実習先・大学・巡回教員との連絡方法の確認 ・実習ガイド「保育実習 I の目的・概要」の熟読 ・個人調査・出席簿・日誌表紙の下書き作成 ・細菌検査に関する準備および再確認 ・巡回教員とのミーティング ・日誌の書き方プリントを熟読 ①専門用語・話し言葉・書き言葉・文章の基本的な書き方の配付プリントを熟読しておくこと ②実習先での話し言葉と敬語表現のプリントを熟読しておくこと △実習中(2週間) ・丁寧な観察および日誌の作成 ・絵本の読み聞かせ・手遊び・わらべうたなどの練習 ・部分実習に向けての準備
	▽実習事後学修 ・保育実習先のご指導に基づく日誌および指導案の振り返りと添削 ・自己反省・自己評価の作成 ・実習ガイドをもとにお礼状の作成・送付(季節のあいさつ・季節語・はがき・封筒宛名の書き方) ・保育実習 I 振り返りアンケートの作成と提出

備考：この科目では、実習先担当の実務経験(保育士)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】 *実習中の欠席1/3日以上で実習停止となります。 保育実習先での態度・意欲・子どもとの関わりが基本的な評価の基準となります。素直な姿勢で実習に臨みましよう。事務などの正確性、保育現場の先生方とのコミュニケーションなどにも常に意識して、一日一日着眼点をもって実習に臨みましよう。ウイルス感染症などに対する本学および実習先の対応に関する情報について確認を怠らないこと 【テキスト】 実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)
【参考書・参考資料等】 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2015
【連絡方法】 ariake_jissyu@yahoo.co.jp
【オフィスアワー】 水曜日

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
実習日誌 指導案	① ②	10	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
実習日誌 指導案	② ③	20	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが少ない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
実習での取組	① ② ④ ⑤	60	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・知識、理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	② ④	10	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容がなんとか遂行できた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				全授業回		

科目名／専門教育	H813	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習(施設) I	3年前期	保育士必修	実習	2単位	池口 洋一郎	○	○	

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

- 1.児童福祉施設、社会福祉施設の機能と社会的役割を理解する。
- 2.実習施設での生活に参加しながら、利用者とのかかわり方、具体的な援助の方法を学び、実践力を身につける。保育士資格取得に必要な科目である。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

「保育実習実施基準」に定められた基準に従い、児童福祉施設等において90時間以上(12日間)の実習を行う。

【**到達目標と学修成果**】

- ①児童福祉施設、社会福祉施設での実習をおとして、保育士の職務内容を理解する。
- ②施設で生活する利用者の姿を知り、継続的に支援することの意義を理解する。

実 習 内 容	授業時間外の学修 [△事前 ▼事後]
<p>1.実習初期:参加観察・補助実習 (3~4日間) 利用者や職員との関わりをおとして、保育士の職務内容を理解する。 ・1日の生活に参加しながら、利用者の生活プログラムを理解する。 ・他の施設職員の仕事の内容と職務体制を理解する。 ・施設で生活している利用者のニーズを知り、関係づくりに努める。</p> <p>2.実習中期:補助実習・部分担当 (6~7日間) 利用者一人ひとりの発達や課題を理解して関わりを深める ・利用者の個別のニーズを理解し、利用者との関わりを部分的に担当する。 ・施設職員の仕事を部分的に補助し、利用者の健康・安全への配慮などに努める。 ・地域社会との連携について学び、実習施設の社会的役割を理解する。</p> <p>3.実習後期:全体実習・総括 (1~2日間) 保育士の専門性を理解し、施設の社会的役割や保育士の役割と位置づけについて総括する。 ・これまでの実習体験をいかして、具体的な援助・養護技術を総括する。 ・利用者への理解、利用者とのかかわり方の工夫など、保育士の役割について総括する。 ・実習記録、指導案に基づき省察を行う。 ・実習施設の社会的な役割と使命について総括する。</p>	<p>△ オリエンテーション、日誌の記述。部分指導案作成、責任実習指導案の作成、日誌の修正、自己評価</p> <p>▽ オリエンテーション、日誌の記述。部分指導案作成、責任実習指導案の作成、日誌の修正、自己評価</p>

備考：この科目では、実習先担当の実務経験も踏まえて実践的な指導を行う。

【**履修上の留意点**】

事前指導の出席回数が不足している場合は、実習を見送り、再履修となる。

【**テキスト**】

実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)

【**参考書・参考資料等**】

授業内に適宜紹介する。

【**連絡方法**】

UNIPA、実習メール(ariake_jissyuu@yahoo.co.jp)、授業内の指示、掲示を確認する

【**オフィスアワー**】

授業前後の休み時間

【**評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート							
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②	90%	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での取組	① ②	10%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容をなんとか遂行できた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				実習		

科目名/専門教育	H815	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習(保育所)Ⅱ	3年前期	保育士 選択必修	実習	2単位	角杉 美恵子		○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
 学習した理論、知識、技術を総合的に実践する応用力を養う。保育実習(保育所)Ⅰの省察から、各自が本実習の課題を設定し、より達成度の高い実習を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 保育実習実施基準に定められた基準に従って、保育所において原則12日間(90時間)の体験学習を行う。実習日誌に、毎日の記録を作成し、実習先保育所において指導を受ける。

【到達目標と学修成果】
 ①保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。②子どもの観察や関わり視点の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。③保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。④保育の計画、実践、観察、記録および自己評価について実際に取り組み、理解を深める。⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。⑥保育士としての自己の課題を明確化する。

実 習 内 容	授業時間外の学修 【△事前 ▽事後 / 分】
<p>≪観察実習≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体的に行われていることを具体的な場面を通して理解する。 ・保育所の社会的役割と責任を確認する。 ・ひとり一人の子どもの心身の状態や活動を捉える。 ・保育士などの動きや実践の観察を行い、自身の考察を取り入れて記録する。 <p>≪参加実習≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。 ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援について学ぶ。 ・合わせて地域社会との連携について理解する。 <p>≪指導実習≫ (部分実習および責任実習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間あるいは1日の指導計画を担当保育士などの指導の下に立案し実践する。 ・全体的な計画及び指導計画の意義を理解し、保育内容関連科目で習得したことを生かして実践する。 ・特に個人差に配慮した保育を展開できるように心がける。 <p>≪まとめ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して、多様な保育の展開(縦割り保育・統合保育・自由保育など)を理解し、保育士の業務や倫理観、子ども観、保育観を知り得ることで自己の課題を明確に持ち、自己評価に繋げる。 	<p>【実習ガイドを元に各自で確認・準備しておくこと】</p> <p>△実習事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先の確認とオリエンテーションの日程調整(服装・身だしなみ・あいさつ・持ちものなどの確認) ・実習先・大学・巡回教員との連絡方法の確認 ・実習ガイド(保育実習Ⅱの目的・概要)の熟読 ・個人調査・出席簿・日誌表紙の下書き作成 ・細菌検査に関する準備および再確認 ・巡回教員とのミーティング ・日誌の書き方プリントを熟読 <p>①専門用語・話し言葉・書き言葉・文章の基本的な書き方の配付プリントを熟読しておくこと</p> <p>②実習先での話し言葉と敬語表現のプリントを熟読しておくこと</p> <p>・部分実習・責任実習指導案作成のための準備をあらかじめしておく</p> <p>△実習中(3週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な日誌の作成 ・学びを深める指導案の作成 ・絵本の読み聞かせ・手遊び・わらべうたなどの練習 ・提出レポートの作成など <p>▽実習事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習先のご指導に基づく日誌および指導案の振り返りと添削 ・自己反省・自己評価の作成 ・実習ガイドをもとにお礼状の作成・送付(季節のあいさつ・季語・はがき・封筒宛名の書き方) ・保育実習Ⅱ振り返りアンケートの作成と提出

備考：この科目では、実習先担当の実務経験(保育士)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】
 ウイルス感染症などに対する本学および実習先の対応に関する情報について確認を怠らないこと

【テキスト】
 実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)

【参考書・参考資料等】
 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2015

【連絡方法】 UNIPA、実習メール(ariake_jissyuu@yahoo.co.jp)、授業内の指示、掲示を確認する

【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
実習日誌 指導案	① ② ⑤	10	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
実習日誌 指導案	③ ② ④	20	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・根重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁をおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守されていない。
実習での取 組	① ② ③ ④ ⑤	60	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での 取組	② ④	10	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容がなんとか遂行できた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回						

科目名／専門教育	H817	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
保育実習(施設)Ⅲ	3年前期	保育士 選択必修	実習	2単位	池口 洋一郎	○	○	

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

1. 児童福祉施設等(保育所以外)児童厚生施設、社会福祉施設の機能と社会的役割を理解する。
 2. 実習施設での生活に参加しながら、利用者とのかかわり方、具体的な援助の方法を理解する。
- *保育士資格取得に必要な科目である。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

「保育実習実施基準」に定められた基準に従い、児童福祉施設等において12日間の実習を行う。

【到達目標と学修成果】

- ①児童福祉施設での実習をととして、保育士の職務内容を理解する。
- ②施設で生活する利用者の姿を知り、一時的、継続的に支援することの意義を理解する。

実 習 内 容	時間外の学修 【△事前 ▼事後】
<p>1.実習初期:参加観察・補助実習 (3~4日間)</p> <p>利用者や職員との関わりをととして、保育士の職務内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の1日の流れを知り、利用者が参加・実施しているプログラムを理解する。 ・他の施設職員の仕事の内容と職務体制を理解する。 ・利用者のニーズを知り、関係づくりに努める。 <p>2.実習中期:補助実習・部分担当 (6~7日間)</p> <p>利用者のニーズを理解して関わりを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個別的ニーズを理解し、利用者との関わりを部分的に担当する。 ・施設職員の仕事を部分的に補助し、利用者の健康・安全への配慮などに努める。 ・地域社会との連携について学び、実習施設の社会的役割を理解する。 ・個別支援計画の作成について学ぶ。 <p>3.実習後期:全体実習・総括 (1~2日間)</p> <p>保育士の専門性を理解し、施設の社会的役割や保育士の役割と位置づけについて総括する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習体験をいかして、具体的な援助・養護技術を総括する。 ・利用者への理解、利用者とのかかわり方の工夫など、保育士の役割について総括する。 ・実習記録、指導案に基づき省察を行う。 ・実習施設の社会的な役割と使命について総括する。 ・実習をととして、保育士としての自己課題を明確にする。 	<p>△ オリエンテーション、日誌の記述、部分指導案の作成、責任実習の指導案作成、日誌の修正、自己評価</p> <p>▽ オリエンテーション、日誌の記述、部分指導案の作成、責任実習の指導案作成、日誌の修正、自己評価</p>

備考： この科目では、実習先担当者の実務経験も踏まえて実践的な指導を行う。

<p>【履修上の留意点】</p> <p>事前指導の出席回数不足している場合は、実習を見送り、再履修となる。</p>
<p>【テキスト】</p> <p>事前指導の出席回数不足している場合は、実習を見送り、再履修となる。</p>
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)</p>
<p>【連絡方法】</p> <p>実習メール、授業内の指示、掲示</p>
<p>【オフィスアワー】</p> <p>授業前後の休み時間</p>

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:100-90点)	優れている (A:89-80)	平均的 (B:79-70)	努力を要する (C:69-60)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート							
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	90%	・主体的に実習に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ②	10%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容をなんとか遂行できた。	・実習外での取組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				実習		

科目名／専門教育	YS801	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導(幼稚園)		2年通年	幼児必修	演習/単独	1単位	信太 朋子	○	○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	△
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【**授業のねらい**】

本講義では、幼稚園における教育実習の目的や意義、教育実習に必要な知識、技術を学び、自分の課題を見つけ、自ら研究し関わっていく実習態度を身につけることを目標とする。

【**授業概要(授業形態・進め方等を含む)**】

講義形式である。実習に先立って、その心構えや実習の進め方、幼児理解および保育内容の理解、実習日誌の書き方、指導案の立案等について、現場の事例を通して事前指導を行う。さらに実習終了後、実習での学習成果や課題をまとめ、反省評価を促し、新たな学習目標をもつよう事後指導を行う。

【**到達目標と学修成果**】

- ① 社会人としての挨拶や礼儀また、幼稚園教諭としてのマナーや心構えを身に付ける。
- ② 現場の事例を通して幼児理解や保育内容を理解をする。
- ③ 実習日誌の書き方、指導案の立て方を学び、評価反省することで、自分の課題解決の糸口を見出す。

回数	授業内容	授業時間外の学修	【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	ガイダンス(幼稚園教育を理解する・実習の意義や目的・心構え)	△配布資料を確認する	20
		▽実習ガイドP2で実習の目的を復習する	20
第2回	保育の考え方の基本・幼児理解	△3歳児～5歳児の発達について予習する	20
		▽配布資料で幼稚園の実際の復習をする	20
第3回	観察参加実習の事前指導 実習日誌の書き方Ⅰ ー観察の視点についてー	△実習ガイドP12～P14を予習する	20
		▽実習日誌の書き方をノートにまとめる	20
第4回	観察参加実習の事前指導 実習日誌の書き方Ⅱ ー着眼点に基づく実習の取り組みー	△実習ガイドP27～P29を予習する	20
		▽着眼点についてディスカッションした内容をまとめる	20
第5回	観察参加実習の事前指導 実習書類および実習オリエンテーションについての指導	△P3～P11まで実習ガイドを予習する	20
		▽オリエンテーション記録をまとめる	20
第6回	観察参加実習の事前指導 部分実習指導案の立案	△実習ガイドP12～P17を予習する	20
		▽部分実習指導案の宿題を行う	40
第7回	観察参加実習の事前指導 模擬保育ー部分実習の実践	△模擬保育者は、指導案を立案する	20
		▽模擬保育者の指導案を参考に指導案を書く	40
第8回	観察参加実習の事後指導 教育実習の評価	△実習ガイドP18～P20巻末資料-22を予習する	20
		▽評価の観点をまとめる	20
第9回	本実習の事前指導 着眼点に基づく保育の意図と視点	△着眼点の項目について調べ、まとめる	20
		▽年齢別に着眼点をまとめる	20
第10回	本実習の事前指導 責任実習指導案の立案Ⅰ ー一日指導案の立案の仕方ー	△実習ガイド巻末資料-8を予習する	20
		▽実習ガイド巻末資料-8を復習する	20
第11回	本実習の事前指導 責任実習指導案の立案Ⅱ ー主活動の意義と指導法の理解ー	△主活動の意義について調べる	20
		▽責任実習指導案の作成	45
第12回	本実習の事前指導 模擬保育Ⅰ ー主活動の指導案の実践① ねらいと活動	△部分実習指導案の作成	20
		▽部分実習指導案の復習	20
第13回	本実習の事前指導 模擬保育Ⅰ ー主活動の指導案の実践② 保育の展開	△部分実習指導案の作成	20
		▽部分実習指導案の復習	20
第14回	本実習の事前指導 模擬保育Ⅰー責任実習指導案の実践	△責任実習指導案の予習	20
		▽資料やノートの整理	30
第15回	まとめ 本実習の事後指導 教育実習の学習成果及び課題についてのディスカッション	△実習の報告書の記入	20
		▽学習成果についてまとめる	20

備考：この科目では、担当者の実務経験(幼稚園教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【**履修上の留意点**】
授業への参加態度重視(遅延による遅刻・無断欠席は認めない)授業で出された課題・実習日誌・一日実習指導案・授業ノートの提出状況・内容で評価を行う。(未提出の場合、単位修得不可)事前指導1回以上・事後指導の欠席で実習の評価は失格となる。

【**テキスト**】
平成29年度 実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)2017
適宜、授業で配布する。

【**参考書・参考資料等**】
幼稚園教育要領(2017)フレーベル館/幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)フレーベル館
保育所保育指針(2017)フレーベル館/小田豊監修 教育・保育実習と実習指導(2009)光生館

【**連絡方法**】 ariake_jissyuu@yahoo.co.jp
【**オフィスアワー**】 授業時の昼休み

【**評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)**】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	③	60%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ②	40%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがなく、指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多いため、指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)							
授業外での 取組							

備考：

【**アクティブ・ラーニング型授業回**】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第4回		第7回		第12～14回	第7回

科目名／専門教育	YS802	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育実習(幼稚園)	2年前後	幼免必修	実習	4単位		信太 朋子	○	○

【**ディプロマポリシー(DP)との対応関係**】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性・社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	◎
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

観察参加実習では、前半1週間は観察実習として、幼児の様子や保育者の援助、環境設定などを観察し、実習日誌に記録することを通し、幼稚園全般の様子や幼児の様子、保育の展開について理解することを目標とする。また、後半1週間は参加実習として、保育活動の一部を担当する部分実習指導案を立案し、幼児への関わり方を実践することを目標とする。本実習では、実習の総仕上げとして一日を担当として担当する責任実習を行う。幼児の発達や実態、園や担当教員の教育方針の理解したうえで責任実習指導案を立案し、一日担当として行動するための保育技術・技能を習得することを目標とする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

課程認定基準に基づき、本学では幼稚園における2週間の実習を2単位としている。幼稚園教諭2種免許状取得希望者は、2年次6月に2週間行う観察参加実習2単位、2年次11月に2週間行う本実習2単位、事前事後指導1単位の5単位が必修となる。

【到達目標と学修成果】

- 観察参加実習を通して幼稚園教育の一日の流れや保育の展開を知るとともに、実習日誌の書き方を学ぶ。
- 本実習を通して、主体的に幼児理解及び教師の援助について把握し、環境の構成の仕方や一人一人の幼児に応じた関わり方や一斉指導のポイントなどの保育技術・技能を身に付ける。

実 習 内 容	授業時間外の学修 【△事前 ▽事後 / 分】
<p>【観察参加実習】</p> <p>1.観察実習(1週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の一日の流れを知り、実習園の教育方針や幼稚園教員の仕事内容を理解する。 幼児の生活や遊びの観察を通し、3～5歳児の各年齢における発達理解や幼児理解をする。 幼稚園教員の保育の様子や幼児一人一人に応じた指導を観察し、幼児への関わり方や環境の構成の仕方及び保護者との関わり方を知る。 <p>2.参加実習(1週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教員の保育内容を補助しながら、幼児への関わり方や環境設定のあり方を学ぶ。 <p>【部分実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手遊びや絵本の読み聞かせなどの部分実習指導案を立案・実践する。 <p>【本実習】</p> <p>1.参加責任実習(2週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の発達の特性や環境・安全を踏まえながら、主体的に保育に参加し、保育技術や保育技能の経験を積む。 幼児一人一人に応じた指導のあり方を学ぶとともに、クラス全体の把握に努めながら保育に参加する。 <p>【部分実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラス全体の幼児を把握し、部分実習を通して活動への期待がもてるような導入、幼児が楽しめる活動の選択、展開、活動のまとめ方を学ぶ。 <p>【責任実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一日の流れを把握し、担任としての言動を意識した上で、クラス運営を行う。主活動においては、クラス全体の幼児を把握し、活動への取り組みに意欲がもてるような導入、幼児の発達に適した活動の選択、展開、活動のまとめ方を学ぶ。 	<p>【観察参加実習】</p> <p>△事前</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材研究として、手遊びや絵本を選び練習を行う。 絵本の読み聞かせ練習 個人調査記入 幼稚園の概要(実習日誌)作成 部分実習指導案を立案する。 <p>【本実習】</p> <p>△事前</p> <ul style="list-style-type: none"> 主活動の教材研究・必要な教材の準備や製作 手遊びや絵本についてのリスト作成・練習 主活動の練習 主活動の部分実習指導案作成 一日実習指導案作成 <p>【観察参加実習】</p> <p>▽事後</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習日誌を毎日記入する。 前日の日誌の修正を行う。 部分実習指導案の清書を行う。 教材準備・教材製作・グループディスカッションのまとめ <p>【本実習】</p> <p>▽事後</p> <ul style="list-style-type: none"> 一日実習指導案修正 主活動の検討 実習日誌毎日記入する。 1週目・2週目の自己評価表記入 実習を終えての感想及びお礼状提出 実習報告書作成・グループディスカッション 巡回指導担当教員に報告

備考：この科目では、実習先の実習担当者の実務経験(幼稚園教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

- 実習期間中の欠席日数は、実習日数の3/1を超えてはならない。
- 実習期間中の欠席が3/1以内の場合は、不足した実習日数を延長して補う。
- 実習園による実習評価および実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する。

【テキスト】

有明教育芸術短期大学 実習委員会作成 実習ガイド/ 適宜、授業で配布する。

【参考書・参考資料等】

幼稚園教育要領(2017)フリーベル館/幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)フリーベル館
保育所保育指針(2017)フリーベル館/小田豊監修 教育・保育実習と実習指導(2012) 光生館

【連絡方法】

ariake_jissyuu@yahoo.co.jp

【オフィスアワー】

授業のある日の昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達	目標						
試験 (発表含む)								
期末 レポート								
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②		60%	・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取り組みが不十分で学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ②		40%	・教育実習に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・教育実習に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・教育実習に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・教育実習に積極的に取り組むことができた。	・教育実習の取り組みが不十分で、学習内容の理解が不十分である。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				4週間		

科目名／専門教育	S821	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
事前事後の指導(小学校)		3年通年	小免必修	演習/複数	1単位	石井 友行	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子ども感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

- ・小学校教育実習の目的や内容を把握し、実習生の心得、具体的な準備内容や方法を確かめる。
- ・新聞、教育関係機関や実習校HPなどから教育現場の実際を読み取り、教育実習への課題づけに活かす。
- ・実習における活動内容やその反省事項、成果等をまとめ、大学での研究等に活かす。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

実習生としての心構えや教育現場の実際を、近隣の小学校の授業参観やVTR等を通して具体的に把握し、実習への関心と意欲を高める。実習の進め方、日誌の書き方等を先輩の記録等を参考にしながら、必要な準備内容を確かめ、推し進める。実習終了後は、実習体験のレポートを作成し発表する等、課題を明確にして研究等に活かす。

【到達目標と学修成果】

教育実習成績評価表、教育実習日誌に記述された内容をもとに、獲得した知識や経験を「教職実践演習」の講義とも関連して教職と自己に関する認識を深め、教職希望者としての今後の努力すべき資質能力形成のための計画を明確にする。

回数	授業内容	授業時間外の学修【△事前 ▽事後 / 分】
第1回	教育実習に向けて 小学校教育現場の把握 … 実習校HPから	△資料(教育実習に向けて)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第2回	小学校教師とは(子ども理解・学級経営・教師の服務・特別に支援を要する子どもへの関わりについて、実習生としての関わり方等)	△資料(小学校教師とは)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第3回	近隣の小学校での授業参観準備 授業の実際と授業参観の方法、授業記録について	△資料(小学校授業参観に向けて)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第4回	教師の教育技術(授業構成員・板書の仕方・指導技術の方法など)	△資料(教育技術)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第5回	有明小学校での授業参観	△資料(授業参観の視点)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第6回	実際の授業参観から学んだことのとめと気づきの視点から	△資料(授業参観での気づき)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第7回	アクティブラーニングを含む授業構成と学習指導案基本構造について	△資料(アクティブラーニング)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第8回	授業づくりと学級経営の関連性について	△資料(授業づくりと学級経営)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第9回	子どもの発達の視点から考える教材・教具の・ICTの利用と工夫について	△資料(教材教具の活用)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第10回	模擬授業実践	△模擬授業準備する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第11回	自己の模擬授業をPDF/Aサイクルで分析し課題と改善点の把握	△資料(PDF/Aサイクルについて)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第12回	教育実習の整理と評価分析	△資料(教育実習の評価分析)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第13回	教育実習レポートの作成	△資料(教育実習のまとめ)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第14回	教育実習レポートの発表(ICTを使って)	△資料(発表準備について)を予習する。 15 ▽今日の学修を復習しノートにまとめる。 30
第15回	まとめと今後の課題	△今までの学修を振り返り予習する。 15 ▽この時間での学びをまとめる。 30

備考：この科目では、担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

授業後に行う「リフレクションペーパー」(30%)および期末レポート(30%)、課題(40%)によって総合的に評価する。

【テキスト】

平成31年度 実習ガイド 有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 実習委員会(編)2019

【参考書・参考資料等】

「幼稚園教育要領」フレーベル館(2017年)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館(2017年)、文部科学省「小学校学習指導要領」(最新版)

【連絡方法】

ariake_jissyuu@yahoo.co.jp

【オフィスアワー】

授業の前後、昼休み

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	すべて	30%	・課題の意図を的確に理解し、論理的に記述されている。 ・慎重かつ丁寧に記述されており、誤字脱字等も平平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、論理的に記述されている。 ・慎重かつ丁寧に記述されており、誤字脱字等もない。	・課題の意図をおおむね理解し、記述しようとしているが改善すべき点もある。 ・記述についてはおおむね文意が伝わるが論理性に課題がある。誤字脱字等が若干ある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容は不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。誤字脱字への配慮が不十分である。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・求められた字数を充足せず、誤字・脱字・文法の誤りが多い。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	すべて	40%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	すべて	30%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容に取り組みることができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	11回		10回14回	5回		

科目名／専門教育	S822	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
教育実習(小学校)	3年前期	小免必修	実習	2単位	石井 友行		○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

・小学校教育の実際を教育現場で経験することによって、大学における教育についての理論的・技術的な学習成果の適用と検証を行い、その深化をはかる。・教育に対する心構えや、児童に対する理解と愛情を深め、実践的な学習体験を通して教育現場への課題意識と解決への洞察力を得て今後の研究の方向を明確にする。・教職と自己に対する認識を深め、教職希望者としての今後努力すべき資質能力形成のための計画を明確にする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

・教育実習の目標に向けて事前に設定した自己課題や、小学校教育現場における学級及び学校経営の視点からの児童への理解、学習指導、生活指導に関する多様な課題等に関して実践的に探求する。
・所属学級に関する観察・参加、活動補助等は、指導教員の許可及び指導のもと、積極的に行うこと。また、参観中は授業の妨げにならないよう留意しながら必ず授業記録をとること。参観後は授業担当教員に謝意を述べ、疑問点等があれば積極的に質問し指導を受けること。

【到達目標と学修成果】

実際の子どもたちと接しながら、教育上の処々の問題を肌で感じ取り、また、教育内容を計画した教育課程の実際に触れて、教員に求められる資質能力の有様をつかむことができる。

実 習 内 容	授業時間外の学修 【△事前 ▽事後 / 分】
<p>【授業観察】</p> <p>1. 学校の1日の流れを知り、小学校教諭としての仕事内容を理解する。 2. 児童の様子や各学年の発達理解を通して児童理解を深める。 3. 教師の関わりや個に応じた指導ポイントなど教育技術や教育方法を身につける。</p> <p>【研究授業】</p> <p>1. 指導案を立て1時間の授業を行う。</p> <p>【1日実習】</p> <p>各実習校の教育実習生指導要領に従い行う場合もある。</p>	<p>【事前学習】</p> <p>△明日の実習の流れを確認し、めあてをもつ。 △教材研究をする。 △指導案作りをする。 △教材や授業で使うプリントやワークシートの制作などをする。</p> <p>【事後学修】</p> <p>▽日々の記録をまとめる。 ▽日々の記録を振り返り、改善策などをまとめる。 ▽自分の行った授業を振り返り、改善策をまとめる。</p>

備考： この科目では、実習先の実習担当者の実務経験(小学校教諭)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

実習先による実習評価及び実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する。

【テキスト】

実習先による実習評価及び実習状況、実習日誌の内容から総合的に評価する。

【参考書・参考資料等】

適宜、紹介します。

【連絡方法】

ariake_jissyuu@yahoo.co.jp

【オフィスアワー】

授業のある日の授業前後、昼休み

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
実習での取組	①	80%	・主体的に実習に臨み、意欲的に取り組む姿勢があった。 ・授業で得られた知識・理解・実践力を十分に活かして実習に臨んでいることが認められる。	・主体的に実習に臨み取り組んでいた。 ・授業を通じて得られた知識・理解・実践力を活かして実習に取り組んでいることが認められる。	・主体的に実習に臨もうと努力をしていた。 ・実習を通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・実習での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・実習での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
実習外での取組	①	20%	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・実習外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・実習外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・実習外での取組内容に取り組むことができた。	・実習外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考： 実習での取組：実習先による実習評価及び実習状況、実習日誌の内容から総合的に判断する。
実習外での取組：実習後、実習報告のためのレポートやポスター、それを使つての発表を総合的に評価する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				実習		

科目名／専門教育	831	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
ボランティア活動とキャリア教育	1,2,3通年	選択	実習	1単位	菊地 大介			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。 4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	△

【授業のねらい】
ボランティア活動を通して、ボランティア精神を身につけるとともに、将来のキャリアについて考えさせる機会を提供する。また、教育・保育現場で求められる実践的指導力の基礎を身につけさせる。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
本科目は、教育・保育機関や団体等においてボランティア活動又はインターンシップに学生が自ら主体的に参加した体験を、単位として認定するものである。認定の手順は下記に記している。3年次履修の際には、1、2年次におけるボランティア活動も担当教員への事前相談の上、授業の受講、報告、実施証明書の提出を前提に認める場合がある。

【到達目標と学修成果】
①自分で計画を立て、進んで活動に取り組む。
②ボランティア先で創意工夫をしながら、活動に従事する。
③キャリア形成におけるボランティアの重要性を意識しながら、活動に従事する。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	ガイダンス1 キャリア形成におけるボランティア活動の意義と重要性	△ボランティアについて自分の意見をまとめる 25 ▽ボランティア体験についてレポートにまとめる 20
第2回	ガイダンス2 TPOに合わせたボランティアの先での対応、実施報告書の記入方法	△ボランティア体験発表準備 25 ▽それぞれの報告をレポートにまとめる 20
第3回		△ボランティア先を探す(インターネット等の活用) 25 ▽報告書作成 20
第4回		△ボランティア先を探す(キャリアセンター) 25 ▽報告書作成 20
第5回		△活動計画立案 25 ▽計画書作成 20
第6回		△活動計画(プランニング) 25 ▽計画書報告 20
第7回	<単位認定までの手順> ガイダンスの受講→ボランティア活動先を探す・決定する→担当教員に報告→活動の実践(実施証明を活動先からいただくことを含む)→実施報告書の作成→実施報告書および実施証明書の提出→委員会等での最終確認→単位認定	△活動計画(事前打ち合わせ) 25 ▽報告書作成 20
第8回		△活動計画(教員報告) 25 ▽計画書仕上げ 20
第9回	<単位として認められるボランティアの条件> ・内容が保育や教育、福祉、子ども、表現活動等の本学の教育理念に適合していること ・原則として無償ボランティアであること ・授業時間外であること	△活動実践準備(前期) 25 ▽実施報告書作成(前期) 20
第10回	延べ20時間以上の活動証明がされていること	△活動実践準備(中期) 25 ▽実施報告書作成(中期) 20
第11回		△活動実践準備(後期) 25 ▽実施報告書作成(後期) 20
第12回		△実施報告書作成準備 25 ▽報告会準備 20
第13回	体験報告会1 (ボランティア体験から得たこと、保育者としての学びの意義)	△プレゼンテーション準備(前半) 25 ▽各報告をまとめる(前半) 20
第14回	体験報告会2 (ボランティア体験から得たこと、保育者としての学びの意義)	△プレゼンテーション準備(後半) 25 ▽報告会をまとめる(後半) 20
第15回	まとめ	△各体験のレポート作成 25 ▽最終報告書作成 20

備考： 675

【履修上の留意点】
第一回目のガイダンスに必ず出席すること。学外での実習が中心になるため、欠席は基本的に認めない。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考書・参考資料等】
必要に応じて適宜紹介する。

【連絡方法】 kikuchi@ariake.ac.jp
【オフィスアワー】 水曜2限

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	20%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。 ・指定の体裁がおおむね守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	② ③	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識、理解・実践力の習得が断片的であるため、今後努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ② ③	30%	・授業外での活動に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での活動に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での活動に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での活動に取り組むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考： ・試験:プレゼンテーションでの口頭試問を含む
・授業外での取組:ボランティア実習を含む

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	13,14		13,14	3~12		

科目名/専門教育	YHS9-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども教育特別講座1 ストリートダンスを学ぼう	3年前期	選択必修	演習/単独	2単位	黒須 育海			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							△

【授業のねらい】
さまざまな種類のリズムダンスを学び、リズム感や表現力、多様な身体感覚を養う。基本的な舞踊の技術を獲得し、教育現場で活用できる能力を養う。

実技形式で実施する。活動内容は基本的に室内の授業となる。スポーツウェアなどの快適に運動することができる服装と、室内履きを用意すること。各々が主体的に活動に参加すること。次回に指示する課題などの予習を行い、実施した内容をノートにまとめ、授業理解を深めること。

【到達目標と学修成果】
①さまざまなジャンルの踊りを経験することにより、身体的・精神的な表現力を豊かにすることができる。
②作品発表を行うことにより、発表までのプロセスや舞台上での表現方法を身に付けることができる。
③グループ活動を通して、協調性を養うことができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	(講義)オリエンテーション授業内容の説明	△シラバスを確認する	20
		▽次回以降の実技に向けた準備	25
第2回	リズムダンス1 アップとダウンのリズム	△アップとダウンのリズムについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第3回	リズムダンス2 基本的なステップ①	△ステップの種類について調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第4回	リズムダンス3 基本的なステップ②	△基本的なステップ①を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第5回	ロックダンス1 基礎①トゥエル、ロック、ノック	△ロックダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第6回	ロックダンス2 基礎②スクービードゥー、スキーター	△基礎①を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第7回	ロックダンス3 基礎③ロックステディ、ウィッチウェイ	△基礎②を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第8回	ロックダンス4 振付基礎	△基礎③を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第9回	ポップダンス1 基礎①ヒット	△ポップダンスについて調べる	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第10回	ポップダンス2 基礎②アイソレーション、ロール	△基礎①を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第11回	ポップダンス3 振付基礎	△基礎②を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第12回	作品発表準備(1)音楽選曲 (2)構成づくり	△全ての基礎を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第13回	作品発表準備 リハーサル	△作品の流れ、振付を確認する	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第14回	作品発表	△振付の踊り込みをする	20
		▽内容をノートにまとめる	25
第15回	まとめ	△半期授業を振り返る	20
		▽内容をノートにまとめる	25

備考:

【履修上の留意点】
実技では、室内ばきを用意し、適切な服装で参加すること。実技が中心であるので、欠席をしないように努めること(減点の対象となる)。

【テキスト】
随時プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】
村田芳子「最新楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス」小学館

【連絡方法】 kurosu@ariake.ac.jp

【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	①②③	30%	・知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	②	20%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内で の取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①②③	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・知識・理解・実践力の習得が断片的であるため、今後も努力を要する。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外で の取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第12～15回					

科目名／専門教育	YHS9-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども教育特別講座2 アニメーション	3年前期	選択必修	演習/単独	2単位	伊垣 京子			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

私たちは様々な映像表現の影響を受けている。その一つであるアニメーションを例に映像の仕組みを知り、発想をし、制作や鑑賞をすることで映像表現の面白さを理解する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

視覚玩具(残像現象を利用した、視覚で楽しむおもちゃ)やコマ撮りアニメーション(対象を少しずつ動かした写真を撮り、連続して再生する技法を使った映像)の制作を通して映像の仕組みを学ぶ。

【到達目標と学修成果】

- ①課題に関心を持ち、主体的に課題に取り組むことができる。
- ②課題の内容を理解し、自分のイメージを表現できる。
- ③アニメーション(映像)の魅力や面白さを感じ取ることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 授業の概要、到達目標、成績評価、履修上の留意点などの説明	△シラバスに目を通しておく	90
		▽配布プリントの確認	90
第2回	視覚玩具①(ばたばたアニメ)	△2コマの動きを考えておく	90
		▽ばたばたアニメの完成	90
第3回	視覚玩具②(驚き盤)	△8コマの動きを考えておく	90
		▽驚き盤の完成	90
第4回	視覚玩具③(ゾートロープ)	△12コマの動きを考えておく	90
		▽ゾートロープの完成	90
第5回	視覚玩具④(フリップブック)構想から制作まで	△24コマの動きを考えておく	90
		▽制作過程の確認	90
第6回	視覚玩具⑤(フリップブック)制作から仕上げまで	△授業に必要なものを準備	90
		▽フリップブックの完成	90
第7回	コマ撮りアニメーションについて	△どんなコマ撮り作品があるか調べておく	90
		▽アプリの動作を確認	90
第8回	人物をコマ撮り	△人物をコマ撮りした作品を見ておく	90
		▽撮影方法のふりかえりをする	90
第9回	ストーリーを考える	△参考にしたい作品を見ておく	90
		▽配布プリントの完成	90
第10回	キャラクター制作①キャラクターデザインから制作まで	△制作するための資料の準備	90
		▽配布プリントの記入をする	90
第11回	キャラクター制作②制作から仕上げまで	△制作に必要なものを準備	90
		▽作品を完成させる	90
第12回	コマ撮りアニメーション①小道具作りから撮影まで	△撮影に必要なものを準備	90
		▽撮影に必要なものを確認	90
第13回	コマ撮りアニメーション②撮影や編集、音入れまで	△撮影に必要なものを準備	90
		▽配布プリントの完成	90
第14回	コマ撮りアニメーション③発表	△発表の準備	90
		▽感想シートを完成	90
第15回	アニメーションの鑑賞	△授業に必要なものを準備	90
		▽鑑賞シートを完成	90

備考:

【履修上の留意点】

工作作業が主体になる授業では筆記用具やハサミなど使い慣れたものを持参。コマ撮りアニメーションを行う際にはStop Motion(無料)アプリを使用予定。

【テキスト】

授業ごとに資料・プリントを配布する。

【参考書・参考資料等】

特になし

【連絡方法】

初回授業で知らせる。

【オフィスアワー】

授業の前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	30%	知識・理解・発想・技術が十分に身につけていることが認められる。	知識・理解・発想・技術が身につけていることが認められる。	基本的な知識・技術が身につけていることが認められる。	基本的な知識・技術が身につけようとする意欲は認められるが、努力を要する。	基本的な知識・技術が身につけていない。
期末 レポート	① ② ③	30%	課題の内容を的確に理解し、自由に発想をし、意欲的に制作に取り組んでいる。用具や材料の特性を理解し、表現ができています。	課題の内容を理解し、発想をし、意欲的に制作に取り組んでいる。用具や材料の特性を理解し、表現ができています。課題提出の期限が守られている。	課題内容を理解し、制作に取り組んでいる。用具や材料を利用し、表現ができています。	課題内容を理解しているが改善点がある。課題提出の期限が概ね守られている。	課題内容を理解しておらず、制作に消極的である。課題提出がされていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ③	30%	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。	主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組んでいた。	意欲的に授業に臨む努力をしていた。	授業内での取り組みに参加することができた。	授業内での取り組みが不十分で課題内容の理解が不足している。
授業外での 取組	①	10%	授業外での取り組みに積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	授業外での取り組みに積極的に取り組んでいたことが認められる。	授業外での取り組みに積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	授業外での取り組みを行うことができた。	授業外での取り組みが不十分である。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	15回		14回			

科目名／専門教育	YHS9-3	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
子ども教育特別講座3 「遊ぶ・解放・自己表現」	3年後期	選択必修	演習/ オムニバス	2単位	大洞 弘幸 ・ 鈴木 聡之			○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	△
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】

《第1回～第7回》表現するためには自分の内部にあるものからしか発信できない、まず、自分の内側にあるものを再発見し認めていく、そのために他者と関わりながら集団を創る。集団の中で発信と受信を繰り返しながら自己表現と自己肯定感を身に付けていく。保育現場、教育現場でどのような子ども集団を創っていくか、この授業を通して体験していく。この授業は真ん中に遊ぶことを中心に行う。遊ぶことはコミュニケーションの大事な要素。《第8回～15回》事前に何も決まっていない「インプロ(即興表現)」の演習を通じて、「身体表現」「感情表現」「演劇表現」をする経験を積み重ねながら、個々の持つ多様なコミュニケーションの可能性について考え、保育・教育の現場でどう活かしていくかを考察する。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

子どもたちと発見した遊びの実技などが中心になるため、動きやすい服装(靴)などが望ましい。ワークショップ形式、写真や絵画などから感じる自己表現と他者の表現、少人数集団による創作表現などを展開する。ワークショップ形式の演習授業である。服装は動きやすいものを推奨する。
特に第9・10回はインプロ(即興表現)にチャレンジすることで、自分の表現方法や考え方の特性を見つめ直し、各自のもつ多様なコミュニケーションの可能性について考える。第11回以降、様々なインプロ(即興表現)パフォーマンスを楽しみながら、保育・教育の現場でどう活かしていくかを考察していく。

【到達目標と学修成果】

- 自己表現を楽しみ、自己肯定感を身につける。
- 他者と関わりながら集団創りができる。
- 大人の遊び心が鍛えられる。
- 即興表現を積み重ねてきたことによる自分の変化を見つめ、考察することができる。
- 参加者同士の協働作業で創造的な表現を創り出し、その作業をふり返ることができる。
- 即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場でどう活かしていくかを考察することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回 大洞	オリエンテーション 授業内容、ねらい、成績評価などについて	△自分が子ども時代に行っていた遊びを思い返す。 90
		▽レポート 授業に期待することなど 90
第2回 大洞	自己解放のための遊び① 自分の価値観を探る。ゲーム、アイスブレイキングなど	△自分が何からできているか考える。(例えば音楽とドーナツと土いじりとか) 90
		▽2回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述 90
第3回 大洞	自己解放のための遊び② 他者の価値観を探る。お手玉 ゲームなど	△自分の中にある最大の怒りを考える 90
		▽3回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述 90
第4回 大洞	自己解放のための遊び③ 言葉と身体を使い自分と他者の価値観を比べて認め合う。	△自分の中にある最大の喜びを考える 90
		▽4回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述 90
第5回 大洞	集団創り① 2人から始める遊び。写真と絵画などを使う	△他者と初めて関わった喜びを考える 90
		▽5回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述 90
第6回 大洞	集団創り② 5人以上の集団で遊びを創作	△集団で作り上げた喜びを考える 90
		▽6回目の授業に対するリアクションペーパーへの記述 90
第7回 大洞	集団創作遊びの発表。まとめ	△ここまでの授業を振り返る 90
		▽全7回の授業に対してのレポート 90
第8回 鈴木	オリエンテーション:授業の概要、成績評価について	△テキストp.2-14の予習 90
		▽第8回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する 90
第9回 鈴木	インプロ(即興表現)へのチャレンジ①:【自己検閲】をテーマとした取り組み	△テキストp.17-23、p.47-60、p.94-97の予習 90
		▽第9回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する 90
第10回 鈴木	インプロ(即興表現)へのチャレンジ②:【場づくり】をテーマとした取り組み	△テキストp.17-23、p.121-156の予習 90
		▽第10回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する 90
第11回 鈴木	インプロ(即興表現)で遊ぶ①:【身体表現】	△テキストp.27-91の予習 90
		▽第11回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する 90
第12回 鈴木	インプロ(即興表現)で遊ぶ②:【言語表現】	△テキストp.40-46、p.71-75、p.92-94の予習 90
		▽第12回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する 90
第13回 鈴木	インプロ(即興表現)で遊ぶ③:【即興の劇遊び】	△テキストp.60-71、p.97-119の予習 90
		▽第13回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する 90
第14回 鈴木	インプロ(即興表現)を保育・教育の現場でどう活かすかを考察する	△保育・教育の現場にインプロ経験をどう活かすかを考察する 90
		▽第14回授業をふり返り、リフレクションシートへ記述する 90
第15回 鈴木	授業の総括とリフレクション	△授業内容の総復習 90
		▽授業全般をふり返る。 90

備考:

【履修上の留意点】
【テキスト】 「子どもたちとレッツ！インプロ！」鈴木聡之（晩成書房2020年）
【参考書・参考資料等】 授業内で適宜、提示する。
【連絡方法】 メール utakani@yahoo.co.jp
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)							
期末 レポート	④	20%	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、真摯に見つめ、考察できている。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場でどう活かしていくかを深く考え、考察できている。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、考察できている。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場でどう活かしていくかを、考察できている。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化を、考察しようとしている。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場でどう活かしていくかを、考察しようとしている。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化への考察が不十分である。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場でどう活かしていくかについての考察が不十分である。	・インプロ(即興表現)にチャレンジしたことによる自分の変化への考察が不十分である。 ・即興表現を積み重ねてきた経験を、保育・教育の現場でどう活かしていくか、考察できていない。
	⑥						
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	①	50%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識、理解、実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識、理解、実践力が身についたことが認められる。	・主体的に授業に臨もうとした。 ・取り組みを通じて得られた知識、理解、実践力の習得に努めようとしていた。	・授業での取り組みに参加することができた。 ・知識、理解、実践力の習得が断片的であるため、今後とも努力を要する。	・授業内での取り組みが不十分で学習内容の理解が不足している。
	②						
	③						
授業外での 取組	④	30%	・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、真摯にふり返り、考察することができる。 ・主体的に授業に臨み、インプロ(即興表現)に意欲的に取り組み、創造的な表現を生み出し、皆の模範となっている。	・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、ふり返り、考察することができる。 ・主体的に授業に臨み、インプロ(即興表現)に意欲的に取り組んでいる。	・毎回の自分のインプロ(即興表現)へのチャレンジを、考察しようとしている。 ・主体的に授業に臨もうとしている。	・授業のふり返りを提出することができる。 ・授業内の取り組みに参加することができる。	・授業のふり返りが不十分である。 ・授業内での取り組みが不十分である。
	⑤						

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回				6		

科目名	専門教育	YHS9-4	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
	子ども教育特別講座4 micro:bitで遊んで学ぼう	3年後期	選択必修	演習/単独	2単位		松波 紀幸		○
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。									
	豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。							△
	専門的知識や 技能	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。 3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							△ ◎
	実践的能力・ 表現コミュニケーション力	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。 5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。 6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							○ ○ △
【授業のねらい】									
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータサイエンスの一部である小学校におけるプログラミング教育について、その内容をつかむ。 ・ビジュアルプログラミングを用いた、学習活動について考案する。 									
【授業概要(授業形態・進め方を含む)】									
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校におけるプログラミング教育について、講義にて概説する。また、参考資料等により各自補充を行う。 ・ビジュアルプログラミングについて、演習を通じてその基本を学ぶ。また、示された課題について協調学習を行う。最終課題については、個人またはグループにより設定した内容について、試行錯誤しながら、ビジュアルプログラミング等を行う。 									
【到達目標と学修成果】									
<ul style="list-style-type: none"> ①小学校プログラミング教育について、その内容を理解している。 ②ビジュアルプログラミングを用いた、学習活動について考案できる。 									
回数	授業内容	授業時間外の学修 【△事前 ▽事後 / 分】							
第1回	小学校プログラミング教育の概要	△ 文部科学省(2020)小学校プログラミング教育の手引(第三版)を通読し、その内容をつかむ	90						
		▽ 小学校プログラミング教育についてその内容をまとめる	90						
第2回	micro:bitの基本操作 名称及びPC等への接続等	△ 松波(2019)プログラミング教育とは何かを通読し、その内容をつかむ	90						
		▽ micro:bitの基本操作について、授業外学修にて定着を図るとともに、基本的な事項についてまとめる	90						
第3回	micro:bitの基本操作 MakeCodeエディターの使い方	△ 松波(2019)プログラミング教育における授業構想のポイントを通読し、その内容をつかむ	90						
		▽ 授業で作成したプログラムをMakeCodeエディターにて読み込み、演習内容の確認を行う	90						
第4回	micro:bitの基本操作 ゲームライブラリーを用いたスプライト	△ 松波・国分(2021)小学校におけるプログラミング教育の実際を通読し、その内容をつかむ	90						
		▽ 授業で作成したプログラムをMakeCodeエディターにて読み込み、プログラムを一部改編等する	90						
第5回	micro:bitの基本操作 ゲームライブラリーを用いたミニアクションゲームを制作(温度センサーの活用)	△ 松波・福田(2021)センサーを用いたプログラミング教材の検討における授業提案等について一通読し、その内容をつかむとともに、最終課題について見直しをもつ	90						
		▽ 授業で作成したプログラムをMakeCodeエディターにて読み込み、プログラムを一部改編等する	90						
第6回	micro:bitの基本操作 ゲームライブラリーを用いたキャッチゲーム制作(加速度センサーの活用)	△ micro:bitを用いた授業実践について、第7講に備え、調べる	90						
		▽ 授業で作成したプログラムをMakeCodeエディターにて読み込み、プログラムを一部改編等する	90						
第7回	micro:bitの基本操作 資料等を活用し、グループによるワークショップの企画立案	△ ワークショップに向けて、グループごとに準備を進める	90						
		▽ ワークショップに向けて、グループごとに準備を進める	90						
第8回	micro:bitの基本操作 資料等を活用し、グループによるワークショップの準備	△ ワークショップに向けて、グループごとに準備を進める	90						
		▽ ワークショップに向けて、グループごとに発表準備を進める	90						
第9回	micro:bitの基本操作 グループによるワークショップ(発表)	△ ワークショップに向けて、グループごとに発表準備を進める	90						
		▽ 各グループの発表から学んだ内容について、授業外学習時間に確認する	90						
第10回	micro:bitの応用操作 個人またはグループで設定した課題に基づく、学習活動の立案	△ 活動に必要なセンサー及び材料などは事前に各自調達する。課題設定に必要な資料について準備する	180						
第11回	micro:bitの応用操作 個人またはグループで設定した課題に基づく、学習活動の準備	△ 課題を解決するために創意工夫したプログラムを検討する	90						
		▽ 課題を解決するために創意工夫したプログラムを検討する	90						
第12回	micro:bitの応用操作 個人またはグループで設定した課題に基づく、学習活動の発表準備	△ 発表に向けて準備する	90						
		▽ 発表に向けて準備する	90						
第13回	創意工夫したmicro:bitを用いた学習活動に関する発表	▽ 発表内容に基づき、各自で検証を行う	180						
第14回	micro:bitの応用操作 センサーを用いたプログラムについて創意工夫したプログラムの制作	△ 松波・福田(2021)について、その内容について、今一度確認する	90						
		▽ 創意工夫したプログラムについて再検討する	90						
第15回	まとめと授業の総括(含 確認テスト) (注:上記計画は、受講者の学習状況や人数、関心に応じて変更することがある。)	△ これまで示された資料について、熟読し理解を深める	90						
		▽ これまでの学習内容についてまとめる	90						

備考:

【履修上の留意点】
<ul style="list-style-type: none"> ・集中講義を予定しており、欠席は原則認めない(除 病欠等により証明書等の提出がある場合) ・本科目等を使用するmicro:bit(2,500円程度)は各自準備を求めている。また、各自の課題を追求する際に必要なものは各自準備する。 ・授業内における演習は、ビジュアルプログラミングを基本とし、コードを用いるなどはしない。初学向けである。 ・演習で利用したデータ等の保管用にUSBメモリやクラウド等を各自準備しておくこと。 ・スマートフォン及び各自のPCを利用する場合がある(特に授業外学習)。また、必要に応じて持参すること。 ・大学から案内されているシステムやZoom(遠隔授業が必要な場合)の利用環境を整えておくこと。 ・提出物等は大学から案内されているシステムを利用する予定である。それ以外の提出、例えばメール添付などは評価の対象外とする。また、1MB以上のメール添付を了解なく授業担当者に送信した場合、礼節に欠けたメール等の連絡は、減点対象とする。 ・授業で使用するコンテンツについては、受講生以外が閲覧、所持することはできない。受講生にあっては、受講生以外に複写を渡す、webにアップするなどのことがないようすること。 ・reflectionについては、評価対象であるとともに、自身の学びにとって必要なものである。授業で記録をとり、自宅等でまとめて直すなど、課外の学習時間の充実を図り、求められた際には提出すること。 ・何事も「できなかった理由」を考えるのではなく、どのようにすれば「できるか」、「ベター」であるかを考えること。 ・提出物などの締切は、厳守すること。原則遅延は評価対象外とする。 ・連絡は全てメールによる事前連絡を原則とするが、所属や氏名など記入忘れのないようにするとともに、PCメールが受信できるアドレスから発信すること。 ・本科目で取り扱う知識は、全てを講義内で網羅することはできないことから、必要に応じて各自調べるとともに、受講者間で学び合うこと。
【テキスト】
文部科学省(2020)小学校プログラミング教育の手引(第三版)ほか ※購入が必要なものは、別途第1講で指示する。
【参考書・参考資料等】
文部科学省(2017)小学校学習指導要領、文部科学省(2017)小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 各教科等編、松波(2019)プログラミング教育とは何かーその捉えと今後の方向性ー、松波(2019)プログラミング教育における授業構想のポイントー公立小学校における実践事例からー、松波・国分(2021)小学校におけるプログラミング教育の実際ー都内公立小学校における校内研修会を通じてー、松波・福田(2021)センサーを用いたプログラミング教材の検討ー家庭科「家庭・家庭生活」についての課題と実践」における授業提案等についてー
【連絡方法】
面接授業における授業内及び前後を基本とし、必要に応じて授業内に教示されるメールにて一週間の余裕をもって連絡
【オフィスアワー】
授業前後の休み時間
【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含 む)							
期末 レポート							
授業内で の取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	100%	プログラミング教育の内容についてよく理解している。また、ビジュアルプログラミングを用いて、創意工夫が見られる。	プログラミング教育の内容についてよく理解している。また、ビジュアルプログラミングを用いて、資料等をもとに応用できている。	プログラミング教育の内容について概ね理解している。また、ビジュアルプログラミングを用いて、資料等をもとにした演習できている。	プログラミング教育の内容について概ね理解している。また、ビジュアルプログラミングを用いて、基本操作ができている。	プログラミング教育の内容について理解が乏しい。また、ビジュアルプログラミングを用いた、基本操作について努力を要する。
授業外で の取組							

プログラミング教育の内容理解については、小テスト(web)を予定している(1/4)配点。また、ビジュアルプログラミングを用いた演習では、各授業回の課題に対する配点(1/4)、中間、最終課題に対する配点(2/4)を目安に総合的に評価を行う。なお、提出物の提出状況、講義及び演習への取り組み状況については、総合評価の際に加味する。

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第7～13回		第9, 13回	第2～8, 10～12, 14	第10～12回	

科目名/専門教育	YHS10-1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
卒業研究A(論文)		3年通年	選択必修	演習/ 担当制	2単位	子ども教育学科 専任教員		○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	◎
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	△
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

本学での学びの集大成として、習得した知識や技術を基礎としてテーマを設定し、リサーチを行いその成果をまとめるものである。問題提起からスタートし、その問題を解決する方法や手段、得られた結果の整理・分析、その考察と最終的な総括など、一連の研究活動において、自主的に問題解決するためのスキル・姿勢を学ぶ。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

卒業研究の指導教員の選定は学生の希望を参考にしながら、学科で調整して決定する。研究テーマは、主体的に取り組むことができるものに設定する。テーマに沿ってデータ収集・調査・分析・検討を行って論述する。最終的には、得られた結論をプレゼンテーションする。

【到達目標と学修成果】

- ①自らの興味関心に基づき、研究テーマを決定し、計画的にかつ主体的に課題に取り組むことができる。
- ②研究テーマに沿ってデータ収集・調査・分析・検討し論述できる。
- ③研究により得られた結論をプレゼンテーションする。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	卒業研究のガイダンス(研究の進め方、図書館の資料活用、評価方法等について)	△研究テーマについて発表できるようにする。	90
		▽今日の学びをまとめておくこと	90
第2回	「論文」を執筆するうえでの基本的な考え方・方法・作法等について学ぶ。	△参考文献を探し論文を読み込むこと	90
		▽今日の学びをまとめておくこと	90
第3回	選定した研究テーマにもとづき、研究・調査等の計画の立案とプレゼンテーション	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第4回	自身の興味関心のある研究テーマについての先行研究調べとテーマの確定に向けた検討をする。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第5回	研究テーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、研究方法を各自プレゼンテーションする。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第6回	論文の章立てを検討をする。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第7回	研究テーマについて、具体的な計画を立て、文獻サーベイ、データ収集、分析等の方法について情報を整理し、発表する	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめておくこと	90
第8回	中間発表を行う。研究テーマについて先行研究と既存の情報を整理し、意見を参考に議論などを進める。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第9回	中間発表を行う。先行研究を踏まえ、分析項目を発表する。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第10回	卒業論文の関係論文・専門書輪読、論議などを進める。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第11回	本論の作成の方法を検討する。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第12回	終章作成の方法を検討する。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第13回	卒業論文のとりまとめにむけて研究室内で卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第14回	卒業論文最終提出に向けて作成指導、プレゼンテーション指導	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文執筆を進める。	90
第15回	研究成果の発表(グループ内発表とディスカッション)	△発表資料の作成をする。	90
		▽今日の学びをまとめ、論文を仕上げる。	90

備考:

2700

【履修上の留意点】

卒業研究A(論文)の提出にあたっては、指導教員の指導および最終確認を受ける必要があります。

【テキスト】

指導教員の指示があります。

【参考書・参考資料等】

指導教員の指示があります。

【連絡方法】

【オフィスアワー】

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達	割合						
試験 (発表含む)	③		30%	・研究テーマに関する知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・研究テーマに関する知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末レポート	②		40%	・研究の目的を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照されている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・研究の目的を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照されている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。	・研究の目的をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・研究の目的を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤り等に配慮する必要がある。	・研究の目的やこれまでの指導内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での取組 (小テスト・授業内発表等)	① ②		20%	・自らの研究主題に主体的に取り組む、必要な知識や態度を十分に身につけて研究成果をあげ、保育者としての専門的知識を十分に深めようとしていた。	自らの研究主題に主体的に取り組む、必要な知識や態度を十分に身につけて研究成果をあげ、保育者としての専門的知識を深めようとしていた。	自らの研究主題に主体的に取り組んで研究に必要な知識や態度を学び、標準的な水準で研究成果をまとめることができた。	自らの研究主題に主体的に取り組むために必要な知識や態度を身につけておらず、研究成果をまとめることができなかった。	研究主題に取り組むために必要な知識や態度を身につけておらず、研究成果をまとめることができなかった。
授業外での取組	②		10%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容が不十分で、学習内容の理解が不足している。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第15回	第8・9回	第8・13・14・15回			

科目名／専門教育	YHS10-2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
卒業研究B(総合表現)		3年通年	選択必修	演習/ 担当制	2単位	有福 一昭 ・ 山田 麻美子 ・ 松田 扶美子	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	◎
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	◎

【授業のねらい】
 学生は、表現分野における研究テーマを決め、そのテーマに基づいて表現を研究領域とする教員の指導を受けながら主体的に研究を進める。研究の過程で表現コミュニケーション力の意義を理解し、表現における専門性をもった保育者・教育者としての成長を目指す。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】
 卒業研究の指導教員の選定は、学生の希望を参考にしながら、学科で調整して行う。学生は、さまざまな表現分野を総合的に捉えた作品を構想し、グループあるいは個人で言葉、造形、音楽、身体表現などによる総合的な作品を制作して発表し、最終的にレポートにまとめる。

【到達目標と学修成果】
 ①自らの興味・関心に基づき研究テーマを決め、計画を立て、主体的に課題に取り組むことができる。
 ②作品発表とレポートを作成して研究成果を取りまとめ、発表することができる。
 ③卒業研究を通して、保育者・教育者として必要な専門的知識を深めることができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	ガイダンス 指導教員との顔合わせ(指導教員は学科内で調整し伝達される)	△参考資料を読んでくる ▽テーマの設定について考える	90 90
第2回	研究における課題と作品の相談を行う	△自ら興味・関心のあるテーマについてノートにまとめる ▽テーマにおける課題について考えをまとめる	90 90
第3回	資料及び情報収集の方法と留意点について学ぶ 仮題目提出	△テーマに沿った資料の検索を行う ▽資料及び情報収集時の留意点(特に著作権について)まとめる	90 90
第4回	作品の整理、先行研究の調査、文献表の作成	△先行研究の整理を行う ▽作成した文献表について考えをまとめる	90 90
第5回	作品の構想、課題の再検討、個人による作品・演目の決定	△活動計画表を作成する ▽中間発表レジュメ作成に取り掛かる	90 90
第6回	研究計画の見直し、中間発表レジュメ作成	△取り組みについて収集した資料・情報を整理する ▽中間発表レジュメの見直し・プレゼンテーション準備	90 90
第7回	学科中間発表会(プレゼンテーション)	△プレゼンテーションへの練習・準備を行う ▽プレゼンテーションのふりかえりをまとめる	90 90
第8回	作品制作1(試作)・表現発表準備1(試演)	△グループまたは個人で作品の試作・準備を行う ▽準備・制作を引き続き進める	90 90
第9回	題目の決定	△本題目について再検討する ▽題目に沿って準備を進める	90 90
第10回	題目の決定届け(学科長あて)	△活動計画について再検討を行う ▽今後の活動計画について決定しまとめる	90 90
第11回	作品制作2(本制作グループ発表)・表現活動準備2(グループ発表)	△作品の制作・活動を進める ▽作品制作上の課題を考える・レポートの準備をする	90 90
第12回	作品制作3(展示発表計画)・表現活動準備3(全体リハーサル)	△作品の制作・活動を進める ▽作品の制作・レポートの準備を行う	90 90
第13回	研究の仕上げ	△発表への練習・準備を行う ▽発表に対する課題をまとめる・レポートの準備	90 90
第14回	発表資料作成、研究成果発表会の実施、ICTによる発表の記録を行う	△発表の準備を行う ▽レポートの仕上げ・記録によりふりかえりを行う	90 90
第15回	ICTによる発表記録のふりかえり・レポート提出	△レポートを完成させる ▽研究に対する今後の課題について考えをまとめる	90 90

備考： 2700

【履修上の留意点】

【テキスト】
 特に指定しない。各指導教員から必要に応じて掲示される。

【参考書・参考資料等】
 松本茂・河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部(2007)
 石井一茂『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社(2011)

【連絡方法】 初回授業にて伝える
 【オフィスアワー】 授業の前後

【評価方法×基準別評価／到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ② ③	30%	・研究テーマに関する知識・理解・応用力(実践力)が十分に身につけていることが認められる。	・研究テーマに関する知識・理解・応用力(実践力)が身につけていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていることが認められる。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解が断片的であるため、今後も努力を要する。	・研究テーマに関する基本的な知識の習得や理解がされていない。
期末 レポート	① ② ③	30%	・課題の意図を的確に理解し、過不足ない内容で記述されている。 ・論理に一貫性があり、先行研究や客観的根拠が過不足なく参照できている。 ・慎重かつ丁寧に推敲されており、違和感なく平易に読み進められる。	・課題の意図を理解し、記述されている。 ・論理に一貫性があり、客観的根拠や先行研究の選択が妥当で参照できている。 ・誤字・脱字・文法の誤りがない。 ・指定の体裁が守られている。	・課題の意図をおおむね理解しているが改善すべき点がある。 ・論理に一貫性があるが、客観的根拠に欠ける。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図を断片的にしか理解しておらず、記述内容が不十分である。 ・論理の飛躍や説明不足により内容がわかりづらい。 ・誤字・脱字・文法の誤りに配慮する必要がある。 ・指定の体裁・期日が守られている。	・課題の意図やこれまでの授業内容を理解できておらず、関係のない内容が大部分を占めている。 ・誤字・脱字・文法の誤りが多い。 ・指定の体裁・期日が守られていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	20%	・主体的に授業に臨み、課題に意欲的に取り組む姿勢があり、他の学生の模範となった。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が十分に身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨み、課題に取り組んでいた。 ・取り組みを通じて得られた知識・理解・実践力が身につけていることが認められる。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・主体的に授業に臨もうと努力をしていた。 ・取り組みを通じて、知識理解・実践力の習得に努めようとしていた。	・授業内での取組が不十分で、学習内容の理解が不足している。
授業外での 取組	① ②	20%	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められ、その成果も見受けられた。	・授業外での取組に積極的に取り組んでいたことが認められる。	・授業外での取組に積極的に取り組む努力をしていたことが認められる。	・授業外での取組内容が取り進むことができた。	・授業外での取り組みが不十分で、学習内容の理解が不足している。

備考：

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	1回		7回、14回			

科目名／自由科目	R1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
レクリエーション(理論)		1年前期	選択(レク必修)	演習/単独	2単位	堀内 亮輔	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	◎
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	○
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	△
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

レクリエーションの目的や価値、レクリエーション支援者として必要な諸理論や支援方法の基礎を理解することをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

レクリエーションの目的やレクリエーションの支援者として必要な諸理論や支援方法について、科学的な知見も踏まえながら講義を中心に授業を行う。また、レクリエーションを体験し、体験前後の変化について議論することもある。

【到達目標と学修成果】

- ①レクリエーションの目的や価値について、理解することができる。
- ②レクリエーション・インストラクターとして必要な諸理論や支援方法を理解することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	レクリエーション概要	△テキスト(p4-8)	90
		▽テキスト(p10-17)	90
第2回	楽しさと心の元気づくりの理論① 対象者の心の元気	△テキスト(p20-25)	90
		▽テキスト(p26-28)	90
第3回	楽しさと心の元気づくりの理論② ライフステージ:幼児期	△テキスト(p29-30)	90
		▽幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省HP)(p1-16)	90
第4回	楽しさと心の元気づくりの理論③ ライフステージ:児童期以降	△テキスト(p30-32)	90
		▽令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁HP)	90
第5回	レクリエーションによる地域との連携	△レクで学校丸ごと元気アップ! 事業(日レクHP)	90
		▽テキスト(p33-36)	90
第6回	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論① レクリエーション支援における信頼関係(ディスカッション①)	△テキスト(p38-41)	90
		▽授業内配布資料	90
第7回	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論② ホスピタリティ(ディスカッション②)	△テキスト(p42-43)	90
		▽授業内配布資料	90
第8回	良好な集団づくりの理論① 集団づくりの理解(ディスカッション③)	△テキスト(p42-45)	90
		▽授業内配布資料	90
第9回	良好な集団づくりの理論② 集団内のコミュニケーションの促進(ディスカッション④)	△テキスト(p48-49)	90
		▽授業内配布資料	90
第10回	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論① 自主的、主体的に活動を楽しむ(ディスカッション⑤)	△テキスト(p50-51)	90
		▽授業内配布資料	90
第11回	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論② やる気の変化とその仕組み(ディスカッション⑥)	△テキスト(p52-53)	90
		▽授業内配布資料	90
第12回	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論③ 成功体験を支え合う対象者のかかわり	△テキスト(p54-55)	90
		▽授業内配布資料	90
第13回	リスクマネジメントの方法	△授業内配布資料	90
		▽授業内配布資料	90
第14回	プログラム立案方法	△授業内配布資料	90
		▽授業内配布資料	90
第15回	まとめとプログラム立案	△授業内配布資料	90
		▽授業内配布資料	90

備考: この科目では、担当者の実務経験(レクリエーション活動)も踏まえて実践的な指導を行う。

2700

【履修上の留意点】

レクリエーション・インストラクター資格の取得には、必要な科目のひとつである。取得には現場実習(スタッフ参加と事業参加両方)に参加する必要があり、授業内にて参加可能な現場を提示する。

【テキスト】

楽しさをとおした心の元気づくり(日本レクリエーション協会編)

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、配布および提示する

【連絡方法】

初回授業時に提示する。

【オフィスアワー】

授業前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
		50%	・課題の意図を的確に理解し、課題の本質的な部分の内容が十分に記述されている。 ・自らの考えのみではなく、客観的な視点からの検討が丁寧になされている。	・課題の意図を理解し、課題の本質的な部分の内容が記述されている。 ・自らの考えのみではなく、客観的な視点からの検討がなされている。 ・誤字脱字、文法の誤りがない。	・課題の意図を理解するものの、課題の本質的な部分の記述に改善すべき点がある。 ・客観的な視点からの検討しようとする。 ・誤字脱字、文法の誤りに配慮する必要がある。	・課題の意図の理解が部分的であり、課題の本質的な部分の記述が不十分である。 ・主観的な主張が散見され、客観的な視点からの検討が必要である。 ・誤字脱字、文法などの誤りに配慮する必要がある。	・課題の理解が不十分であり、主観的な主張が大部分を占めている。 ・誤字脱字、文法などの誤りが多い。
		50%	・授業に積極的に取り組み、授業内の課題などに主体的に取り組んでいた。 ・授業内の取り組みを通じてレクリエーションに関わる諸理論や支援方法の基礎を十分に理解している。	・授業に積極的に取り組み、授業内の課題などに取り組んでいた。 ・授業内の取り組みを通じてレクリエーションに関わる諸理論や支援方法の基礎を理解している。	・授業に積極的に取り組みようと努めていた。 ・授業内の取り組みを通じてレクリエーションに関わる諸理論や支援方法の基礎を理解しようとする。	・授業内での取組に参加することができた。 ・レクリエーションに関わる諸理論や支援方法の基礎の理解が断片的であり、努力を要する。	・授業内での取組や、授業内容の理解が不十分である。

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第6回~11回					

科目名／専門教育	R2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
レクリエーション(実技)	1年前期	選択 (レク必修)	演習/単独	1単位	堀内 亮輔		○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

レクリエーション・インストラクターとして必要なレクリエーションの基礎実技を体験し、活動の本質を理解する。また、レクリエーション活動を提供する際に必要となるプログラム立案し、実践できるようになることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

レクリエーションの本質や基礎技能を学んでいくために、様々な種類のレクリエーションを体験する。また、レクリエーション活動の提供のためのプログラムを立案し、それをもとにプログラムを実践する。

【到達目標と学修成果】

- ①レクリエーションを体験して、活動の本質や意図を理解することができる。
- ②対象者に合わせたレクリエーションの提供について理解することができる。
- ③レクリエーション活動を提供するためのプログラム立案し、実践することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]	
第1回	レクリエーション活動と支援者	△レクほ(日本レクリエーション協会HP)にて具体的なレクリエーション活動を調べる ▽レクリエーション指導者の仕事について思うこと(日本レクリエーション協会HP)	15 20
第2回	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ	△テキスト(p58-61) ▽授業内配布資料	15 30
第3回	気持ちをひとつにするコミュニケーション技術	△テキスト(p62-65) ▽授業内配布資料	15 30
第4回	良好な集団作りの方法① アイスブレイキングについて(ディスカッション①)	△テキスト(p66-67) ▽レクほ(日レクHP)アイスブレイキングの活動を調べる	15 30
第5回	良好な集団作りの方法② アイスブレイキングの支援技術(ディスカッション②)	△テキスト(p68-69) ▽授業内配布資料	15 30
第6回	自主的、主体的に楽しく力を育むレクリエーション活動の展開法① 目標設定(ディスカッション③)	△テキスト(p70-73) ▽授業内配布資料	15 30
第7回	自主的、主体的に楽しく力を育むレクリエーション活動の展開法② 対象者に合わせたレクリエーションとアレンジ方法(ディスカッション④)	△テキスト(p74-77) ▽授業内配布資料	15 30
第8回	自主的、主体的に楽しく力を育むレクリエーション活動の展開法③ 対象者に合わせたアレンジの実践(幼少年期)(ディスカッション⑤)	△テキスト(p74-77) ▽元気アップハンドブック(日本レクリエーション協会HP)	20 25
第9回	自主的、主体的に楽しく力を育むレクリエーション活動の展開法④ 対象者に合わせたアレンジの実践(高齢者)(ディスカッション⑥)	△高齢者の体力づくり支援事業(日レクHP) ▽対象者を想定し、レクリエーションをアレンジする	15 40
第10回	コミュニケーション技術の活用(ディスカッション⑦)	△テキスト(p78) ▽テキスト(p79-82)および授業内配布資料	10 35
第11回	アイスブレイキングを用いたプログラム立案方法	△運動好きな子を育む言葉かけや対応のヒント集(日レクHP)(p6-17) ▽運動好きな子を育む言葉かけや対応のヒント集(日レクHP)(p18-24)	15 30
第12回	アイスブレイキングを用いたプログラム立案と修正	△アイスブレイキングとなる活動を調べる ▽プログラム立案	15 30
第13回	アイスブレイキングを用いたプログラムの実施① 対象者の理解(プレゼンテーション①)	△立案したプログラムの確認 ▽プログラムの修正	15 30
第14回	アイスブレイキングを用いたプログラムの実施② アレンジについて(プレゼンテーション②)	△修正したプログラムの確認 ▽実施したプログラムの省察	15 30
第15回	アイスブレイキングを用いたプログラムの実施③ CSSプロセスについて(プレゼンテーション③)	△修正したプログラムの確認 ▽実施したプログラムの省察	15 30

備考：この科目では、担当者の実務経験(レクリエーション活動)も踏まえて実践的な指導を行う。

675

【履修上の留意点】

レクリエーション・インストラクター資格の取得には、必要な科目のひとつである。取得には現場実習(スタッフ参加と事業参加両方)に参加する必要があり、授業内にて参加可能な現場を提示する。

【テキスト】

楽しさをおとした心の元気づくり(日本レクリエーション協会編)

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、配布および提示する

【連絡方法】

授業時に伝える

【オフィスアワー】

授業前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達目標		割合(%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
	到達目標	割合(%)						
試験 (発表含む)	③	30%		・立案したプログラムに沿って、適切にレクリエーションを提供できる。	・立案したプログラムに沿って、適切にレクリエーションを提供できる。	・立案したプログラムに沿って、レクリエーションを提供できるよう努めている。	・立案したプログラムに沿って、レクリエーションを提供するための努力を要する。	・立案したプログラムの流れに沿ったレクリエーションが提供できていない。
期末 レポート	① ② ③	40%		・課題の意図を的確に理解し、課題の本質的な部分の内容が十分に記述されている。 ・レクリエーション実践に向けたプログラムを対象者の特性や展開方法の理論を十分に理解して作成している。	・課題の意図を理解し、課題の本質的な部分の内容が記述されている。 ・レクリエーション実践に向けたプログラムを対象者の特性や展開方法の理論を理解して作成している。	・課題の意図を理解するものの、課題の本質的な部分の記述に改善すべき点がある。 ・レクリエーション実践に向けたプログラムを対象者の特性や展開方法の理論をおおむね理解して作成している。	・課題の意図の理解が断片的であり、課題の本質的な部分の記述が不十分である。 ・対象者の特性や展開方法の理論の理解ができておらず、プログラムの作成にむけて努力を要する。	・課題の理解が不十分であり、主観的な主張が大部分を占めている。 ・対象者の特性や展開方法の理論の理解ができておらず、プログラムの作成ができていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	30%		・授業に積極的に取り組み、授業内の課題などに主体的に取り組んでいた。 ・グループワークに主体的に参加し、他者の意見を尊重しながら、意見を適切に集約していた。	・授業に積極的に取り組み、授業内の課題などに取り組んでいた。 ・グループワークに主体的に参加し、他者の意見を尊重しながら、意見を集約していた。	・授業に積極的に取り組もうと努めていた。 ・グループワークに主体的に参加し、意見を集約しようとしていた。	・授業内での取組に参加することができた。 ・グループワークに参加することができたものの、意見の集約には努力を要する。	・授業内での取組やグループワークへの参加の姿勢が不足している。
授業外での 取組								

備考：試験(発表含む)プログラムの実施30% 期末レポート：レポート20%、プログラムの立案20% 授業での取組：授業への参加度30%

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第4回～10回		第13回～15回			

科目名／専門教育	R2	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
レクリエーション(実技)	1年後期		選択 (レク必修)	演習/単独	1単位	堀内 亮輔	○	○

【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。

豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。	○
	2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。	○
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。	○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。	◎
実践的能力・ 表現コミュニケーション力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。	○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。	○

【授業のねらい】

前期のレクリエーション(実技)の内容や経験を踏まえ、レクリエーションを対象者に合わせてアレンジし、プログラムを立案することができる。また、プログラムの実践と検討会を通じて、教育現場などで活動できる力を身に付けることをねらいとする。

【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】

年齢や用具、参加人数など様々な条件で活用できるレクリエーションやニュースポーツの体験しながら、グループごとにプログラムを立案する。立案したプログラムをもとに、レクリエーションを実践するとともに、検討会を行い、実践力を高めていく。

【到達目標と学修成果】

- ①対象者に合わせてレクリエーションをアレンジすることができる。
- ②対象者に合わせたプログラムを立案することができる。
- ③プログラムをもとにレクリエーションを実践し、省察することができる。

回数	授業内容	授業時間外の学修 [△事前 ▽事後 / 分]
第1回	アイスブレイキングの復習	△レクほ(日本レクリエーション協会HP)アイスブレイキングの活動を調べる 20 ▽アイスブレイキングのアレンジについて考える 25
第2回	ニュースポーツ① インディアカ	△レクほ(日レクHP)インディアカを調べる 20 ▽インディアカのアレンジについて考える 25
第3回	ニュースポーツ② ラダーゲッター	△レクほ(日レクHP)ラダーゲッターを調べる 20 ▽ラダーゲッターのアレンジについて考える 25
第4回	ニュースポーツ③ ネット・パス・ラリー	△レクほ(日レクHP)ネット・パス・ラリーを調べる 20 ▽ネット・パス・ラリーのアレンジについて考える 25
第5回	レクリエーション体験① 体のバランスをとるレクリエーション財	△レクほ(日レクHP)レクリエーション・ゲームを調べる 20 ▽本時のレクリエーションのアレンジを考える 25
第6回	レクリエーション体験② 体を移動するレクリエーション財	△レクほ(日レクHP)おうちの中で楽しめる運動・あそびを調べる 20 ▽本時のレクリエーションのアレンジを考える 25
第7回	レクリエーション体験③ 用具を操作するレクリエーション財	△レクほ(日レクHP)おうちの中で楽しめる運動・あそびを調べる 20 ▽本時のレクリエーションのアレンジを考える 25
第8回	レクリエーション体験④ 身近なものを使ったレクリエーション財	△授業内配布資料 20 ▽本時のレクリエーションのアレンジを考える 25
第9回	レクリエーション体験⑤ 集団で行うレクリエーション財	△使える集団あそび(日レクHP)を調べる 20 ▽本時のレクリエーションのアレンジを考える 25
第10回	プログラムの立案方法	△これまでの授業で体験したレクリエーションを復習する 15 ▽プログラムの立案 30
第11回	プログラムの立案と修正	△立案したプログラムの見直し 15 ▽プログラムの修正 30
第12回	レクリエーションの実践と相互評価①(グループ1、グループ2) (プレゼンテーション①)	△修正したプログラムの確認 15 ▽実施したプログラムの省察 30
第13回	レクリエーションの実践と相互評価②(グループ3、グループ4) (プレゼンテーション②)	△修正したプログラムの確認 15 ▽実施したプログラムの省察 30
第14回	レクリエーションの実践と相互評価③(グループ5、グループ6) (プレゼンテーション③)	△修正したプログラムの確認 15 ▽実施したプログラムの省察 30
第15回	レクリエーションの発表の振り返りとまとめ (プレゼンテーション④)	△省察した内容をまとめる 15 ▽今後のプログラム立案および実施にむけての課題 30

備考：この科目では、担当者の実務経験(レクリエーション活動)も踏まえて実践的な指導を行う。

【履修上の留意点】

レクリエーション・インストラクター資格の取得には、必要な科目のひとつである。取得には現場実習(スタッフ参加と事業参加両方)に参加する必要があり、授業内にて参加可能な現場を提示する。

【テキスト】

授業内で適宜、配布および提示する

【参考書・参考資料等】

授業内で適宜、配布および提示する

【連絡方法】

授業時に伝える

【オフィスアワー】

授業前後

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	③	30%	・立案したプログラムの流れに沿ってレクリエーションを提供できるとともに、対象者の状況に合わせて、即座に内容をアレンジできる。	・立案したプログラムの流れに沿ってレクリエーションを提供できるとともに、対象者の状況に合わせて内容をアレンジできる。	・立案したプログラムの流れに沿ってレクリエーションを提供でき、対象者の状況に合わせて内容をアレンジしようとしている。	・立案したプログラムの流れに沿ってレクリエーションの提供やアレンジするための努力を要する。	・立案したプログラムの流れに沿ってレクリエーションを提供できていない。
期末 レポート	① ② ③	40%	・課題の意図を的確に理解し、課題の本質的な部分の内容が十分に記述されている。 ・レクリエーション財の楽しさの本質やアレンジ方法を十分に理解してプログラムを立案している。	・課題の意図を理解し、課題の本質的な部分の内容が記述されている。 ・レクリエーション財の楽しさの本質やアレンジ方法を理解してプログラムを立案している。	・課題の意図を理解するものの、課題の本質的な部分の記述に改善すべき点がある。 ・レクリエーション財の楽しさの本質やアレンジ方法を理解するものの、レクリエーション財の楽しさの本質やアレンジ方法を理解が断片的であり、プログラムの立案にむけて努力を要している。	・課題の意図の理解が断片的であり、課題の本質的な部分の記述が不十分である。 ・レクリエーション財の楽しさの本質やアレンジ方法の理解が断片的であり、プログラムの立案にむけて努力を要している。	・課題の理解が不十分であり、主観的な主張が大部分を占めている。 ・レクリエーション財の楽しさの本質やアレンジ方法の理論的理解ができておらず、プログラムの立案ができていない。
授業内での 取組 (小テスト・ 授業内発表 等)	① ②	30%	・授業に積極的に取り組み、授業内の課題などに主体的に取り組んでいた。	・授業に積極的に取り組み、授業内の課題などに取り組んでいた。	・授業に積極的に取り組もうと努めていた。	・授業内での取組に参加することができた。	・授業内での取組への参加の姿勢が不足している。
授業外での 取組							

備考：試験(発表含む) プログラムの実施30% 期末レポート：レポート20%、プログラムの立案20%
授業での取組：授業への参加度30%

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回			第12回～15回			

科目名／専門教育	B1	開設学期	履修形態	授業形態	単位数	担当教員	実務家	AL
在宅保育論	3年後期	ベビシ ター必修	再戦/後 数 オンパス	2単位	澤田 由美・池口 洋一郎・角杉 美恵子			○
【ディプロマポリシー(DP)との対応関係】 ◎・○・△は、DPとの対応関係の強さを示す。								
豊かな人間性 社会性・教養	1.人を尊重し、豊かな人間性と社会性・教養を備えた人として行動することができる。 2.保育者・教育者としての自覚を持ち、保育・教育にかかわる人々と協力していくことができる。							△
専門的知識や 技能	3.保育・教育に関する専門的知識・技能を身につけている。							○
	4.保育・教育に関する専門的知識・技能を活用し、さまざまな課題に対応する力を身につけている。							◎
実践的能力 表現コミュニケーション 力	5.保育・教育の対象を深く理解し、受け止め、働きかけることができる実践力を身につけている。							○
	6.子どもの感性を育てるためのさまざまな表現コミュニケーション力を備えている。							
【授業のねらい】 在宅保育(家庭訪問保育)者の社会的役割について学び、在宅保育者としての知識と技術を身につける。 認定ベビシッター資格取得に必須の科目である。								
【授業概要(授業形態・進め方等を含む)】 主に講義形式で行う。「在宅保育」の概念や歴史を紹介し、在宅保育者の社会的役割について考えさせる。在宅保育における保育技術などを学びながら、多様な保育ニーズに対応してきた在宅保育サービスの特徴と現状についての理解を深めていく。なお、授業は教科書の内容に沿って行うため、受講者は毎回教科書を持参すること。								
【到達目標と学修成果】 ①「在宅保育」の概念や歴史、在宅保育者の社会的役割を理解できる。 ②子どもとの接し方、家庭とのコミュニケーションなど、在宅保育サービスにおける具体的方法を理解できる。								
回数	授業内容					授業時間外の学修 [△事前 ▼事後 / 分]		
第1回	オリエンテーション 家庭訪問保育とは / 家庭訪問保育者としての心得 / 保育マインド					△ シラバスを読み、授業の概要を確認する	90	
						▽ 授業内容、授業時間外学修の内容、履修上の留意点を確認する	90	
第2回	家庭訪問保育を行うために必要な基礎的知識 乳幼児の生活と遊び					△ テキストpp.28-37を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第3回	乳幼児の発達と心理					△ テキストpp.38-53を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第4回	乳幼児の栄養と食事					△ テキストpp.54-65を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第5回	小児保健Ⅰ 居宅での保育における健康観察、感染予防					△ テキストpp.66-74を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第6回	小児保健Ⅱ 子どもに多い症状・病気や事故への対応					△ テキストpp.75-92を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第7回	一般型家庭訪問保育の理論と実際 一般型家庭訪問保育の業務の流れ / さまざまな家庭訪問保育					△ テキストpp.220-241ページを読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第8回	居宅訪問型保育の実際 居宅訪問型保育の概要 / 居宅訪問型保育の保育内容					△ テキストpp.18-27、pp.93-104を読み、概要を確認する。	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第9回	居宅訪問型保育の環境整備 居宅訪問居宅訪問型保育の運営					△ テキストpp.106-115、pp.116-123を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第10回	安全の確保とリスクマネジメント 居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項					△ テキストpp.124-133、pp.134-144を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容について、テキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第11回	居宅訪問型保育における保護者への対応					△ テキストpp.145-157を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第12回	子ども虐待 特別に配慮を要する子どもへの対応					△ テキストpp.158-169,pp170-184を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った内容をテキストと照らしながらノートにまとめる	90	
第13回	実践演習 保育技術(お世話編)					△ テキストpp.185-206を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った実践内容について、ノートにまとめる	90	
第14回	保育技術(遊び編)					△ テキストpp.207-217を読み、概要を確認する	90	
						▽ 授業で扱った実践内容について、ノートにまとめる	90	
第15回	まとめ					△ 1～14回の授業内容についてテキスト、配布資料を見直し	90	
						▽ 全体的な内容をもう一度テキストを読みながら確認する	90	

備考:

2700

【履修上の留意点】 欠席回数が5回以上の場合は、最終試験の受験資格を失うこととなる。 各回の授業で指定テキストを使用するので、購入のうえ受講すること。試験時にテキストを持参していない場合は受験を認めない。 ※この科目を履修する学生は、3年前期までのGPAが2.0以上であることが望ましい。
【テキスト】 公益社団法人全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際第2版－居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト－』中央法規出版、2017年
【参考書・参考資料等】 担当教員より適宜紹介する。
【連絡方法】 授業内の指示、及び掲示
【オフィスアワー】 授業前後の休み時間等

【評価方法×基準別評価/到達目標との対応(評価割合)】

評価基準 評価方法	到達 目標	割合 (%)	大変優れている (S:90-100点)	優れている (A:80-89)	平均的 (B:70-79)	努力を要する (C:60-69)	相当な努力を要する (F:59点以下)
試験 (発表含む)	① ②	100%	・知識・理解・応用力 (実践力)が十分に身 についていることが認 められる。	・知識・理解・応用力 (実践力)が身につい ていることが認められ る。	・基本的な知識の習得 や理解がされているこ とが認められる。	・基本的な知識の習得 や理解が断片的である ため、今後も努力を要 する。	・基本的な知識の習得 や理解がされていない。
期末 レポート							
授業内 での取組 (小テスト・ 授業内発表 等)							
授業外 での取組							

備考:

【アクティブ・ラーニング型授業回】

種類	ディスカッション	ディベート	プレゼンテーション	実習 フィールドワーク	PBL (問題解決型学習)	反転授業
授業回	第5回	12回		13回・14回	11回	